Endeavor NJ5200Pro

ユーザーズマニュアル

電子の情報もご覧ください

インフォメーションメニュー

コンピュータ操作に役立つ情報や、トラブル時の対処方法などを収録しています。デスクトップ上のアイコンから起動します。

ユーザーサポートページ（Web）

インフォメーションメニューよりもさらに多くの役立つ最新情報を掲載しています。インフォメーションメニューからアクセスできます。

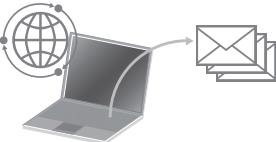
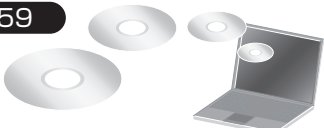
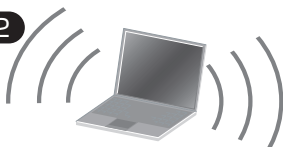
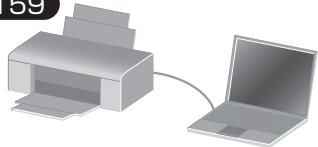
ご使用の前に

- コンピュータをご使用の際は、必ず「マニュアル」をよくお読みください。
- 「マニュアル」は、不明な点をいつでも解決できるように、すぐに取り出して見られる場所に保管してください。

情報マップ（知りたい情報はどこにある？）

本機に関する情報は、次の場所で見ることができます。

知りたいこと

購入時

- 本機の添付品を知りたい
- Windowsのセットアップ方法を知りたい
- コンピュータの設置方法を知りたい

使いはじめ ～ 使いこなしたいとき

- Windowsの使用方法を知りたい
- 用語を調べたい
- ソフトウェアの使用方法を知りたい
- 周辺機器（プリンタ、デジタルカメラなど）の基本的な使用方法を知りたい

- オプション製品（マウス、USB FDD、ソフトウェアなど）の使用方法を知りたい

- インターネットやメールをしたい p.124

- CD/DVDを再生したい p.59

- メモリを増設したい p.153

- 無線LANに接続したい（オプション） p.112

- セキュリティ設定をしたい p.129

- 外部機器を接続したい p.159

- データをバックアップしたい p.235
- BIOSの設定を変更したい p.161
- HDD領域を分けたい p.241
- 再インストールをしたい p.181
- 省電力で使いたい p.142
- 本機の仕様を知りたい p.253

困ったとき

- トラブルを解決したい

- 最新情報を知りたい

故障したとき

- サポート・サービス情報を知りたい
- お問い合わせ窓口を知りたい

紙で添付されている情報です。

コンピュータの画面で見る電子の情報です。電子の情報には次の 2 つがあります。

 インフォメーションメニューの情報　 ユーザーサポートページ(Web)の情報

紙マニュアルと同内容のPDFを「インフォメーションメニュー」の「マニュアルびゅーわ」で見ることもできます。

情報の場所

スタートアップガイド

PCお役立ち情報
「インフォメーションメニュー」－「PCお役立ち情報」

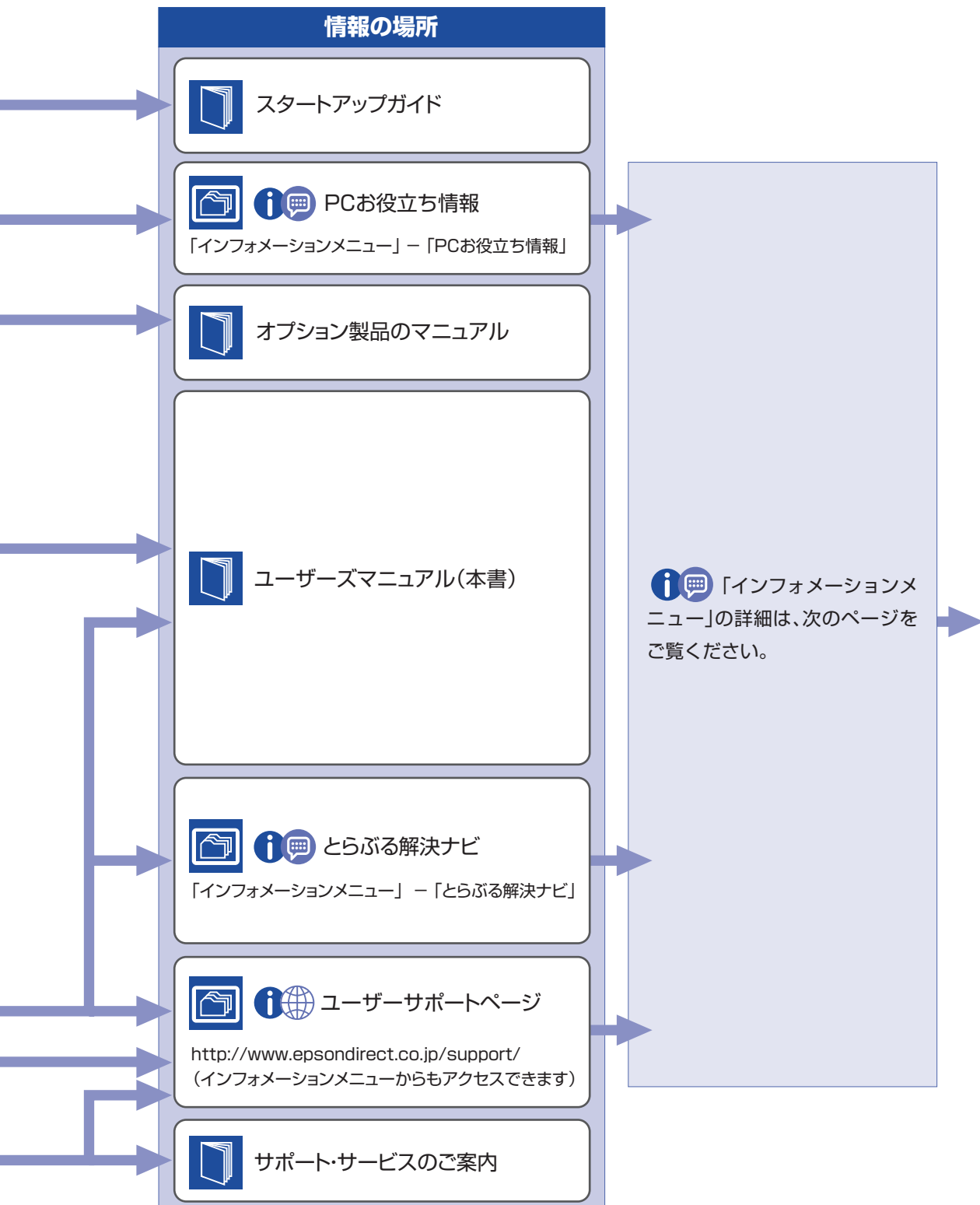
オプション製品のマニュアル

ユーザーズマニュアル(本書)

とらぶる解決ナビ
「インフォメーションメニュー」 －「とらぶる解決ナビ」

ユーザーサポートページ
http://www.epsondirect.co.jp/support/
(インフォメーションメニューからもアクセスできます)

サポート･サービスのご案内

「インフォメーションメニュー」の詳細は、次のページをご覧ください。

インフォメーションメニューを使う

本機には、便利で役立つ電子ツール「インフォメーションメニュー」が搭載されています。本機の使用方法を知りたいときや、困ったときなどにご利用ください。

インフォメーションメニューの起動方法

インフォメーションメニューを起動するには、次の 3 つの方法があります。

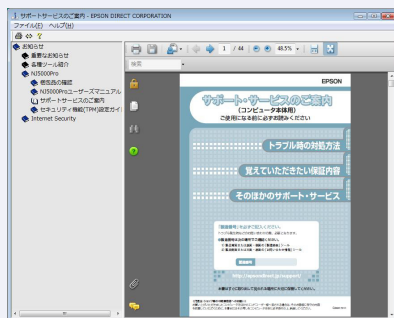
●［Fn］＋［F4］（ ）を押す

●デスクトップのアイコンをダブルクリック

● ［スタート］（ ）－「インフォメーションメニュー」をクリック

インフォメーションメニューの項目

インフォメーションメニューには、次の 6 項目があります（画面はイメージです）。

マニュアルびゅーわ

本機に添付されているマニュアル（PDF）を見ることができます。マニュアルを見るには、Adobe Reader のセットアップが必要です。

p.195「セットアップ」

ユーザーサポート（Web）

技術的な情報やトラブルの解決方法、保証サービスのご案内を掲載しています。BIOS やドライバ、マニュアルをダウンロードすることもできます。

PC お役立ち情報

コンピュータに関する便利で役立つ情報や用語集を掲載しています。

とらぶる解決ナビ

トラブルの解決方法を掲載しています。困ったときにご覧ください。

サポート情報検索（Web）

最新のサポート情報を検索することができます。

トラブルが解決しなかったら

トラブルが解決しなかったときにご覧ください。当社の各種問い合わせ窓口を掲載しています。

目次

ご使用の前に

本機を使い始める前に知っておいていただきたい事項や、取り扱い上の注意などを説明します。

1 コンピュータの基本操作

コンピュータの電源の入れ方や切り方、キーボードやタッチパッド、光ディスクドライブの使用方法など、コンピュータの基本的な操作方法について説明します。

2 システムの拡張

アップグレードサービスやメモリの増設方法、本機に接続できる装置について説明します。

3 BIOS の設定

本機の基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について説明します。

4 ソフトウェアの再インストール

ソフトウェアを再インストールする手順について説明します。

5 こんなときは

困ったときの確認事項や対処方法などについて説明します。

付録

本機をご使用になる際に役立つ情報や、本機の仕様などについて説明します。

ご使用の前に

本機を使い始める前に知っておいていただきたい事項や、取り扱い上の注意などを説明します。

安全にお使いいただくために

このマニュアルおよび製品には、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために絵表示が使われています。
その表示と意味は次のとおりです。内容をよく理解してから本文をお読みください。

警 告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
注 意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

● 障害や事故の発生を防止するための禁止事項の内容を表しています。

	製品の取り扱いにおいて、してはいけない行為（禁止行為）を示しています。

● 障害や事故の発生を防止するための指示事項の内容を表しています。

	必ず行う事項（指示、行為）を示しています。
	電源プラグをコンセントから必ず抜くことを示しています。
	アース端子を接地（アース）することを示しています。

⚠ 警告

交流 100V 以外の電源は、使用しないでください。
交流 100V 以外の電源を使うと、感電・火災の原因となります。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
感電の原因となります。

雷が鳴りだしたら、電源プラグを触らないでください。
感電の原因となります。

電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。
取り扱いを誤ると、火災の原因となります。

- 電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
- 電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。
- 電源プラグを長期間コンセントに差したままにしない。

電源プラグは、定期的にコンセントから抜いて、刃の根元や刃と刃の間を清掃してください。

電源コードのたこ足配線はしないでください。
発熱し、火災の原因となります。
家庭用電源コンセント（交流 100V）から電源を直接取ってください。

破損した電源コードを使用しないでください。感電・火災の原因となります。
電源コードを取り扱う際は、次の点を守ってください。

- 電源コードを加工しない。
- 無理に曲げたり、ねじったり、引っぱったりしない。
- 電源コードの上に重いものを載せない。
- 発熱器具の近くに配線しない。

電源コードが破損したら、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。カスタマーサービスセンターへの連絡方法は、別冊『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。

本機から異臭や異音がする、発煙するなど、異常状態のまま使用しないでください。
感電・火災のおそれがあります。
すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、バッテリパックを本機から取り外して、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。カスタマーサービスセンターへの連絡方法は、別冊『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。
お客様による修理は危険ですから絶対にしないでください。

通風孔など開口部から、本機内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落としたりしないでください。
感電・火災の原因となります。

バッテリパックの金属端子を水、コーヒー、ジュースなどの液体でぬらさないでください。
感電・火災・火傷の原因となります。

⚠ 警告

水などの液体や異物が本機内部に入った場合は、そのまま使用しないでください。

感電・火災の原因となります。

すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、バッテリパックを本機から取り外して、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。カスタマーサービスセンターへの連絡方法は、別冊『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。

本機の分解・改造や、マニュアルで指示されている以外の増設・交換はしないでください。

けが・感電・火災の原因となります。

メモリの増設･交換をするときは、電源プラグをコンセントから抜いて、本機からバッテリパックを取り外してください。

取り付けたまま作業すると、感電や火傷の原因となります。

バッテリパックを、指定以外の方法で充電しないでください。

発熱や発火、液漏れによる被害の原因となります。

本体や付属のバッテリパックなどを火中に入れたり、火気に近づけたり、加熱したり、高温状態で放置したりしないでください。

破裂などで火傷の原因となります。

バッテリパックの金属端子をショートさせないでください。

火傷の原因となります。

付属の AC アダプタやバッテリパックを、分解・改造しないでください。

また、本機には、指定以外の AC アダプタやバッテリパックを使用しないでください。

感電や火傷、化学物質による被害の原因となります。

当社指定以外の AC アダプタやバッテリパック、または分解・改造した AC アダプタやバッテリパック（当社での修理対応は除く）での本機の使用は、安全性や製品に関する保証ができません。

小さなお子様の手の届く所にバッテリパックを保管しないでください。

なめたりすると、火傷や化学物質による被害の原因となります。

バッテリパックには、落下させる、ぶつける、先の尖ったもので力を加える、強い圧力を加えるなど、強い衝撃を与えないでください。

破裂や液漏れにより、火傷や化学物質による被害の原因となります。

バッテリ駆動時間が極端に短くなった場合は、当社指定の新しいバッテリパックと交換してください。

駆動時間が短くなったバッテリパックは、内部に使用されている電池の消耗度合いにばらつきが発生している可能性があります。電池の消耗度合いにばらつきがあるバッテリパックをそのまま使用し続けると、発熱・発火・破裂の原因となります。

警告

航空機や病院など、電波の使用を禁止された区域に本機を持ち込むときは、本機の電源を切るか、Bluetooth 機能および無線 LAN 機能の電波を停止してください。

電波が電子機器や医療用電気機器に影響を及ぼす場合があります。

また、自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから、本機の電源を切ってください。

医療機関の屋内で Bluetooth 機能および無線 LAN 機能を使用するときは、次のことを守ってください。

- 手術室・集中治療室（ICU）・冠状動脈疾患監視室（CCU）には、本機を持ち込まない。
- 病棟内では、本機の電源を切るか電波を停止する。
- 病棟以外の場所でも、付近に医療用電気機器がある場合は、本機の電源を切るか電波を停止する。
- 医療機関が個々に使用禁止、持ち込み禁止などの場所を定めている場合は、その医療機関の指示に従う。
- 自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから、本機の電源を切る。

植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器を装着している場合、Bluetooth 機能および無線 LAN 機能を使用するときは、装着部と本機の間を 22cm 以上離してください。

電波が、植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器の作動に影響を及ぼす場合があります。

満員電車など、付近に心臓ペースメーカーを装着している人がいる可能性がある場所では、本機の電源を切るか電波を停止してください。

Bluetooth 機能および無線 LAN 機能は、自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くで使用しないでください。

電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。

電源プラグのアース端子を接地（アース）してください。

接地しないで使用すると、感電の危険性があります。

アースは必ず電源プラグをコンセントに差し込む前に行ってください。また、アースを外す場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いた後に行ってください。

アース端子は、絶対にガス管に接続しないでください。

火災の原因となります。

アース端子をコンセントに挿入または接触させないでください。

感電の危険があります。

⚠ 注 意

小さなお子様の手の届く所に設置、保管しないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。

不安定な場所（ぐらついた台の上や傾いた所など）に置かないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。

湿気やホコリの多い所に置かないでください。
感電・火災の危険があります。

起動状態で本機の通風孔をふさがないでください。
起動状態で通風孔をふさぐと、内部に熱がこもって本機が熱くなり、火傷や火災の原因となります。次の点を守ってください。

- じゅうたんや布団の上に載せない。
- 毛布やテーブルクロスのような布をかけない。
- キャリングケースやバッグなどに入れない。

各種コード（ケーブル）は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。
配線を誤ると、火災の危険があります。

FAX モデムを次の回線に接続しないでください。発熱して火災の原因となります。

- 構内交換機（PBX）
- 2 線式でない回線（ホームテレホンやビジネスホンなど）
- ISDN 対応公衆電話のデジタル側ジャック

ヘッドフォンやスピーカは、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。
ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量により聴覚障害の原因となります。

パームレストやキーボードに長時間手を置かないでください。
パームレストやキーボードが熱くなることがあり、低温火傷のおそれがあります。

ひざの上で長時間使用しないでください。
本機底面が熱くなり、低温火傷の原因となります。

付属の AC アダプタやバッテリパックは、本機以外には使用しないでください。
火傷・火災の危険があります。

注意

破損したACアダプタやバッテリパックを使用しないでください。

火傷・火災の危険があります。

万一、本機の落下などで強い振動や衝撃が加わり、バッテリパックが破損したり、変形したりした場合は、本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、本機からバッテリパックを取り外してください。

そのまま使用を続けると、発熱・発火・破裂のおそれがあります。

ACアダプタを毛布や布団で覆わないでください。

火傷・火災の危険があります。

ACアダプタの温度の高い部分に、長時間直接触れないでください。

低温火傷の原因となります。

メモリの増設・交換は本機の内部が高温になっているときには行わないでください。

火傷の危険があります。

作業は電源を切って10分以上待ち、本機の内部が十分冷めてから行ってください。

液晶ディスプレイが破損して、内部の液体が漏れた場合は、液体をなめたり、触ったりしないでください。

火傷や化学物質による被害の原因となります。

万一、液体が皮膚に付着したり、目に入ったりした場合は流水で十分に洗い、医師に相談してください。

光ディスクドライブで、ひび割れや変形補修したメディアは使用しないでください。

内部で飛び散って故障したり、メディア取り出し時にけがをしたりする危険があります。

長時間または不自然な姿勢でのコンピュータ操作は避けてください。

肩こり、腰痛、目の疲れ、腱鞘炎などの原因となります。

本機を移動する場合は、電源を切り、本機からすべての配線を取り外してください。

連休や旅行などで本機を長期間使用しないときは、安全のため、電源プラグをコンセントから抜いて、本機からバッテリパックを取り外してください。

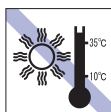
本機を廃棄する場合は、法律に従って正しく処理してください。

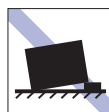
液晶ディスプレイに使用している蛍光管（バックライト）には、水銀が含まれています。

製品保護上の注意

使用・保管時の注意

コンピュータ（本機）は精密な機械です。次の注意事項を確認して正しく取り扱ってください。取り扱いを誤ると、故障や誤動作の原因となります。

特に指定のない限り、注意事項は、本体および AC アダプタやバッテリパックなどの同梱品に適用されます。

温度が高すぎる所や、低すぎる所には置かないでください。また、急激な温度変化も避けてください。

故障、誤動作の原因となります。適切な温度の目安は 10℃～ 35℃です。

不安定な所には設置しないでください。

落下したり、振動したり、倒れたりすると、本機が壊れ、故障することがあります。

LCD 画面の表面を先の尖ったもので引っかいたり、無理な力を加えたりしないでください。

LCD 画面の表面はアクリル製ですので、キズが付いたり、割れたりすることがあります。

直射日光の当たる所や、発熱器具（暖房器具や調理用器具など）の近くなど、高温・多湿となる所には置かないでください。

故障、誤動作の原因となります。

また、直射日光などの紫外線は、変色の原因となります。

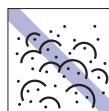
本機の汚れを取るときは、ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。柔らかい布に中性洗剤を適度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。

テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものの近くに置かないでください。誤動作やデータ破損の原因となります。逆に、本機の影響でテレビやラジオに雑音が入ることもあります。

本機を梱包しない状態で、遠隔地への輸送や保管をしないでください。衝撃や振動、ホコリなどから本機を守るため、専用の梱包箱に入れてください。

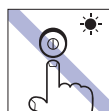
電源コードが抜けやすい所（コードに足が引っかかりやすい所や、コードの長さがぎりぎりの所など）に本機を置かないでください。バッテリパックの状態により、電源コードが抜けると、それまでの作業データがメモリ上から消えることがあります。

本機を長期間使わないときは、バッテリパックを本機に装着したままにしないでください。

液漏れを起こすことがあります。

ホコリの多い所には置かないでください。

故障、誤動作の原因となります。

本機の上に重い物を載せたり、強く押さえ付けたりしないでください。

LCD やバックライトが破損したり、表示異常となることがあります。

アクセスランプ点灯・点滅中は、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。

ほかの機械の振動が伝わる所など、振動しやすい場所には置かないでください。故障、誤動作の原因となります。

本機を落としたり、ぶつけたりして、衝撃を与えないでください。持ち運ぶときは、電源を切り、バッグに入れるなどして衝撃から守るようにしてください。

ACアダプタはコードを持って抜き差ししないでください。
コードの断線や接触不良の原因となります。

ACアダプタの上に乗ったり、踏みつけたり、重い物を載せるなどして、ケースを破損しないでください。

本機のLCDユニット（液晶ディスプレイ部）を開けた状態で、LCDユニットを持って移動しないでください。

キーボードの上などに、物（ボールペンなど）をはさんだまま、LCDユニット（液晶ディスプレイ部）を閉じないでください。

記録メディア

記録メディアは、次の注意事項を確認して正しく取り扱ってください。取り扱いを誤ると、記録メディアに収録されているデータが破損するおそれがあります。

記録メディアの種類は、次のように表示します。

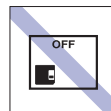
FD　CD　**光ディスクメディア**　

メモリカード

記録メディアの種類を指定していない注意事項は、すべての記録メディアに適用されます。

直射日光が当たる所、発熱器具の近くなど、高温・多湿となる場所には置かないでください。

アクセスランプ点灯・点滅中は、記録メディアを取り出したり、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。

上に物を載せないでください。

使用後は、本機にセットしたままにしたり、ケースに入れずに放置したりしないでください。

キズを付けないでください。

ゴミやホコリの多い所では、使用したり保管したりしないでください。

クリップで挟む、折り曲げるなど、無理な力をかけないでください。

アクセスカバーを開けたり、磁性面あるいは金属端子に触れたりしないでください。

磁性面や金属端子にホコリや水を付けないでください。シンナーやアルコールなどの溶剤を近づけないでください。

テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものに近づけないでください。

FD MC

何度も読み書きしたFDは使わないでください。

摩耗したFDを使うと、読み書きでエラーが生じることがあります。

信号面（文字などが印刷されていない面）に触れないでください。

CD

レコードやレンズ用のクリーナーなどは使わないでください。

クリーニングするときは、CD専用クリーナーを使ってください。

CD

信号面（文字などが印刷されていない面）に文字などを書き込まないでください。

CD

光ディスクドライブのデータ読み取りレンズをクリーニングするCDは使わないでください。

CD

レコードのように回転させて拭かないでください。

内側から外側に向かって拭いてください。

CD

シールを貼らないでください。

CD

温度差の激しい場所に置かないでください。結露する可能性があります。

CD

無線 LAN 使用時における セキュリティに関する注意（無線 LAN 搭載時のみ）

お客様の権利（プライバシー保護）に関する重要な事項です。無線 LAN を使用する前に、必ずお読みください。

無線 LAN では、LAN ケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコンなどと無線 LAN アクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由に LAN 接続が可能であるという利点があります。

その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁など）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

●通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、

- ID やパスワードまたはクレジットカード番号などの個人情報
- メールの内容

などの通信内容を盗み見られる可能性があります。

●不正に侵入される

悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、

- 個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）
- 特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
- 傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
- コンピュータウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）

などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線 LAN や無線 LAN アクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っていますので、無線 LAN 製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

無線 LAN 機器は、購入直後の状態においては、セキュリティに関する設定が施されていない場合があります。

したがって、お客様がセキュリティ問題発生の可能性を少なくするためには、無線 LAN や無線 LAN アクセスポイントをご使用になる前に、必ず無線 LAN 機器のセキュリティに関するすべての設定をマニュアルに従って行ってください。

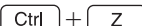
なお、無線 LAN の仕様上、特殊な方法によりセキュリティ設定が破られることもあり得ますので、ご理解の上、ご使用ください。

※ セキュリティ対策を施さず、または、無線 LAN の仕様上やむを得ない事情によりセキュリティの問題が発生してしまった場合、当社は、これによって生じた損害に対する責任を負いかねます。

セキュリティの設定などについて、お客様ご自身で対処できない場合には、別冊『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、テクニカルセンターまでお問い合わせください。

当社では、お客様がセキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を十分理解した上で、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをおすすめします。

マニュアルの読み方

マニュアル中の表記

安全に関する記号

本書では、次のような安全に関する記号を使用しています。

警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

一般情報に関する記号

本書では、次のような一般情報に関する記号を使用しています。

制限	制限事項です。 機能または操作上の制限事項を記載しています。
参考	参考事項です。 覚えておくと便利なことを記載しています。
1 2	操作手順です。 ある目的の作業を行うために、番号に従って操作します。
▮▮▮▮▶	手順が次ページに続くことを示します。
Ctrl	[ ] で囲んだマークはキーボード上のキーを表します。 [↵] は Enter キーを表します。また、[N] は [N み] のことです。このように必要な部分のみを記載しているため、キートップに印字された文字とは異なる場合があります。
Ctrl ＋ Z	＋の前のキーを押したまま＋の後のキーを押します。 この例では、[Ctrl] を押したまま [Z] を押します。

参照先に関する記号

本書では、次のような参照先に関する記号を使用しています。

(指マーク)	本書内の参照ページを示します。
別冊	別冊子を示します。
『　』	別冊子の名称を示します。 例）『サポート・サービスのご案内』
(インフォメーションメニューマーク)	インフォメーションメニューを示します。
(Webマーク)	ユーザーサポートページ（Web）を示します。

名称の表記

本書では、本機で使用する製品の名称を次のように表記しています。

HDD	ハードディスクドライブ
FD	フロッピーディスク
FDD	フロッピーディスクドライブ
光ディスクメディア	CD メディア、DVD メディア、Blu-ray Disc メディアなど
光ディスクドライブ	光ディスクメディアを使用するためのドライブの総称
メモリカード	メモリースティック、マルチメディアカード、SD メモリーカードの総称

オペレーティングシステム（OS）に関する表記

本書では、オペレーティングシステム（OS）の名称を次のように略して表記しています。

Windows Vista	Windows Vista® Ultimate Windows Vista® Business Windows Vista® Home Premium Windows Vista® Home Basic

HDD 容量の記載

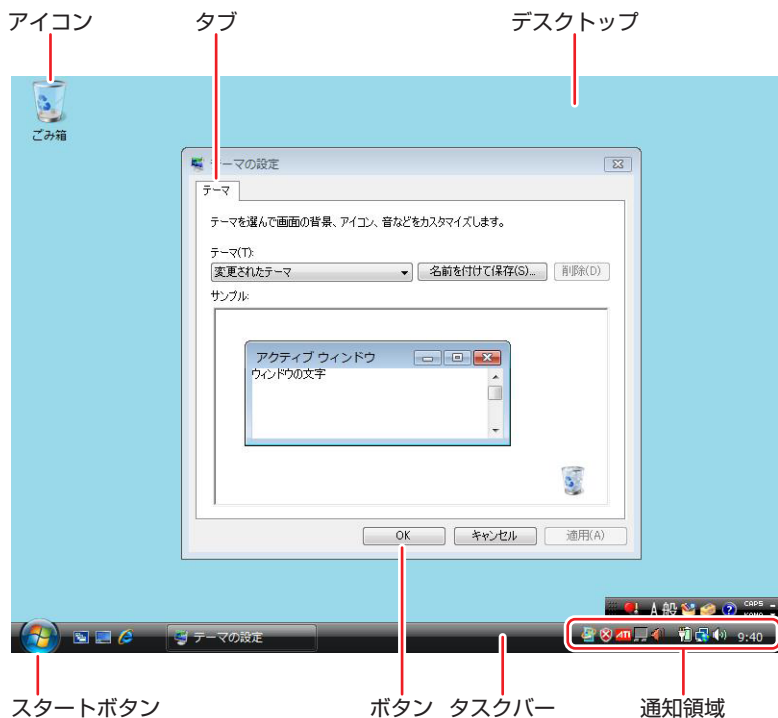
本書では、HDD 容量を 1GB（ギガバイト）＝ 1000MB として記載しています。

メモリ容量の記載

本書では、メモリ容量を 1GB（ギガバイト）＝ 1024MB として記載しています。

Windows Vista の画面表示に関する記載

デスクトップ画面

本書では、Windows Vista の画面に表示される各箇所の名称を次のように記載しています。

ボタン

ボタンは［　］で囲んで記載しています。

例） OK ：[OK]

スタートメニュー

［スタート］を押すと表示されるスタートメニューのボタン類は、次のように記載しています。

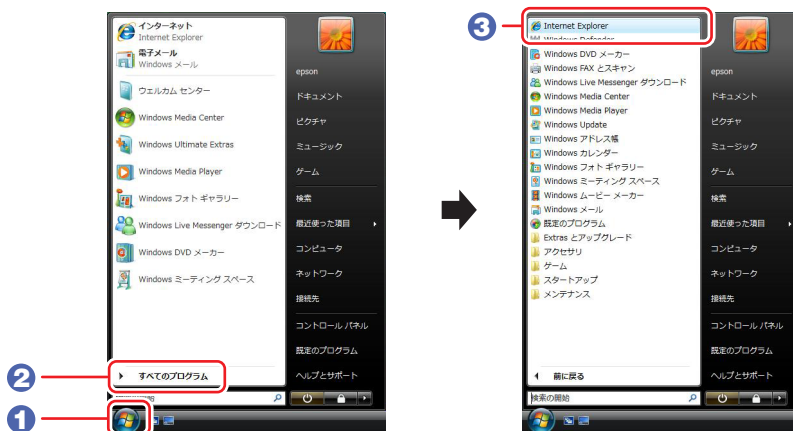
画面操作

本書では、Windows Vista の画面上で行う操作手順を次のように記載しています。

●記載例

［スタート］ー「すべてのプログラム」ー「Internet Explorer」をクリックします。

●実際の操作

1. ［スタート］をクリックします。
2. 表示されたメニューから「すべてのプログラム」をクリックします。
3. 表示されたメニューから「Internet Explorer」をクリックします。

※表示される項目は、システム構成によって異なります。

本製品の仕様とカスタマイズ

本製品は、ご購入時にお客様が選択されたオプションによって、仕様がカスタマイズされています。 CPU の種類・メモリ容量・光ディスクドライブなど、選択した仕様に合わせて、お客様オリジナルのコンピュータとして組み立て、納品されています。

仕様によって必要なマニュアル

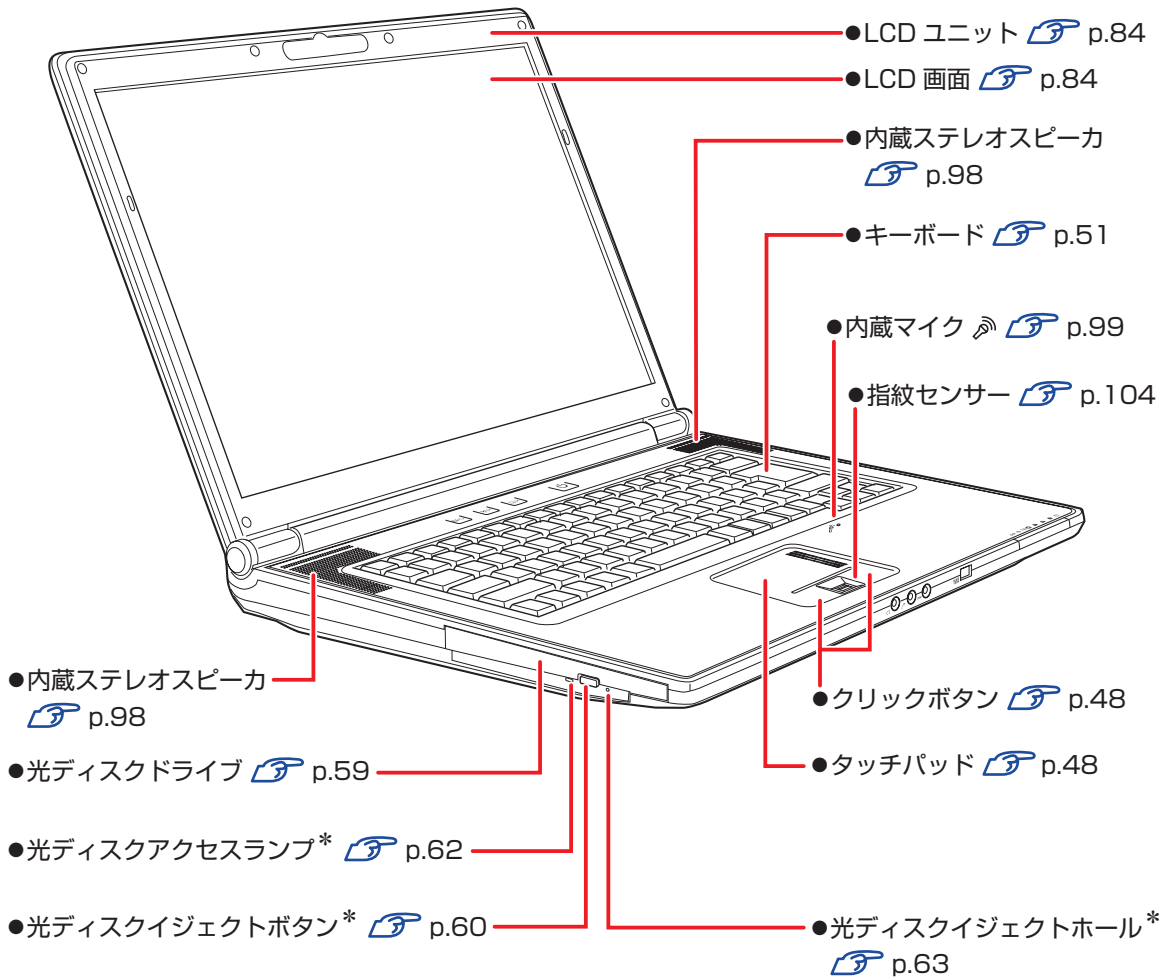
本製品の操作に必要なマニュアルは、お客様が選択された仕様によって、『ユーザーズマニュアル』（本書）とは別に添付されている場合があります。
お使いになる仕様によって必要となるマニュアルは、下記のとおり別冊や電子マニュアルなどの形式で添付されていますので、ご確認ください。

●本製品に同梱されている別冊マニュアル

●CD-ROM などに収録されている電子マニュアル（PDF ファイルなど）

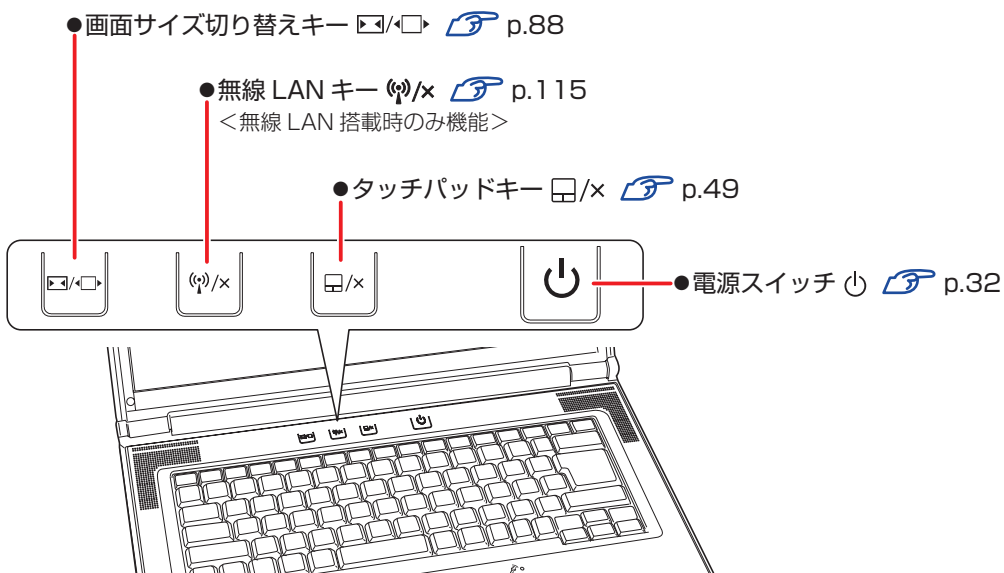
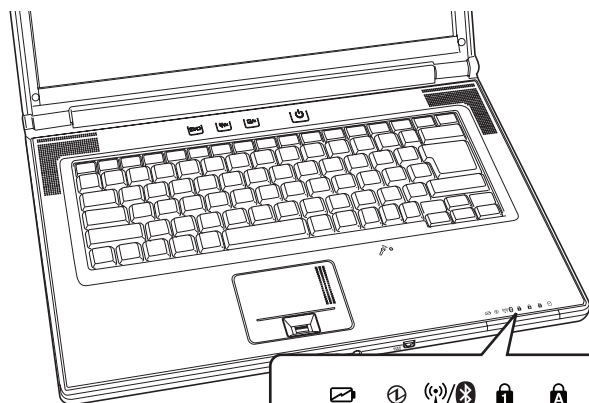
●コンピュータに収録されている電子マニュアル（「マニュアルびゅーわ」から閲覧）

各部の名称

正面・左側面

* 位置はお使いの光ディスクドライブによって異なります。光ディスクドライブの PDF マニュアルをご覧ください。PDF マニュアルは、「マニュアルびゅーわ」からご覧になれます。

p.4「インフォメーションメニューを使う」

電源スイッチ／インスタントキー

ランプ

●バッテリ充電ランプ p.42

●電源ランプ p.146

●無線 LAN/Bluetooth 状態ランプ p.115、 p.80
＜無線 LAN または Bluetooth 搭載時のみ機能＞

●Num Lock ランプ p.53

●Caps Lock ランプ p.53

●Scroll Lock ランプ p.54

●HDD アクセスランプ p.56

HDD アクセスランプが点灯しているときに本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。データが破損するおそれがあります。

前面

●ヘッドフォン出力コネクタ p.99
●マイク入力コネクタ p.99
●同軸デジタルオーディオ出力
（S/P DIF）コネクタ p.99
●IEEE1394 コネクタ p.147
（4 ピン）

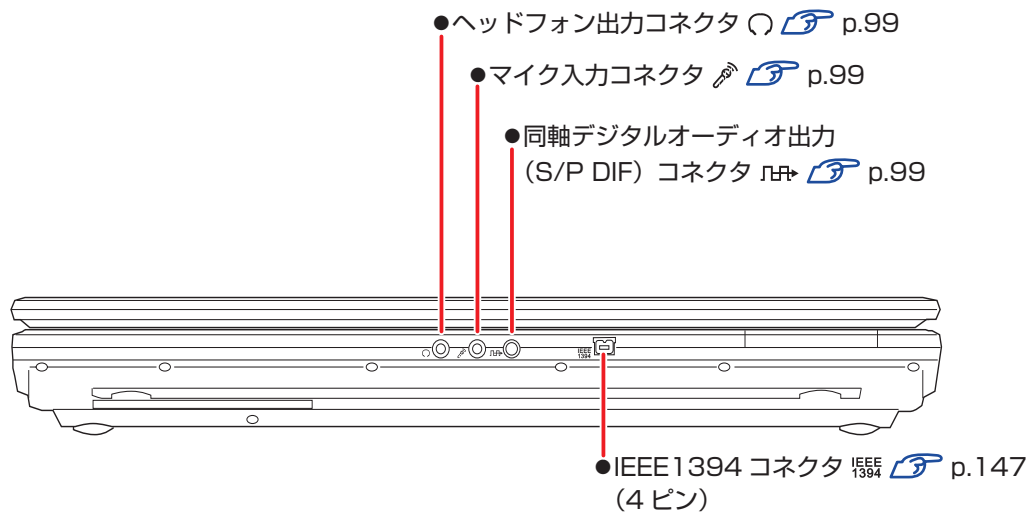
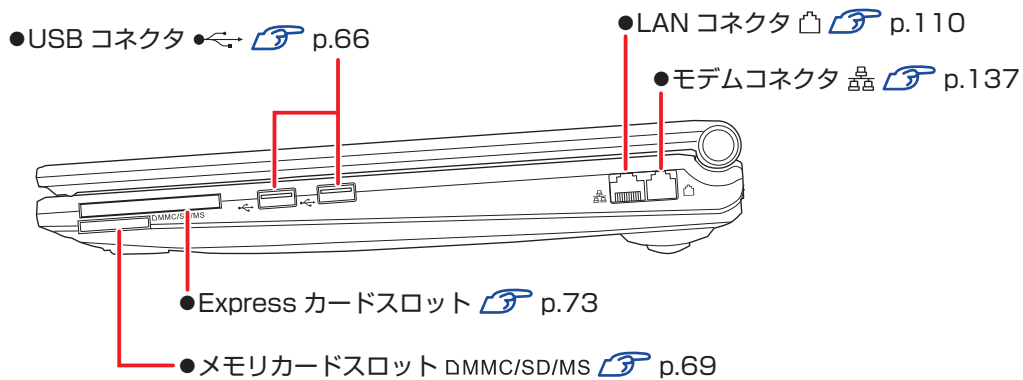
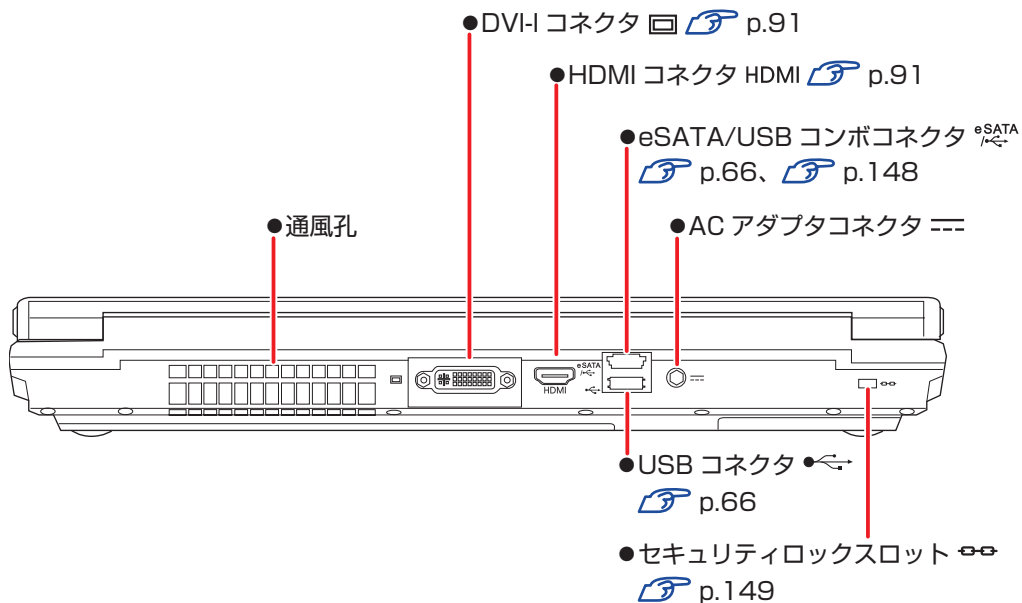
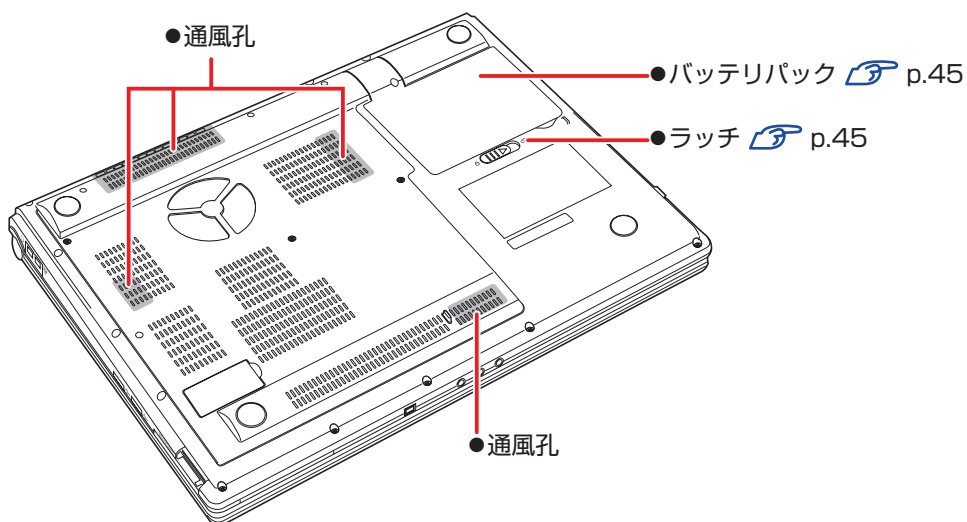
右側面

●USB コネクタ p.66
●LAN コネクタ p.110
●モデムコネクタ p.137
●Express カードスロット p.73
●メモリカードスロット MMC/SD/MS p.69

背面

●DVI-I コネクタ p.91
●HDMI コネクタ HDMI p.91
●eSATA/USB コンボコネクタ
p.66、 p.148
●通風孔
●AC アダプタコネクタ
HDMI
●USB コネクタ
p.66
●セキュリティロックスロット
p.149

底面

●通風孔
●バッテリパック p.45
●ラッチ p.45
●通風孔

添付されているソフトウェア

購入時、本機にインストールされているソフトウェアと、購入後、必要に応じてインストールするソフトウェアは次のとおりです。

表中記号の見方

	ソフトウェアは添付の DVD または CD に収録されています。
	ソフトウェアは HDD の「消去禁止領域」に収録されています。この領域を削除すると再インストールができなくなります。「消去禁止領域」は、絶対に削除しないでください。 p.57「消去禁止領域とは」

本機にインストールされているソフトウェア

購入時、次のソフトウェアは、本機にインストールされています。

本機にインストールされているソフトウェア	ソフトウェアの収録場所
●Windows Vista 本機のオペレーティングシステム（OS）です。	Windows Vista リカバリ DVD
●リカバリツール HDD の消去禁止領域に収録されている本体ドライバやソフトウェアを再インストールするためのプログラムです。	リカバリツール CD
●本体ドライバ	消去禁止領域
• チップセットドライバ マザーボード上のデバイスを使用するためのドライバです。	
• Intel Matrix Storage Manager Windows 上で HDD の状態を確認するためのユーティリティです。 インテル・ターボ・メモリ（オプション）を使用するためのドライバも含まれています。	
• ビデオドライバ Windows を高解像度・多色で表示するためのドライバです。	
• サウンドドライバ 音を鳴らしたり、録音するためのドライバです。	
• タッチパッドドライバ タッチパッドを使用するためのドライバです。	
• ネットワークドライバ ネットワーク機能（有線 LAN）を使用するためのドライバです。	
• 無線 LAN ドライバ（無線 LAN 搭載時のみ） 無線 LAN を使用するためのドライバです。	
• メモリカードドライバ メモリカードスロットを使用するためのドライバです。	
• FAX モデムドライバ FAX モデム機能を使用するためのドライバです。	

本機にインストールされているソフトウェア	ソフトウェアの収録場所
●本体ドライバ	消去禁止領域
・インスタントキードライバ Fn と組み合わせて使用する機能キーや、インスタントキーを使用するためのドライバです。	
・指紋認証ドライバ 指紋認証機能を使用するためのドライバです。	
・Java2 Runtime Environment Java アプリケーションを実行するためのソフトウェアです。	
・インフォメーションメニュー 本機に添付のマニュアルやサポートページを閲覧するためのユーティリティです。	
●Adobe Reader PDF（Portable Document Format）形式のファイルを表示したり、印刷したりするためのソフトウェアです。	
●マニュアルびゅーわ 本機に添付されているマニュアルやお知らせを見るためのソフトウェアです。	
●Bluetooth ユーティリティ（Bluetooth 搭載時のみ） Bluetooth 機能を使用するためのユーティリティです。	
●Nero 8 Essentials 光ディスクメディアに書き込みを行うためのソフトウェアです。	
●WinDVD DVD VIDEO を再生するためのソフトウェアです。	

必要に応じてインストールするソフトウェア

次のソフトウェアは、購入時、本機にインストールされていません。必要に応じてインストールしてください。

本機にインストールされていないソフトウェア	ソフトウェアの収録場所
●Norton Internet Security 90 日版 ウイルス駆除機能、不正アクセス防止機能、フィッシング詐欺対策機能などを備えたセキュリティソフトウェアです。	消去禁止領域
●i－フィルター 5　30 日版 インターネット上の有害な Web ページへのアクセスを防止する Web フィルタリングソフトウェアです。	
●マカフィー SiteAdvisor Plus 30 日版 Web サイトの安全性評価を表示し、危険なサイトへのアクセスを防ぐ Web セーフティツールです。	
●JWord Plugin Internet Explorer のアドレスバーから、日本語でインターネットを検索するためのソフトウェアです。	

本機にインストールされていないソフトウェア	ソフトウェアの収録場所
●goo スティック Internet Explorer のツールバーに、検索サービス「goo」の検索ボックスを追加するためのソフトウェアです。	消去禁止領域
●指紋認証ユーティリティ 指紋認証機能の設定を行うためのユーティリティです。	
●セキュリティチップユーティリティ セキュリティチップ（TPM）の設定を行うためのユーティリティです。	

消去禁止領域に収録されているソフトウェアのバックアップ

HDD の「消去禁止領域」に収録されているソフトウェアは、CD にバックアップすることができます。

p.236「バックアップ CD の作成方法」

そのほかのソフトウェア

次のソフトウェアは、CD から起動して実行します。インストールは必要ありません。

p.225「システム診断ツールを使う」

そのほかのソフトウェア	ソフトウェアの収録場所
●システム診断ツール コンピュータの調子が悪いときにシステム診断を行うためのツールです。HDD 内のデータを消去することもできます。	リカバリツール CD

1 コンピュータの基本操作

コンピュータの電源の入れ方や切り方、キーボードやタッチパッド、光ディスクドライブの使用方法など、コンピュータの基本的な操作方法について説明します。

電源を入れる・切る

電源の入れ方や切り方、再起動や強制終了の方法を説明します。

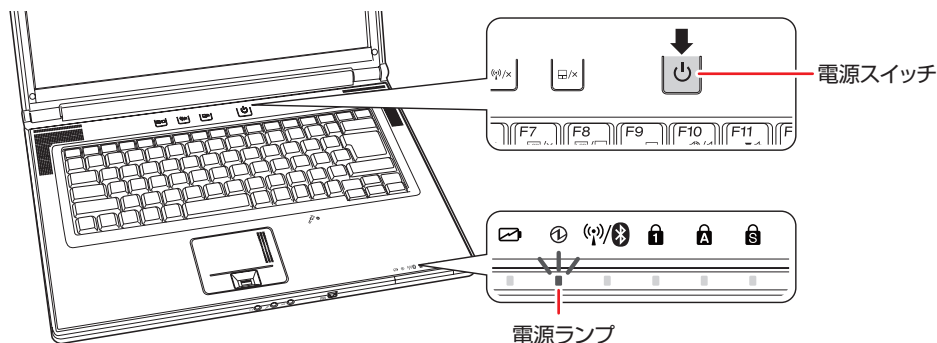
電源を入れる

制限

- 周辺機器の電源をいつ入れるかは、周辺機器に添付のマニュアルで確認してください。
  電源を入れるタイミングがコンピュータより先か後かは、周辺機器により決まっています。
- USB フラッシュメモリや USB HDD などを接続していたり、USB FDD に FD がセットされている状態で本機の電源を入れると、Windows が起動しないことがあります。USB 記憶装置は、Windows 起動後に接続してください。
- USB 記憶装置を接続した状態で Windows を起動したい場合は、「BIOS Setup ユーティリティ」で起動するデバイスの順番を変更してください。
  p.172「起動（Boot）デバイスの順番を変更する」
- 電源を入れなおすときは、20 秒程度の間隔を空けてから電源を入れてください。
  電気回路に与える電気的な負荷を減らして、HDD などの動作を安定させます。
- 本機の動作状況により、電源スイッチの周辺が熱くなることがありますが、故障ではありません。

シャットダウン状態から本機の電源を入れる方法は、次のとおりです。

1 **電源スイッチ（ ⏻ ）を押します。**

電源ランプ（ ⏻ ）が点灯します。

画面に「EPSON」と表示され、しばらくすると Windows が起動します。

参考

電源が入らないときは

電源が入らないときは、p.209「コンピュータ本体の不具合（起動時）」をご覧ください。

電源を切る

- 電源を切って、もう一度電源を入れる場合は、電源を入れるときに電気回路に与える電気的な負荷を減らし、HDD などの動作を安定させるために、20 秒程度の間隔を空けてください。
- HDD などのアクセスランプ点灯中に本機の電源を切ると、収録されているデータが破損するおそれがあります。
- 本機は、電源を切っていても、バッテリパックが装着されていたり電源プラグがコンセントに接続されていると、微少な電流が流れています。本機の電源を完全に切るには、電源コンセントから電源プラグを抜き、バッテリパックを取り外してください。

本機の電源を切る（シャットダウンする）方法は、次のとおりです。

1 **［スタート］ －［▶］ －「シャットダウン」をクリックします。**

Windows が終了し、自動的に電源が切れます。

2 **接続している周辺機器の電源を切ります。**

● ［⏻］をクリックしたときシャットダウンするように設定する

購入時、［スタート］－［⏻］をクリックすると本機はスリープ状態になりますが、シャットダウンするようにボタンの機能を変更することができます。
設定は次の場所で行います。

［スタート］ －「コントロールパネル」 －「システムとメンテナンス」 －「電源オプション」－「プラン設定の変更」－「詳細な電源設定の変更」－「電源ボタンと LID」 －「［スタート］ メニューの電源ボタンの操作」

● シャットダウン時の注意

Windows を複数のユーザーが使用している状態で電源を切ろうとすると、「ほかの人がこのコンピュータにログオンしています。…」と画面に表示されます。この場合は、［いいえ］をクリックし、ログオンしているすべてのユーザーをログオフしてからシャットダウンしてください。

スリープにする

本機をスリープ状態にして終了すると、本機は低電力の状態になります。スリープ状態からは、数秒で通常の状態に復帰することができます。通常は、スリープ状態にして終了すると便利です。
スリープ状態についての詳しい説明は、p.144「省電力状態の種類」をご覧ください。

終了方法

本機をスリープ状態にして終了する方法は、次のとおりです。

1 **[スタート]（ ）－（ ）をクリックします。**

本機が「スリープ状態」になります。画面表示が消え、電源ランプ（ ）が点滅します。
電源スイッチ（ ）のランプは消灯します。

ほかの方法でスリープ状態にする

次の方法でも、本機をスリープ状態にすることができます。

- ［スタート］－［▶］－「スリープ」をクリックする
- 電源スイッチ（ ）を押す
- Fn ＋ F1 （ ）を押す
- LCD ユニットを閉じる

復帰方法

制限

復帰の際、周辺機器はスリープ状態に入る前と同じ状態にしてください。
スリープ中に周辺機器を取り外すなどして状態が異なると、正常に復帰できない場合があります。

本機をスリープ状態から復帰させる方法は、次のとおりです。

1 **電源スイッチ（ ）を押します。**

本機が通常状態に復帰します。
キーボードを操作しても復帰できます。

再起動する

電源が入っている状態で、本機を起動しなおすことを「再起動」と言います。
次のような場合には、本機を再起動する必要があります。

●使用しているソフトウェアで指示があった場合

●Windows の動作が不安定になった場合

本機の再起動方法は、次のとおりです。

1 **[スタート] －［▶］－「再起動」をクリックします。**

再起動しても状態が改善されない場合は、本機の電源を切り、しばらくしてから電源を入れてください。

ハングアップしたときは

ソフトウェアや Windows がキーボードやタッチパッドからの入力を受け付けず、何も反応しなくなった状態を「ハングアップ」と言います。
ハングアップした場合は、ソフトウェアの強制終了を行います。ソフトウェアの強制終了をしても状態が改善されない場合は、強制的に本機の電源を切ります。

ソフトウェアの強制終了

ソフトウェアの強制終了方法は、次のとおりです。

1 **Ctrl ＋ Alt ＋ Delete を押します。**

2 **表示された項目から「タスクマネージャの起動」をクリックします。**

「Windows タスクマネージャ」が起動します。

3 **「アプリケーション」タブからハングアップしているソフトウェアを選択して［タスクの終了］をクリックします。**

4 **「プログラムの終了」画面が表示されたら、［すぐに終了］をクリックします。**

強制的に電源を切る

Ctrl ＋ Alt ＋ Delete を押しても反応がない場合は、強制的に本機の電源を切ります。
強制的に本機の電源を切る方法は、次のとおりです。

1 **コンピュータの電源スイッチ（ ⏻ ）を 5 秒以上押し続けます。**

本機の電源が切れます。

Windows 操作のヒント

Windows 操作についてのヒントを記載します。

Windows Vistaの使用方法

Windows Vista の使用方法は、次をご覧ください。

●ヘルプとサポート

「ヘルプとサポート」は次の場所から開きます。

[スタート]（ ）－「ヘルプとサポート」

●PC お役立ち情報

「PC お役立ち情報」は「インフォメーションメニュー」から開きます。

p.4「インフォメーションメニューを使う」

復元ポイントを作成する

Windows の「システムの復元」機能で「復元ポイント」を作成しておくと、本機の動作が不安定になった場合、システムの復元機能を使用して、作成しておいた復元ポイントまでシステムの状態を戻すことができます。
通常、復元ポイントはソフトウェアのインストールなどを行った際に自動的に作成されますが、手動で作成しておくこともできます。
☞ p.227「復元ポイントを手動で作成する」

コントロールパネルの表示

コントロールパネルの表示には、次の 2 種類があります。

●カテゴリの表示（コントロールパネルホーム）
　項目をカテゴリごとにまとめて表示します（初期設定）。

●クラシック表示
　項目をすべて表示します。

表示の切り替えは、画面左側にある、「クラシック表示」、「コントロールパネルホーム」をクリックして行います。
本書では、「カテゴリの表示」形式を前提に記載しています。

＜クラシック表示＞

＜カテゴリの表示＞

フォルダメニューの表示

Windows Vista では、「ファイル」や「ツール」などのフォルダメニューが標準では表示されません。

フォルダメニューを表示したい場合は、Alt を押します。もう一度 Alt を押すと、フォルダメニューは表示されなくなります。

常にフォルダメニューを表示する

常にフォルダメニューを表示したい場合は、次の設定を行います。

1 **［スタート］－「コントロールパネル」－「デスクトップのカスタマイズ」－「フォルダオプション」－「表示」タブ－「常にメニューを表示する」にチェックを付けます。**

ユーザーアカウントを作る

本機を何人かで共同で使用する場合は、ユーザーアカウントを作成すると便利です。ユーザーアカウントをいくつか作成すると、Windows をユーザーごとに切り替えて、各ユーザーの構成で本機を使用することができます。

ユーザーアカウントの作成

ユーザーアカウントの作成は、次の場所で行います。

［スタート］－「コントロールパネル」－「ユーザーアカウント（と家族のための安全設定）」－「ユーザーアカウント」－「別のアカウントの管理」－「新しいアカウントの作成」

作成時、ユーザーアカウントの種類（権限）は、ユーザーに応じて設定してください。
ユーザーアカウントの種類（権限）には、次の 2 つがあります。

●管理者

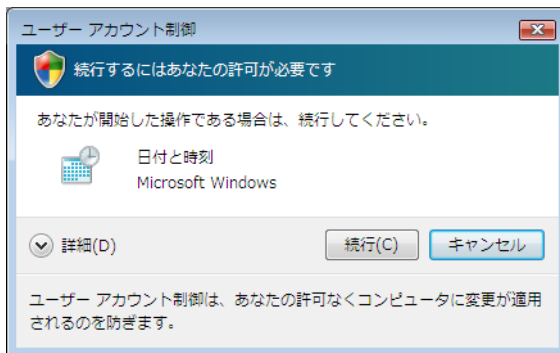
すべてのシステム項目にアクセスし、設定を変更したり、ドライバ、ソフトウェアのインストールをすることができます。

購入時やリカバリ時の Windows のセットアップで入力したユーザー名（アカウント）は、「管理者」になります。

●標準ユーザー

一部のシステム項目の変更や、ドライバ、ソフトウェアのインストールは行うことができません。管理者のパスワードを入力すれば、変更やインストールが可能になります。

ユーザーアカウント制御画面

コントロールパネルなどで が表示されているシステム項目にアクセスしようとしたり、ドライバやソフトウェアのインストールをしようとすると、「ユーザーアカウント制御」画面が表示されます。これは、項目にアクセス制限がかけられているためです。

表示される「ユーザーアカウント制御」画面は、ユーザーアカウント（管理者または標準ユーザー）により異なります。本書の手順は、管理者アカウントで Windows にログオンした状態を前提に記載しています。

AC アダプタ / バッテリパックを使う

本機は AC アダプタまたはバッテリパック（以降、バッテリ）で使用することができます。
バッテリは必ず取り付けて使用してください。取り付けないと、本機の設置が不安定になります。

バッテリの種類

本機で使用できるバッテリは、次のとおりです。

●BT4201-B

交換用のバッテリを購入される場合は、当社ホームページの「オプション」から本機のバッテリを選択してください。
当社ホームページのアドレスは、次のとおりです。

http://shop.epson.jp/

バッテリの交換方法は、 p.45「バッテリの交換」をご覧ください。

使用時の注意

●バッテリを、指定以外の方法で充電しないでください。
発熱や発火、液漏れによる被害の原因となります。

●本体や付属のバッテリなどを火中に入れたり、火気に近づけたり、加熱したり、高温状態で放置したりしないでください。破裂などで火傷の原因となります。

●バッテリの金属端子をショートさせたり、水・コーヒー・ジュースなどの液体でぬらさないでください。感電・火災・火傷の原因となります。

●付属の AC アダプタやバッテリを、分解・改造しないでください。
また、本機には、指定以外の AC アダプタやバッテリを使用しないでください。
感電や火傷、化学物質による被害の原因となります。
当社指定以外の AC アダプタやバッテリ、または分解・改造した AC アダプタやバッテリ（当社での修理対応は除く）での本機の使用は、安全性や製品に関する保証ができません。

●小さなお子様の手の届く所にバッテリを保管しないでください。
なめたりすると火傷や、化学物質による被害の原因となります。

●バッテリには、落下させる、ぶつける、先の尖ったもので力を加える、強い圧力を加えるなど、強い衝撃を与えないでください。
破裂や液漏れにより、火傷や化学物質による被害の原因となります。

●バッテリ駆動時間が極端に短くなった場合は、当社指定の新しいバッテリと交換してください。
駆動時間が短くなったバッテリは、内部に使用されている電池の消耗度合いにばらつきが発生している可能性があります。電池の消耗度合いにばらつきがあるバッテリをそのまま使用し続けると、発熱・発火・破裂の原因となります。

●電源プラグのアース端子を接地（アース）してください。
接地しないで使用すると、感電の危険性があります。
アースは必ず電源プラグをコンセントに差し込む前に行ってください。また、アースを外す場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いた後に行ってください。

- ●アース端子は、絶対にガス管に接続しないでください。
  火災の原因となります。
- ●アース端子をコンセントに挿入または接触させないでください。
  感電の危険があります。

- ●付属の AC アダプタやバッテリは本機以外には使用しないでください。火傷・火災の危険があります。
- ●AC アダプタを毛布や布団で覆わないでください。火傷・火災の危険があります。
- ●破損した AC アダプタやバッテリを使用しないでください。
  火傷・火災の危険があります。
  万一、本機の落下などで強い振動や衝撃が加わり、バッテリが破損したり、変形したりした場合は、本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、本機からバッテリを取り外してください。
  そのまま使用を続けると、発熱・発火・破裂のおそれがあります。
- ●ひざの上で長時間使用しないでください。バッテリの熱で本機底面が熱くなり、低温火傷の原因となります。
- ●AC アダプタの温度の高い部分に、長時間触れないでください。低温火傷の原因となります。

AC アダプタやバッテリは、次の注意事項を確認して正しくお使いください。

●AC アダプタを使用するとき

- AC アダプタを長時間接続して使用すると、AC アダプタ本体が少し熱を持ちますが、故障ではありません。
- AC アダプタは頻繁に抜き差ししないでください。

●バッテリだけで使用するとき

- 省電力状態のまま長時間使用しない場合は、完全放電しないように気を付けてください。省電力状態でも電力が消費されています。
  p.142「電源設定を行う（省電力機能を使う）」
- 動画再生時にコマ落ちしたり、ソフトウェアの動作が遅くなったりする可能性があります。このような場合には、省電力状態に移行しないように設定してください。
  p.145「時間経過で移行させない」
- ビデオパフォーマンスは、自動的に常に最低の状態になります。
  p.89「ビデオを省電力で使う」

●バッテリを長期間使用しないとき

- 長期間使用していない場合は、バッテリが完全放電している可能性があります。バッテリだけで本機を使用するときは必ず充電をしてください。
- バッテリを長期間充電しないと、過放電になる可能性があります。予防のために定期的に充電をしてください。
  p.47「バッテリ保管上の注意」

低温環境でのバッテリ性能

低温の環境では、バッテリの性能が低下します。これは一時的なものであり、常温の環境に戻すと性能が回復します。

バッテリの使用可能時間

バッテリだけで本機を使用できる時間は次のとおりです。ただし本機の使用環境や状態などによって変化します。

使用可能時間＊（満充電の場合）
連続約 3.4 時間

＊ JEITA（電子情報技術産業協会）の測定方法 Ver1.0 に基づいています。

本機をバッテリだけで使用している場合は、使用可能時間が制限されます。省電力の設定を行うと使用可能時間を延ばすことができます。

p.142「電源設定を行う（省電力機能を使う）」

バッテリの充電

バッテリの充電は、AC アダプタが接続されているときは、本機の電源が入 / 切どちらの状態でも自動的に行われます。

バッテリ充電ランプの表示

バッテリ充電ランプ（ ）の表示は、次のとおりです。

充電状態	ランプの表示
残量少	点滅（オレンジ色）
充電中	点灯（オレンジ色）
満充電	消灯

充電時間

低バッテリ状態からバッテリの充電完了までの時間は、次のとおりです。

バッテリの充電時間＊
約 2.5 時間

＊ 電源が入っている状態では、コンピュータの使用状況により差があります。

温度条件について

バッテリは、化学反応を利用した電池です。このため、温度条件によっては正常な充電ができない場合があります。

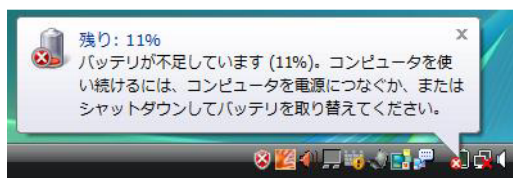
バッテリ残量の確認

通知領域の「バッテリ」アイコンの上にポインタをあわせると、バッテリ残量を確認することができます。

<バッテリアイコン>　ポインタを合わせる

バッテリ残量が少なくなったら

バッテリ低下の通知

バッテリ残量が少なくなり、「バッテリ低下」の状態になると、本機は次のように通知（警告）します。

対処方法

バッテリ残量低下が通知されたら、すぐに次のどちらかの処置を行ってください。完全放電してシャットダウン（電源切断）してしまうと、保存していないデータはすべて失われます。

●AC アダプタを接続する

電源を入れたまま AC アダプタを接続します。

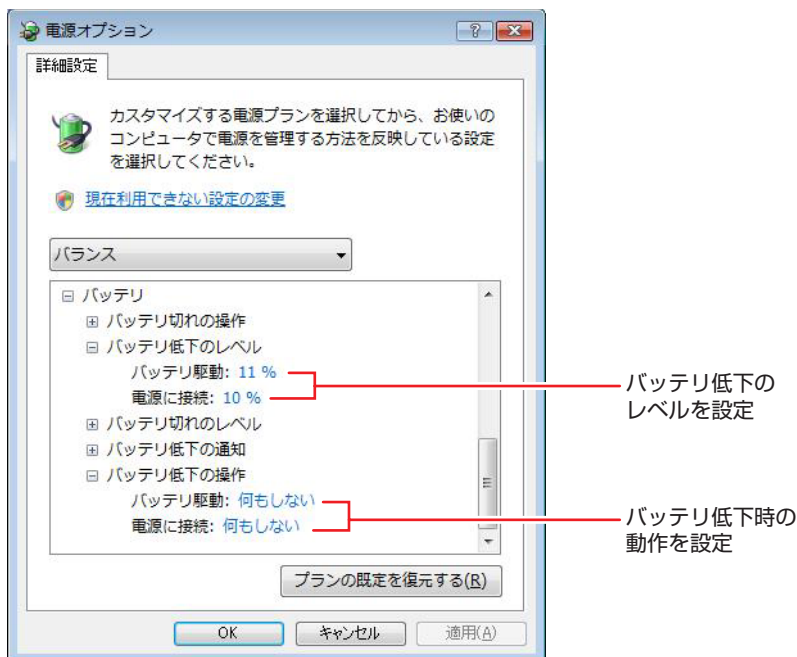
●電源を切る

作業中のデータを HDD などに保存して、実行中のソフトウェアを終了させたあと、本機の電源を切ります。
交換用のバッテリがある場合も、必ず電源を切ってからバッテリを交換してください。

AC アダプタを接続しない場合は、直ちに作業中のデータを保存してください。コンピュータがシャットダウンしてしまうと、保存していないデータはすべて失われます。

バッテリ低下時の設定変更

バッテリ低下のレベルやバッテリ低下時の本機の動作は、変更することができます。変更は次の場所で行います。

通知領域の「バッテリ」アイコンを右クリック－「電源オプション」－選択している電源プランの「プラン設定の変更」－「詳細な電源設定の変更」－「バッテリ」

<イメージ>

バッテリ低下のレベル設定

バッテリ残量が何%になったら「バッテリ低下」の通知をするかは、「バッテリ低下のレベル」で設定できます。

バッテリ低下時の動作設定

「バッテリ低下」になったときの本機の動作は、「バッテリ低下の操作」で設定できます。

バッテリの容量がすぐに低下するときは

バッテリは、消耗品です。満充電にしても、バッテリ容量がすぐに低下する場合は、バッテリの寿命が考えられます。本機専用の新しいバッテリに交換してください。
バッテリの駆動時間が極端に短くなった場合は、内部に使用されている電池の消耗度合いにばらつきが発生している可能性があります。電池の消耗度合いにばらつきがあるバッテリをそのまま使用し続けると、発熱、発火、破裂の原因となります。

バッテリの交換

複数のバッテリを交互に使用する場合や、バッテリが寿命に達した場合は、バッテリを交換します。
交換用のバッテリについては、当社のホームページをご覧ください。
ホームページのアドレスは、次のとおりです。

http://shop.epson.jp/

バッテリの交換方法

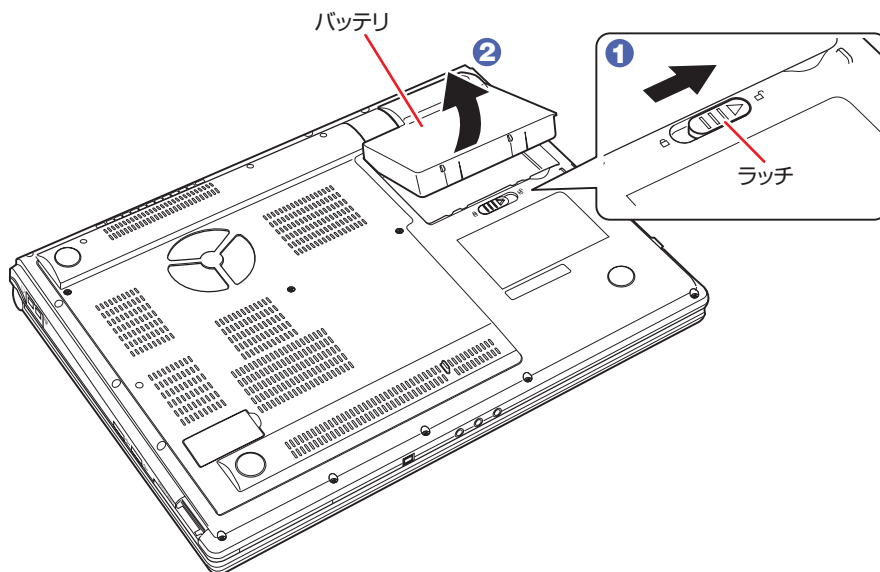
バッテリの交換方法は次のとおりです。

1 **本機の電源を切ります。AC アダプタが接続されている場合は外します。**

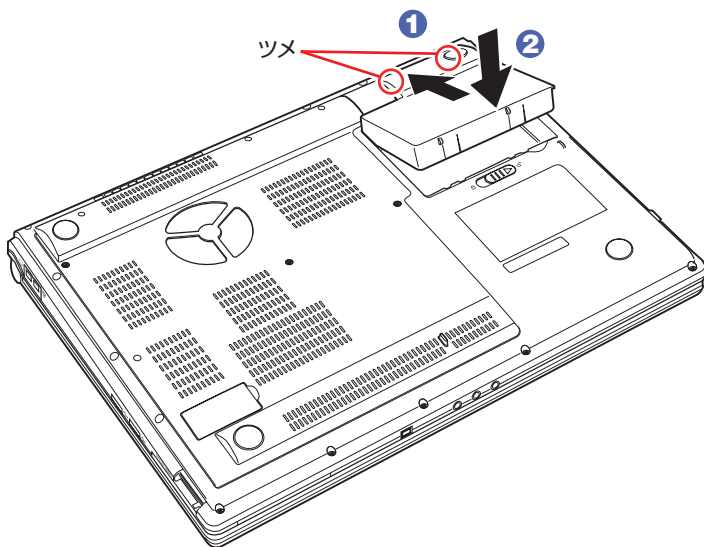
2 **本機の底面を上にして置きます。**

3 **バッテリを取り外します。**

① ラッチをロック解除位置（ 🔓 ）までスライドさせて固定します。

② ラッチを固定したまま、バッテリを取り外します。

4 新しいバッテリを本機に取り付けます。

❶ バッテリのツメ（2 箇所）を本体に合わせます。

❷ バッテリを「カチッ」と音がするまで押し込みます。

バッテリの寿命を延ばすには

バッテリは消耗品です。バッテリの寿命は、使い方や使用環境によって大きく変わります。
バッテリの劣化を抑え、使用可能時間や寿命を延ばすには、次の事項に注意してください。

- 高温の環境では、バッテリの劣化が早まります。本機やバッテリを、炎天下の自動車の中や暖房機の近くなどで使用したり、放置したりしないでください。
- 本機を使用する、使用しないにかかわらず、常時 AC アダプタを接続していると、バッテリの劣化が早まります。劣化を防ぐため、1 ヶ月に 1 回程度は本機から AC アダプタを外して、バッテリの残量が 10%程度になるまで AC アダプタなしで使用することをおすすめします。
- 1 ヶ月以上本機を使用しないときは、本機からバッテリを取り外して保管してください。
  p.47「バッテリ保管上の注意」

バッテリ保管上の注意

小さなお子様の手の届く所にバッテリを保管しないでください。
なめたりすると、火傷や化学物質による被害の原因となります。

バッテリは、次の状態で保管してください。

- 液漏れや端子部の腐食を防ぐため、必ずコンピュータ本体から取り外してください。
- 端子部のショートを防ぐため、布やビニールなどの絶縁物に包んでください。
- 高温環境での保管は劣化を早めます。乾燥した冷暗所で保管してください。
- 満充電状態での保管は劣化を早めます。バッテリ残量は 50%程度にして保管してください。
- バッテリは、使用していなくても、自己放電により蓄えられた電気は徐々になくなります。バッテリの残量がなくなり過放電状態になると、コンピュータに装着しても充電できなくなることがあります。
  自己放電による過放電を防ぐため、定期的（半年に 1 回程度）にバッテリ残量を 50%程度まで充電することをおすすめします。

使用済みバッテリの取り扱い

使用済みのリチウムイオン（Li-ion）バッテリは、再利用可能な貴重な資源です。
有効資源のリサイクルにご協力ください。

バッテリリサイクル時の注意

使用済みのバッテリは、ショートしないように、端子部にテープを貼るかポリ袋などに入れて、リサイクル協力店にある充電式電池回収ボックスに入れてください。
バッテリは、燃やしたり埋めたり一般ゴミに混ぜて捨てたりしないでください。環境破壊の原因となります。

タッチパッドを使う

本機には、タッチパッドが搭載されています。タッチパッドは、マウスと同じようにポインタなどを操作したりクリックしたりするための装置です。

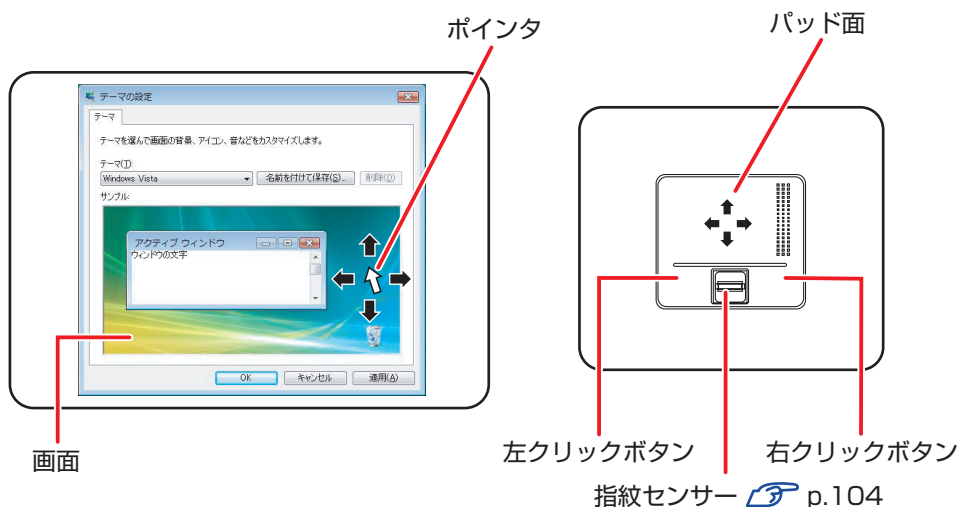
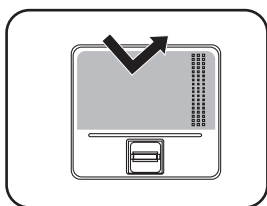
タッチパッドの操作

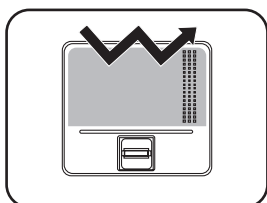
タッチパッド使用時の注意

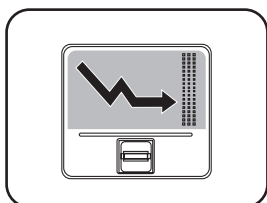
タッチパッドは、次の注意事項を確認して正しくお使いください。

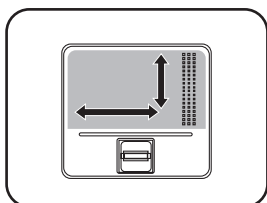
- パッド面には指で触れてください。ペンなどで触れると、ポインタの操作ができないだけでなく、パッド面が破損するおそれがあります。
- パッド面は、1 本の指で操作してください。一度に 2 本以上の指で操作すると、ポインタが正常に動作しません。
- 手がぬれていたり、汗ばんでいると、ポインタの操作が正しくできないことがあります。
- キーボードを操作しているときにパッド面に手が触れると、ポインタが移動してしまうことがあります。
- 起動時の温度や湿度により、正常に動作しない場合があります。この場合は電源を一度切って入れなおすことにより正常に動作することがあります。
- 電源を入れたまま LCD ユニットを閉じていたり、使用中に本機の温度が上がってくると、正常に動作しない場合があります。この場合は、電源を一度切って入れなおすことにより正常に動作することがあります。

ポインタの移動

タッチパッドは、パッド面とクリックボタンから構成されています。人差し指をパッド面の上で前後左右に動かすと、動かした方向に画面上のポインタが移動します。

●クリック

ポインタを画面上の対象にあわせて、パッド面を軽く 1 回たたきます。
左クリックボタンを「カチッ」と押すのと同じ操作です。

●ダブルクリック

ポインタを画面上の対象にあわせて、パッド面を軽く 2 回たたきます。
左クリックボタンを「カチカチッ」と 2 回押すのと同じ操作です。

●ドラッグアンドドロップ

ポインタを画面上の対象にあわせて、ダブルクリックの 2 回目のクリック時に、指をパッド面に触れたまま移動させます。左クリックボタンを押したままの状態でポインタを移動し、離すのと同じ操作です。

●スクロール

上下のスクロールは、パッドの右端に指を触れて前後に動かします。左右のスクロールは、パッドの下部に指を触れて左右に動かします。

タッチパッド機能をOFFにする

キーボード入力を行うときに、手がタッチパッドにあたってマウスポインタが動いてしまい、入力がしにくい場合があります。このような場合は、一時的にタッチパッド機能を OFF にすると便利です。
タッチパッド機能の切り替えは、タッチパッドキー（ ）で行います。

p.55「インスタントキー」

タッチパッドユーティリティを使う

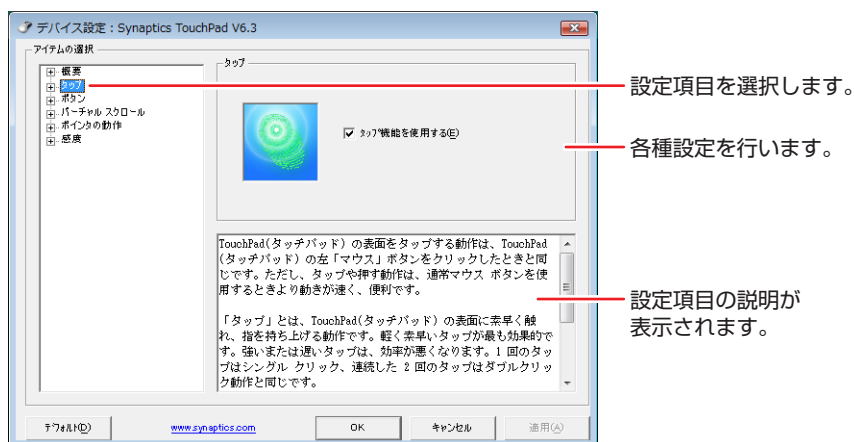
タッチパッドユーティリティで各種設定を行うと、タッチパッドがより操作しやすくなります。
タッチパッドユーティリティ画面の表示方法は次のとおりです。

1 **通知領域の「ポインティングデバイス」アイコンをクリックして、「ポインティングデバイスのプロパティ」を選択します。**

<ポインティングデバイスアイコン>

2 **「マウスのプロパティ」画面が表示されたら、「デバイス設定」タブ－［設定］をクリックします。**

3 **「デバイス設定：Synaptics TouchPad…」画面が表示されたら、各種設定を行います。**

「アイテムの選択」から設定したい項目を選択して、各種設定を行います。

USBマウス(オプション)の接続

本機右側面または背面のUSBコネクタ（•⟵）に、オプションのUSBマウスを接続して使うことができます。USBマウスの使用方法は、マウスに添付のマニュアルをご覧ください。

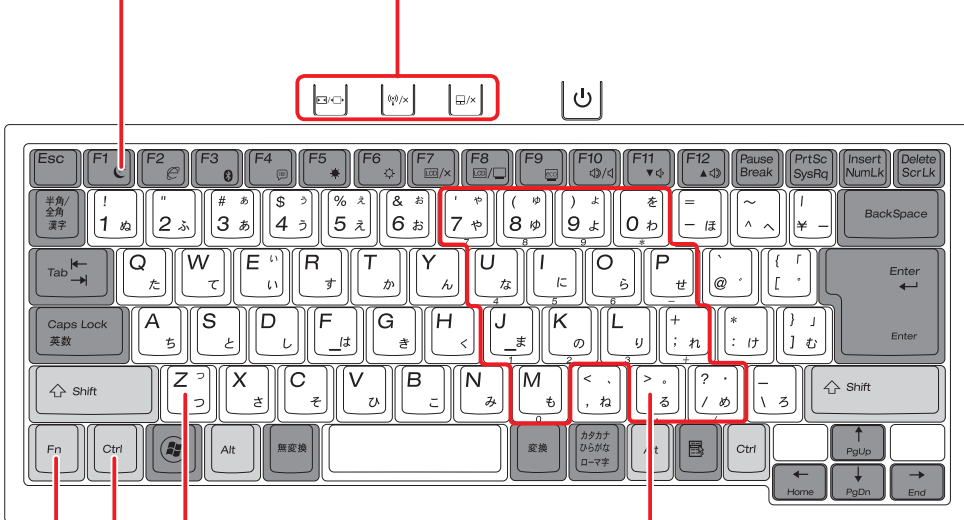
キーボードを使う

本機には、日本語対応 87 キーボードと 3 個のインスタントキーが搭載されています。

キーの種類と役割

各キーには、それぞれ異なった機能が割り当てられています。

●機能キー p.54
文字を消す、入力位置を変えるなど、特別な役割が割り当てられたキーです。機能キーの役割は、ソフトウェアによって異なります。

●インスタントキー p.55

●文字キー
英数字、記号の入力や日本語入力システムを利用して、漢字やひらがななどの日本語を入力します。

●数値キー p.53

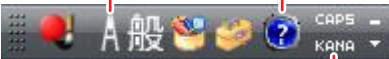
●制御キー
文字キーや機能キーの働きを変化させます。単独では機能しません。

●Fn キー p.54

文字を入力するには

文字キーを押すとキートップ（キーの上面）に印字されている文字が入力されます。
入力モードによって、入力される文字は異なります。

直接入力モード		キートップのアルファベットをそのまま入力します。
日本語入力モード	ローマ字入力	キートップのアルファベットでローマ字を入力し、漢字やひらがなに変換します。
	かな入力	キートップのひらがなをそのまま入力し、漢字やカタカナに変換します。

入力モードの切り替え

半角/全角 を押すと、直接入力モードと日本語入力モードを切り替えることができます。
日本語入力モードのローマ字入力とかな入力の設定は日本語入力システムで行います。

日本語を入力するには

ひらがなや、漢字などの日本語の入力は、日本語入力システムを使用します。
本機には、日本語入力システム「MS-IME」が標準で搭載されています。

MS-IME の使い方

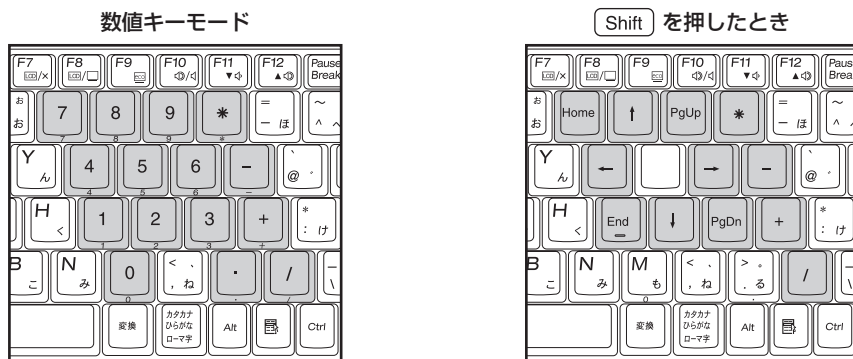
MS-IME パネルの主要なボタンの名称と働きは次のとおりです。

MS-IME 以外の日本語入力システムを使用する場合は、そのシステムに添付されているマニュアルをご覧ください。

数値やアルファベットの入力

数値キー入力モード

Fn＋NumLk を押すと、NumLock ランプ（ ）が点灯して、文字キーの一部を数値キーとして使用できます。さらに Shift を押しながら数値キーを押すと、矢印キーなどとして使用できます。

数値キーモード

Shift を押したとき

アルファベット大文字・小文字の切り替え

アルファベットの入力を大文字または小文字に固定することができます。固定する文字の切り替えは、次のキー操作で行います。

Shift＋Caps Lock

大文字に固定すると、CapsLock ランプ（ ）が点灯します。
大文字に固定した状態のまま小文字を入力するには、Shift を押しながら文字を入力します。

Fnキーと組み合わせて使うキー

キートップに青色で印字されている機能キーは、 Fn と組み合わせて実行します。

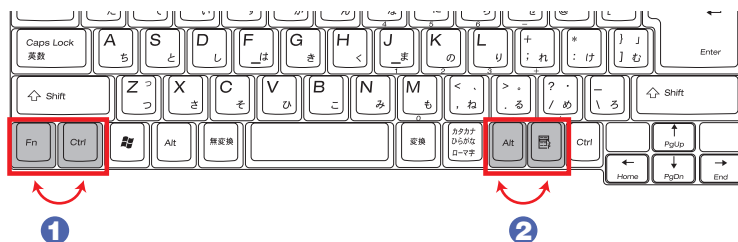
キーの組み合わせ	機能
Fn + F1	省電力状態に移行します。（初期値：スリープ状態） p.145「直ちに移行する」
Fn + F2	Internet Explorer を起動します。 p.126「インターネットや電子メールを利用する」
Fn + F3	Bluetooth 機能の ON/OFF を切り替えます。 p.80「Bluetooth 機能の ON/OFF 方法」
Fn + F4	インフォメーションメニューを起動します。 p.4「インフォメーションメニューを使う」
Fn + F5	LCD 画面を暗くします。 p.85「LCD ユニットの調整」
Fn + F6	LCD 画面を明るくします。 p.85「LCD ユニットの調整」
Fn + F7 LCD/×	LCD 画面のバックライトの入 / 切を切り替えます。 p.85「バックライトの消灯」
Fn + F8 LCD/	外付けの表示装置に接続している場合に、表示装置を切り替えます。 p.94「画面表示を切り替えるには」
Fn + F9 eco	ビデオの省電力の入／切を切り替えます。 p.89「ビデオを省電力で使う」
Fn + F10	スピーカのミュート（消音）の入 / 切を切り替えます。 p.98「音量の調節」
Fn + F11 ▼	スピーカの音量を小さくします。 p.98「音量の調節」
Fn + F12 ▲	スピーカの音量を大きくします。 p.98「音量の調節」
Fn + NumLk	数値キー入力モードに切り替えます。 p.53「数値キー入力モード」
Fn + ScrLk	ソフトウェアによって機能が異なります。詳しい内容は、ご使用のソフトウェアのマニュアルをご覧ください。押すと ScrollLock ランプ（ ）が点灯します。
Fn + Home	行の最初に移動します。＊
Fn + End	行の最後に移動します。＊
Fn + PgUp	前のページに移動します。＊
Fn + PgDn	次のページに移動します。＊

＊ ソフトウェアによっては、機能が異なる場合があります。

入力キーの機能の入れ替え

次の入力キーの機能は、入れ替えることができます。

❶ キーボード左下にある Fn とその隣の Ctrl

❷ キーボード右下にある Alt とその隣の 🗐（アプリケーションキー）

キーの機能を入れ替える場合は、「BIOS Setup ユーティリティ」の「Advanced」メニュー画面で次の項目を変更してください。

- 「Exchange FN & L-CTRL Key」（ Fn と Ctrl の入れ替え）
- 「Exchange R-Alt & Win App key」（ Alt と 🗐 の入れ替え）

キーの機能の入れ替え	BIOS の設定値
機能を入れ替える場合	Enabled（有効）
機能を入れ替えない場合	Disabled（無効）

購入時は、どちらも「Disabled」に設定されています。

☞ p.163「BIOS Setup ユーティリティの操作」
☞ p.175「Advanced メニュー画面」

インスタントキー

本機には、3 個のインスタントキーが搭載されています。インスタントキーを押すと、各キーに割り当てられた機能を実行します。
各インスタントキーの機能は、次のとおりです。

インスタントキー	機能
画面サイズ切り替えキー ▶◀/◀▢▶	画面サイズを切り替えます。キーを押すたびに、画面サイズをワイド表示とノーマル表示に切り替えます。 ☞ p.88「画面サイズを切り替える」
無線 LAN キー ((•))/×	無線 LAN 機能の ON/OFF を切り替えます。 （無線 LAN 搭載時のみ機能します） ☞ p.115「無線 LAN 機能の ON/OFF 方法」
タッチパッドキー ▭/×	タッチパッドの ON/OFF を切り替えます。 ☞ p.49「タッチパッド機能を OFF にする」

HDD を使う

本機にはシリアル ATA 仕様の HDD（ハードディスクドライブ）が搭載されています。HDD は、大容量のデータを高速に記録する記憶装置です。

- HDD アクセスランプ点灯中に、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。HDD アクセスランプ点灯中は、コンピュータが HDD に対してデータの読み書きを行っています。この処理を中断すると、HDD 内部のデータが破損するおそれがあります。
- 本機を落としたり、ぶつけたりして衝撃を与えると、HDD が故障するおそれがあります。衝撃を与えないように注意してください。また、持ち運ぶときは、電源を切った状態で専用バッグに入れるなどして、保護するようにしてください。
- HDD が故障した場合、HDD のデータを修復することはできません。

データのバックアップ

HDD に記録されている重要なデータは、CD メディアや外付け HDD などにバックアップしておくことをおすすめします。万一 HDD の故障などでデータが消失してしまった場合でも、バックアップを取ってあれば、被害を最小限に抑えることができます。
バックアップ方法は、 p.235「データのバックアップ」をご覧ください。

購入時のHDD領域

購入時の HDD は、お客様の選択により次のように設定されています。
すべてのドライブは、NTFS ファイルシステムでフォーマットされています。

通常

ドライブ（領域）	容量
消去禁止領域	約 3GB *
C ドライブ	残り

* 消去禁止領域の容量は、コンピュータの製品仕様により異なります。

HDD 設定変更サービスを選択された場合

ドライブ（領域）	容量
消去禁止領域	約 3GB *
C ドライブ	購入時に選択された容量
D ドライブ	残り

* 消去禁止領域の容量は、コンピュータの製品仕様により異なります。

HDD 設定変更サービス

HDD 設定変更サービスとは、購入時にあらかじめ HDD の領域を C ドライブ、D ドライブに分割した状態でコンピュータをお届けするサービスのことです。

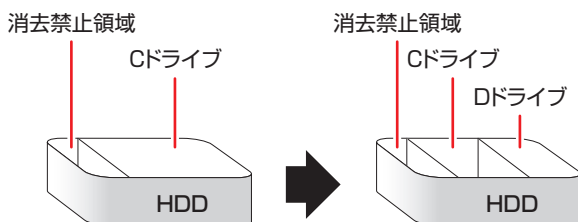
消去禁止領域とは

「消去禁止領域」には、本体ドライバ・ソフトウェアのインストール用データや、「Windows 回復環境（Windows RE）」が設定されています。
この領域は、絶対に削除しないでください。
削除してしまうと、本体ドライバやソフトウェアのインストールができなくなります。

「消去禁止領域」内の本体ドライバやソフトウェアのインストール用データは、CD にコピー（バックアップ）することもできます。
p.236「バックアップ CD の作成」
Windows RE の詳細は、p.228「Windows 回復環境（Windows RE）を使う」をご覧ください。

HDDを分割して使用する

1 台の HDD は、いくつかに分割してそれぞれ別々のドライブとして使用することができます。

例： 1 つの HDD 領域（C ドライブ）を 2 つの HDD 領域（C ドライブと D ドライブ）に分割することができます。

C ドライブを分割する場合は Windows の再インストールが必要です。詳しくは、p.242「C ドライブを分割・変更する」をご覧ください。

HDDの暗号化

Windows Vista Ultimate 使用時

Windows Vista Ultimate では、HDD 暗号化機能「BitLocker」を使用することができます。本機で BitLocker を使用するには、事前に専用ツールでの HDD 設定変更が必要です。専用ツールの入手方法など、詳しくは当社ユーザーサポートページのサポート情報をご覧ください。

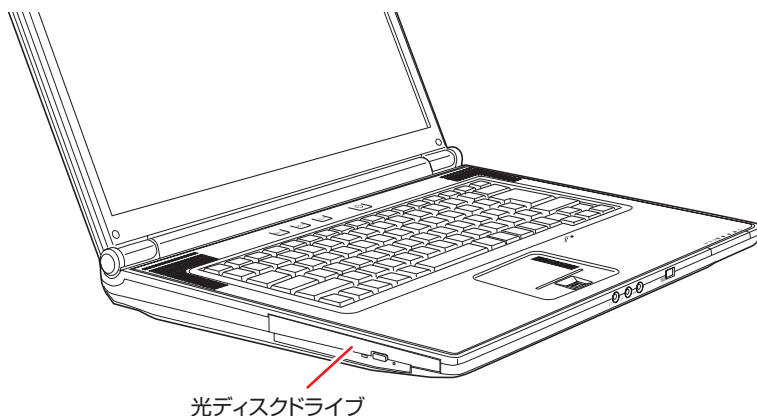
アドレスは次のとおりです。

http://www.epsondirect.co.jp/support/redirect.htm?content=BitLocker

BitLocker とは

BitLocker は、HDD 内のドライブを暗号化するツールです。Windows Vista Ultimate と Windows Vista Enterprise のみに搭載されています。
ドライブを暗号化することで、第三者が Windows を不正に起動したり、HDD 内のデータが漏洩したりすることを抑止することができます。

光ディスクドライブを使う

本機左側面には購入時に選択された光ディスクドライブが搭載されています。
光ディスクドライブは、CD-ROM などの光ディスクメディアを使用するための機器です。
ここでは、光ディスクドライブの基本的な使い方について説明します。

光ディスクドライブで、ひび割れや変形補修したメディアは使用しないでください。内部で飛び散って、故障したり、メディア取り出し時にけがをしたりする危険があります。

本機では、CD（コンパクトディスク）の規格に準拠しない「コピーコントロールCD」などの特殊ディスクは、動作保証していません。本機にて動作しない特殊ディスクについては、製造元または販売元にお問い合わせください。

ドライブの機能と使える光ディスクメディア

光ディスクドライブの機能と使えるメディアの種類は、光ディスクドライブのマニュアル（PDF）をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「マニュアルびゅーわ」

光ディスクメディアの違いについての簡単な説明は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「PC お役立ち情報」

光ディスクメディアのセットと取り出し

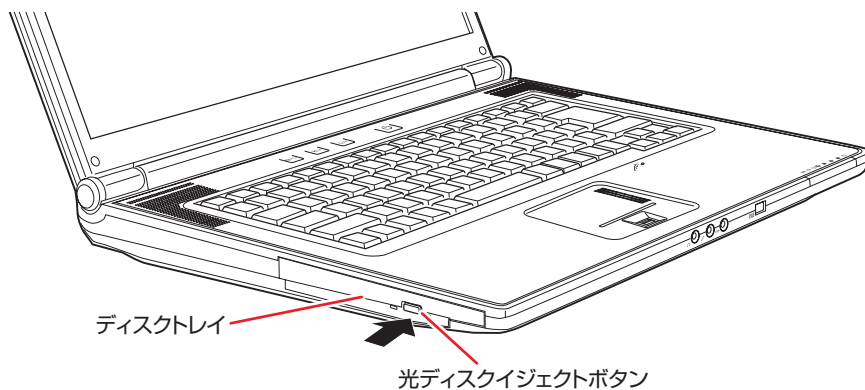
光ディスクメディアのセットと取り出し方法について説明します。

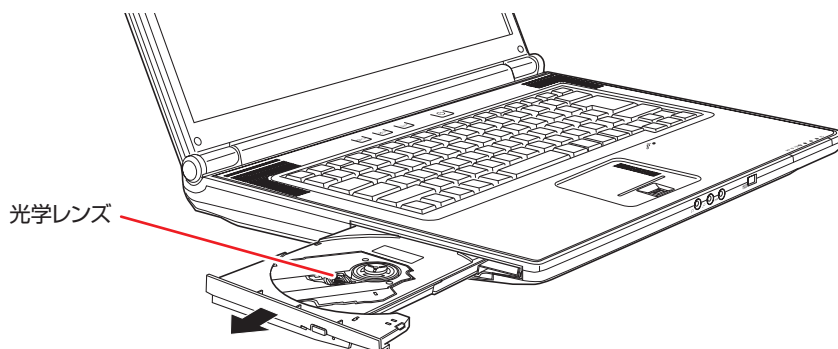
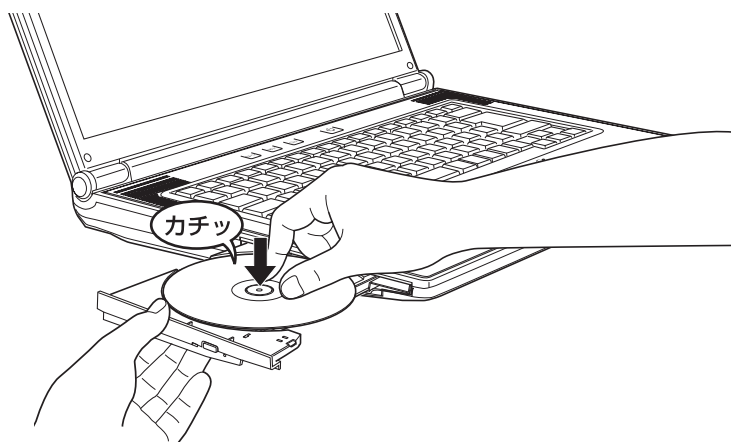
制限

- 光ディスクドライブアクセス中にメディアを取り出したり、再起動したりしないでください。
- メディアの再生中や書き込み中に振動や衝撃を与えないでください。
- ディスクトレイ上の光学レンズに触れたり、傷つけたりしないでください。メディアのデータが読めなくなります。
- 必要な場合以外は、ディスクトレイは閉じておいてください。
- 結露した状態のメディアを使用しないでください。メディアを寒いところから暖かいところへ急に持ち込むと、結露（水滴が付着する状態）します。使用すると、誤動作や故障の原因になります。
- 本機では、楕円などの通常と異なった形状のメディアは使用できません。

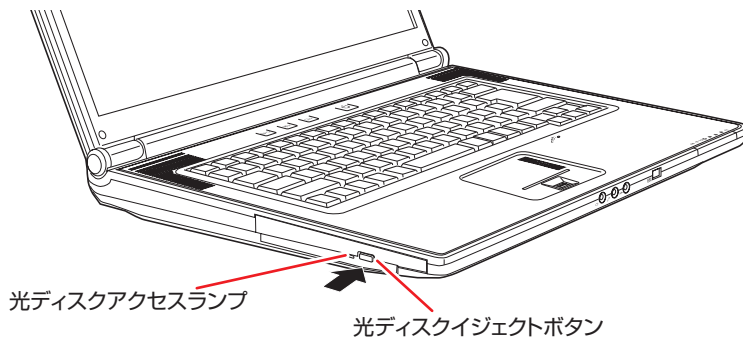
セット方法

1 **光ディスクイジェクトボタンを押します。**

ディスクトレイが少し飛び出します。

2 ディスクトレイを静かに引き出します。

光学レンズに触れたり、傷つけたりしないでください。
メディアのデータを読めなくなります。

3 印刷面を上にしてメディアをディスクトレイに載せ、カチッと音がするまではめ込みます。

4 ディスクトレイを静かに閉じます。

取り出し方法

1. 光ディスクアクセスランプが点灯・点滅していないことを確認して、光ディスクイジェクトボタンを押します。

2. ディスクトレイが少し飛び出したら、そのまままっすぐ引き出します。
3. メディアをディスクトレイから取り出します。
4. ディスクトレイを手で押して静かに閉じます。

> **参考**
> **イジェクトボタンを押してもメディアが取り出せない場合**
> ソフトウェアによっては独自の取り出し方法でないとメディアが取り出せないものもあります。詳しくは、お使いのソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

強制的な光ディスクメディアの取り出し

次のような場合には、強制的に光ディスクメディアを取り出すことができます。

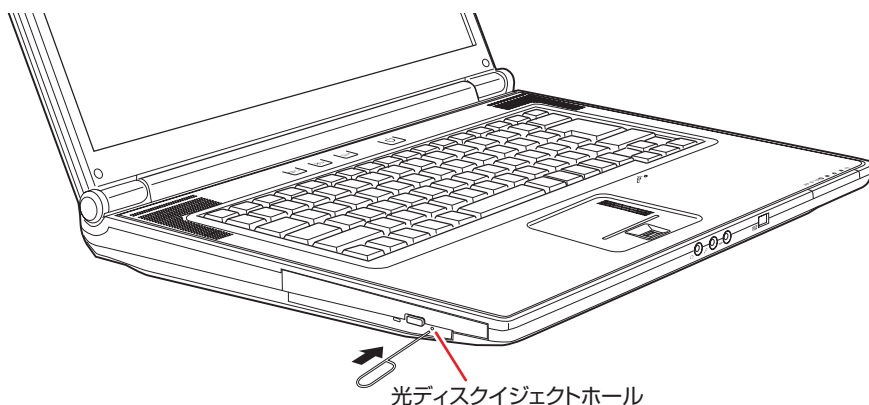
●光ディスクドライブの動作が不安定になったり、故障したりして、光ディスクメディアが取り出せない場合

●光ディスクメディアをセットしたまま、本機の電源を切ってしまった場合

強制的な光ディスクメディアの取り出し方法は、次のとおりです。

1 **本機の電源が入っている場合は、電源を切ります。**

p.33「電源を切る」

2 **光ディスクイジェクトホールに先の細い丈夫なもの（ゼムクリップを引きのばしたものなど）を差し込みます。**

3 **ディスクトレイが少し飛び出したら、そのまま手でまっすぐ引き出します。**

CDメディアの読み込み・再生

光ディスクドライブでは、データ CD を読み込めるほかに、音楽 CD やビデオ CD、フォト CD などの再生を行うことができます。これらのメディアの中には、再生時に別途専用ソフトウェアが必要なものもあります。

DVDメディアの読み込み・再生

本機の光ディスクドライブでは、データが収録されたDVDメディアを読み込めるほかに、DVD VIDEOなどの再生ができます。DVD VIDEOの再生には、専用のソフトウェアが必要です。

DVD VIDEO再生ソフト

DVD VIDEOの再生には「WinDVD」を使用します。
WinDVDは、次の場所から起動します。

［スタート］－「すべてのプログラム」－「Inter Video WinDVD」－「Inter Video WinDVD for EPSON」

WinDVDの詳しい使用方法は、WinDVDのヘルプをご覧ください。

DVD VIDEO再生時の制限

WinDVDでDVD VIDEOの再生をすると、次のような不具合が発生することがあります。

- 解像度や色数の設定により、DVD VIDEOの再生ができないことがあります。
  DVD VIDEOの再生ができない場合は、解像度や色数を調節してみてください。
  p.87「解像度や表示色の変更方法」
- 外付けディスプレイを接続して、「クローンモード」で表示をしていると、「使用しているディスプレイ環境は保護されているコンテンツの再生をサポートしていません。」というメッセージが表示され、DVD VIDEOの再生が中断されます。このような場合は、表示を「シングルモード」に切り替えてください。
  p.94「画面表示を切り替えるには」

HDMIディスプレイ・テレビを接続したときは

ビデオGeForce 9800M GT搭載時のみ

HDMIディスプレイ・テレビを接続した場合は、WinDVDを使用するために設定が必要です。
設定方法は、p.102「WinDVD使用時の設定」をご覧ください。

光ディスクメディアへの書き込み

本機の光ディスクドライブでは、データ、音楽、画像などを光ディスクメディアに書き込むことができます。
書き込み可能なメディアは、光ディスクドライブのマニュアル（PDF）をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「マニュアルびゅーわ」

作成したDVD VIDEOは、市販のDVDプレイヤーで再生できますが、一部のDVDプレイヤーでは再生できない場合があります。

ライティングソフト

光ディスクメディアに書き込みを行う場合は、専用のライティングソフトが必要です。本機にはライティングソフト「Nero 8 Essentials」がインストールされています。
p.65「Nero 8 Essentials の使い方」

書き込み時の注意

書き込みを行う場合は、次の点に注意してください。

●省電力機能を無効にする

メディアへの書き込み時に Windows が省電力状態に切り替わると、データ転送エラーが起き、書き込みに失敗して、メディアに記録したデータが失われたり、メディアが使用できなくなる可能性があります。
書き込みを始める前に、省電力状態に移行しないように設定してください。
p.145「時間経過で移行させない」
省電力状態に移行する場合は、必ず光ディスクドライブからメディアを取り出してから行ってください。

●速度に対応した光ディスクメディアを選ぶ

書き込みを行う場合は、光ディスクドライブの書き込み速度に対応したメディアを使用してください。
光ディスクドライブの書き込み速度は、光ディスクドライブのマニュアル（PDF）をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「マニュアルびゅーわ」

Nero 8 Essentialsの使い方

ライティングソフト「Nero 8 Essentials」を使用すると、CD メディアや DVD メディアにデータや音楽、画像などのファイルを書き込むことができます。

Nero 8 Essentials と Windows Vista 標準の書き込み機能を同時に使用しないでください。

使い方

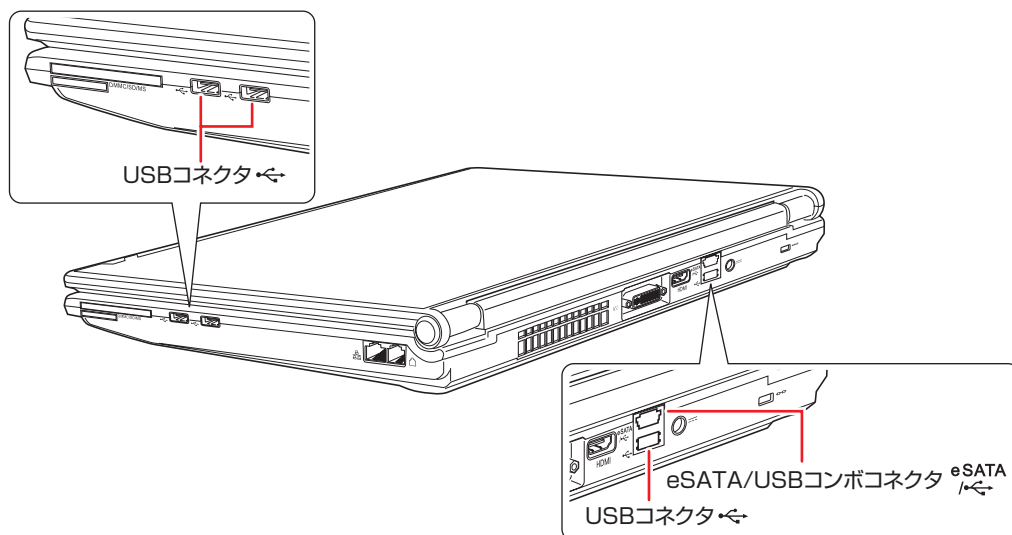
Nero 8 Essentials を起動するには、デスクトップ上の「Nero」アイコンをダブルクリックします。

Nero 8 Essentials の詳しい使用方法は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「PC お役立ち情報」－「CD/DVD/BD を使う」

「インフォメーションメニュー」－「マニュアルびゅーわ」－「Nero ユーザーガイド」

USB 機器を使う

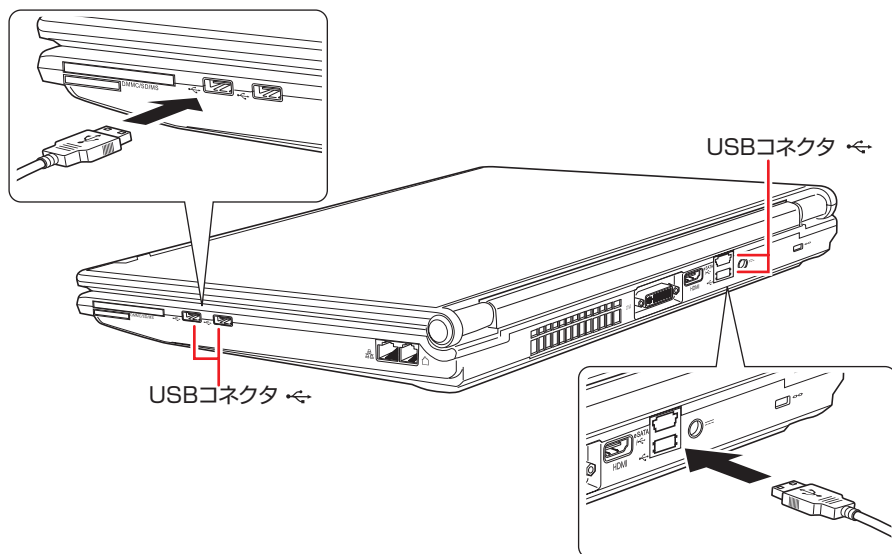
本機には USB2.0 に対応した USB コネクタが右側面に 2 個、背面に 2 個、合計 4 個搭載されています。USB コネクタには USB 対応の機器を接続します。
背面に 2 つある USB コネクタのうち、上段の USB コネクタは、eSATA/USB コンボコネクタです。eSATA 機器を接続することもできます。
p.148「eSATA/USB コンボコネクタ」

USB フラッシュメモリや USB HDD などの USB 記憶装置を接続していたり、USB FDD に FD がセットされている状態で本機の電源を入れると、Windows が起動しないことがあります。USB 記憶装置は、Windows 起動後に接続してください。
USB 記憶装置を接続した状態で Windows を起動したい場合は、「BIOS Setup ユーティリティ」で起動するデバイスの順番を変更してください。
p.172「起動（Boot）デバイスの順番を変更する」

USB機器の接続と取り外し

USB 機器の接続・取り外しは、本機の電源が入っている状態で行うことができます。

USB 機器の接続

USB 機器の接続方法は、次のとおりです。

1 **USB 機器の USB コネクタを、本機の USB コネクタ（•⭠ ）に接続します。**

2 **USB 機器によっては、通知領域に「取り外し」アイコンが表示されます。**

<取り外しアイコン>

接続する USB 機器によっては、専用のデバイスドライバが必要です。詳しくは、USB 機器に添付のマニュアルをご覧ください。

接続した USB 機器の確認

接続した USB 機器を確認するには、「取り外し」アイコンをダブルクリックし、「ハードウェアの安全な取り外し」画面で［プロパティ］をクリックします。

USB 機器の取り外し

USB 機器の取り外しは、コンピュータの状態を確認して、次のどちらかの方法で行います。

●そのまま取り外す

「取り外し」アイコンが表示されていない場合や、本機の電源を切った場合は、そのまま取り外せます。

●USB 機器の終了処理をして取り外す

「取り外し」アイコンが表示されている場合は、終了処理を行います。

USB 機器の終了処理の方法は、次のとおりです。

1 **通知領域の「取り外し」アイコンをクリックします。**

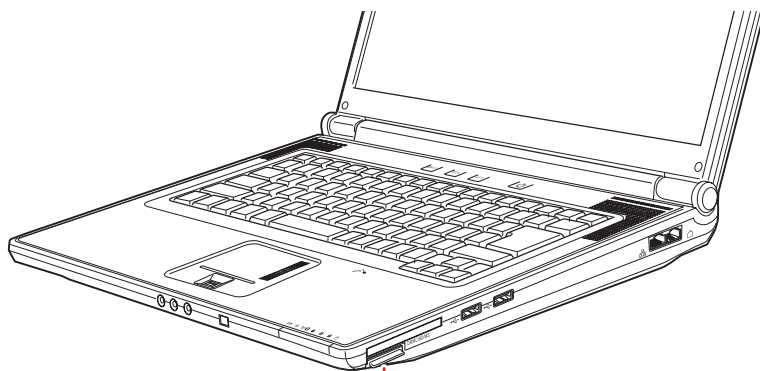
2 **表示されたメニューから「(取り外したい USB 機器) ー・・・を安全に取り外します」を選択します。**

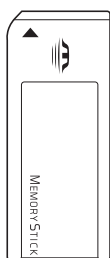
複数の機器が表示される場合は、別の機器を選択しないよう注意してください。

USB 大容量記憶装置デバイス - ドライブ (F:) を安全に取り外します

3 **「ハードウェアの取り外し」メッセージが表示されたら、[OK] をクリックし、USB 機器を本機から取り外します。**

メモリカードを使う

本機右側面にはメモリカードスロットが搭載されています。メモリカードは、デジタルカメラなどで使用するメディアで、コンピュータとのデータ交換に使われます。本機では、3 種類のメモリカードを使用することができます。

本機で使用できるメモリカード

本機で使用できるメモリカードは、メモリースティック（Pro にも対応)、マルチメディアカード、SD メモリーカード（SDHC にも対応）の 3 種類です。イラストは、各メモリカード表面のイメージです。

- メモリースティック、SD メモリーカードの著作権保護機能には対応していません。
- メモリースティックおよびメモリースティック Pro の高速転送、セキュリティ機能には対応していません。

メモリカード使用時の注意

メモリカードは、次の注意事項を確認して正しくお使いください。

- メモリカードにアクセス中は、本機の電源を切ったり、メモリカードを抜いたりしないでください。カードのデータが破損するおそれがあります。
- メモリカードは、データの書き込み中に電源の供給が停止すると不具合が発生する可能性があります。メモリカードを使用するときは、省電力状態に移行しないように設定してください。
  p.145「時間経過で移行させない」
- 記録されているデータによっては、読み込み時に専用のソフトウェアが必要になる場合があります。詳しくは、データを作成した周辺機器またはソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

メモリカードのフォーマット

メモリカードのフォーマットは、必ずメモリカードを使用するデジタルカメラなどの周辺機器側で行ってください。本機でフォーマットを行うと、周辺機器でメモリカードが認識されなくなる場合があります。
フォーマットの方法は、周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。

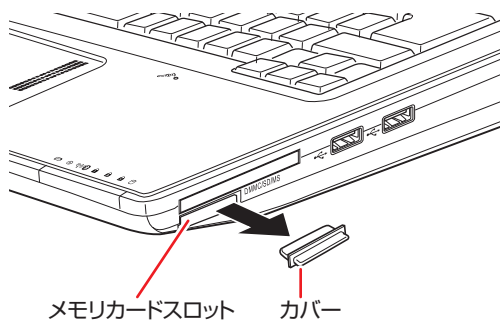
メモリカードのセットと取り外し

メモリカードを使用する前に、必ず p.70「メモリカード使用時の注意」をお読みください。

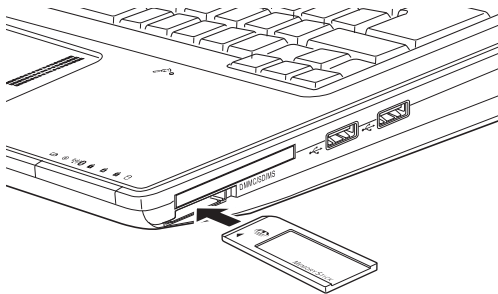
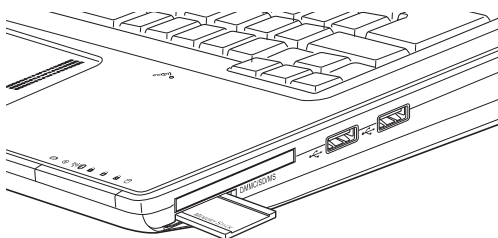
メモリカードのセット

メモリカードのセット方法は、次のとおりです。

1 **メモリカードスロットにカバーが装着されている場合は、引き抜いて取り外します。**

外したカバーは大切に保管してください。

2 メモリカードの表面を上にしてメモリカードスロットに挿入します。

奥までしっかりと押し込みます。

メモリカードの表面は、p.69「本機で使用できるメモリカード」で確認してください。

正しくセットしても、メモリカードはスロットから 1.5cm ～ 2.5cm 出たままになります。メモリカードをセットした状態で本機を持ち運ぶ際は、注意してください。本機をバッグなどに入れる場合には、必ずメモリカードを取り外してください。

3 認識されると、メモリカードが使用できます。

正しくセットされると、通知領域に「取り外し」アイコンが表示されます。

<取り外しアイコン>

メモリカードの取り外し

メモリカードの取り外し方法は、次のとおりです。

1 メモリカードの終了処理を行います。

本機の電源を切った場合、終了処理は不要です。2に進みます。

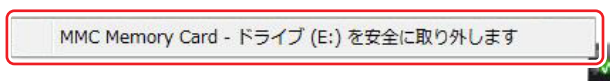
❶ 開いているファイルを閉じます。

ファイルを閉じないと、終了処理ができません。

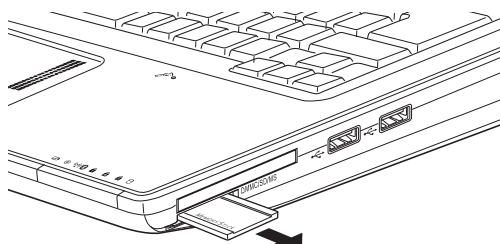
❷ 通知領域の「取り外し」アイコンをクリックします。

❸ 表示されたメニューから、「(取り外したいメモリカード) ー・・・を安全に取り外します」を選択します。

複数の機器が表示される場合は、別の機器を選択しないよう注意してください。

MMC Memory Card - ドライブ (E:) を安全に取り外します

❹「ハードウェアの取り外し」メッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。

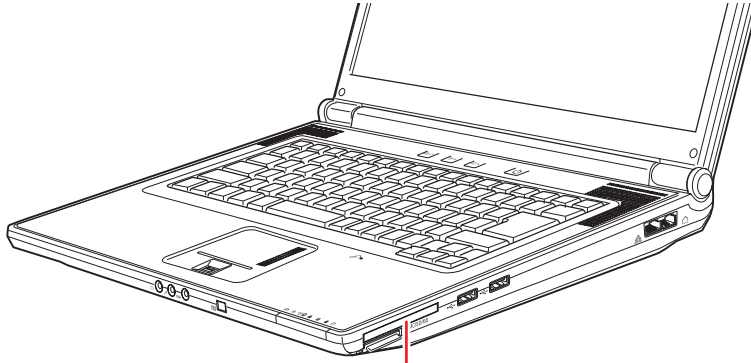
これでメモリカードの終了処理は完了です。

2 メモリカードをまっすぐに引き抜きます。

取り出したメモリカードは、専用のケースなどに入れて大切に保管してください。メモリカードをセットしない場合は、カバーを装着しておきます。

Express カードを使う

本機右側面には Express カードスロットが搭載されています。Express カードは、高速転送に対応したカードです。

本機では、次の 2 種類の Express カードを装着することができます。

- ●ExpressCard/34
- ●ExpressCard/54

Expressカードスロット

Express カードを使用中に省電力状態に移行すると、不具合が発生する可能性があります。Express カードを使用する前に、省電力状態に移行しないように設定してください。

p.145「時間経過で移行させせない」

Express カードのタイプ

Express カードには PCI-Express タイプと USB タイプがあります。タイプにより、BIOS Setup ユーティリティでの設定が変わります。

p.177「Security メニュー画面」—「I/O Interface Security」

お使いの Express カードのタイプは、Express カードに添付のマニュアルで確認してください。

Expressカードのセットと取り外し

- Express カードを取り扱うときは、あらかじめ金属製のものに触れて、静電気を逃がしてください。Express カードやコネクタ部に静電気が流れると、故障することがあります。
- Express カードは、電源を切らずに抜き差しすることができます。ただし、省電力状態で Express カードの抜き差しを行わないでください。システムが正常に動作しなくなる場合があります。

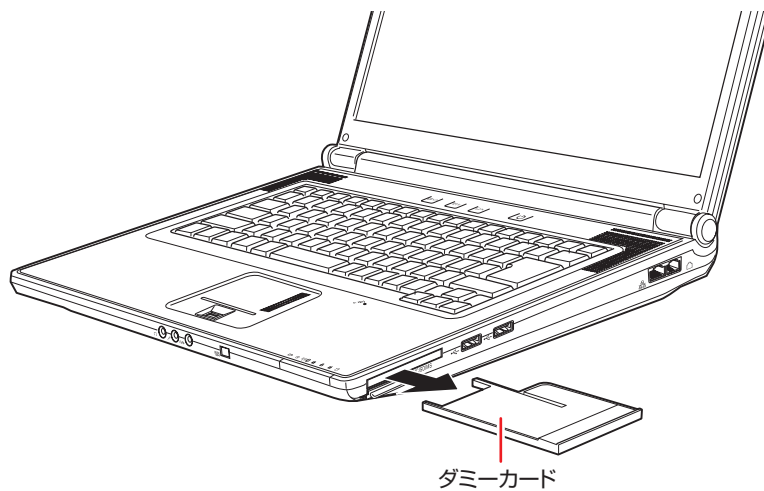
Express カードのセット

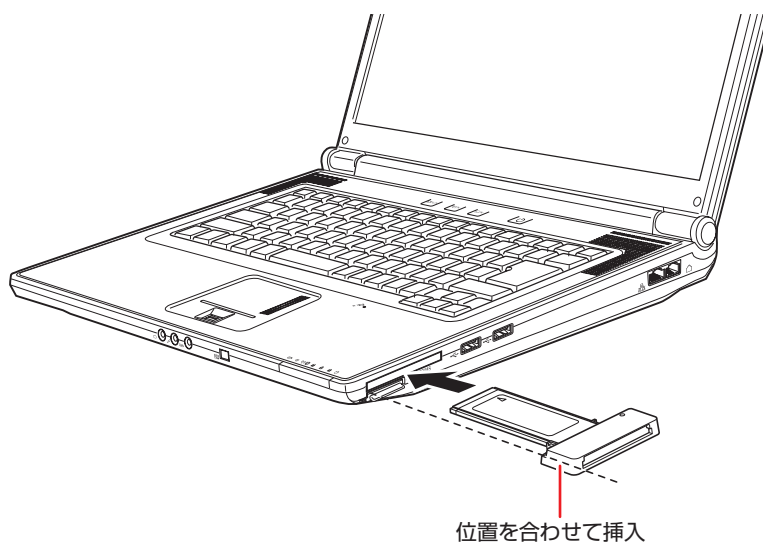
Express カードのセット方法は次のとおりです。

1 Express カードスロットにダミーカードがセットされている場合は、取り外します。

❶ ダミーカードを「カチッ」と音がするまで押します。

❷ 少し出てきたダミーカードをまっすぐに引き抜きます。

外したダミーカードは大切に保管してください。

2 Express カードを Express カードスロットに挿入します。

Express カードの表面を上にして、奥までしっかりと押し込みます。
Express Card/34 をお使いの場合は、Express カードスロットに、Express カードの左側を合わせて挿入してください。

3 認識されると、Express カードが使用できます。

正しく Express カードがセットされると、通知領域に「取り外し」アイコンが表示されます。

<取り外しアイコン>

Express カードによっては、専用のデバイスドライバが必要です。詳しくは、Express カードに添付のマニュアルをご覧ください。

Express カードの取り外し

Express カードの取り外し方法は、次のとおりです。

本機にセットされていた Express カードは、高温になっている可能性があります。取り外す際は注意してください。

1 Express カードの終了処理を行います。

本機の電源を切った場合、終了処理は不要です。2 に進みます。

1. 通知領域の「取り外し」アイコンをクリックします。
2. 表示されたメニューから「(取り外したい Express カード) ー・・・を安全に取り外します」を選択します。

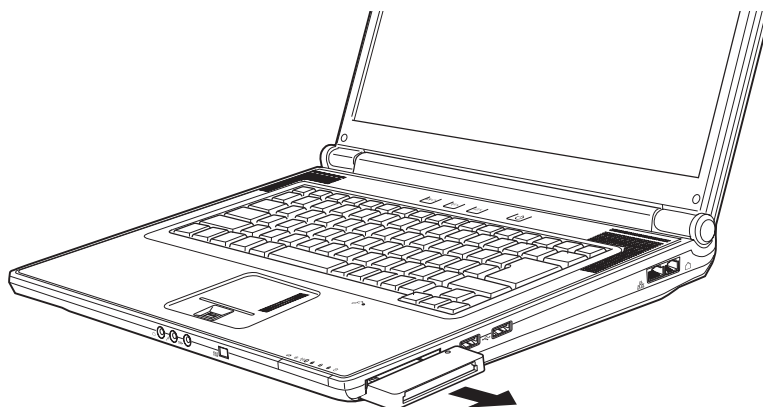
   複数の機器が表示される場合は、別の機器を選択しないよう注意してください。

3. 「ハードウェアの取り外し」メッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。

   これで Express カードの終了処理は完了です。

2 Express カードを「カチッ」と音がするまで押すと、Express カードが少し出ます。

強く押すと、Express カードが飛び出すことがあるので注意してください。

3 Express カードをまっすぐに引き抜きます。

取り出した Express カードは、専用のケースなどに入れて大切に保管してください。
Express カードをセットしない場合は、ダミーカードをセットしておきます。

Bluetooth 機能を使う（オプション）

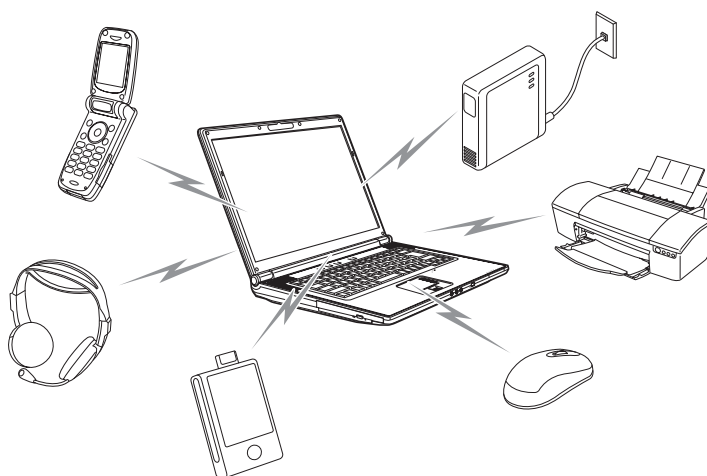
購入時にオプション選択された場合、本機には Bluetooth 機能が搭載されています。
Bluetooth とは、無線の通信方式の 1 つです。ここでは、Bluetooth 機能の使い方について説明します。

Bluetooth 機能でできること

本機では、Bluetooth 機能を使用して、次のようなことができます。

- Bluetooth 対応の周辺機器の使用

  マウス、プリンタ、カメラ、ステレオヘッドフォン、ヘッドセット、携帯電話、ワイヤレスモデムステーション、アクセスポイントなど

- Bluetooth 機能が搭載されているコンピュータや PDA とのデータの送受信

仕様

本機に搭載されている Bluetooth 機能の仕様は、次のとおりです。

規格	周波数帯
Bluetooth 標準規格 Ver 2.0 + EDR	2.4GHz

Bluetooth機能をお使いの前に

警告

●航空機や病院など、電波の使用を禁止された区域に本機を持ち込むときは、本機の電源を切るか電波を停止してください。
電波が電子機器や医療用電気機器に影響を及ぼす場合があります。
また、自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから、本機の電源を切ってください。

●医療機関の屋内で本機を使用するときは、次のことを守ってください。

- 手術室・集中治療室（ICU）・冠状動脈疾患監視室（CCU）には、本機を持ち込まない。
- 病棟内では、本機の電源を切るか電波を停止する。
- 病棟以外の場所でも、付近に医療用電気機器がある場合は、本機の電源を切るか電波を停止する。
- 医療機関が個々に使用禁止、持ち込み禁止などの場所を定めている場合は、その医療機関の指示に従う。
- 自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから、本機の電源を切る。

●植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器を装着している場合、Bluetooth機能を使用するときは、装着部と本機の間を22cm以上離してください。
電波が、植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器の作動に影響を及ぼす場合があります。
満員電車など、付近に心臓ペースメーカーを装着している人がいる可能性がある場所では、本機の電源を切るか電波を停止してください。

●Bluetooth 機能は、自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くで使用しないでください。
電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。

電波に関する注意

Bluetooth 機能は、次の電波に関する注意事項を確認して正しくお使いください。

- 本機の Bluetooth 機能は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線局の無線設備として、技術基準適合証明を受けています。そのため、本機の Bluetooth 機能を使用するときに無線局の免許は必要ありません。
- 本機の Bluetooth 機能は、技術基準適合証明を受けていますので、本機を分解・改造すると法律で罰せられることがあります。
- 2.4GHz 付近の電波を通信している無線装置などの近くで通信すると、双方の処理速度が落ちる場合があります。電子レンジ付近の磁場、静電気、電波障害が発生するところでは、使用しないでください（環境により電波が届かない場合があります）。

- 本機の Bluetooth 機能の使用する電波が、次の機器や無線局と電波干渉するおそれがあります。
  - 産業・科学・医療用機器
  - 工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の無線局
    1　構内無線局（免許を要する無線局）
    2　特定小電力無線局（免許を要しない無線局）

  万一、本機の Bluetooth 機能と他の無線局との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、または運用を停止（電波の発信を停止）してください。
- Bluetooth と無線 LAN は同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、Bluetooth 機能、無線 LAN のいずれかの使用を中止してください。
- 本製品は電波を利用したワイヤレス機器です。本製品を使用する環境によっては通信速度の低下や、接続が一時的に切断されるなどの現象が発生する場合もありますが、故障ではありません。

通信可能な距離

Bluetooth で通信可能な距離は、10m 以内です。Bluetooth 通信を行うときは、本機と通信を行う機器を 10m 以内に設置してください。
推奨される通信距離は 3m 以内です。

通信可能距離は 10 m以内ですが、通信機器間の障害物や電波状況、磁場、静電気、電波障害の発生する場所、使用するソフトウェア、OS、通信する機器の受信感度、アンテナ性能などによって、変化する可能性があります。通信できない場合は、通信する機器を本機の近くに設置してください。

通信時の確認事項

Bluetooth 機能を使用して通信する際は、次の事項を確認してください。

- 使用する機器が Bluetooth に対応していることを確認してください
- 本機と使用する機器が通信可能な距離にあることを確認してください。
- 本機と使用する機器が接続可能な状態になっていることを確認してください。
- 本機と使用する機器の Bluetooth 機能が有効になっていることを確認してください。
- 本機と複数の Bluetooth 機器で通信する場合、通信速度が低下する場合があります。
- 大容量データを送受信する場合は、途中で通信が途切れることがあります。その場合は、再度送受信してください。

- ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力状態に移行すると、正常に通常の状態に復帰できない場合があります。
- 簡易ユーザー切り替えでユーザーを切り替えた場合は、Bluetooth 機能を使用できません。Windows を再起動してログオンしなおしてください。

Bluetooth機能のON/OFF方法

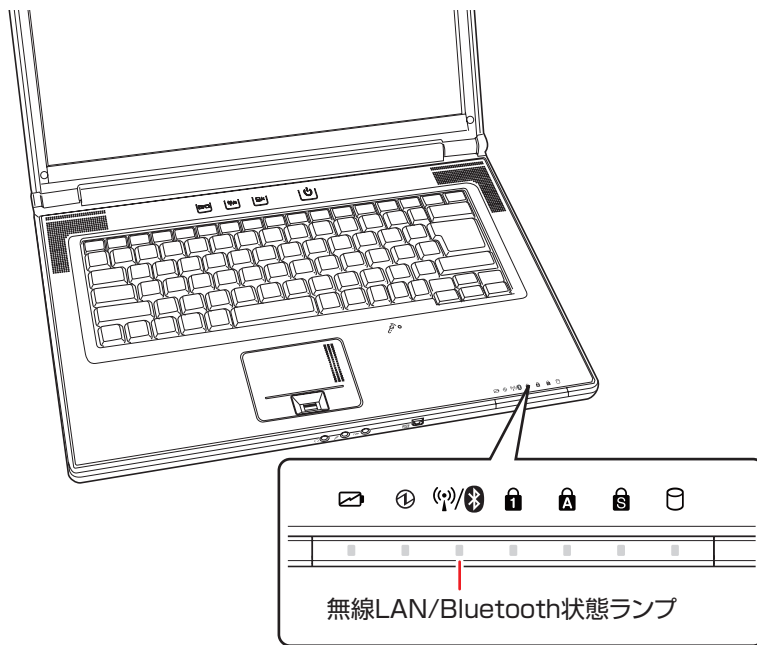
Bluetooth 機能の ON/OFF 方法について説明します。

Bluetooth 機能の ON/OFF 切り替え

Bluetooth 機能の ON/OFF 切り替えは、次のキー操作で行います。

Fn + F3 （ ）

購入時、Bluetooth 機能は OFF になっています。

Bluetooth 機能を ON にしていても、本機が休止状態に移行したり、シャットダウンしたりすると Bluetooth 機能は自動的に OFF になります。その場合は、キー操作で再度 Bluetooth 機能を ON にしてください。

Bluetooth 機能の ON/OFF は、無線 LAN/Bluetooth 状態ランプ（ ）で確認できます。
無線 LAN/Bluetooth 状態ランプは、Bluetooth と無線 LAN 共用です。

Bluetooth 機能	無線 LAN/Bluetooth 状態ランプ
ON	オレンジ色または黄色＊点灯
OFF	消灯または緑色＊点灯

＊ 無線 LAN 機能が ON の場合

Bluetooth機器を使用する

Bluetooth 機器を使用する方法を説明します。

BlueSoleil のヘルプ

Bluetooth ユーティリティ「BlueSoleil」の詳しい使い方は、ヘルプを参照してください。
ヘルプの起動方法は、次のとおりです。

［スタート］－「すべてのプログラム」－「Bluetooth Places」－「Bluetooth の場所」画面で［F1］を押す

周辺機器の検出・接続

周辺機器の検出・接続方法は、次のとおりです。

1 本機と周辺機器を通信可能な範囲に設置します。

p.79「通信可能な距離」

2 本機と周辺機器の Bluetooth 機能を「ON」にします。

p.80「Bluetooth 機能の ON/OFF 方法」
周辺機器の Bluetooth 機能を ON にする方法は、周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。

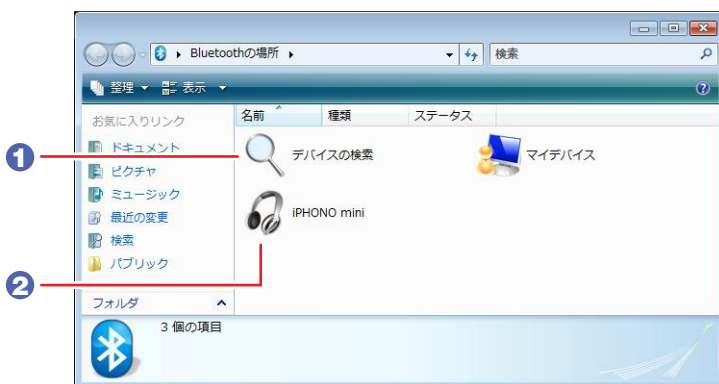
3 ［スタート］－「すべてのプログラム」－「Bluetooth Places」をクリックします。

4 「Bluetooth の場所」画面が表示されたら、周辺機器を検索して接続します。

① 「デバイスの検索」アイコンをダブルクリックします。

利用可能な周辺機器が表示されます。

② 接続したい周辺機器のアイコンをダブルクリックします。

Bluetooth パスキー入力画面が表示された場合は、周辺機器に添付のマニュアルを参照して Bluetooth パスキーを入力し、［OK］をクリックします。
周辺機器が接続されると、周辺機器のアイコンと「マイデバイス」アイコンが緑色に変わります。

接続を終了する

本機または周辺機器の Bluetooth 機能を「OFF」にすると、自動的に接続は終了します。

p.80「Bluetooth 機能の ON/OFF 方法」

設定した周辺機器を使用する

一度接続の設定を行うと、次回からは、本機と周辺機器の Bluetooth 機能を「ON」にするだけで、周辺機器を使用できます。

設定した周辺機器が認識されない場合は

一度接続の設定を行った周辺機器が認識されない場合は、再度検出・接続を行ってください。

p.81「周辺機器の検出・接続」

コンピュータ同士でBluetooth通信する

Bluetooth 機能を搭載したコンピュータ同士でデータの送受信をする方法を説明します。

データの送信

Bluetooth 機能を搭載したコンピュータに、本機からデータを送信する方法は、次のとおりです。

1. **本機と送信先のコンピュータを通信可能な範囲に設置します。**

   p.79「通信可能な距離」

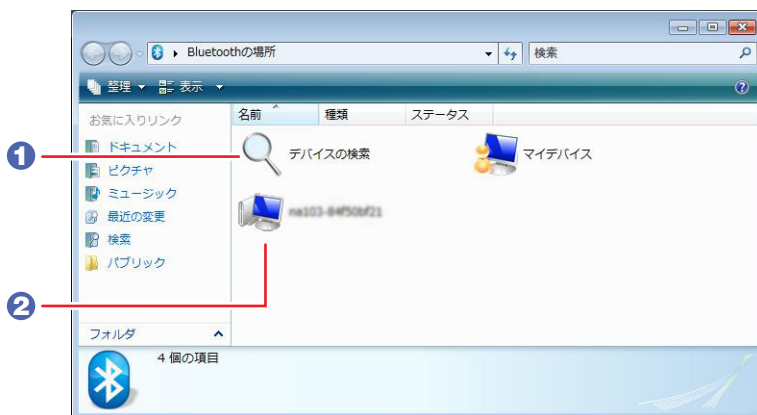
2. **本機と送信先のコンピュータの Bluetooth 機能を「ON」にします。**

   p.80「Bluetooth 機能の ON/OFF 方法」

3. **［スタート］－「すべてのプログラム」－「Bluetooth Places」をクリックします。**

4 「Bluetooth の場所」画面が表示されたら、送信先のコンピュータを検索して接続します。

❶ 「デバイスの検索」アイコンをダブルクリックします。
利用可能なコンピュータが表示されます。

❷ 接続したいコンピュータのアイコンをダブルクリックします。

5 表示された画面で「Bluetooth ファイル転送」をダブルクリックします。

6 送信先のコンピュータに Bluetooth パスキー入力画面が表示された場合は、任意の Bluetooth パスキーを入力し、[OK] をクリックします。

表示される画面は、コンピュータにより異なります。通信するコンピュータ同士で同じパスキーを入力することで、ファイル転送時のセキュリティを確保できます。

7 本機側に Bluetooth パスキー入力画面が表示された場合は、6 で設定した Bluetooth パスキーを入力し、[OK] をクリックします。

8 「Bluetooth ファイル転送」画面内に転送したいファイルをドラッグアンドドロップします。

9 送信先のコンピュータで「Bluetooth サービスの認証」画面が表示された場合は、[はい] をクリックすると、ファイルが転送されます。

表示される画面は、コンピュータにより異なります。
これで、ファイル転送は完了です。

データの受信

本機が Bluetooth 通信で受信したファイルは、次の場所に保存されます。

[スタート] ー「ドキュメント」ー「Bluetooth」ー「Share」

画面表示をする

ここでは、本機の LCD ユニットでの画面表示について説明します。
本機では、LCD ユニットのほかに外付けの表示装置を接続することもできます。
p.90「外付けディスプレイに表示する」

LCDユニットの仕様

本機では次のどちらかの LCD（液晶ディスプレイ）を搭載しています。

- 15.4 型　WXGA+　最大解像度　1440 × 900
- 15.4 型　WUXGA　最大解像度　1920 × 1200

LCD の表示中に、次の現象が起きることがあります。これは、カラー LCD の特性で起きるもので故障ではありません。

- LCD は、高精度な技術を駆使して 230 万以上の画素から作られていますが、画面の一部に常時点灯または常時消灯する画素が存在することがあります。
- 色の境界線上に筋のようなものが現れることがあります。
- Windows の背景の模様や色、壁紙などによってちらついて見えることがあります。この現象は、背景の模様が市松模様や横縞模様といった特殊なパターンで、背景の色が中間色の場合に発生しやすくなります。

LCD のドット抜け基準値

本機 LCD のドット＊抜け基準値は、8 個以下です。これは、WXGA+ の場合で全ドットの 0.00021%以下、WUXGA の場合で全ドットの 0.00012%以下に相当します。

＊「ドット」は副画素（サブピクセル）を指します。LCD では、1 個の画素が 3 個の副画素で構成されています。本書に記載しているドット抜け基準値は、ISO13406-2 に従って、副画素単位で計算しています。

本機の副画素数

WXGA+ の場合　3,888,000 個
WUXGA の場合　6,912,000 個

LCDユニットの調整

画面の明るさの調整は次のキーで行います。

キー操作	状態
Fn + F5 ☀	暗くなります。
Fn + F6 ☼	明るくなります。

次の場所で調整することもできます。

[スタート] ー「コントロールパネル」ー「システムとメンテナンス」ー「電源オプション」ー各プランの「プラン設定の変更」ー「ディスプレイの輝度を調整」

バックライトの消灯

本機を使用していない間、バックライトを消灯することで消費電力を抑えることができます。バックライトの消灯方法は、次のとおりです。

キー操作	状態
Fn + F7 LCD/×	本機が起動している状態で押すとバックライトが消灯します。もう一度押すとバックライトが点灯します。

LCD ユニットを閉じたときの動作

LCD ユニットを閉じると、本機は「スリープ状態」になります。

☞ p.144「省電力状態の種類」

LCD ユニットを閉じたときの動作は、変更することができます。

☞ p.145「省電力状態に移行する方法」

表示できる解像度と表示色

本機のLCDユニットで表示可能な解像度は次のとおりです。表示色は中(16ビット)と最高(32ビット)が選択できます。

解像度	15.4型WXGA+	15.4型WUXGA
800×600	○	○
1024×768	○	○
1280×720 *	○	○
1280×1024	−	○
1400×1050	−	○
1440×900 *	○	○
1600×1200	−	○
1920×1080 *	−	○
1920×1200 *	−	○

* ワイド表示

画面サイズ切り替えキー（）を押すと、ワイド表示/ノーマル表示を切り替えることができます。

p.88「画面サイズを切り替える」

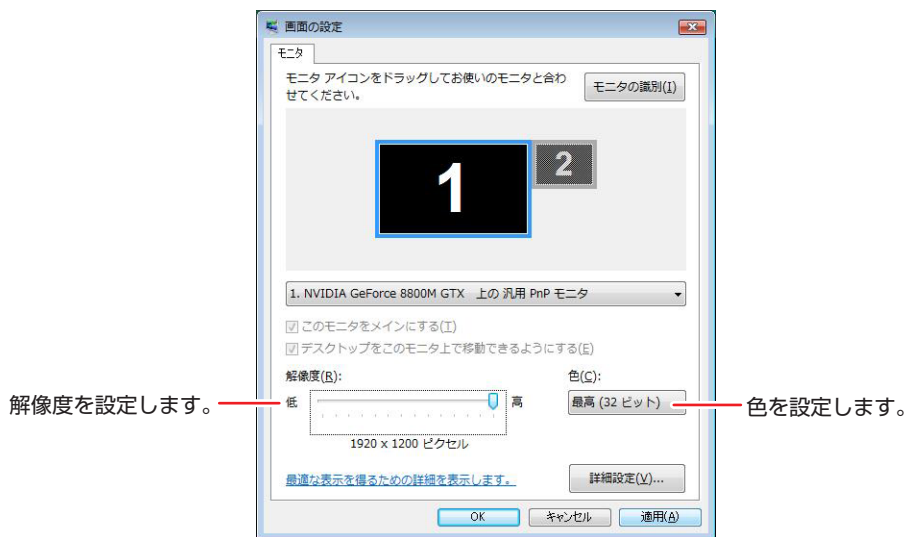
制限

解像度や表示色が高いと、「WinDVD」でDVD VIDEOを再生するときなどに、正常に表示できないことがあります。そのような場合は、解像度または表示色を下げてみてください。

解像度や表示色の変更方法

解像度と表示色の変更方法は次のとおりです。

1 ［スタート］－「コントロールパネル」－「デスクトップのカスタマイズ」－「個人設定」－「画面の設定」をクリックします。

2 「解像度」、「色」などの項目を設定したい内容に変更します。

＜イメージ＞

3 項目を変更したら［適用］をクリックし、画面のメッセージに従って操作します。

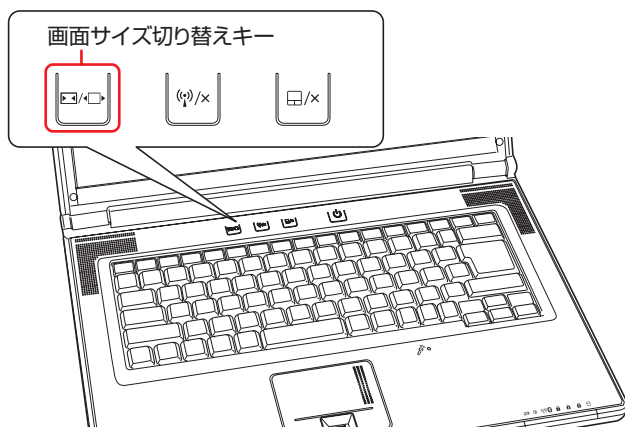
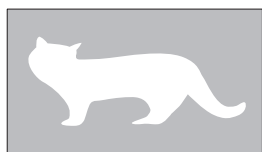
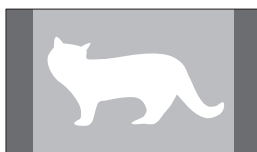
セーフモードでの起動

本機の LCD 画面で表示できない解像度を選択すると、Windows を再起動したときに、画面が乱れる、何も表示されないなどの現象が起こることがあります。このような場合は、セーフモードで起動して再設定を行ってください。

p.226「セーフモードでの起動」

画面サイズを切り替える

本機の画面では「ワイド表示」と「ノーマル表示」ができます。表示の切り替えは、画面サイズ切り替えキー（ ）で行います。購入時、本機の画面は「ワイド表示」に設定されています。

外付けディスプレイを接続している場合は、画面サイズの切り替えができないことがあります。

画面サイズ切り替えキーを押すたびに、ワイド表示とノーマル表示が切り替わります。

画面表示	解像度	
	15.4 型 WXGA+	15.4 型 WUXGA
ワイド	1440 × 900	1920 × 1200
ノーマル（縦横比 4：3）	1024 × 768	1600 × 1200

- 画面サイズ切り替えキーで画面サイズを切り替えたあと、上記の表以外の解像度に変更したいときは、手動で設定を変更してください。
  p.87「解像度や表示色の変更方法」
- Windows を複数のユーザーで使用している場合、ユーザーごとに画面表示の設定（ワイド / ノーマル）を保存することはできません。
- 画面サイズ切り替えキーで画面サイズを切り替えた後、「画面の配色は Windows Vista ベーシックに変更されました」というメッセージが表示される場合がありますが、問題ありません。

ビデオを省電力で使う

本機では、ビデオを省電力で使う設定をすることができます。

省電力設定	ビデオパフォーマンスと電力の状態
入	本機の動作状況に応じて、自動的にビデオパフォーマンスが調整されるため、消費電力を抑えることができます。通常は、「入」の状態で使用します。
切	ビデオパフォーマンスが常に最大の状態になります。消費電力は多くなります。3D ゲームなどでビデオパフォーマンスを常に最大で使用したい場合に設定します。

購入時、省電力設定は「入」になっています。

切り替えは、次のキー操作で行います。

本機をバッテリだけで使用すると、ビデオパフォーマンスは、自動的に常に最低の状態になります。

外付けディスプレイに表示する

本機では、外付けディスプレイを接続して、画面を表示することができます。

ディスプレイの接続

接続できるディスプレイの種類

本機には、DVI-I コネクタと HDMI コネクタの 2 つのコネクタが搭載されており、外付けディスプレイを 2 台同時に接続することができます。
外付けディスプレイの接続方法には、次の 3 つの方法があります。

ディスプレイの接続方法	コンピュータ側のコネクタ
HDMI 接続	HDMI コネクタ
デジタル接続	DVI-I コネクタ
アナログ接続	DVI-I コネクタ （DVI-VGA 変換アダプタ使用）

- 本機に外付けディスプレイを 2 台接続した場合でも、同時に表示できるのは本機の LCD も含めて 2 画面までです。
- 外付けディスプレイ 2 台に同時表示する場合、表示できる組み合わせは、アナログディスプレイ +HDMI ディスプレイのみです。デジタルディスプレイ +HDMI ディスプレイへの同時表示はできません。

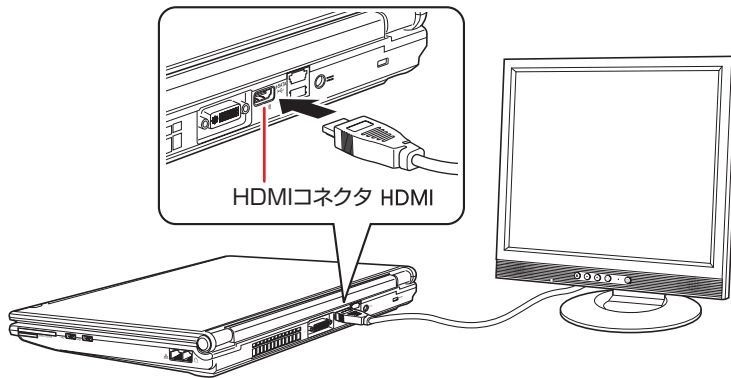
外付けディスプレイの接続

外付けディスプレイの接続方法は、次のとおりです。

1 **本機と外付けディスプレイの電源を切ります。**

2 **接続するディスプレイの接続方法を確認し、ディスプレイの接続ケーブルを本機に接続します。**

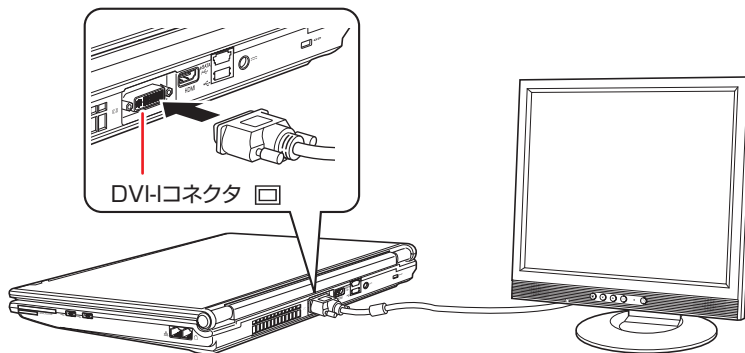
HDMI 接続の場合

外付けディスプレイの HDMI ケーブルを、本機背面の HDMI コネクタ（ HDMI ）に接続します。

参考 HDMI ディスプレイ・テレビから音声出力する

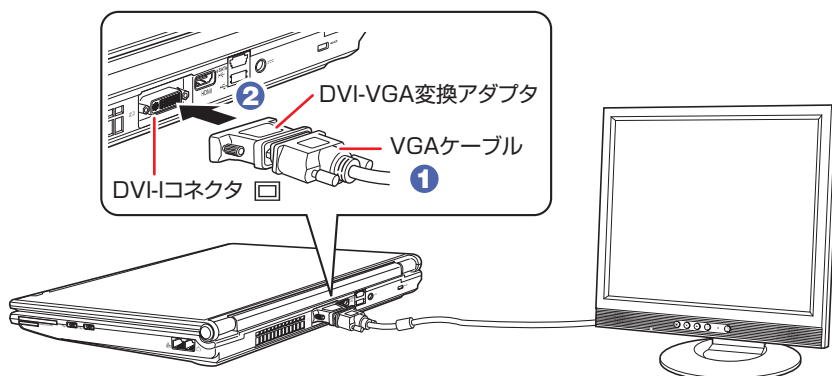
HDMI 接続でディスプレイ・テレビのスピーカから音声を出力する場合は、音声出力先の設定が必要です。

p.101「音声出力先の設定」

デジタル接続の場合

外付けディスプレイの DVI ケーブルを、本機背面の DVI-I コネクタ（ ）に接続します。

アナログ接続の場合

❶ 外付けディスプレイの VGA ケーブルのコネクタ（コンピュータに接続する側）に、DVI-VGA 変換アダプタ（添付品）を接続します。

❷ 本機背面の DVI-I コネクタ（ ）に接続します。

3 外付けディスプレイと本機の電源を入れます。

Fn + F8 （ LCD/ ）を押すと、表示装置の切り替えができます。
「画面の外観を選択してください」と表示された場合は、表示方法を選択し、[OK] をクリックします。

プロジェクターの接続

プロジェクターの接続方法は、プロジェクターに添付のマニュアルをご覧ください。

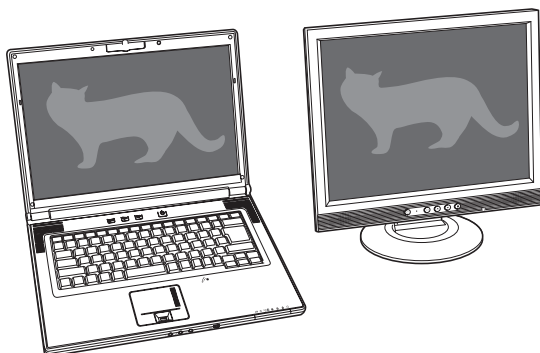
画面表示の種類

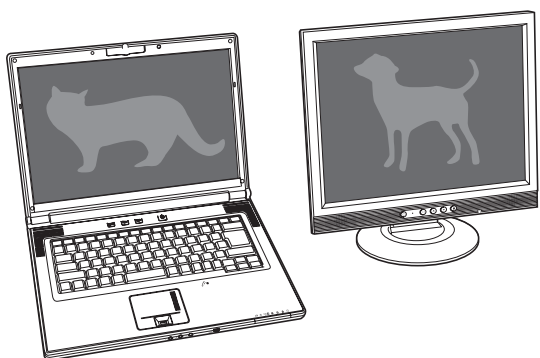
本機では、次のような画面の組み合わせで表示ができます。

●シングルモード

1 つのディスプレイ（LCD 画面のみまたは外付けディスプレイのみ）に表示します。
外付けディスプレイが接続されていても、LCD 画面のみに表示できます。

●クローンモード

2 つのディスプレイに同じ画面を表示します。プレゼンテーションを行う場合などに便利です。

●デュアルビューモード

それぞれのディスプレイに対して、個別に解像度を設定することができます。複数の画面をコンピュータ上に表示する場合に便利です。

画面表示を切り替えるには

表示画面の切り替え方法は、次の 2 とおりの方法があります。

● キーボードで操作する

キーボードで簡単にシングルモード、クローンモードの切り替えができます。
ただし、デュアルビューモードへの切り替えはできません。

● ユーティリティから操作する

すべての組み合わせの切り替えが可能です。

キーボードで操作する場合

（LCD/□）を押すたびに表示画面が切り替わります。
表示は次の組み合わせで行うことができます。接続している表示装置を自動的に認識するため、接続していない表示装置には切り替わりません。

組み合わせ	表示内容
LCD ONLY	LCD 画面のみに表示
HDMI ONLY	HDMI 接続のディスプレイのみに表示
CRT ONLY	デジタルディスプレイ*のみに表示
LCD+HDMI	LCD 画面と HDMI 接続のディスプレイに表示（クローンモード）
LCD+CRT	LCD 画面とデジタルディスプレイ*に表示（クローンモード）
CRT+HDMI	アナログディスプレイと HDMI 接続のディプレイに表示（クローンモード）

* DVI-VGA 変換アダプタ使用時は、デジタルディスプレイの代わりにアナログディスプレイに表示。

制限

- 動画の再生中やゲームソフトの起動時には、キーボードで表示装置の切り替えができないことがあります。
- クローンモードで表示する場合に、解像度の異なる 2 つの表示装置を選択したときは、低い方の解像度で表示されます。

ユーティリティから操作する場合

画面表示の切り替え方法は次のとおりです。

1 デスクトップ上の何もない場所で右クリックし、表示されたメニューから「NVIDIA コントロールパネル」をクリックします。

2 「NVIDIA コントロールパネルビューの選択」画面が表示された場合は、「標準設定」を選択して、［OK］をクリックします。

この画面は初回起動時のみ表示されます。

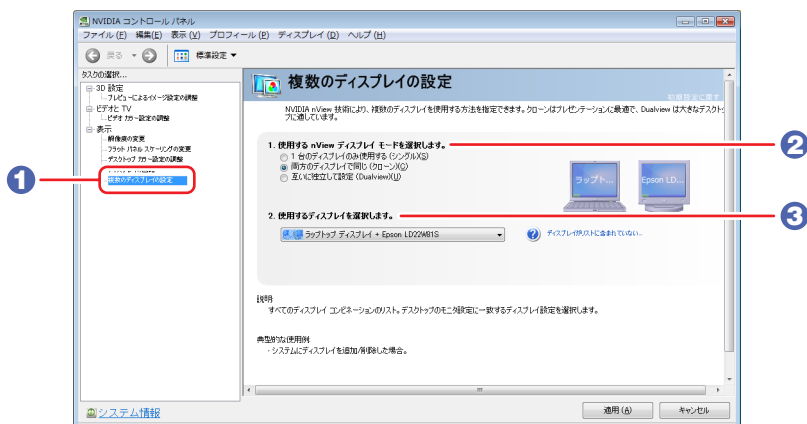
3 「NVIDIA コントロールパネル」画面が表示されたら、次の設定を行います。

❶ 左側の項目から「複数のディスプレイの設定」を選択します。

画面右側に「複数のディスプレイの設定」と表示されます。

❷ 「1. 使用する nView ディスプレイモードを選択します。」項目から表示させたいモードを選択します。

p.93「画面表示の種類」

❸ 「2. 使用するディスプレイを選択します。」項目から表示するディスプレイ（組み合わせ）を選択します。

4 ［適用］をクリックし、以降は画面の指示に従って設定を行ってください。

デュアルビューモードから別の表示への切り替えは、キーボードでは行えません。「NVIDIA コントロールパネル」で一旦「クローンモード」に設定してから、キーボードで別の表示に切り替えてください。

外付けディスプレイで表示できる解像度と表示色

外付けディスプレイで表示できる表示色と解像度は、次のとおりです。

●表示色

中（16 ビット）/ 最高（32 ビット）

●解像度

GeForce 9600M GS / GeForce 9800M GT の場合

解像度 ピクセル（横×縦）	HDMI 接続	デジタル接続	アナログ接続 （DVI-VGA 変換アダプタ使用）
800 × 600	○	○	○
1024 × 768	○	○	○
1280 × 720 *	−	○	−
1280 × 1024	○	○	○
1400 × 1050	○	○	−
1440 × 900 *	○	○	○
1600 × 1200	−	○	○
1680 × 1050 *	○	○	○
1920 × 1080 *	○	○	−
1920 × 1200 *	−	○	○

* ワイド表示

Quadro FX 2700M の場合

解像度 ピクセル（横×縦）	HDMI 接続	デジタル接続	アナログ接続 （DVI-VGA 変換アダプタ使用）
800 × 600	○	○	○
1024 × 768	○	○	○
1280 × 720 ＊	−	○	−
1280 × 1024	○	○	○
1400 × 1050	○	○	−
1440 × 900 ＊	○	○	○
1600 × 1200	−	−	○
1680 × 1050 ＊	○	○	○
1920 × 1080 ＊	○	○	−
1920 × 1200 ＊	−	○	○

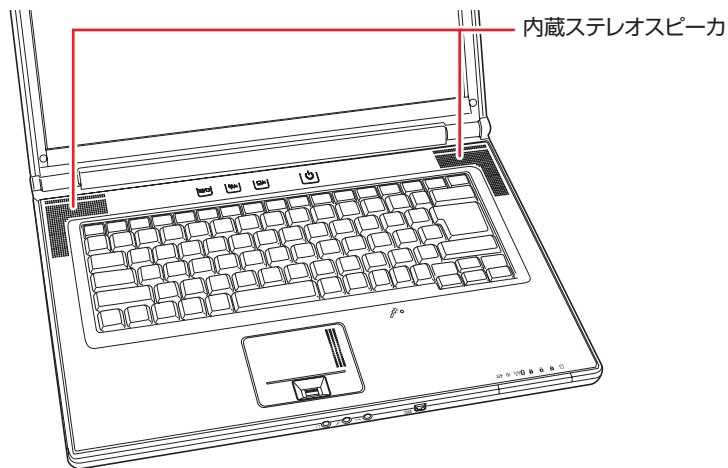
＊ ワイド表示

- 記載している解像度は、本機に搭載されたビデオコントローラの出力解像度です。表示モードや接続する外付けディスプレイの仕様によっては、表示できない場合があります。
- クローンモードの場合、実際に表示できる最大解像度は、2 台の表示装置の最大解像度のうち、どちらか低い方になります。
- 解像度や表示色が高いと、動画再生ソフトで動画を再生するときに、正常に表示できないことがあります。そのような場合は、解像度または表示色を下げてみてください。

サウンド機能を使う

本機には、サウンド機能が搭載されています。

内蔵ステレオスピーカ

本機には、ステレオスピーカが内蔵されており、音源からの音声を出力することができます。

音量の調節

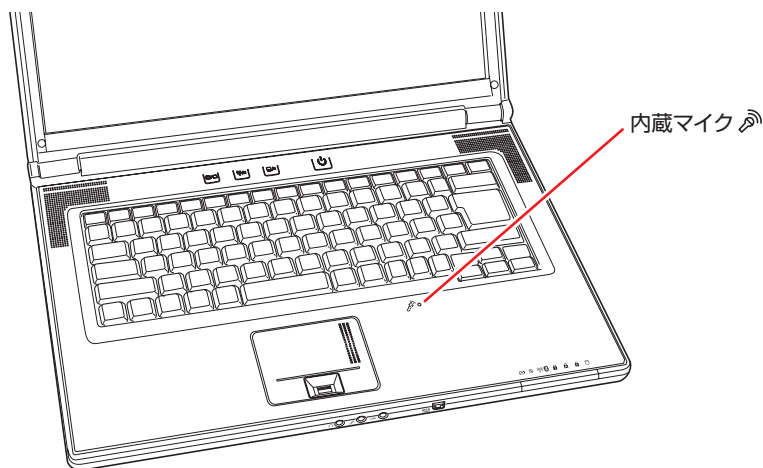
スピーカの音量は、次のキー操作で調節します。

キー操作	状態
Fn + F10 🔊/🔇	一度押すとミュート（消音）になり、もう一度押すとミュートが解除されます。
Fn + F11 ▼🔉	音量が小さくなります。
Fn + F12 ▲🔊	音量が大きくなります。

制限　ソフトウェアによっては、キー操作で音量調節ができないものがあります。詳しくは、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

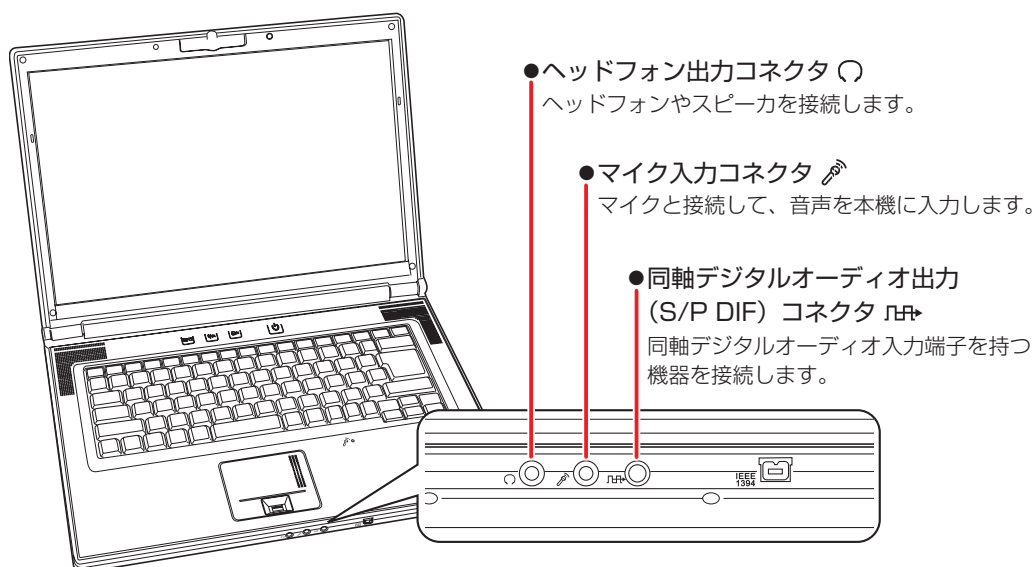
内蔵マイク

本機には、マイク（モノラル）が内蔵されています。マイクから音声を録音することができます。

p.100「音声の再生・録音」

オーディオ機器の接続

本機前面には、オーディオ機器を接続するためのコネクタが搭載されています。各コネクタの位置と使い方は、次のとおりです。

注意

ヘッドフォンやスピーカは、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。
ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量が聴覚障害の原因となります。

HDMI コネクタについては、p.90「外付けディスプレイに表示する」をご覧ください。

●外部オーディオ機器を接続したら

ヘッドフォン出力コネクタ、マイク入力コネクタに機器を接続すると、自動的に接続した機器が使用可能になり、内蔵スピーカや内蔵マイクの機能は無効になります。
同軸デジタルオーディオ出力（S/P DIF）コネクタ、HDMI コネクタに機器を接続した場合は、音声出力先の設定が必要です。

p.101「音声出力先の設定」

●同軸デジタルオーディオ機器の接続

同軸デジタルオーディオ機器の接続には、市販のモノラルミニ→モノラルピンプラグケーブルを使用します。光デジタルオーディオケーブルは使用できません。

音声の再生・録音

Windows 標準のサウンドユーティリティを使うと、音声の再生・録音をすることができます。

音声の再生

音声の再生は「Windows Media Player」を使用します。Windows Media Player は次の場所から起動します。

［スタート］ －「すべてのプログラム」－「Windows Media Player」

音声の録音

音声の録音は「サウンドレコーダー」を使用します。サウンドレコーダーは次の場所から起動します。

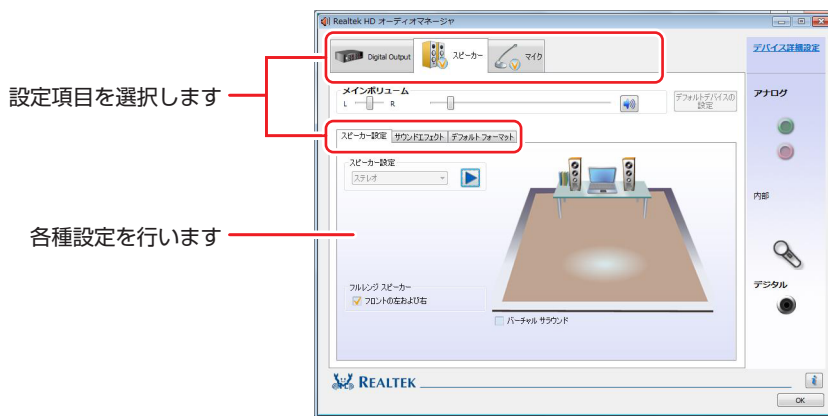
［スタート］ －「すべてのプログラム」－「アクセサリ」－「サウンドレコーダー」

本機にマイクを接続して音声を録音する場合、音量の調節方法は p.101「マイク使用時の音量調節」をご覧ください。

サウンドユーティリティを使う

サウンドユーティリティを使用すると、スピーカの設定やマイク音量の設定、音響効果の設定などができます。
サウンドユーティリティを起動するには、通知領域の「サウンドユーティリティ」アイコンをダブルクリックします。

<サウンドユーティリティアイコン>

「サウンドユーティリティ」の画面は、次のとおりです。

マイク使用時の音量調節

本機にマイクを接続して使用する場合、マイクの音量調節はサウンドユーティリティの「マイク」タブで行います。

録音時に音量を調節しても音が小さいときは、をクリックしてマイクブーストのつまみを右へスライドさせ、音量を上げてください。

音声出力先の設定

購入時、本機の音声出力先は内蔵スピーカに設定されています。次のオーディオ機器を接続・取り外した場合は、音声出力先を変更してください。

●HDMI 機器

●同軸デジタルオーディオ機器

オーディオ機器接続時の設定

HDMI 機器または同軸デジタルオーディオ機器を接続したら、音声出力先をそれぞれの機器に変更します。

1 [スタート] ー「コントロールパネル」ー「ハードウェアとサウンド」ー「サウンド」をクリックします。

2 「サウンド」画面が表示されたら、「再生」タブで音声出力先のデバイスを選択し、[既定値に設定] をクリックします。

音声出力先に設定されると、デバイスにチェックが付きます。

3 [OK] をクリックします。

これで設定は完了です。設定したオーディオ機器から音声が出力されます。

WinDVD 使用時の設定

ビデオ GeForce 9800M GT 搭載時のみ

HDMI ディスプレイ・テレビを接続した場合は、DVD VIDEO 再生ソフト「WinDVD」を使用するために、次の設定が必要です。

1 [スタート] ー「コントロールパネル」ー「ハードウェアとサウンド」ー「サウンド」をクリックします。

2 「サウンド」画面が表示されたら、「再生」タブで「Realtek Digital Output」を選択し、[プロパティ] をクリックします。

3 「Realtek Digital Output のプロパティ」画面が表示されたら、「サポートされている形式」タブをクリックします。

4 「Dolby Digital」のチェックを外し、[OK] をクリックします。

これで設定は完了です。

オーディオ機器取り外し時の設定

HDMI 機器または同軸デジタルオーディオ機器を取り外したら、音声出力先を内蔵スピーカに戻します。

1 [スタート] －「コントロールパネル」－「ハードウェアとサウンド」－「サウンド」をクリックします。

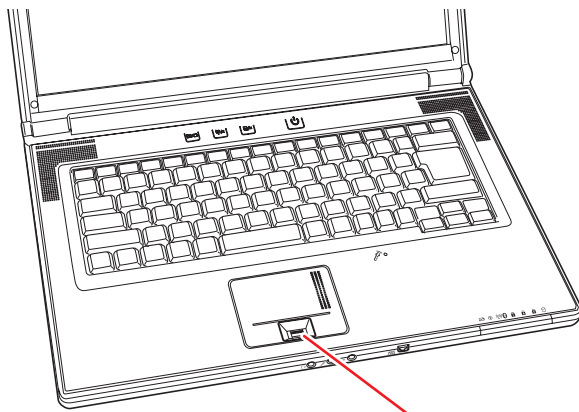
2 「サウンド」画面が表示されたら、「再生」タブで「スピーカー」を選択し、[規定値に設定] をクリックします。

「スピーカー」にチェックが付きます。

3 [OK] をクリックします。

これで設定は完了です。内蔵スピーカから音声が出力されます。

指紋認証機能を使う

本機には指紋認証機能が搭載されています。指紋認証機能を使うと、パスワードの代わりに指紋でWindowsやWebページにログオンしたり、ファイルを暗号化したりすることができます。

- 本機の指紋認証機能は、PBA機能（Windows起動前のBIOS認証機能）に対応していません。BIOSのパスワード入力の代わりを、指紋認証で行うことはできません。
- 一部のブラウザでは、指紋認証機能が使用できないことがあります。
- 指紋認証機能は、100%の完全な本人認証を保証するものではありません。
- 指紋認証機能を使用したことで発生したいかなる損害についても、当社は責任を負いかねますのでご了承ください。

指紋認証機能でできること

指紋認証機能では、次のようなことができます。

●Windows指紋ログオン

ユーザーアカウントを選択したり、パスワードを入力したりする代わりに、指紋認証でWindowsにログオンできます。

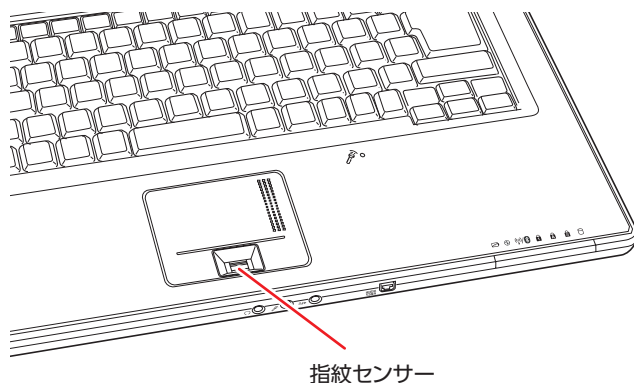
●パスワードバンク（Password Bank）

登録したWebページやダイアログにアクセスした際、ユーザーIDやパスワードを入力する代わりに、指紋認証でログオンできます。

●File Safe

指紋認証を使用して、ファイルを暗号化してロックしたり、ファイルの暗号化を解除したりできます。

指紋センサー

指紋は、指紋センサーで読み取ります。指紋センサーを使用するときは、次の注意事項をよくお読みください。

指紋センサー

指紋センサー使用時の注意

指紋センサー使用時は、次の注意事項を必ず守ってください。

- 指紋センサーの表面を、硬いものや先の尖ったもの、爪などで引っかかないでください。
  センサー表面にキズが付き、センサーが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 汚れた指で指紋センサーを触らないでください。
  センサー表面に汚れが付き、センサーが正常に作動しなくなるおそれがあります。

指紋読み取り時の注意

登録に使う指が次のような状態の場合、指紋の読み取りができないことがあります。その場合は、対処を行ってください。

●ぬれている

水分を拭き取ってください。

●非常に乾燥している

ハンドクリームを塗るなどして保湿してください。

●汚れている、泥・油などで着色している

汚れや着色を洗い落としてください。

●シワが多い、ザラザラしている、傷がある、登録したときの指紋から著しく変化している

違う指で再登録を行ってください。

対処を行っても、指紋情報が少ないなどの理由で指紋を登録できない場合があります。

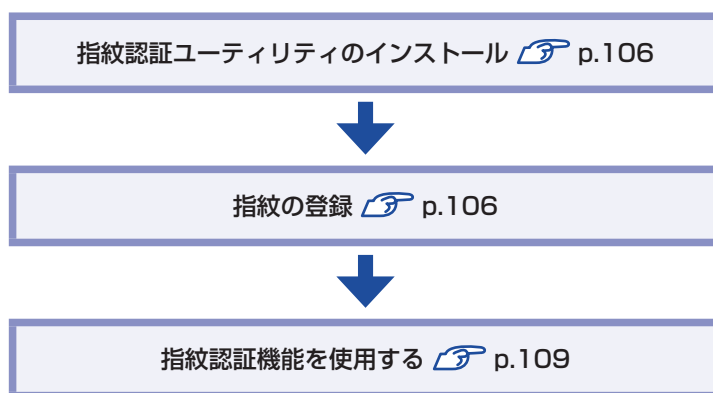
お手入れ

次のような場合は、指紋センサーを乾いた柔らかい布で拭いてください。

●指紋センサー表面に汚れや着色、湿りがある

●指紋の読み取りに頻繁に失敗する

指紋認証機能を使用できるようになるまでの流れ

指紋認証機能を使用できるようになるまでの流れは、次のとおりです。

指紋認証ユーティリティのインストール

指紋認証機能の設定には、「指紋認証ユーティリティ」を使用します。購入時、指紋認証ユーティリティはインストールされていません。指紋認証ユーティリティをインストールしてください。
インストール方法は、p.201「指紋認証ユーティリティのインストール」をご覧ください。

指紋の登録

指紋の登録方法は、次のとおりです。指をけがした場合など、指紋の読み取りが困難な場合に備えて、2 本以上の指紋を登録してください。

1 **通知領域の「Protector Suite QL」アイコンを右クリックし、表示されたメニューから「コントロールセンター開始 ...」をクリックします。**

<Protector Suite QLアイコン>

2 **「Protector Suite ソフトウェア」(指紋コントロールセンター)画面が表示されたら、[指紋] ー [初期化] をクリックします。**

3 「指紋ソフトウェア使用許諾契約書」画面が表示されたら、「使用許諾契約書に同意します」を選択し、［OK］をクリックします。

4 「ようこそ」画面が表示されたら、内容をよくお読みになり、［次へ］をクリックします。

5 「終了」画面が表示されたら、「ハードディスクへの登録」が選択されていることを確認して、［完了］をクリックします。

Windows パスワードを設定している場合は、**7** に進みます。

6 Windows パスワードを設定していない場合は、「指紋ログオン」画面が表示されます。［はい］をクリックし、画面の指示に従って、Windows パスワードを設定してください。

このパスワードは指をケガした場合など、指紋の読み取りが困難な場合に使用します。絶対に忘れないようにしてください。

7 「ようこそ」（ユーザー登録）画面が表示されたら、［次へ］をクリックします。

8 「パスワード」（ユーザーのパスポート）画面が表示されたら、「パスワード入力」に Windows パスワードを入力し、［次へ］をクリックします。

9 「登録のヒント」（指紋登録のヒント）画面が表示されたら、内容をよくお読みになり、［次へ］をクリックします。

10 「指紋チュートリアル」（正しい読み取り手順）画面が表示されたら、内容をよくお読みになり、［次へ］をクリックします。

11 「指紋チュートリアル」（スキャンの練習）画面が表示されたら、画面の指示に従って指紋センサーで指紋の読み取りをします。

指をセンサーにしっかりと押し付けながら、手前にスライドしてください。

12 「練習問題に合格しましたので、登録する準備ができました」と表示されたら、［次へ］をクリックします。

13 「登録」（ユーザーの指紋）画面が表示されたら、登録したい指のボタンをクリックします。

14 指紋センサーで指紋の読み取りをします。

指をセンサーにしっかりと押し付けながら、手前にスライドしてください。
「成功」と表示されたら、登録が完了します。

15 認証されにくい場合やケガをした場合に備えて、同様に 2 つ以上の指を登録し、［次へ］をクリックします。

16 「終了」画面が表示されたら、[完了]をクリックします。

これで指紋の登録は完了です。

指紋を登録すると、Windows 起動時に指紋ログオンができるようになります。詳しくは、p.109「Windows 指紋ログオン」をご覧ください。

指紋の追加登録・変更・削除

指紋の追加登録・変更・削除方法は次のとおりです。必要に応じて作業を行ってください。

1 通知領域の「Protector Suite QL」アイコンを右クリックし、表示されたメニューから「コントロールセンター開始 ...」をクリックします。

<Protector Suite QLアイコン>

2 操作を選択します。

指紋を登録・変更したい場合

「Protector Suite ソフトウェア」(指紋コントロールセンター)画面が表示されたら、[指紋] − [指紋の登録、または編集] をクリックします。
「ようこそ」画面が表示されたら、以降は画面の指示に従って操作を行ってください。

登録した指紋を削除したい場合

「Protector Suite ソフトウェア」(指紋コントロールセンター)画面が表示されたら、[指紋] − [削除] をクリックします。
「指の読み取り」と表示されたら、以降は画面の指示に従って操作を行ってください。

指紋認証機能を使用する

指紋を登録すると、次の機能を使用できます。

Windows 指紋ログオン

Windows 起動時に、ユーザーアカウントを選択したり、パスワードを入力したりする代わりに、指紋で Windows にログオンできます。Windows 指紋ログオンの手順は、次のとおりです。

1 **電源スイッチ（⏻）を押して、本機の電源を入れます。**

2 **ユーザーアカウント選択画面またはパスワード入力画面が表示されたら、指紋センサーで指紋を読み取ります。**

指は、登録してあるどの指を使用してもかまいません。
指を指紋センサーにしっかりと押し付けながら、手前にスライドしてください。認証に成功すると、Windows が起動します。

パスワード入力で Windows にログオンする

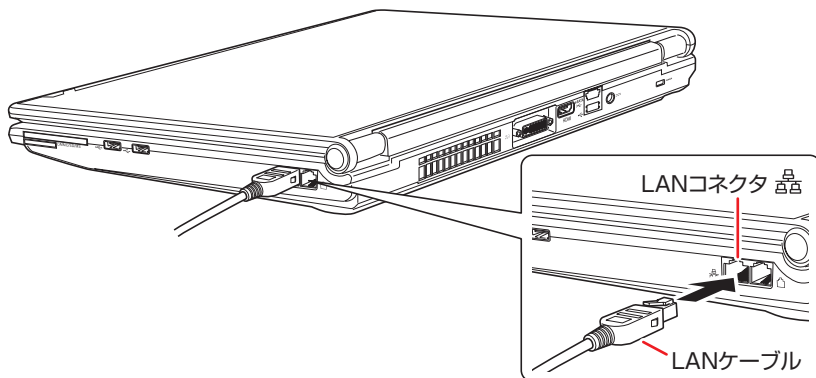
指紋が認証されにくい場合や、指にけがをした場合は、Windows のパスワードを入力して Windows にログオンしてください。

そのほかの機能

指紋認証では、そのほか、「パスワードバンク」や「File Safe」などの機能が使用できます。使用方法は、指紋認証ユーティリティのヘルプをご覧ください。

通知領域の「Protector Suite QL」アイコンを右クリック－「ヘルプ」

ネットワーク（有線 LAN）を使う

本機には、1000Base-T/100Base-TX/10Base-T に対応したネットワーク機能（有線LAN）が搭載されています。ネットワーク機能を使用すると、ネットワークを構築したり、インターネットに接続したりすることができます。
ネットワーク（有線 LAN）を使用する場合は、本機右側面の LAN コネクタに市販の LAN ケーブルを接続します。

ネットワークの構築

ネットワークを構築するには、ほかのコンピュータと接続するために、LAN ケーブルやハブ（サーバ）などが必要です。そのほかに、Windows 上でネットワーク接続を行うためには、プロトコルの設定なども必要になります。
ネットワークの構築方法は、お使いになるネットワーク機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。

- ネットワークに接続している場合に、省電力状態に移行すると、省電力状態からの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。
  このような場合は次のいずれかの方法をとってください。
  - 再起動する
  - 省電力状態に移行しないように設定する
    p.145「時間経過で移行させない」
- ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力状態に移行すると、正常に通常の状態へ復帰できない場合があります。

インターネットへの接続

インターネットへ接続する場合は、p.124「インターネットに接続するには」をご覧ください。

Wakeup On LAN

Wakeup On LAN を使用すると、電源切断時やスリープ状態、休止状態のときにネットワークからの信号により本機を復帰させることができます。この機能を使用するときは、必ず AC アダプタを接続してください。また、電源切断状態からの復帰は、Windows を正常に終了した状態でのみ使用可能です。
Wakeup On LAN を使用する場合は、BIOS と Windows で Wakeup On LAN を有効に設定する必要があります。

BIOS の設定

BIOS で Wakeup On LAN を有効にする設定は次のとおりです。
購入時は、有効に設定されています。

「Advanced」メニュー画面ー「Wake-Up On LAN」: Enabled(有効)

p.163「BIOS Setup ユーティリティの操作」
p.175「Advanced メニュー画面」

ネットワークドライバの設定(Windows の設定)

Windows で Wakeup On LAN を有効にする方法は、次のとおりです。
購入時は、有効に設定されています。

1. **[スタート]ー「コントロールパネル」ー「システムとメンテナンス」ー「システム」ー画面左側の「デバイスマネージャ」をクリックします。**
2. **「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、「続行」をクリックします。**
3. **「デバイスマネージャ」画面が表示されたら、「ネットワークアダプタ」をダブルクリックし、表示された一覧から「Realtek RTL8168C (P)/…」をダブルクリックします。**
4. **「Realtek RTL8168C (P)/…のプロパティ」画面が表示されたら、「詳細設定」タブをクリックします。**
5. **「プロパティ」の「Wake-On-Lan Capabilities」をクリックし、「値」を「Magic Packet」に変更します。**
6. **「電源の管理」タブをクリックし、「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする」にチェックを付けて[OK]をクリックします。**

   これで設定は完了です。

リモートブート

リモートブートを使用すると、ネットワークを介して、あらかじめセットアップされたサーバ上から Windows をインストールすることができます。

無線 LAN を使う（オプション）

購入時にオプション選択された場合、本機には無線 LAN アダプタが搭載されています。
無線 LAN とは、電波を利用して通信を行うネットワークのことです。

対応規格

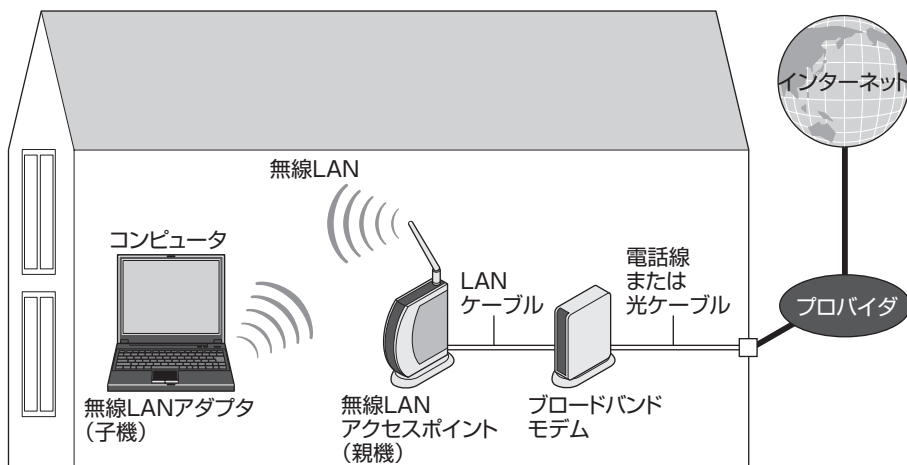
本機に搭載されている無線 LAN アダプタは、次の規格に対応しています。

●IEEE802.11a（W52/W53/W56）/b/g

●IEEE802.11n ドラフト 2.0 準拠*

* 「IEEE802.11n ドラフト 2.0 準拠」の表記は、他の IEEE802.11n 対応製品との接続性を保証するものではありません。
IEEE802.11n 対応のワイヤレスブロードバンドルータであっても、IEEE802.11n ドラフト 2.0 規格での接続ができない場合があります。

無線LANの概要

無線 LAN の概要を図で表すと、次のようになります（図は一例です）。

無線 LAN の用語一覧

無線 LAN 機器のマニュアルにより、使用している用語が本書と異なる場合があります。下記の用語一覧を参考にしてください。

本書での表記	別名
無線 LAN	ワイヤレス LAN
無線 LAN アクセスポイント	親機、ワイヤレス LAN ステーション、アクセスポイント、各社の製品名称
無線 LAN アダプタ	子機、ワイヤレスステーション、無線 LAN 端末、無線 LAN クライアント
SSID	ESS-ID、ESSID、ネットワーク名、サービスセット識別子
SSID 非通知	SSID の隠蔽、SSID を見せない設定、SSID マスクビーコン、 SSID ステルス、ステルス AP、ステルス機能、ANY 接続拒否
MAC アドレスフィルタリング	MAC アドレスによる制限

無線LAN使用時の注意

無線 LAN を使用する際は、次の注意事項をよくお読みください。

- 無線 LAN 機能が搭載されている場合、航空機や病院など、電波の使用を禁止された区域に本機を持ち込むときは、本機の電源を切るか電波を停止してください。
  電波が電子機器や医療用電気機器に影響を及ぼす場合があります。
  また、自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから、本機の電源を切ってください。
- 無線 LAN 機能が搭載されている場合、医療機関の屋内で本機を使用するときは、次のことを守ってください。
  - 手術室・集中治療室（ICU）・冠状動脈疾患監視室（CCU）には、本機を持ち込まない。
  - 病棟内では、本機の電源を切るか電波を停止する。
  - 病棟以外の場所でも、付近に医療用電気機器がある場合は、本機の電源を切るか電波を停止する。
  - 医療機関が個々に使用禁止、持ち込み禁止などの場所を定めている場合は、その医療機関の指示に従う。
  - 自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから、本機の電源を切る。
- 植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器を装着している場合、無線 LAN 機能を使用するときは、装着部と本機の間を 22cm 以上離してください。
  電波が、植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器の作動に影響を及ぼす場合があります。
  満員電車など、付近に心臓ペースメーカーを装着している人がいる可能性がある場所では、本機の電源を切るか電波を停止してください。
- 無線 LAN 機能は、自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くで使用しないでください。
  電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。

- ネットワークに接続している場合に、省電力状態に移行すると、サーバから切断されてしまうことがあります。
このような場合は次のいずれかの方法をとってください。
  - 再起動する
  - 省電力状態に移行しないように設定する
p.145「時間経過で移行させない」
- ネットワーク上のファイルなどを開いている状態で省電力状態に移行すると、通常の状態に復帰できない場合があります。
- 本機の無線 LAN 機能は、Wakeup On LAN とリモートブートには対応していません。

電波に関する注意

無線 LAN は、次の電波に関する注意事項を確認して正しくお使いください。

- 本機の無線 LAN 機能は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線局の無線設備として、技術基準適合証明を受けています。そのため、本機の無線 LAN 機能を使用するときに無線局の免許は必要ありません。なお、日本国内でのみ使用できます。
- IEEE802.11a、IEEE802.11n ドラフト 2.0 は、電波法の規定により屋外では使用できません。
- 本機の無線 LAN 機能は、技術基準適合証明を受けていますので、次の事項を行うと法律で罰せられることがあります。
  - 本機を分解 / 改造する
  - 本機の裏面に貼ってある無線 LAN 注意ラベルをはがす
- IEEE802.11b/g、IEEE802.11n ドラフト 2.0 を使用して 2.4GHz 付近の電波を通信している無線装置などの近くで通信すると、双方の処理速度が落ちる場合があります。電子レンジ付近の磁場、静電気、電波障害が発生するところでは、使用しないでください（環境により電波が届かない場合があります）。
- 本機の無線 LAN 機能の使用する無線チャンネルが出荷時設定以外の場合は、次の機器や無線局と電波干渉するおそれがあります。
  - 産業・科学・医療用機器
  - 工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の無線局
    1　構内無線局（免許を要する無線局）
    2　特定小電力無線局（免許を要しない無線局）

  万一、本機の無線 LAN 機能と他の無線局との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、または運用を停止（電波の発信を停止）してください。
- Bluetooth と無線 LAN は同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、Bluetooth、無線 LAN のいずれかの使用を中止してください。

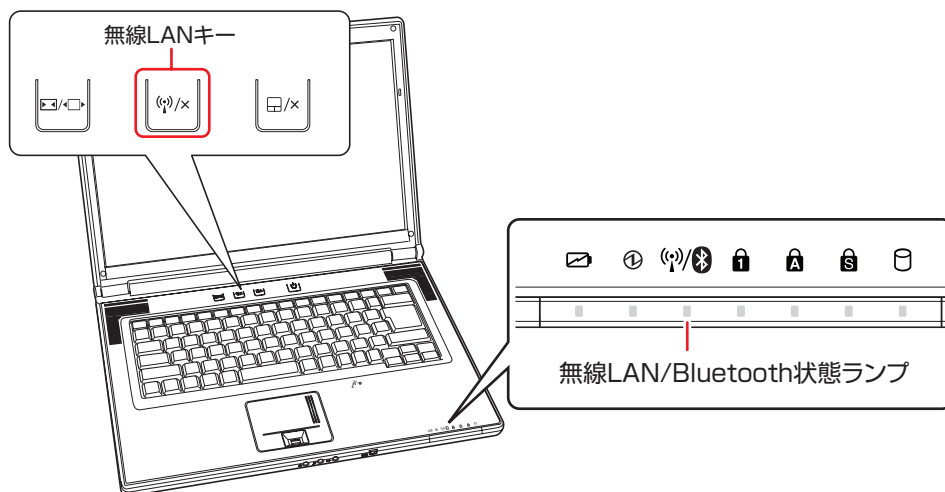
無線LAN機能のON/OFF方法

無線 LAN 機能の ON/OFF 方法について説明します。

無線 LAN 機能が搭載されている場合、航空機や病院など、電波の使用を禁止された区域に本機を持ち込むときは、本機の電源を切るか電波を停止してください。
電波が電子機器や医用電気機器に影響を及ぼす場合があります。
また、自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから、本機の電源を切ってください。

- 有線 LAN を使用する場合は、無線 LAN 機能を OFF にしてください。
- バッテリのみで本機を使用している場合、無線 LAN 機能が ON になっていると、バッテリ駆動時間が短くなります。無線 LAN を使用しない場合は、無線 LAN 機能を OFF にしてください。

無線 LAN 機能の ON/OFF 切り替え

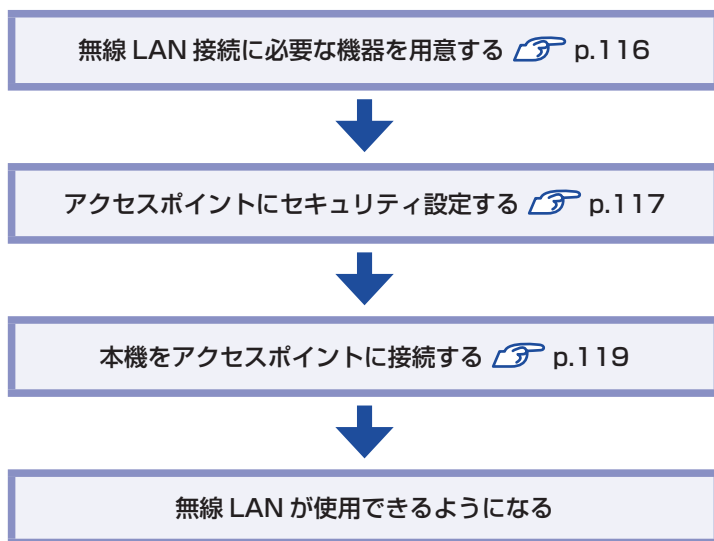
無線 LAN 機能の ON/OFF 切り替えは、無線 LAN キー（ ）で行います。
無線 LAN キー（ ）を押すたびに、ON と OFF が切り替わります。
購入時、無線 LAN 機能は OFF になっています。

無線 LAN 機能の ON/OFF は、無線 LAN/Bluetooth 状態ランプ（ ）で確認できます。
無線 LAN/Bluetooth 状態ランプは、無線 LAN と Bluetooth 共用です。

無線 LAN 機能	無線 LAN/Bluetooth 状態ランプ
ON	緑色または黄色＊点灯
OFF	消灯またはオレンジ色＊点灯

＊ Bluetooth 機能が ON の場合

無線LAN接続の設定をする

ここでは無線 LAN アクセスポイント（以降、アクセスポイント）と本機を無線でつなげる方法（無線 LAN 接続方法）について説明します。
インターネットへの接続は、無線 LAN 接続完了後に、プロバイダから提供されたマニュアルをご覧になり、行ってください。

無線 LAN 接続の設定の流れは、次のとおりです。

アクセスポイントのマニュアルに従って接続する

アクセスポイントによっては、アクセスポイントに添付のマニュアルの記載に従って設定すると、簡単に無線 LAN 接続をすることができます。
まずは、アクセスポイントに添付のマニュアルをご覧ください。

無線 LAN 接続に必要な機器を用意する

無線 LAN 接続に必要な機器を用意します。

●無線 LAN アクセスポイント

本機と無線で通信するための機器です。本機の対応規格に合ったものを購入してください。
アクセスポイントにはルータ付きとルータ無しがあります。接続するブロードバンドモデムにルータ機能がない場合は、ルータ付きを選択します。

●ブロードバンドモデム（ADSL 用や光ファイバー用の通信装置）

インターネットに接続する場合に必要です。多くの場合、プロバイダと契約すると貸与されます。

●LAN ケーブル

ブロードバンドモデムとアクセスポイント、アクセスポイントと本機を接続するのに使用します。

アクセスポイントにセキュリティ設定する

無線 LAN は電波を使用して通信するため、第三者に侵入されたり、通信データを盗み見されたりする可能性があります。また、他人のアクセスポイントに誤って本機を接続してしまう可能性もあります。これらのことを防ぐため、セキュリティ設定を行います。
セキュリティ設定はアクセスポイントのマニュアルを参照して行います。

1 **本機とアクセスポイントを LAN ケーブルでつなぎます。**

2 **すでにインターネットに接続している場合は、ブロードバンドモデムに接続されている電話線や光ケーブルを一旦抜いておきます。**

次の手順でファイアウォールを無効にするため、セキュリティが確保されなくなります。インターネット接続している場合は、必ず電話線や光ケーブルを抜いてください。

3 **本機のファイアウォールを一旦無効に設定します。**

ファイアウォールが有効になっていると、無線 LAN の設定が正常に行えないことがあります。
設定方法は、p.132「ファイアウォール」または『セキュリティソフトウェアのマニュアル』をご覧ください。

4 **アクセスポイントの電源を入れます。**

5 **アクセスポイントのマニュアルを参照し、本機でアクセスポイントの設定画面を開きます。**

無線LANアクセスポイント設定メニュー

ステータス
アドレス設定
高度な設定
MACフィルター
メンテナンス
パスワード
設定ウィザード

X X X X	X X X X X X X
X X X X	X X X X X X
X X X	X X X
X X X	X X X

X X X X	X X X X
X X X	X X X X
X X X	X X X
X X X	X X X

<イメージ>

6 アクセスポイントのマニュアルに従って、次のセキュリティ設定を行います。

これは最低限行っていただきたいセキュリティ設定です。

● **SSIDの変更**

誤って他人のアクセスポイントに本機を接続しないように、自分のアクセスポイントのSSID（名前）を自分だけがわかる名前に変更します。SSIDは他人にも見えていますので個人名や会社名など、所有者が特定できるような名前は避けてください。

● **暗号化**

アクセスポイントと本機に同じ暗号化キーを設定すると、同じ暗号化キーを設定した機器同士のみが接続できるようになります。また、通信データが暗号化され、情報が傍受されにくくなります。

暗号化にはいくつかの方式があります。
一般家庭では次の方式を選択することをおすすめします。

暗号化方式：WPA-PSK（パーソナル）

アクセスポイントに「WPA」の機能がない場合は、「WEP」を選択してください。

暗号化の種類：AES

アクセスポイントに「AES」の機能がない場合は、「TKIP」を選択してください。

IEEE802.11nドラフト2.0はWPA-PSK（AES）のみに対応しています。

暗号化方式のセキュリティレベル

暗号化方式のセキュリティレベルは次の表を参考にしてください。

レベル	暗号化方式	
高	WPA	AES
↑		TKIP
低	WEP	

7 設定内容を下記の表に記入します。

設定内容は本機側の設定時に使用します。

項目	設定内容
SSID（ネットワーク名）	
暗号化方式（セキュリティの種類）	
暗号化の種類	
暗号化キー （セキュリティキーまたはパスフレーズ）	

本機をアクセスポイントに接続する

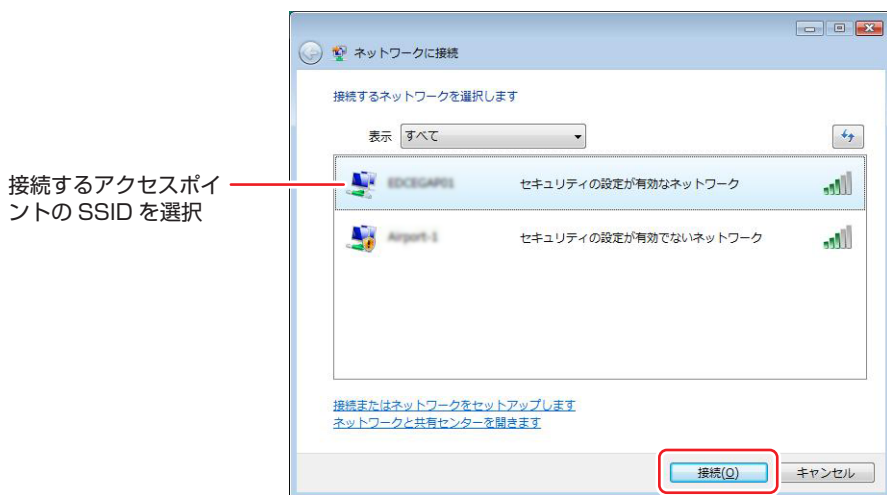
アクセスポイント側に設定した暗号化キーを本機側にも入力し、本機をアクセスポイントに接続します。この作業ははじめて接続するときのほかに暗号化キーを変更したときや、Windows の再インストールをした場合にも行います。

1 本機の無線 LAN 機能を ON にします。

p.115「無線 LAN 機能の ON/OFF 方法」

2 [スタート] ー「接続先」をクリックします。

3 「ネットワークに接続」画面が表示されたら、接続するアクセスポイント（設定した SSID）を選択し、[接続] をクリックします。

<イメージ>

4 「セキュリティキーまたはパスフレーズ」と表示されたら、アクセスポイントに設定した暗号化キーを入力し、[接続] をクリックします。

5 「…に正しく接続しました」と表示されたら、「このネットワークを保存します」と「この接続を自動的に開始します」にチェックが付いた状態で [閉じる] をクリックします。

6 「(アクセスポイント名) ネットワークの場所を選択します」と表示されたら、場所をクリックして選択します。

7 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。

8 「ネットワーク設定が正しく表示されました」と表示されたら、[閉じる] をクリックします。

9 本機のファイアウォールを有効に戻します。

p.132「ファイアウォール」または『セキュリティソフトウェアのマニュアル』

10 ブロードバンドモデムに接続されている電話線や光ケーブルを抜いていた場合は、元に戻します。

11 本機とアクセスポイントをつないでいる LAN ケーブルを外します。

これで接続作業は完了です。

ネットワークプロファイル

ここで設定した無線 LAN は、「ネットワークプロファイル」として自動的に保存されます。ネットワークプロファイルが作成されていると、次回からは設定を行わずに簡単に無線 LAN に接続することができます。

無線LANを使う

無線 LAN 接続の設定が完了すると、次回からは無線 LAN 機能を ON にするだけで自動的にアクセスポイントに無線 LAN 接続することができます。

インターネット接続の設定

インターネットに接続する場合は、プロバイダから提供されたマニュアルをご覧になり、設定を行ってください。

強固なセキュリティ設定をする

無線 LAN のセキュリティ機能には、ほかにも次のようなものがあります。

●MAC アドレスフィルタリング

●SSID 非通知

セキュリティをさらに強固にしたい場合は、必要に応じて設定を行ってください。
アクセスポイントによっては上記の機能に対応していないものもあります。詳しくは、アクセスポイントのマニュアルをご覧ください。

MAC アドレスフィルタリング

MAC アドレスとは、ネットワーク機器に割り当てられている固有の番号のことです。MAC アドレスフィルタリングをすると、接続を許可した MAC アドレスを持つコンピュータ以外はアクセスポイントに接続できないようになります。
MAC アドレスフィルタリングの方法は、次のとおりです。

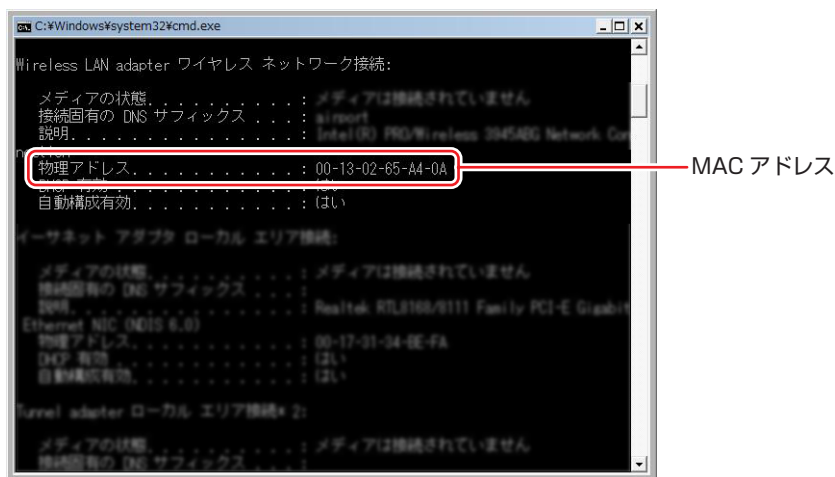
MAC アドレスの確認

本機の MAC アドレスを確認します。

1 ［スタート］ー「すべてのプログラム」ー「アクセサリ」ー「コマンドプロンプト」を選択します。

2 コマンドプロンプトが表示されたら、「C: ¥・・・>」のあとに次のとおり入力し、[↵] を押します。

ipconfig □ /all（□はスペースを意味します）

3 本機の無線 LAN アダプタの MAC アドレス（物理アドレス）が表示されます。

MAC アドレスを下記の表に記入しておきましょう。
MAC アドレスフィルタリングの設定時に使用します。

MAC アドレス	

4 [×] をクリックして、コマンドプロンプトを閉じます。

MAC アドレスフィルタリングの設定

アクセスポイントで MAC アドレスフィルタリングの設定をします。

1 アクセスポイントのマニュアルに従って、MAC アドレスフィルタリングの設定をします。

2 p.119「本機をアクセスポイントに接続する」で一度接続ができていれば、すぐに無線 LAN 接続をすることができます。

まだ接続ができていない場合は、接続の設定を行ってください。

SSID 非通知

SSID 非通知の設定を行うと、コンピュータ側に SSID（アクセスポイント）が表示されなくなります。他人から SSID が見えなくなるため、無断接続を防ぐことができます。
SSID 非通知の設定方法は、次のとおりです。

1 **アクセスポイントのマニュアルに従って、SSID 非通知の設定をします。**

2 **p.119「本機をアクセスポイントに接続する」で一度接続ができていれば、すぐに無線 LAN 接続をすることができます。**

まだ接続ができていない場合は、次の手順で接続してください。

SSID 非通知の状態で本機をアクセスポイントに接続する

はじめて本機をアクセスポイントに接続するときに SSID 非通知の設定がされていると、本機にアクセスポイント（SSID）が表示されないため、p.119「本機をアクセスポイントに接続する」の方法では接続ができません。次の方法で設定をすべて手動で入力して、ネットワークプロファイルを作成してください。

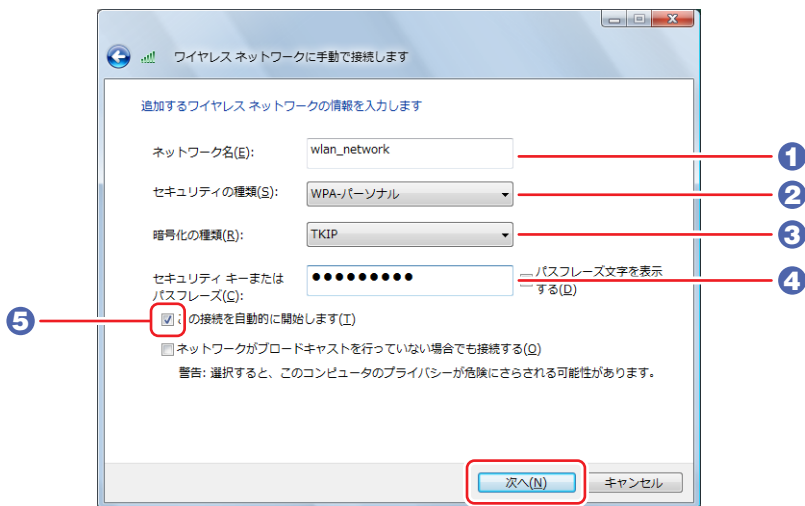
p.119「本機をアクセスポイントに接続する」3 ～ 5 の読み替え

1 **「ネットワークに接続」画面が表示されたら、「ネットワークと共有センターを開きます」をクリックします。**

2 **「ネットワークと共有センター」が表示されたら、「ワイヤレスネットワークの管理」をクリックします。**

3 **「使用するワイヤレスネットワークを管理します」と表示されたら、「追加」をクリックします。**

4 **「どのような方法でネットワークを追加しますか？」と表示されたら、「ネットワークプロファイルを手動で作成します」をクリックします。**

5 「追加するワイヤレスネットワークの情報を入力します」と表示されたら、アクセスポイントに設定したセキュリティ情報を入力します。

① 「ネットワーク名」に SSID を入力します。

② 「セキュリティの種類」で暗号化方式を選択します。

③ ② で WPA を選択した場合は、「暗号化の種類」で暗号化の種類を選択します。

④ 「セキュリティキーまたはパスフレーズ」に暗号化キーを入力します。

⑤ 「この接続を自動的に開始します」にチェックを付けて、[次へ] をクリックします。

6 「正常に…を追加しました」と表示されたら、[閉じる] をクリックします。

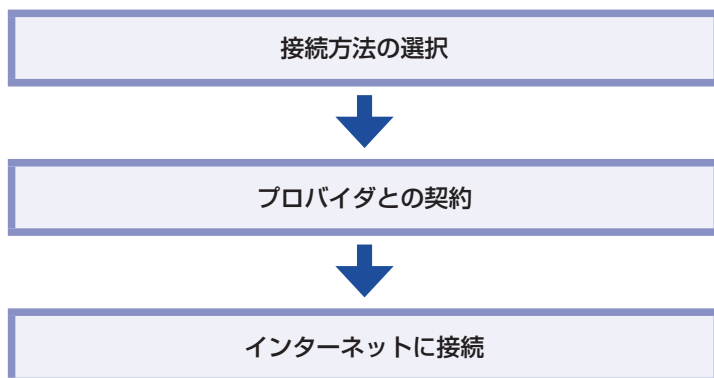
複数の無線LAN環境を登録する

複数の無線 LAN 環境（職場やホットスポットなど）の設定を事前に登録しておきたいときは、手動入力でネットワークプロファイルを作成します。
手動入力でネットワークプロファイルを作成する方法は、p.122「SSID 非通知の状態で本機をアクセスポイントに接続する」をご覧ください。

インターネットに接続するには

ホームページを見たり、電子メールをやり取りしたりするためには、インターネットへの接続が必要です。ここではインターネットへの接続の概要や、インターネットを利用するためのソフトウェアなどについて説明します。

接続するまでの流れ

インターネット接続までの流れは次のとおりです。

接続方法の選択とプロバイダとの契約

インターネットへ接続するには、接続方法を決め、その接続方法でサービスを提供しているプロバイダ（インターネットサービスプロバイダ、ISP）と契約します。
接続方法は、目的や使い方に合わせて選択しましょう。また、同じ接続方法でも、通信速度や料金、サポート内容はプロバイダによって異なります。詳しい内容はプロバイダにお問い合わせください。

接続方法の種類

高速なインターネット接続をブロードバンドと言い、光ファイバー、ADSL、CATV などを利用した接続がそれにあたります。また、アナログ電話回線、ISDN などでの低速な接続をナローバンドと言います。

接続方法	接続環境	インターネットでの通信速度イメージ
光ファイバー	ブロードバンド	
ADSL		
CATV		
ISDN	ナローバンド	
PHS		
携帯		
アナログ		
		遅い　速い

インターネット接続の方法には、主に次のようなものがあります。

●光ファイバー（FTTH）

ほかのブロードバンド接続と比べても、数段に速く安定しているため、映像などの大量のデータ転送も無理なくできます。また、インターネットと合わせてテレビや電話も利用することができます。

●ADSL

電話回線を利用します。インターネットをストレスなく使えます。通信速度は、プロバイダのプランから使い方に合わせて選ぶことができます。
利用電話局からの距離が遠くなるにつれ速度が遅くなってしまうので、事前に速さの確認をする必要があります。

●CATV

ケーブルテレビのケーブルを利用します。インターネットをストレスなく使えます。

●そのほかの接続方法（ナローバンド）

アナログ電話回線や ISDN 回線などを使った低速な接続方法があります。

ダイヤルアップ接続

ブロードバンドは常時接続が一般的ですが、ナローバンドでは、必要時に電話回線を通じてインターネットに接続します。この作業をダイヤルアップ接続と言います。

必要な機器

インターネット接続に必要な機器は接続方法によって異なります。詳しくは、各プロバイダにお問い合わせください。

インターネットに接続する

プロバイダと契約すると、メールアドレスやパスワードなどインターネットへの接続に必要な情報と、接続手順が記載された説明書がプロバイダより提供されます。説明書に従って接続作業を行ってください。

再インストール後のインターネット接続

Windows を再インストールした場合は、インターネットに接続するための設定作業が再度必要になります。プロバイダからの説明書は失くさないように大切に保管してください。

インターネットを使う上での注意

インターネットを使用すると、簡単に情報を得ることができたり、手軽にメッセージを送ったりすることができますが、その反面注意しなければならないことがあります。次の点に気を付けてインターネットを使用してください。

- 電子メールは途中経路の障害などにより、届かない場合もあります。
- 電子メールは世界中の多くのコンピュータを経由して届けられるため、第三者に内容を見られる可能性があります。
- インターネット上の情報は、必ずしも正しいとは限りません。正しい情報であるかどうかを十分に見極めて、有効に活用する必要があります。
- 安易に個人情報をホームページに掲載したり、電子メールで送ったりすると、悪用されることがあります。また、他人の個人情報を断りなくホームページに掲載したり、電子メールで送ったりすると法律で罰せられます。
- ホームページからダウンロードするデータによっては、本機が障害を被ることがあります。
- コンピュータウイルスに感染すると、本機が障害を被る可能性があります。また、無許可のユーザーにインターネットを介して本機にアクセスされる可能性もあります。
  ウイルスに感染する主な原因は次のとおりです。
  - ウイルスが添付されたメールを受信する
  - 悪質なプログラムが起動するホームページを閲覧する

これらの危険から本機を守る方法については、p.129「インターネットを使用する際のセキュリティ対策」をご覧ください。

インターネットや電子メールを利用する

本機では、次のソフトウェアを使用してインターネットや、電子メールを利用します。

- **ホームページの閲覧**：Internet Explorer（インターネットエクスプローラ）
- **電子メールの利用**：Windows メール

各ソフトウェアの使用方法は、次をご覧ください。

Office をインストールしているときは

Office をインストールしている場合は、電子メールソフト Outlook を使用します。
Outlook の使用方法は、Outlook のヘルプをご覧ください。

Windows メールの初期設定

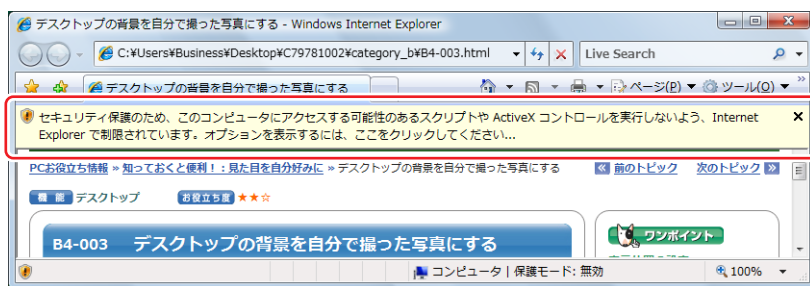
Windows メールをはじめて起動する場合は、初期設定を行います。
初期設定では、メールアドレスなどの接続に必要な情報を入力します。これらの情報は、プロバイダから提供された説明書をご覧ください。

初期設定方法は次のとおりです。

1. ［スタート］－「すべてのプログラム」－「Windows メール」をクリックして Windows メールを起動します。
2. 「名前」と表示されたら、「表示名」に名前を入力して［次へ］をクリックします。
3. 「インターネット電子メールアドレス」と表示されたら、プロバイダから取得したメールアドレスを入力して［次へ］をクリックします。
4. 「電子メールサーバーのセットアップ」と表示されたら、プロバイダから指定されている受信メールサーバと送信メールサーバを入力して［次へ］をクリックします。
5. 「インターネットメールログオン」と表示されたら、プロバイダから指定されているユーザー名とパスワードを入力して［次へ］をクリックします。
6. 「設定完了」と表示されたら、［完了］をクリックします。

> **参考**
> 設定を変更する
> 一度行った設定は、次の場所から変更することができます。
> 「ツール」メニュー －「アカウント」－［追加］－「電子メールアカウント」

Internet Explorer で情報バーが表示されたら

購入時の Internet Explorer は、セキュリティ強化のために、意図しないプログラムや実行ファイルのダウンロードについて警告するよう設定されています。Internet Explorer 使用時、情報バーに警告が表示されたら、情報バーをクリックして、表示された項目から適切な対処をしてください。

＜画面はイメージです＞

Internet Explorer の便利な追加機能

本機には Internet Explorer の便利な機能として、次のソフトウェアが添付されています。購入時にはインストールされていませんので、必要に応じてインストールを行ってください。

●JWord

「JWord」を使うと、アドレスバーを使用して、日本語で簡単にインターネットを検索できます。

●goo スティック

「goo スティック」を使うと、検索機能や辞書機能をいつでも利用することができます。インストールを行うと、Internet Explorer のツールバーに、検索サービス「goo」の検索ボックスが設定されます。

●マカフィー SiteAdvisor Plus 30 日版

Internet Explorer のツールバーに、「McAfee SiteAdvisor」ボタンが設定され、Web サイトの安全性評価を確認できます。
マカフィー SiteAdvisor Plus 30 日版を使用するには、インストール後にユーザー登録を行う必要があります。
p.200「ユーザー登録」
マカフィー SiteAdvisor Plus 30 日版の詳しい使い方は、ボタンから「ヘルプ」をご覧ください。

インターネットを使用する際のセキュリティ対策

本機には、インターネットに接続した際に起こりうるコンピュータウイルス感染や不正アクセスなどの危険に対するセキュリティ機能が備えられています。
ここでは、このセキュリティ機能について説明します。インターネットに接続する場合は、コンピュータの安全を守るため、必ずセキュリティ対策を行ってください。

Windows Update

「Windows Update」は、本機の Windows の状態を確認し、Windows の更新プログラムをインターネットからダウンロードしてインストールする機能です。
Windows を最新の状態にするため、Windows Update を行ってください。

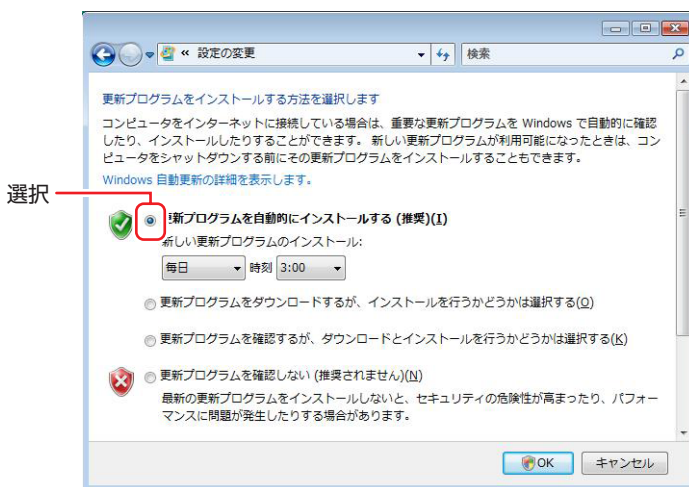
自動更新の設定

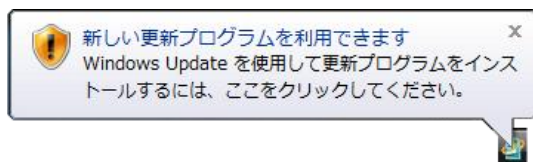
本機を使用する際は、自動で Windows Update が行われるように、自動更新の設定をすることをおすすめします。
自動更新の設定がされていると、次の作業が自動で行われます。

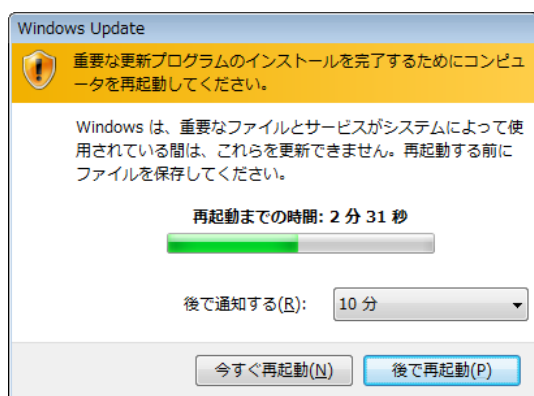
- 重要な更新プログラムのダウンロード（インターネット接続時）
- 重要な更新プログラムのインストール（設定した時刻または設定した時刻より前にシャットダウンする際）

Windows のセットアップ時に「Windows を自動的に保護するよう設定してください」画面で「推奨設定を使用します」を選択した場合は、自動更新の設定がされています。そのまま使用してください。

自動更新の設定は、次の場所で行います。

［スタート］－「すべてのプログラム」－「Windows Update」－「設定の変更」

「新しい更新プログラムを利用できます」と表示されたら

重要な更新プログラムがダウンロードされると、画面右下に「新しい更新プログラムを利用できます」と表示されます。すぐに重要な更新プログラムをインストールしたい場合は、通知アイコンをクリックし、インストールをしてください。

再起動を促す画面が表示されたら

重要な更新プログラムのインストールが行われると、再起動を促す画面が表示されることがあります。作業中の場合はデータを保存してください。本機が再起動したら、インストールは完了です。

セキュリティソフトウェア

コンピュータウイルスは、インターネット上やメールの添付ファイルなどから感染する悪意のあるプログラムです。
コンピュータウイルスに感染すると、本機の動作が不安定になったり、保存してあるファイルが破壊されるなどの被害が発生します。
ウイルス感染を防ぐために、必ずウイルス対策を行ってください。

Norton Internet Security 90 日版を使う

本機には、ファイアウォールやウイルス対策機能、フィッシング詐欺対策機能を備えた「Norton Internet Security 90 日版」が添付されています。購入時に Norton Internet Security 90 日版はインストールされていませんので、必要に応じてインストールを行ってください。詳しくは、別冊『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』をご覧ください。

更新サービスの有効期限

本機に添付の Norton Internet Security 90 日版は、製品版ではありません。更新サービスの有効期限は、セットアップ後 90 日間です。90 日経過後は、更新サービスの延長キー（有償）を購入すると、1 年間使用可能です。更新サービスの詳細は、別冊『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』をご覧ください。

市販のセキュリティソフトウェアを使う

市販のセキュリティソフトウェアを使用する場合は、ソフトウェア同士の競合を防ぐため、Norton Internet Security 90 日版はインストールしないでください。
インストールしていた場合は、アンインストール（削除）してください。アンインストール方法は、別冊『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』をご覧ください。

ファイアウォール

インターネットに接続していると、不正なアクセスにより、本機のデータやプログラムを勝手に見られたり、改ざんされたり、破壊されたりする可能性があります。「ファイアウォール」は、これらの不正アクセスを検出し、遮断する機能です。
不正アクセスを遮断するため、必ずファイアウォール機能を使用してください。

Norton Internet Security 90 日版のファイアウォール機能

本機に添付の「Norton Internet Security 90 日版」には、ファイアウォール機能が備えられています。Norton Internet Security 90 日版のセットアップを行うと、自動的にファイアウォール機能が有効になります。そのままお使いください。

Windows ファイアウォールの設定

本機には、Windows のファイアウォール機能が備えられています。
本機の状態によって、Windows ファイアウォールを次のように設定してください。

ファイアウォール機能を持つソフトウェアを使用している場合

ファイアウォール同士の競合を防ぐため、Windows ファイアウォールを「無効」に設定してください。ソフトウェアによっては、インストールすると、Windows ファイアウォールが自動で「無効」に設定されるものもあります。

ファイアウォール機能を持つソフトウェアを使用しない場合

Windows ファイアウォールを「有効」に設定してください。

Windows ファイアウォールの有効 / 無効の設定は、次の場所から行います。

[スタート] ー「コントロールパネル」ー「セキュリティ」ー「Windows ファイアウォール」ー「設定の変更」

Windows Defender

Windows Vista には、スパイウェアやそのほかのマルウェア（悪意のあるソフトウェア）を検出したり、駆除したりするツール「Windows Defender」が備えられています。
「Norton Internet Security 90 日版」などのスパイウェア対策機能を持つソフトウェアをインストールすると、機能の重複を防ぐため、Windows Defender が自動で「無効」に設定される場合があります。この場合は、そのまま使用してください。
スパイウェア対策機能を持つソフトウェアを使用しない場合は、Windows Defender を使用してください。

Windows Defender は、次の場所から起動します。

［スタート］－「コントロールパネル」－「セキュリティ」－「Windows Defender」

フィッシング詐欺検出機能

フィッシング詐欺とは、金融機関などのメールやホームページを装い、ユーザーに暗証番号やクレジットカード番号を入力させて、個人情報を盗み取る犯罪のことです。
本機には、「フィッシング詐欺検出機能」が搭載されています。セキュリティを守るため、機能を使用してください。

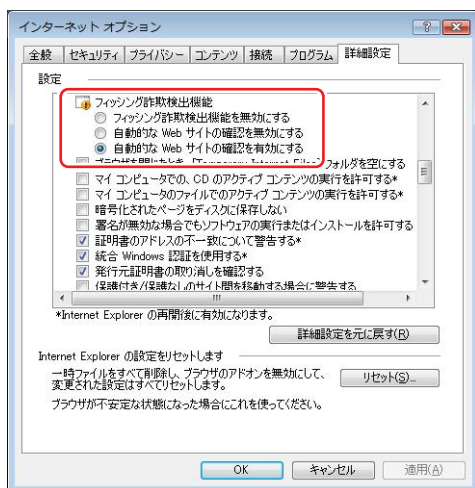
Norton Internet Security 90 日版のフィッシング詐欺検出機能

本機に添付のセキュリティソフト「Norton Internet Security 90 日版」には、フィッシング詐欺検出機能が備えられています。機能を「有効」にしてお使いください。

Internet Explorer のフィッシング詐欺検出機能

ホームページ閲覧ソフト「Internet Explorer」には、フィッシング詐欺検出機能が備えられています。「Norton Internet Security 90 日版」などのフィッシング詐欺検出機能を「有効」にしている場合は、機能の重複を防ぐため、Internet Explorer の機能が自動で「無効」に設定される場合があります。この場合は、そのまま使用してください。
フィッシング詐欺検出機能を持つソフトウェアを使用しない場合は、Internet Explorer の機能を「有効」に設定してください。

Internet Explorer のフィッシング詐欺検出機能の有効／無効の設定は、次の場所で行います。

Internet Explorer の「ツール」－「フィッシング詐欺検出機能」－「フィッシング詐欺検出機能の設定」－「詳細設定」タブ－「フィッシング詐欺検出機能」

Webフィルタリングソフトウェア

Web フィルタリングとは、インターネット上の有害なサイトを表示しないようにするための技術です。Web フィルタリングを行うと、有害サイトへのアクセスを自動的に制限することができます。

i －フィルター 30 日版を使う

本機には、Web フィルタリング機能を持つ「i －フィルター 30 日版」が添付されています。
家庭内でお子様がコンピュータを使用する際に、有害なサイトへアクセスするのを制限したいときなどは、i －フィルター 30 日版を使用することをおすすめします。

i －フィルター 30 日版のインストール

購入時、本機に i －フィルター 30 日版はインストールされていません。
インストール方法は、p.197「i －フィルター 30 日版のインストール」をご覧ください。
市販の Web フィルタリングソフトウェアを使用する場合は、ソフトウェア同士の競合を防ぐため、i －フィルター 30 日版はインストールしないでください。

i ーフィルター 30 日版のユーザー登録

i ーフィルター 30 日版を使用するには、インストール後にユーザー登録を行う必要があります。

p.198「i ーフィルター 30 日版のユーザー登録」

i ーフィルター 30 日版の使用方法

i ーフィルター 30 日版をインストールすると、フィルター設定が有効になり、有害サイトにアクセスしようとすると、自動的にブロックされます。

初期設定では、フィルター強度は中学生向けです。フィルター強度は、使用者別に設定できます。必要に応じて、「フィルタリング設定」画面で設定を変更してください。

「フィルタリング設定」画面の表示方法は、次のとおりです。

1 ディスクトップ上の「i ーフィルター」アイコンをダブルクリックします。

「i ーフィルター・・・」画面が表示された場合は、ユーザー登録が完了していません。ユーザー登録を行ってください。

p.198「i ーフィルター 30 日版のユーザー登録」

2 「管理パスワードの入力」画面が表示されたら、管理パスワードを入力して［OK］をクリックします。

3 i ーフィルターのトップページが表示されたら、「フィルタリング設定」をクリックします。

「フィルタリング設定」画面が表示されます。

i ーフィルター 30 日版の詳しい使用方法は、ヘルプをご覧ください。

ファイアウォール機能による警告画面が表示された場合は

セキュリティソフトウェアのファイアウォール機能を有効にしている場合、インターネット閲覧時に「i－フィルター 30 日版」でのインターネットアクセスに関する警告が表示されることがあります。
この場合は、「i－フィルター 30 日版」の使用を許可してください。

i－フィルター 30 日版の利用期限

i－フィルター 30 日版の利用期限は、ユーザー登録後 30 日間です。利用期限が過ぎると、フィルター機能が停止します。

継続して利用する場合

継続利用の手続き（有償）をオンラインで行ってください。

p.136「i－フィルター 30 日版のサポート」

本機に添付の i－フィルター 30 日版は、「i－フィルター更新パック」で継続利用手続きを行うことはできません。

継続して利用しない場合

i－フィルター 30 日版のアンインストールを行ってください。
i－フィルター 30 日版のアンインストール方法は、デジタルアーツ社のホームページの「よくある質問」をご覧ください。

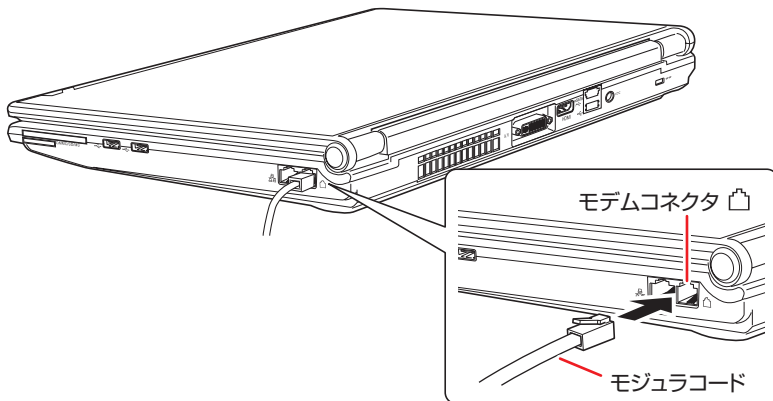
p.136「i－フィルター 30 日版のサポート」

i－フィルター 30 日版のサポート

i－フィルター 30 日版のサポートは、デジタルアーツ社で行います。
よくあるご質問と回答・サポート窓口・継続利用手続き・サービスページなどについては、デジタルアーツ社の次のホームページをご覧ください。
なお、このサポート情報は、予告なく変更される場合があります。

http://www.daj.jp/cs/ifpe/sup_dl.htm

FAX モデムを使う

ここでは、FAX モデムを使用し、ダイヤルアップ接続でインターネットに接続するための設定について説明します。
本機には 56Kbps（V.92/K56flex 対応）の通信速度に対応した FAX モデムが搭載されており、ナローバンドでの通信が可能です。
FAX モデムを使用する場合は、本機右側面のモデムコネクタと電話回線を、市販のモジュラコードで接続します。

FAX モデムを次の回線に接続しないでください。発熱し火災の原因となります。

- 構内交換機（PBX）
- 2 線式でない回線（ホームテレホンやビジネスホンなど）
- ISDN 対応公衆電話のデジタル側ジャック

お使いになる前に

使用回線の種類

本機は、ダイヤル回線でも、プッシュ回線でも使用できます。使用している回線がどちらかわからないときは、NTT へお問い合わせください。ダイヤル回線、プッシュ回線の選択は、添付されている通信ソフトや、Windows 上で設定することができます。

●ダイヤル回線（パルス）

回転式ダイヤル電話のように、ダイヤルの戻る時間によりダイヤルパルス信号を送り、相手につなげる方式の電話回線のことです。

●プッシュ回線（トーン）

押しボタン電話機のように、「ピ・ポ・パ･･･」とトーンによる信号を送り、相手につなげる方式の電話回線のことです。

特殊な電話機・回線での使用

●PBX やホームテレホン回線への接続

本機の FAX モデムは、ホームテレホン、ビジネスホンなどの 2 線式でない回線、ISDN 対応公衆電話のデジタル側ジャックや構内交換機（PBX）に接続して使用できません。モデムに必要以上の電流が流れ、故障の原因になります。これらの回線には接続しないでください。

●キャッチホンサービスについて

NTT のキャッチホンサービスや他社の類似サービスを利用している場合、キャッチホンの呼び出し音によって通信中の回線が切断されます。モデムを接続する回線では、キャッチホンサービスの利用は避けてください。なお、この現象を回避できるサービスについては、NTT または類似サービスの供給元へお問い合わせください。

通信速度の制限

本機のモデム機能は、V.92＊[1] および K56flex＊[2] 通信方式により、最大受信速度（プロバイダなどの相手側から本機側への方向）は、56000bps、最大送信速度（本機からプロバイダなどの相手側への方向）は、48000bps になります。
ただし、この最大送受信速度は、接続先のプロバイダやアクセスポイントなどの電話回線状況、モデムの性能や送出レベルなどにより変化します。また、接続先のプロバイダなどが同じ規格に対応しており、お客様の電話回線がつながる電話局の交換機とプロバイダまでの通信経路がデジタル化されている必要があります。

＊1　V.92： ITU-T 国際電気通信連合が制定した通信規格
＊2　K56flex： Lucent Technologies 社と Rockwell International 社が提唱する通信規格

通信を行う

モデム機能を使って、データ通信や FAX 機能を使用するには、別途通信ソフトウェアが必要です。
通信ソフトウェアのインストール方法や使用方法は、通信ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。
また、Windows の通信機能を使用する場合は、「Windows のヘルプ」をご覧ください。

AT コマンドについて

本機のモデム機能では、モデム制御コマンドとして、「AT コマンド」を採用しています。AT コマンドについては、p.250「AT コマンドの使用」をご覧ください。

ダイヤル情報の設定

モデムの設定をしていない場合は、市外局番やダイヤル方法などの設定を行います。

1 **[スタート]－「コントロールパネル」－「ハードウェアとサウンド」－「電話とモデムのオプション」をクリックします。**

2 **「所在地情報」画面が表示されたら、「国名 / 地域名」、「市外局番 / エリアコード」、「外線発信番号」や「ダイヤル方法」などを設定して [OK] をクリックします。**

これでダイヤル情報の設定は終了です。
インターネットに接続する場合は、このあとダイヤルアップ接続の設定が必要です。
p.139「手動でダイヤルアップ接続の設定をする」

手動でダイヤルアップ接続の設定をする

はがきや電話で加入申し込みをした場合は、プロバイダから提示された資料に基づいて各種設定を行います（ダイヤルアップ接続の設定）。次の手順は設定方法の一例です。プロバイダから設定方法資料が提供されている場合は、そちらを参照してください。

接続に関する用語一覧

プロバイダによって設定項目の呼びかたが異なる場合があります。本書での記述とプロバイダが使用する類似名称の一例です。

本書での記述	類似名称
接続ユーザー名	ユーザー名、コネクション ID 、PPP ログイン名、アカウント名、アカウント、ID、接続 ID 、ID 番号、接続アカウント、ダイヤルアップログイン名
接続パスワード	パスワード、PPP パスワード、ダイヤルアップパスワード、初期パスワード、コネクションパスワード
メールアカウント	Mail アカウント名、メールボックス名、メールボックス、メールアカウント名、Mail アカウント、アカウント名
メールパスワード	Mail パスワード、パスワード、初期パスワード
受信メールサーバ	メールサーバ、受信メールサーバ（POP3）
送信メールサーバ	メールサーバ、送信メールサーバ（SMTP）

手動でダイヤルアップ接続の設定を行う手順は、次のとおりです。

1 **[スタート]－「接続先」をクリックします。**

2 **「接続またはネットワークをセットアップします」をクリックします。**

3 **「接続オプションを選択します」と表示されたら、「ダイヤルアップ接続をセットアップします」を選択し、[次へ] をクリックします。**

4 「インターネットサービスプロバイダ（ISP）の情報を入力します」と表示されたら、プロバイダからの資料をもとに、次の項目を入力します。

- ダイヤルアップの電話番号
- ユーザー名
- パスワード
- 接続名（アクセスポイント（プロバイダ）の名前）

5 ［接続］をクリックすると、インターネットへの接続が開始します。

6 「インターネットに接続されています」と表示されたら、接続完了です。［閉じる］をクリックして画面を閉じます。

7 「（接続先の名前）ネットワークの場所を選択します」と表示されたら、場所をクリックします。

8 「ユーザーアカウント制御」画面が表示された場合は、［続行］をクリックします。

9 「ネットワーク設定が正しく設定されました」と表示されたら、［閉じる］をクリックします。

10 インターネット接続を終了する場合は、［スタート］－「接続先」－「（ 4 で設定した接続名）」をクリックし、［切断］をクリックします。

DNS（ネーム）サーバのアドレスを指定されている場合

プロバイダから、DNS（ネーム）サーバのアドレスを指定されている場合は、次の設定を行います。

1 ［スタート］－「接続先」をクリックします。

2 「ネットワークに接続」画面が表示されたら、（接続名）を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

3 「（接続名）のプロパティ」画面が表示されたら、次の設定を行います。

1. 「ネットワーク」タブの「インターネットプロトコル（TCP/IP）」の［プロパティ］をクリックします。
2. 「次の DNS サーバーのアドレスを使う」にチェックを付けます。
3. 「優先 DNS サーバー」、「代替 DNS サーバー」に、プロバイダから指定されている DNS（ネーム）サーバのアドレスを入力し、［OK］をクリックします。

4 「全般」タブ－「ダイヤル情報を使う」にチェックを付けて、［OK］をクリックします。

これで DNS（ネーム）サーバのアドレス設定は完了です。

接続に関する詳細設定

ダイヤルアップ接続の設定をしたら、接続に関する詳細設定を行います。

●接続方法の設定

電話回線を使用して、インターネットに接続するように設定をします。

●切断画面の設定

Internet Explorerを終了した際に、インターネットとの切断画面を表示するように設定します。

接続に関する詳細設定は、次の手順で行います。

1. [スタート]-「コントロールパネル」-「ネットワークとインターネット」-「インターネットオプション」-「接続」タブをクリックします。

2. 「通常の接続でダイヤルする」にチェックを付けます。
   (接続方法の設定)

3. [設定] - [詳細設定] をクリックします。

4. 「接続が必要なくなったとき切断する」にチェックを付けて [OK] をクリックします。
   (切断画面の設定)

5. 「(接続先の名前) の設定」画面で [OK] をクリックします。

6. 「インターネットのプロパティ」画面で [OK] をクリックします。これで接続に関する設定は終了です。

電源設定を行う（省電力機能を使う）

ここでは、本機の電源の設定について説明します。

電源プランの設定

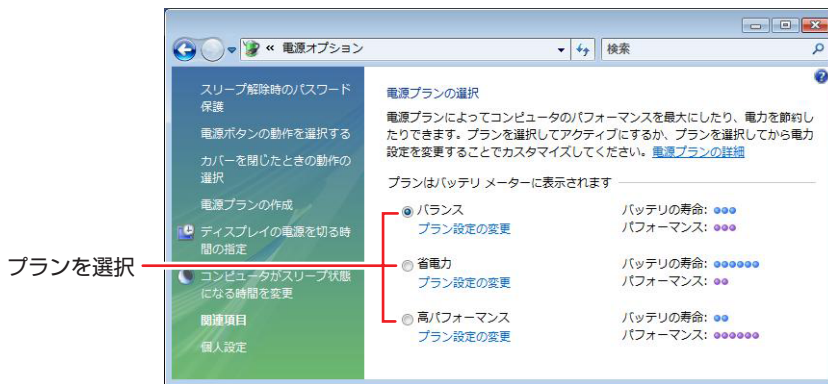
本機には、次の３つの電源プランが用意されています。電源プランの選択により電力消費を抑えたり、パフォーマンスを優先させたりすることができます。
使い方にあわせた電源プランを選択して本機を使用してください。

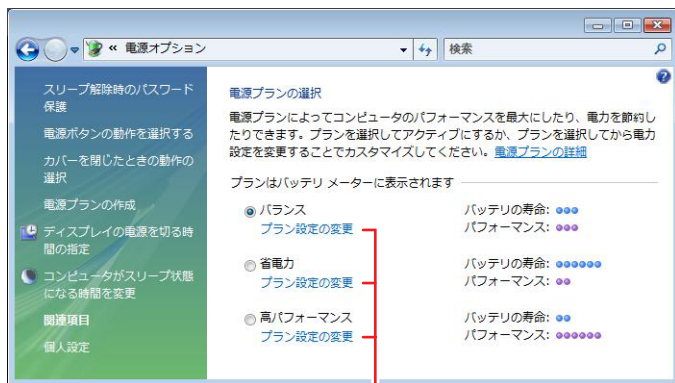
●バランス
　パフォーマンスと電力消費のバランスを考えたプランです。

●省電力
　コンピュータの電力消費を抑えるプランです。パフォーマンスは低下します。

●高パフォーマンス
　電力消費は抑えずに、パフォーマンスを優先させるプランです。

電源プランの選択は、次の場所から行います。

［スタート］－「コントロールパネル」－「システムとメンテナンス」－「電源オプション」

電源プランの内容変更

電源プランの内容（省電力の設定など）は、変更することができます。変更は、各プランの「プラン設定の変更」から行います。

「プラン設定の変更」では、本機が省電力状態に移行するまでの時間の設定や、LCD 画面の輝度の調整などを行うことができます。

p.145「省電力状態に移行する方法」

本機を省電力状態にする

本機を使用していない間、省電力状態にしておくと、電力の消費を抑えることができます。特にバッテリだけで使用している場合は、本機を省電力状態にしておくことで使用時間を延ばすことができます。ここでは、省電力状態に移行する方法や、省電力状態からの復帰方法について説明します。

省電力状態へ移行する際の注意

省電力状態に移行する際には、次のような制限事項があります。移行する前に確認して正しくお使いください。

- 省電力状態に移行する場合は、万一正常に復帰しない場合に備え、使用中のデータ（作成中の文書やデータなど）は保存しておいてください。
- 次のような場合は、省電力状態に移行しないことがあります。
  - 周辺機器を接続している
  - ソフトウェアを起動している

- 次のような場合に省電力状態に移行すると、不具合が発生する可能性があります。省電力状態に移行しないように設定してください。

  p.145「時間経過で移行させない」

  - 光ディスクメディアへの書き込み時：書き込みに失敗する可能性
  - サウンド機能で録音、再生時：録音や再生が途中で切断される可能性
  - メモリカードなど外部接続記憶装置へのデータ書き込み時：データ破損の可能性
  - FAX モデム、ネットワーク機能や Bluetooth 機能などを使っての通信時：通信が切断される可能性
  - 動画再生時：コマ落ちしたりソフトウェアの動作が遅くなるなどの現象が発生する可能性

- 次のような場合は、省電力状態から正常に復帰できないことがあります。
  - 省電力状態で Express カードや周辺機器などの抜き差しを行った場合
  - ネットワーク上のファイルなどを開いたまま、省電力状態に移行した場合

- ネットワークに接続している場合に、省電力状態に移行すると、省電力状態からの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。
  このような場合は、次のいずれかの方法をとってください。
  - 再起動する
  - 省電力状態に移行しないように設定する

    p.145「時間経過で移行させない」

省電力状態の種類

省電力状態には、主に次のようなものがあります。

- **ディスプレイの電源を切る**

  省電力の効果はスリープ状態より低いですが、通常の状態にすぐに復帰できます。

- **スリープ状態**

  作業内容をメモリに保存し、コンピュータを低電力の状態にします。ディスプレイの電源が切れ、電源ランプ（ ⏻ ）が点滅します。通常の状態へは数秒で復帰できます（使用環境により復帰時間は異なります）。スリープ状態で 18 時間経過した場合またはバッテリ切れした場合は、自動的にメモリの内容が HDD に書き込まれ、本機は「休止状態」になります。

- **休止状態**

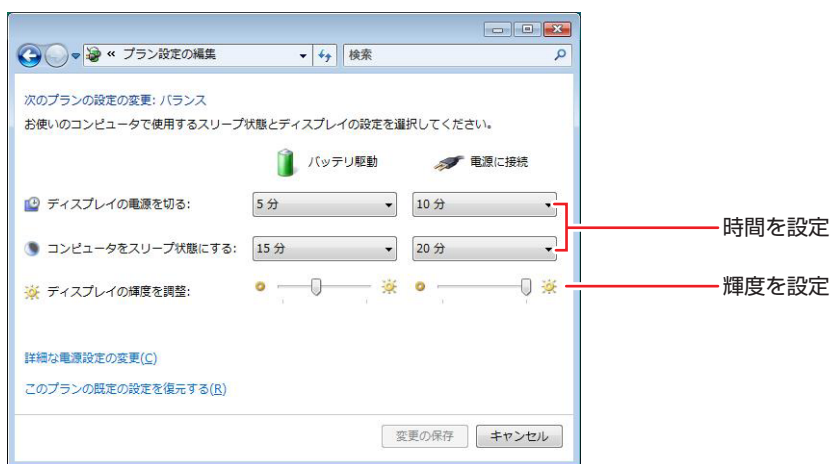
  作業内容をHDDに保存し、コンピュータを低電力の状態にします。ディスプレイの電源が切れ、電源ランプ（ ⏻ ）が消灯します。シャットダウン状態からよりも早く通常の状態へ復帰できます（使用環境により復帰時間は異なります）。

省電力状態に移行する方法

本機を省電力状態にするには、時間経過で移行する方法と直ちに移行する方法があります。

時間経過で移行する

コンピュータを操作しない状態で、「電源プラン」で設定されている時間が経過すると、本機は自動的に省電力状態に移行します。初期値ではまずディスプレイの電源が切れ、そのまま操作しないと続いてコンピュータがスリープ状態になります。
省電力状態に移行する（ディスプレイの電源を切る、コンピュータをスリープ状態にする）までの時間は、次の場所で変更することができます。

［スタート］－「コントロールパネル」－「システムとメンテナンス」－「電源オプション」－各プランの「プラン設定の変更」

時間経過で移行させない

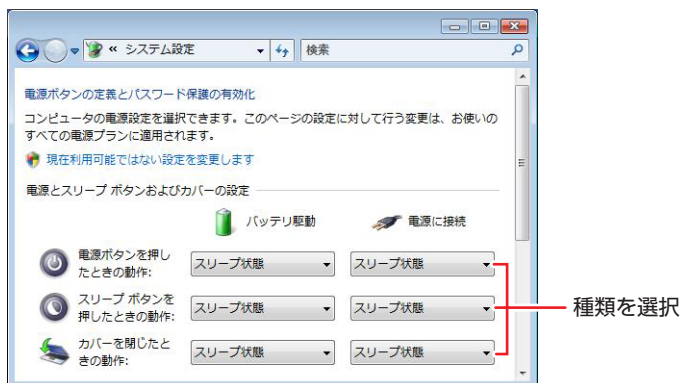
光ディスクメディアへ書き込みを行う場合などは、時間経過で省電力状態に移行する設定を無効にします。時間をすべて「なし」に設定してください。

直ちに移行する

次の操作をすると、本機はすぐに省電力状態に移行します。

操作	省電力状態の種類
［スタート］－［⏻］をクリックする	スリープ状態（初期値）
電源スイッチ（⏻）を押す	
Fn＋F1（☾ᶻᶻ）を押す	
LCD ユニットを閉じる	
［スタート］－［▶］から項目を選択する	スリープ状態、休止状態、シャットダウン

各操作を行ったときに移行する省電力状態の種類は、次の場所で変更することができます。初期値はすべて「スリープ状態」に設定されています。

［スタート］－［コントロールパネル］－「システムとメンテナンス」－「電源オプション」－「電源ボタンの動作を選択する」

バッテリ低下時に移行する

本機が「バッテリ低下」の状態になったとき、省電力状態に移行するように設定することもできます。

p.44「バッテリ低下時の設定変更」

電源ランプの表示

本機の電源の状態は、電源ランプ（ ）の点灯・点滅により確認できます。

電源の状態	電源ランプの表示
通常の状態	点灯（青色）
ディスプレイの電源が切れている状態	点灯（青色）
スリープ状態	点滅（青色）
休止状態	消灯
電源切断時（シャットダウン時）	消灯

電源スイッチ（ ）のランプは、スリープ状態では消灯します。

省電力状態からの復帰方法

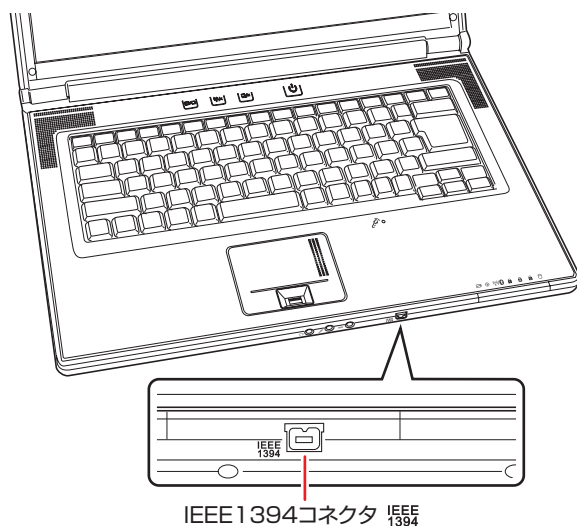
本機を省電力状態から通常の状態に復帰させる方法は、次のとおりです。

省電力状態	電源ランプの表示	復帰方法
ディスプレイの電源が切れている状態	点灯（青色）	タッチパッドやキーボードを操作する。
スリープ状態	点滅（青色）	• 電源スイッチを押す。 • キーボードを操作する。
休止状態	消灯	電源スイッチを押す。

そのほかの機能

ここでは、そのほかの機能について説明します。

IEEE1394コネクタ

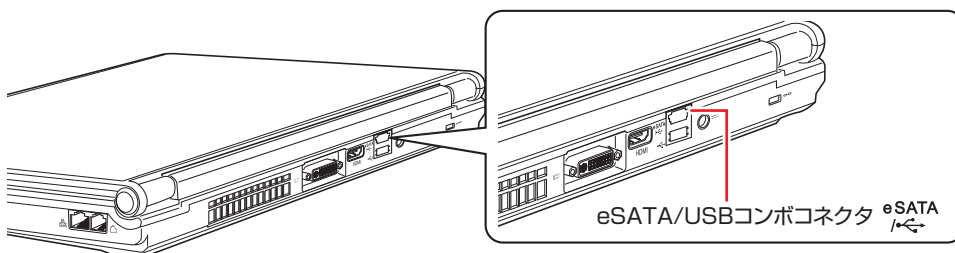
本機前面にはIEEE1394コネクタ（4ピン）が1個搭載されています。IEEE1394コネクタにはIEEE1394対応の機器（ビデオカメラなど）を接続します。

接続と取り外し

IEEE1394機器の接続、取り外しは本機の電源が入った状態で行うことができます。ただし、通知領域にアイコン（「取り外し」アイコンなど）が表示される場合は、取り外しの際、Windows上で終了処理が必要です。詳しくは、接続する機器に添付のマニュアルをご覧ください。

<取り外しアイコン>

eSATA/USBコンボコネクタ

本機背面には eSATA/USB コンボコネクタが 1 個搭載されています。eSATA/USB コンボコネクタには、eSATA 機器（外付け HDD など）を接続します。
USB 機器を接続することもできます。

p.66「USB 機器を使う」

eSATA 機器が認識されないときは

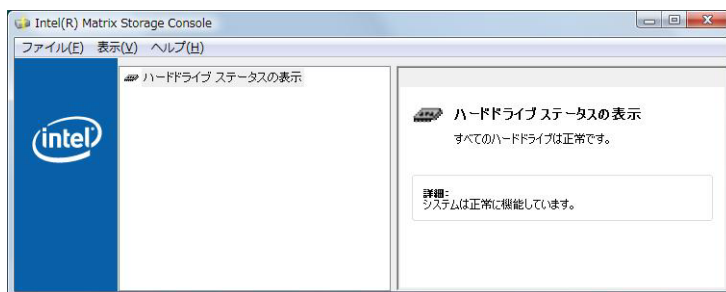
本機の電源が入っている状態で eSATA 機器を接続すると、機器が認識されない場合があります。
この場合は、本機の電源が切れている状態で接続をしてみてください。

eSATA 機器の状態確認と取り外し

eSATA 機器を接続すると、通知領域に「ストレージ」アイコンと「取り外し」アイコンが表示されます。

<ストレージアイコン>

<取り外しアイコン>

「ストレージ」アイコンをダブルクリックすると、「Intel（R） Matrix Storage Console」画面が表示され、eSATA 機器の状態を確認することができます。

eSATA 機器の取り外しは、「取り外し」アイコンから行ってください。

インテル・ターボ・メモリ(オプション)

購入時にオプション選択された場合、本機にはインテル・ターボ・メモリが搭載されています。

- インテル・ターボ・メモリを搭載している場合、USB フラッシュメモリでの ReadyBoost は使用できません。
- インテル・ターボ・メモリを搭載している場合、バックアップソフトを使用してのデータの保存や復元が正常にできない場合があります。

起動の高速化

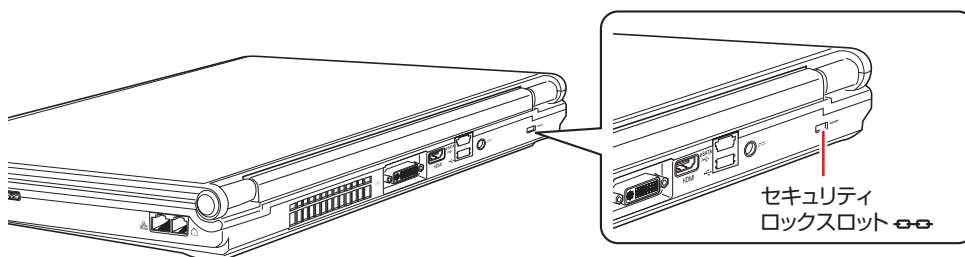
インテル・ターボ・メモリにより、本機では、Windows やアプリケーションの起動が自動的に高速化されます。

Intel(R) Turbo Memory Dashboard(4GB のみ)

インテル・ターボ・メモリ 4GB では、高速化するアプリケーションを選択できる機能「Intel(R) Turbo Memory Dashboard」を使用することができます。アプリケーションの選択方法は、デスクトップ上の「Intel(R) Turbo Memory Dashboard」アイコンをダブルクリックし、表示された画面のヘルプをご覧ください。

<Intel(R) Turbo Memory Dashboad アイコン>

セキュリティロックスロット

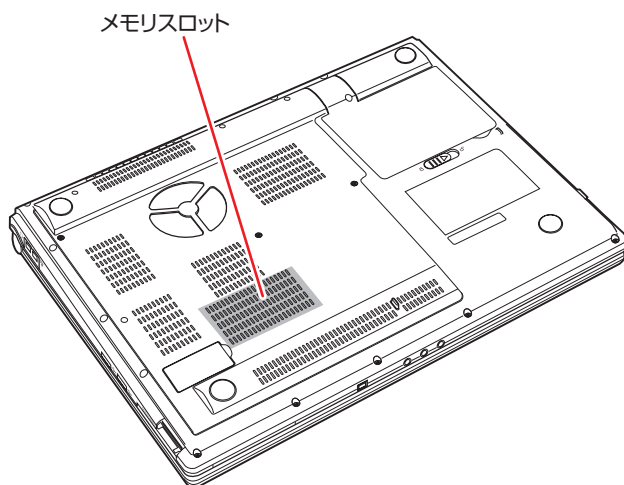
本機背面には、「セキュリティロックスロット」が装備されています。ここには、専用の盗難抑止ワイヤーを取り付けます。

当社では、専用の盗難抑止ワイヤーを取り扱っています。詳しくは、当社のホームページをご覧ください。
ホームページのアドレスは、次のとおりです。

http://shop.epson.jp/

システムの拡張

アップグレードサービスやメモリの増設方法、本機に接続できる装置について説明します。

拡張できる装置

本機では、メモリモジュール（SODIMM、以降メモリ）を増設・交換して、機能を拡張することができます。

メモリスロット

本機には、メモリスロットが底面に 2 本用意されています。p.153「メモリの装着」

> 制限　本機は、メモリ以外の機能を拡張することはできません。

アップグレードサービス

当社では、コンピュータ本体をお預かりして装置の増設・交換を行うアップグレードサービスを有償で行っています。
本機では、次の装置のアップグレードサービスを利用できます。

- ●メモリ　　　　　　：増設・交換
- ●内蔵 HDD　　　　　：交換
- ●光ディスクドライブ：交換

アップグレードサービスをご希望の場合は、カスタマーサービスセンターにご相談ください。カスタマーサービスセンターの連絡先は、別冊『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。

ご自身での装置の増設･交換（メモリを除く）は、故障の原因となりますので行わないでください。

メモリの装着

本機で使用可能なメモリの仕様と、増設・交換方法について説明します。
本機底面にはメモリスロットが 2 つあり、メモリを増設・交換することにより拡張が可能です。

メモリの仕様

本機で使用可能なメモリは、次のとおりです。

- PC3-8500 SODIMM（DDR3-1066 SDRAM 使用）
- メモリ容量　512MB、1GB、2GB
- Non ECC
- 204 ピン
- CL ＝ 5

本機で合計 3GB を超えるメモリを搭載しても、システム上利用できるメモリの最大容量は約 3GB までです。

最新メモリ情報

今後、新しいメモリを取り扱う場合があります。
本機で使用可能な最新のメモリは、当社ホームページで確認してください。
ホームページのアドレスは、次のとおりです。

http://shop.epson.jp/

メモリ装着の組み合わせ

本機はデュアルチャネルに対応しているため、同一容量のメモリを 2 枚 1 組で装着すると、データ転送速度が最大になります。
メモリ装着の組み合わせとメモリの動作は、次のとおりです。

メモリ装着の組み合わせ	メモリの動作
同一容量のメモリ 2 枚	デュアルチャネルで動作。転送速度最大。
メモリ 1 枚	通常の転送速度で動作（シングルチャネル）。

作業時の注意

メモリの増設・交換をする場合は、次の点に注意してください。

- メモリの増設･交換をするときは、電源プラグをコンセントから抜いて、バッテリパックを取り外してください。取り付けたまま使用すると、感電や火傷の原因となります。
- 本機の分解・改造やマニュアルで指示されている以外の増設・交換はしないでください。けが・感電・火災の原因となります。

- メモリの増設・交換は本機の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って 10 分以上待ち、本機の内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所（ぐらついた机の上や、傾いた所など）で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。

制限

- 作業を行う前に金属製のものに触れて静電気を逃がしてください。メモリや本機に静電気が流れると、基板上の部品が破損するおそれがあります。
- 本機内部にネジや金属などの異物を落とさないでください。
- メモリを持つときは、メモリの端子部や素子に触れないでください。メモリの破損や接触不良による誤動作の原因になります。
- 装着する方向を間違えないでください。メモリが抜けなくなるなど故障の原因になります。
- メモリを落とさないように注意してください。強い衝撃が、破損の原因になります。
- メモリの着脱は、頻繁に行わないでください。必要以上に着脱を繰り返すと、端子部などに負担がかかり、故障の原因になります。

メモリの増設･交換

メモリの増設・交換の手順は、次のとおりです。

メモリの取り付け

メモリを取り付ける手順は、次のとおりです。

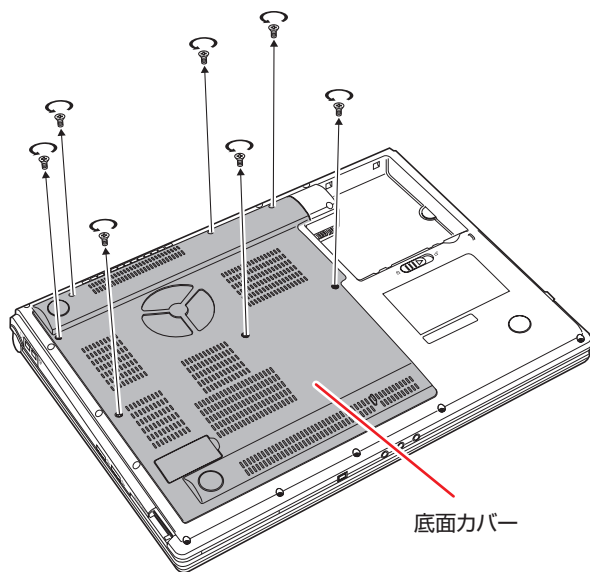
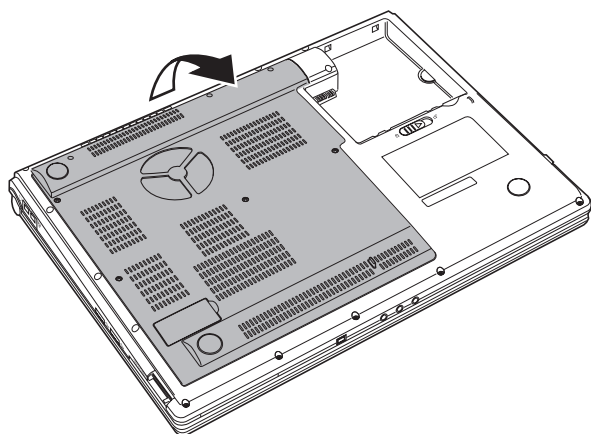
1 **コンピュータの電源が入っている場合は、電源を切ります。**

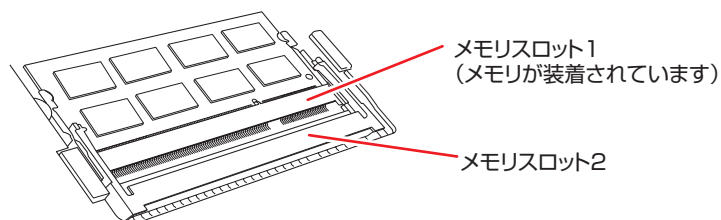
コンピュータ内部が冷えるまで、10 分以上放置してください。

2 **コンピュータに接続しているケーブル類（AC アダプタなど）を、すべて外します。**

3 **本機の底面を上にして置き、バッテリを取り外します。**

p.45「バッテリの交換」

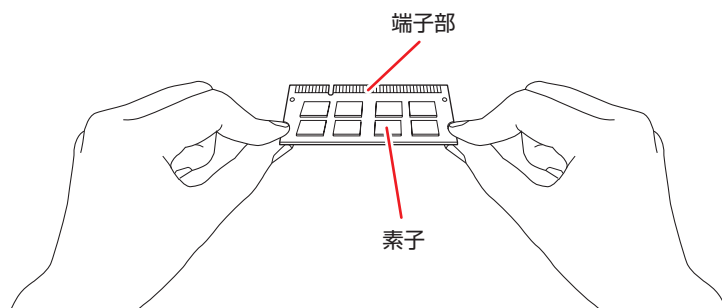
4 底面カバーのネジ（7 本）を外します。

5 底面カバーを矢印の方向に持ち上げて取り外します。

6 メモリスロット 2 の位置を確認します。

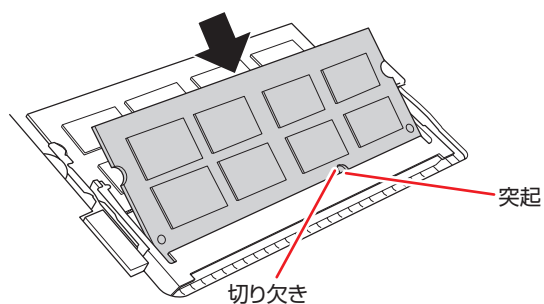
ここではメモリスロット 2 にメモリを取り付ける手順を説明します。

メモリスロット 1 のメモリを交換する際、メモリスロット 2 にメモリが装着されているときは、メモリスロット 2 のメモリを取り外してから作業を行ってください。

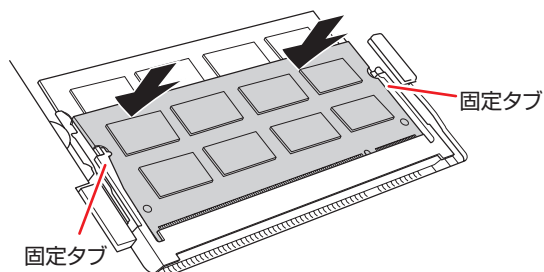
p.158「メモリの取り外し」

7 メモリを取り付けます。

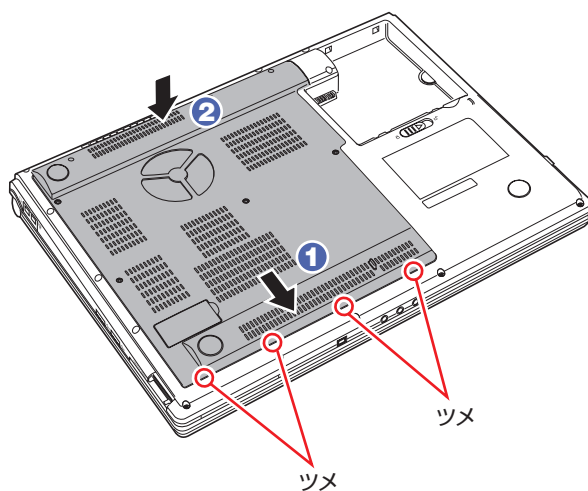
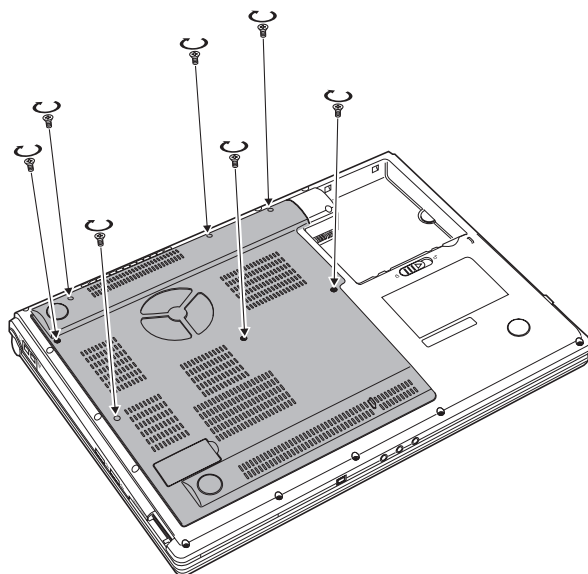
❶ メモリを静電防止袋から取り出します。

メモリの端子部や素子に触れないように持ちます。

❷ メモリを、メモリスロット２に差し込みます。

切り欠きを突起にあわせ、メモリを約 30 度の角度でメモリスロットに差し込みます。

❸ メモリを静かに倒します。

正しく装着すると「カチッ」と音がして両側の固定タブに固定されます。

8 底面カバーを取り付けます。

❶ 底面カバーの４箇所のツメを本体に合わせます。

❷ 底面カバーを押し込みます。

9 底面カバーをネジ（7 本）で固定します。

10 バッテリを取り付けます。

p.45「バッテリの交換」

11 本機の底面を下にして置きます。

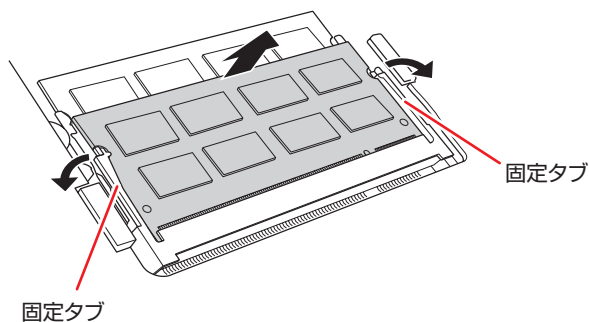
12 コンピュータを使用できるように、ケーブル類を元に戻します。

続いてp.158「メモリの増設・交換後の作業」を行います。

メモリの取り外し

メモリの取り外しは、p.154「メモリの取り付け」の 6 ～ 7 を次の手順に読み替えて行ってください。ここでは、メモリスロット２のメモリを取り外す手順を説明します。

1 **メモリを両側で固定している固定タブを外側に広げます。**

メモリが起き上がります。

2 **起き上がったメモリの両端を持って静かに引き抜きます。**

取り外したメモリは、静電防止袋に入れて保管してください。

メモリの増設・交換後の作業

メモリの増設・交換をしたら、メモリが正しく取り付けられているかどうか、必ずメモリの容量を確認します。
メモリ容量の確認方法は、次のとおりです。

1 **「BIOS Setup ユーティリティ」を起動します。**

p.163「BIOS Setup ユーティリティの起動」

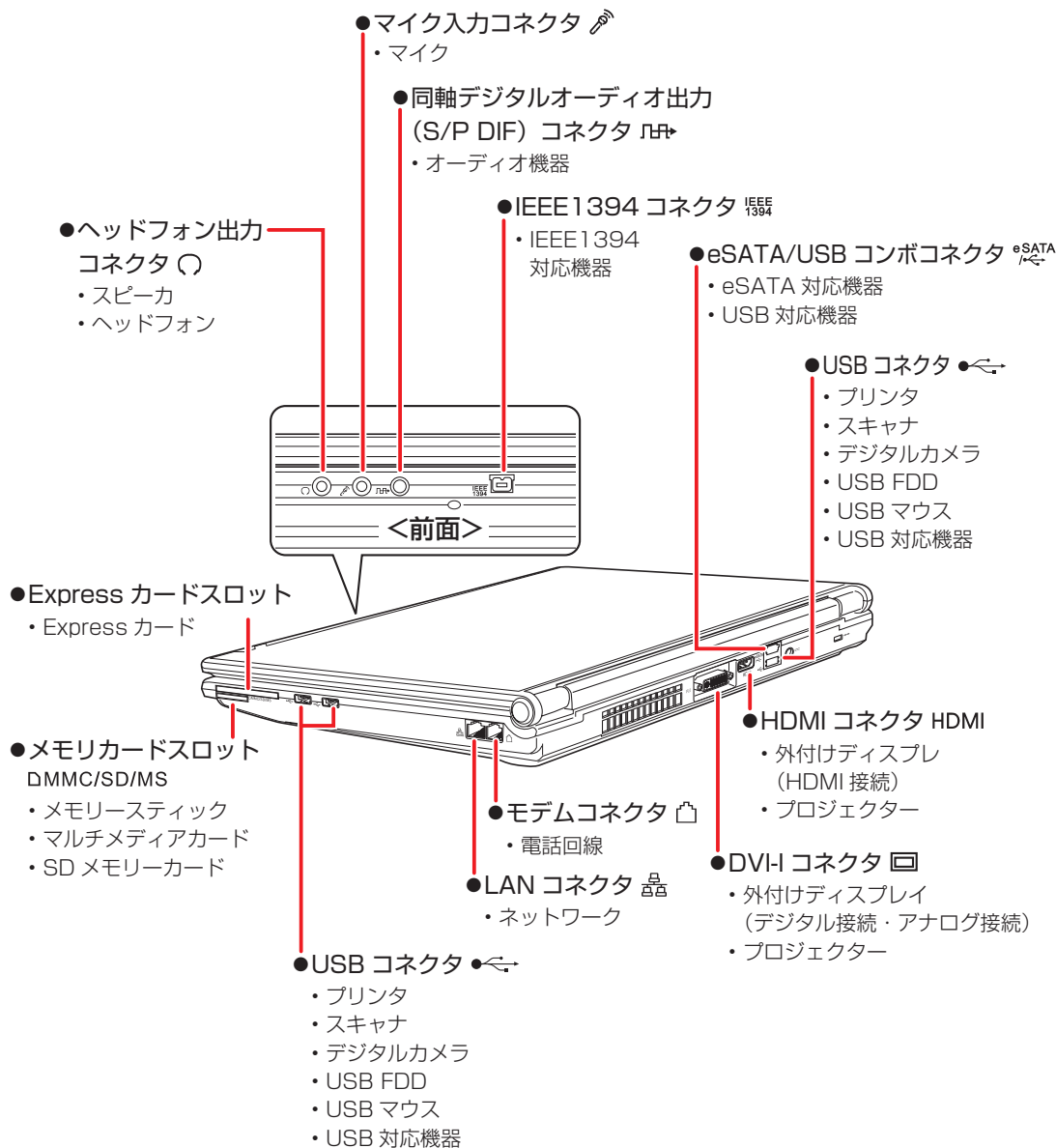
2 **「Main」メニュー画面－「System Memory」で総メモリ容量を確認します。**

3 **BIOS Setup ユーティリティを終了します。**

p.167「BIOS Setup ユーティリティの終了」

2 で総メモリ容量が正しく表示されない場合は、メモリが正しく取り付けられていないことが考えられます。すぐに電源を切り、メモリを正しく取り付けなおしてください。

外付け可能な周辺機器

本機のスロットやコネクタには、次のような周辺機器を取り付けることができます。各コネクタへの接続方法は、本書または接続する周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。

そのほかの接続可能な周辺機器

本機では、ケーブルを介さずに次の機器が接続できます。

- 無線 LAN 対応機器（無線 LAN 搭載時のみ機能）
- Bluetooth 対応機器（Bluetooth 搭載時のみ機能）

BIOS の設定

本機の基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について説明します。

BIOS の設定を始める前に

当社製以外の BIOS を使用すると、Windows が正常に動作しなくなる場合があります。当社製以外の BIOS へのアップデートは絶対に行わないでください。

BIOS は、コンピュータの基本状態を管理しているプログラムです。このプログラムは、マザーボード上に ROM として搭載されています。
BIOS の設定は、「BIOS Setup ユーティリティ」で変更できますが、購入時のシステム構成にあわせて最適に設定されているため、通常は変更する必要はありません。次のような場合は、設定を変更します。

- 本書や周辺機器のマニュアルで指示があった場合
- パスワードを設定する場合

BIOS の設定値を間違えると、システムが正常に動作しなくなる場合があります。設定値をよく確認してから変更を行ってください。
BIOS Setup ユーティリティで変更した内容は、CMOS RAM と呼ばれる特別なメモリ領域に保存されます。このメモリはリチウム電池によってバックアップされているため、本機の電源を切ったり、再起動しても消去されることはありません。

リチウム電池の寿命

BIOS Setup ユーティリティの内容は、リチウム電池で保持しています。リチウム電池は消耗品です。コンピュータの使用状況によって異なりますが、AC アダプタやバッテリからの電源供給がまったくない場合、寿命は約 5 年です。日付や時間が異常になったり、設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。
そのような場合は、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

動作が不安定になったら

設定値を変更して本機の動作が不安定になった場合は、次の方法で設定値を戻すことができます。

- 購入時の設定と変更後の設定をあらかじめ記録しておき、手動で戻す

  万一に備え、設定値を記録しておくことをおすすめします。

  p.179「BIOS Setup ユーティリティの設定値」

- 初期値や前回保存した設定値に戻す

  p.168「設定値を元に戻す」

BIOS Setup ユーティリティの操作

ここでは、「BIOS Setup ユーティリティ」の次の操作方法について説明します。

- ●基本操作（起動、操作、終了）
- ●設定値を元に戻す
- ●パスワードを設定する
- ●HDD アクセス制限
- ●起動（Boot）デバイスの順番を変更する

BIOS Setupユーティリティの起動

本機の電源を入れる前に、キーボードの F2 の位置を確認してください。2 では、すばやく F2 を押す必要があります。

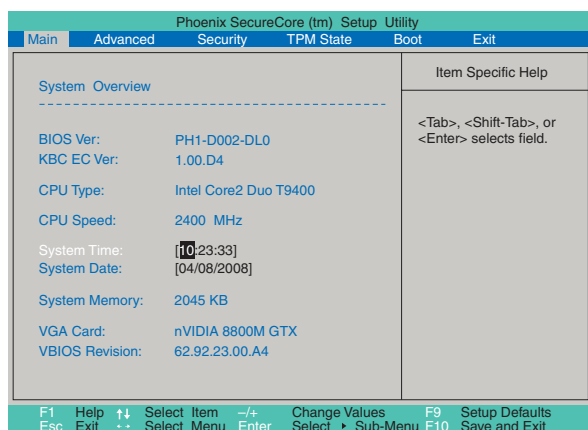
1 本機の電源を入れます。

すでに Windows が起動している場合は、再起動します。

2 本機の起動直後、黒い画面の中央に「EPSON」と表示されたら、すぐにキーボードの F2 を「トン、トン、トン…」と連続的に押します。

Windows が起動してしまった場合は、再起動して 2 をもう一度実行してください。

3 「BIOS Setup ユーティリティ」が起動して「Main」メニュー画面が表示されます。

<BIOS Setupユーティリティ(イメージ)>

仕様が前回と異なるとき

本機の状態が、前回使用していたときと異なる場合には、本機の電源を入れたときに次のメッセージが表示されます。

Press F1 to continue, F2 to enter SETUP

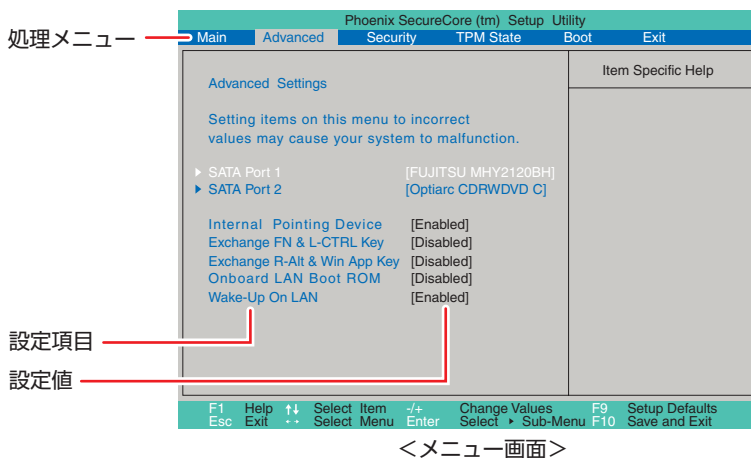
このメッセージが表示されたら F2 を押して BIOS Setup ユーティリティを起動します。通常はそのまま「Exit Saving Changes」を実行して BIOS Setup ユーティリティを終了します。

p.167「BIOS Setup ユーティリティの終了」

BIOS Setupユーティリティの操作

「BIOS Setup ユーティリティ」の操作は、キーボードで行います。

画面の構成

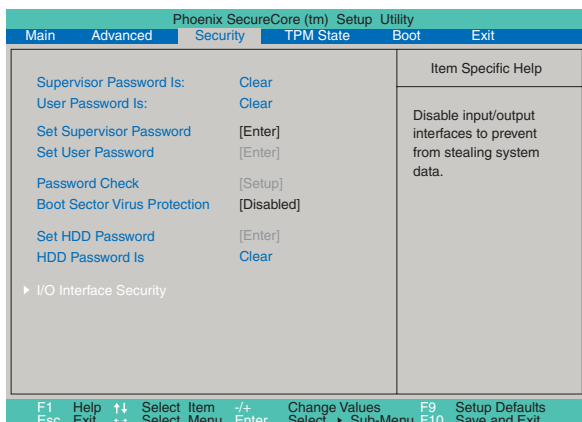
BIOS Setup ユーティリティの画面構成は、次のとおりです。

<メニュー画面>

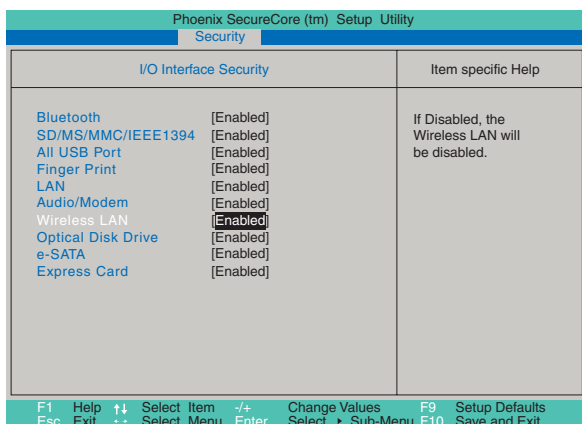
ここで説明に使用している画面はイメージです。実際の設定項目とは異なります。実際の各メニュー画面と設定項目の説明は、p.174「BIOS Setup ユーティリティの設定項目」をご覧ください。

操作方法

BIOS Setup ユーティリティの操作方法は、次のとおりです。

1　処理メニューで設定を変更したい項目のあるメニュー画面に移動し、設定項目を選択します。

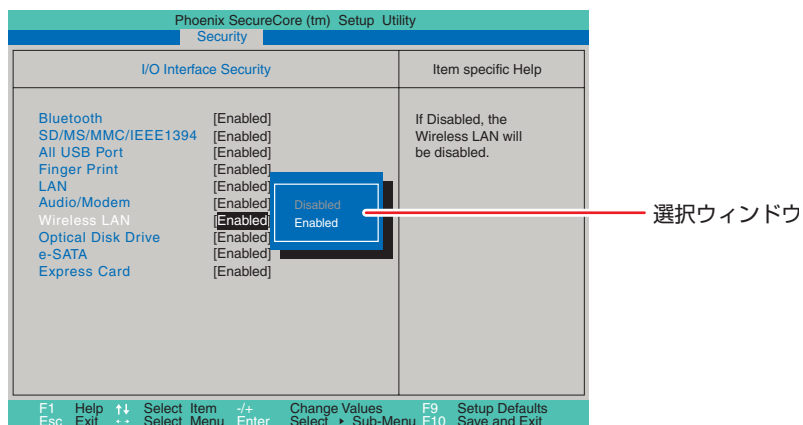
[→] [←] でメニュー間を移動します。
[↑] [↓] で設定値を変更したい項目まで移動します。

▶ のある項目の場合

▶ のある項目の場合、[↵] を押すとサブメニュー画面が表示されます。
[↑] [↓] で設定値を変更したい項目まで移動します。

<サブメニュー画面>

サブメニュー画面から戻るには、[Esc] を押します。

ご使用の前に
1 基本操作
2 装置の増設
3 BIOSの設定
4 再インストール
5 困ったときは
付録

2 設定値を変更します。

[↵] を押して選択ウィンドウを表示し、[↑][↓] で値を選択し、[↵] で決定します。

キー操作一覧

BIOS の画面を操作するときは、次のキーを使用します。

キー	操作できる内容
[↑], [↓]	設定を変更する項目を選択します。
[←], [→]	処理メニューを選択します。
[Fn]+[-]([P せ]) [Fn]+[+]([+ ; れ])	項目の値を変更します。
[↵]	• メニュー画面中の ▶ の付いている項目で押すと、サブメニュー画面を表示します。 • 選択項目の選択ウィンドウを表示します。 • 設定値を選択します。
[Esc]	• 変更した内容を破棄し、終了します。 • サブメニュー画面からメニュー画面に戻ります。
[F1]	ヘルプを表示します。
[F9]	全設定項目の値を初期値に戻します。
[F10]	変更した設定値を保存して終了します。

BIOS Setupユーティリティの終了

「BIOS Setup ユーティリティ」を終了するには、次の 2 つの方法があります。

Exit Saving Changes（変更した内容を保存し終了する）

変更した設定値を保存して、BIOS Setup ユーティリティを終了します。

1 **F10 を押す（または「Exit」メニュー画面ー「Exit Saving Changes」で ↵ を押す）と、次のメッセージが表示されます。**

Setup Confirmation	
Save configuration changes and exit now?	
[Yes]	[No]

2 **[Yes］を選択し、↵ を押します。**

Exit Discarding Changes（変更した内容を破棄し終了する）

変更した設定値を保存せずに、BIOS Setup ユーティリティを終了します。

1 **Esc を押し（または［Exit］メニュー画面ー）「Exit Discarding Changes」で ↵ を押すと、次のメッセージが表示されます。**

Setup Warning	
Configuration has not been saved! Save before exiting?	
[Yes]	[No]

2 **[No］を選択し、↵ を押します。**

設定値が変更されていなければ、1 のメッセージは表示されず、そのまま BIOS Setup ユーティリティが終了し、Windows が起動します。

設定値を元に戻す

「BIOS Setup ユーティリティ」の設定を間違えてしまい、万一本機の動作が不安定になってしまった場合などには、BIOS Setup ユーティリティの設定を初期値や前回保存した値に戻すことができます。

Load Setup Defaults（初期値に戻す）

BIOS Setup ユーティリティの設定を、BIOS の初期値に戻します。

1 F9 を押す（または「Exit」メニュー画面－「Load Setup Defaults」で ↵ を押す）と次のメッセージが表示されます。

Setup Confirmation	
Load default configuration now?	
[Yes]	[No]

2 [Yes] を選択し、↵ を押します。

Discard Changes（前回保存した設定値に戻す）

BIOS Setup ユーティリティを終了せずに、前回保存した設定値に戻します。

1 「Exit」メニュー画面－「Discard Changes」で ↵ を押すと、次のメッセージが表示されます。

Setup Confirmation	
Load previous configuration now?	
[Yes]	[No]

2 [Yes] を選択し、↵ を押します。

パスワードを設定する

「Security」メニュー画面で BIOS のパスワードを設定すると、BIOS や Windows の起動時にパスワードを要求されるようになります。
パスワードの設定は、次のような場合に行います。

- 本機を使用するユーザーを制限したいとき
- パスワードを設定しないと使用できない機能を使いたいとき（HDD アクセス制限など）

パスワードを登録・変更・削除した場合、「Discard Changes」または「Exit Discarding Changes」を実行しても、パスワードの設定を元に戻すことはできません。

パスワードの種類

パスワードには次の 2 種類があります。

- Supervisor Password（管理者パスワード）
  コンピュータの管理者用のパスワードです。管理者パスワードで BIOS にログオンした場合は、すべての項目の閲覧と変更が可能です。
- User Password（ユーザーパスワード）
  一般ユーザー用のパスワードです。ユーザーパスワードで BIOS にログオンした場合は、項目の閲覧や変更が制限されます。

パスワードの設定方法

パスワードの設定方法は、次のとおりです。管理者パスワードを設定すると、ユーザーパスワードを設定できるようになります。

1 **「Security」メニュー画面－「Set Supervisor Password」で ↵ を押します。**

次のメッセージが表示されます。

Set Supervisor Password	
Enter New Password	[ ]
Confirm New Password	[ ]

2 **「Enter New Password」欄にパスワードを入力し、↵ を押します。**

アルファベットの大文字と小文字は区別されません。パスワードは 8 文字まで入力できます。

3 **確認のため、「Confirm New Password」欄に 2 と同じパスワードを入力し、↵ を押します。**

同じパスワードを入力しないと、エラーになります。

4 「Changes have been saved.」と表示されたら、[↵]を押します。

パスワードの設定が完了すると、「Supervisor Password Is」の値が「Set」に変わります。

ユーザーパスワードを設定する場合は、「Set User Password」で同様に設定を行います。

> **制限** 設定したパスワードは、絶対に忘れないようにしてください。パスワードを忘れると、BIOS の設定変更や、設定によっては Windows の起動ができなくなります。
> 万一、パスワードを忘れた場合は、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

続いて、どのタイミングでパスワードを要求するかを設定します。

パスワード入力タイミングの設定

BIOS Setup ユーティリティ起動時や、Windows 起動時など、どのタイミングでパスワードを要求するかを設定します。

☞ p.176「Security メニュー画面」－「Password Check」

パスワードの変更・削除方法

パスワードの変更・削除方法は、次のとおりです。

管理者パスワードの変更・削除方法

管理者パスワードの変更・削除方法は、次のとおりです。管理者パスワードを変更・削除する場合は、管理者パスワードで BIOS にログオンしてください。
管理者パスワードを削除すると、自動的にユーザーパスワードも削除されます。

1 「Security」メニュー画面－「Set Supervisor Password」で[↵]を押します。

次の画面が表示されます。

Set Supervisor Password	
Enter Current Password	[ ]
Enter New Password	[ ]
Confirm New Password	[ ]

2 「Enter Current Password」欄に今まで使用していたパスワードを入力し、[↵]を押します。

3 パスワードを入力します。

パスワードを変更する場合

1. 「Enter New Password」欄に新しいパスワードを入力し、[↵]を押します。
2. 「Confirm New Password」欄に新しいパスワードを入力し、[↵]を押します。

パスワードを削除する場合

❶「Enter New Password」欄に何も入力しないで、【↵】を押します。

❷「Confirm New Password」欄に何も入力しないで、【↵】を押します。

4 「Changes have been saved.」と表示されたら、【↵】を押します。

これでパスワードの変更・削除は完了です。

ユーザーパスワードの変更・削除方法

ユーザーパスワードのみを変更・削除する場合は、「Set User Password」を選択し、管理者パスワードと同様の手順で変更・削除します。

HDDアクセス制限

HDD アクセス制限の設定をすると、次の状態になります。

- BIOS や Windows 起動時、休止状態からの復帰時に管理者パスワードを要求されるようになる
- HDD をほかのコンピュータに接続した場合、HDD にアクセスできないようになる

HDD への無断アクセスや、万が一 HDD が盗難にあった場合の情報流出を防ぎたいときは、HDD アクセス制限の設定をします。

HDD アクセス制限の設定方法

HDD アクセス制限の設定方法は、次のとおりです。

1 管理者パスワードを設定します。

p.169「パスワードの設定方法」

2 HDD アクセス制限の設定をします。

「Security」メニュー画面ー「Set HDD Password」でパスワードを設定します。

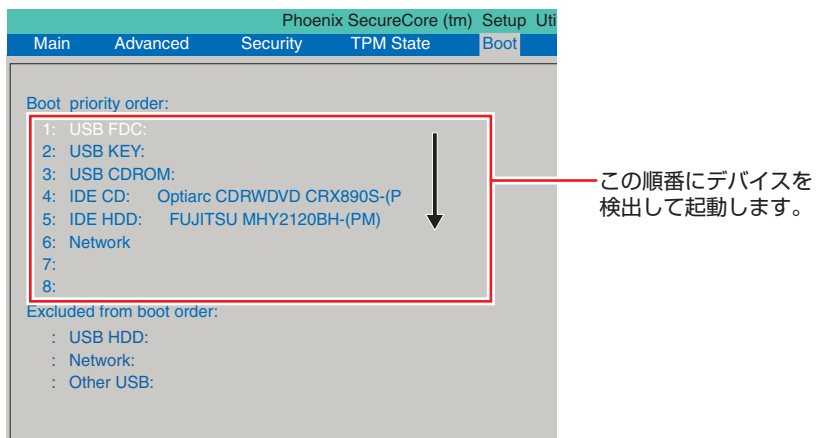
p.176「Security メニュー画面」

制限　パスワードを忘れてしまうと、アクセス制限を設定した HDD は使用できなくなります。登録したパスワードは絶対に忘れないようにしてください。

起動(Boot)デバイスの順番を変更する

本機の電源を入れて起動しようとしたときに、USB フラッシュメモリや USB HDD などを接続していたり、USB FDD に FD がセットされていると、Windows が起動しないことがあります。このような場合、「BIOS Setup ユーティリティ」で設定されている起動（Boot）デバイスの順番を変更すると、起動したいデバイスからシステムを起動することができます。

起動（Boot）デバイスの順番とは

電源を入れると、コンピュータは起動デバイスの順番に従ってデバイスを確認し、最初に見つけたシステム（Windows や OS）から起動します。
起動デバイスの順番の設定は、「Boot」メニュー画面－「Boot priority order」で行います。

<イメージ>

「Boot priority order」に表示されるデバイスと初期の順番は、次のとおりです。

1:　USB FDC（USB FDD）
2:　USB KEY（USB フラッシュメモリ、USB HDD など）
3:　USB CDROM（外付けの USB 光ディスクドライブ）
4:　IDE CD（内蔵の光ディスクドライブ）
5:　IDE HDD（内蔵の HDD）
6:　Network（ネットワーク）

購入時は、USB 記憶装置の順番が HDD より前に設定されているため、USB 記憶装置を接続していると、HDD 内の Windows から起動できません。

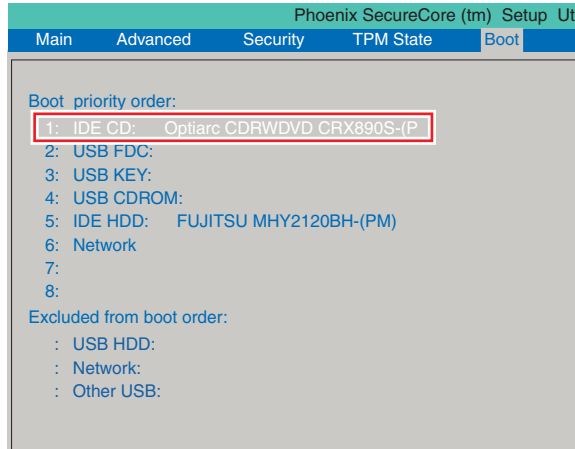
起動（Boot）デバイスの順番の変更方法

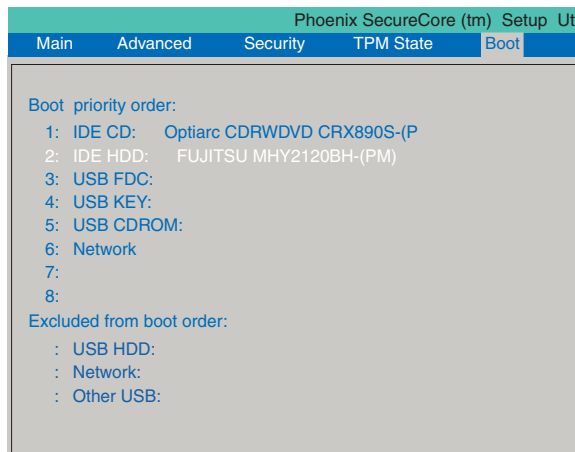
起動デバイスの順番の変更方法は、次のとおりです。ここでは USB 記憶装置を接続した状態で Windows を起動できるように、内蔵の光ディスクドライブ、内蔵の HDD、USB 記憶装置の順番に設定する方法を説明します。

1 「Boot」メニュー画面を開きます。

2 「Boot priority order」で内蔵の光ディスクドライブ（IDE CD）の順番を 1 番目に設定します。

❶ [↓] で「IDE CD」を選択します。

❷ 「IDE CD」が選択された状態で [Fn] ＋ [+;れ] を押すと、「IDE CD」の順番が 1 つ上がります。これを何回か繰り返し、「IDE CD」の順番を 1 番にします。

<イメージ>

3 同様の方法で、HDD の順番を 2 番目に設定します。

起動デバイスの順番が変更になり､USB 記憶装置を接続した状態で Windows を起動できます。

4 BIOS Setup ユーティリティを終了します。

☞ p.167「BIOS Setup ユーティリティの終了」
これで、起動デバイスの変更は完了です。

BIOS Setup ユーティリティの設定項目

ここでは、「BIOS Setup ユーティリティ」で設定できる項目と、設定方法などについて説明します。
BIOS Setup ユーティリティのメニュー画面には、次の 6 つのメニューがあります。

●Main メニュー画面
BIOS や CPU、ビデオの仕様、メモリ容量を確認したり、日付・時刻の設定を行います。

●Advanced メニュー画面
装置の仕様の確認やタッチパッド、キーボード、ネットワークの設定を行います。

●Security メニュー画面
パスワードの設定や、マザーボード上のデバイスに関する設定を行います。

●TPM State メニュー画面
セキュリティチップ（TPM）に関する設定を行います。

●Boot メニュー画面
システムの起動（Boot）に関する設定を行います。

●Exit メニュー画面
BIOS Setup ユーティリティを終了したり、BIOS の設定値を初期値に戻します。

Mainメニュー画面

「Main」メニュー画面では、BIOS や CPU、ビデオの仕様、メモリ容量を確認したり、日付・時刻の設定を行います。
設定項目は、次のとおりです。

* は項目表示のみ

項目	説明
*BIOS Ver	本機に搭載されている BIOS のバージョンを表示します。
*KBC EC Ver	本機に搭載されている EC のバージョンを表示します。
*CPU Type	本機に搭載されている CPU のタイプを自動的に表示します。
*CPU Speed	本機に搭載されている CPU の周波数を自動的に表示します。
System Time	時刻を設定します。（時：分：秒）の順で表示されています。
System Date	日付を設定します。（月 / 日 / 年）の順で表示されています。
*System Memory	メモリ容量を起動時に自動的に計算して表示します。
*VGA Card	本機に搭載されているビデオカードの名称を表示します。
*VBIOS Revision	ビデオ BIOS のバージョンを表示します。

Advancedメニュー画面

「Advanced」メニュー画面では、装置の仕様の確認やタッチパッド、キーボード、ネットワークの設定を行います。
設定項目は、次のとおりです。

は初期値
* は項目表示のみ

項目		説明
SATA Port1		本機に搭載されている HDD の名称を表示します。 サブメニューには、HDD の情報を表示します。
	*Type	本機はデバイスタイプを自動認識します。
	*Total Sectors	セクタの総数を表示します。
	*Maximum Capacity	HDD の容量と仕様を表示します。
	*Multi-Sector Transfers	一度に何セクタ転送できるかを表示します。
	*LBA Mode Control	LBA(Logical Block Addressing)をサポートしているかどうかを表示します。
	*Transfer Mode	装置の転送モード、DMA 転送モードとチャンネルを表示します。
	*Ultra DMA Mode	Ultra DMA 対応装置の転送モードとチャンネルを表示します。
SATA Port2		本機に搭載されている光ディスクドライブの名称を表示します。 サブメニューには、光ディスクドライブの情報を表示します。
	*Type	本機はデバイスタイプを自動認識します。
	*Multi-Sector Transfers	一度に何セクタ転送できるかを表示します。
	*LBA Mode Control	LBA(Logical Block Addressing)をサポートしているかどうかを表示します。
	*Transfer Mode	装置の転送モード、DMA 転送モードとチャンネルを表示します。
	*Ultra DMA Mode	Ultra DMA 対応装置の転送モードとチャンネルを表示します。
Internal Pointing Device		本機のタッチパッドを使用するかどうかを設定します。 Enabled ：タッチパッドを使用します。 Disabled：タッチパッドを使用しません。
Exchange FN & L-CTRL Key		キーボードの左下側にある Fn と、その隣にある Ctrl の機能を入れ替えるかどうかを設定します。 Disabled：Fn と Ctrl の機能を入れ替えません。 Enabled ：Fn と Ctrl の機能を入れ替えます。
Exchange R-Alt & Win App key		キーボードの右下側にある Alt と、その隣にある （アプリケーションキー）の機能を入れ替えるかどうかを設定します。 Disabled：Alt と の機能を入れ替えません。 Enabled ：Alt と の機能を入れ替えます。
Onboard LAN Boot ROM		リモートブートを行う場合は「Enabled」に設定します。 Disabled：無効にします。 Enabled ：有効にします。
Wake-Up On LAN (LAN からの起動設定)		電源切断時やスリープ状態、休止状態において、ネットワークからの信号により起動するかどうかを設定します。この機能は、正常に Windows をシャットダウンまたは省電力状態に移行し、AC アダプタを接続した状態でのみ使用可能です。 Disabled：起動しません。 Enabled ：起動します。

Securityメニュー画面

「Security」メニュー画面では、パスワードの設定や、マザーボード上のデバイスの設定を行います。
パスワードの設定方法は、p.169「パスワードを設定する」をご覧ください。
設定項目は、次のとおりです。

は初期値

* は項目表示のみ

項目	説明
*Supervisor Password Is/ User Password Is	Supervisor Password(管理者パスワード)とUser Password(ユーザーパスワード)が設定されているかどうかを表示します。 Clear ：パスワードが設定されていません。 Set ：パスワードが設定されています。
Set Supervisor Password	Supervisor Password(管理者パスワード)を設定します。BIOS Setupユーティリティ起動時や、Windows起動時にパスワード入力を要求します。 ↵ を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。
Set User Password ※ Supervisor Password(管理者パスワード)を設定すると設定可能になります。	User Password(ユーザーパスワード)を設定します。BIOS Setupユーティリティ起動時や、Windows起動時にパスワード入力を要求します。 ↵ を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。
Password Check ※ Supervisor Password(管理者パスワード)を設定すると設定可能になります。	パスワード入力を要求するタイミングを設定します。 Setup ：BIOS Setupユーティリティ起動時にパスワード入力を要求します。 Always ：BIOS Setupユーティリティや Windows起動時、休止状態からの復帰時にパスワード入力を要求します。
Boot Sector Virus Protection	HDDのブートセクタ(システム領域)への書き込みを禁止するかどうかを設定します。書き込みを禁止すると、ウイルスがHDDのブートセクタ(システム領域)への感染を防ぐことができます。 Disabled： 書き込みを許可します。 Enabled ： 書き込みを禁止します。
Set HDD Password ※ Supervisor Password(管理者パスワード)を設定すると設定可能になります。	HDDへのアクセス制限のパスワード設定をします。パスワード設定をすると、BIOS Setupユーティリティや Windows起動時、休止状態からの復帰時にパスワードの入力が必要になります。また、HDDをほかのコンピュータに接続しても、HDDにアクセスできないようになります。 ↵ を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。
HDD Password Is	HDD Passwordが設定されているかどうかを表示します。 Clear：パスワードが設定されていません。 HDD Password Set：パスワードが設定されています。

I/O Interface Security		インタフェースの有効、無効を設定します。
	Bluetooth （オプション）	Bluetooth 機能の使用を可能にするかどうかを設定します。 Enabled ：Bluetooth 機能の使用を可能にします。 Disabled：Bluetooth 機能の使用を不可にします。 ※ ここで「Enabled」を選択していても、「All USB Port」項目で「Disabled」を選択すると、Bluetooth 機能は使用できなくなります。
	SD/MS/MMC/ IEEE1394	メモリカード /IEEE1394 機能の使用を可能にするかどうかを設定します。 Enabled ：メモリカード /IEEE1394 機能の使用を可能にします。 Disabled：メモリカード /IEEE1394 機能の使用を不可にします。
	All USB Port	USB と指紋認証機能、Bluetooth 機能の使用を可能にするかどうかを設定します。 Enabled ：USB と指紋認証機能、Bluetooth 機能の使用を可能にします。 Disabled：USB と指紋認証機能、Bluetooth 機能の使用を不可にします。 ※ 「Disabled」を選択すると、「Bluetooth」項目と「Finger Print」項目は、表示されなくなり、「Disabled」となります。 ※ 「Disabled」を選択すると、USB タイプの Express カードも使用不可となります。
	Finger Print	指紋認証の使用を可能にするかどうかを設定します。 Enabled ：指紋認証の使用を可能にします。 Disabled：指紋認証の使用を不可にします。 ※ ここで「Enabled」を選択していても、「All USB Port」項目で「Disabled」を選択すると、指紋認証機能は使用できなくなります。
	LAN	ネットワーク（有線 LAN） 機能の使用を可能にするかどうかを設定します。 Enabled ：LAN 機能の使用を可能にします。 Disabled：LAN 機能の使用を不可にします。
	Audio/Modem	サウンド機能と FAX モデム機能の使用を可能にするかどうかを設定します。 Enabled ：サウンド機能と FAX 機能の使用を可能にします。 Disabled：サウンド機能と FAX 機能の使用を不可にします。
	Wireless LAN （オプション）	無線 LAN 機能の使用を可能にするかどうかを設定します。 Enabled ：無線 LAN 機能の使用を可能にします。 Disabled：無線 LAN 機能の使用を不可にします。
	Optical Disk Drive	光ディスクドライブの使用を可能にするかどうかを設定します。 Enabled ：光ディスクドライブの使用を可能にします。 Disabled：光ディスクドライブの使用を不可にします。
	e-SATA	e-SATA 機能の使用を可能にするかどうかを設定します。 Enabled ：e-SATA 機能の使用を可能にします。 Disabled：e-SATA 機能の使用を不可にします。
	Express Card	Express カード機能の使用を可能にするかどうかを設定します。 Enabled ：Express カード機能の使用を可能にします。 Disabled：Express カード機能の使用を不可にします。 ※ 「Disabled」を選択すると、PCI-Express タイプのカードのみ使用不可となります。

TPM Stateメニュー画面

「TPM State」メニュー画面では、セキュリティチップ（TPM）に関する設定を行います。
設定項目は、次のとおりです。

□は初期値

Current TPM State	セキュリティチップ（TPM）の現在の設定状態を表示します。 UNKNOWN：設定が認識できていない状態です。一度 BIOS を終了して、再度 BIOS を起動すると、認識されます。 Disabled and Deactivated：使用できない状態です。 Enabled and Activated：使用可能な状態です。
Change TPM State	セキュリティチップ（TPM）の機能を使用するかどうか、また初期化するかどうかを設定します。 No Change：設定を変更しません。 Enabled：セキュリティチップ機能を使用します。 Disabled：セキュリティチップ機能を使用しません。 Clear & Enabled：初期化してから、セキュリティチップ機能の使用を可能にします。 機能を使用する場合の設定方法は、p.239「セキュリティチップ（TPM）によるデータの暗号化」をご覧ください。 初期化の方法は、p.215「セキュリティチップ（TPM）の不具合」をご覧ください。 初期化を行うと、それまでに暗号化されたデータを使用することができなくなります。また、Windows Vista の HDD 暗号化機能「BitLocker」を使用している状態で初期化を行うと、Windows が起動できなくなり、暗号化している HDD 内のデータも使用できなくなります。 セキュリティチップの初期化は、十分に注意し、お客様の責任において行ってください。

Bootメニュー画面

「Boot」メニュー画面では、システムの起動（Boot）に関する設定を行います。
設定項目は、次のとおりです。

Boot priority order		システムを起動するデバイスの順番を設定します。
	1: USB FDC	USB FDD から起動します。
	2: USB KEY	USB フラッシュメモリから起動します。
	3: USB CDROM	USB 接続の光ディスクドライブから起動します。
	4: IDE CD	内蔵の光ディスクドライブから起動します。
	5: IDE HDD	内蔵の HDD から起動します。
	6: Network	ネットワークから起動します。
Excluded from boot order		システムの検出対象から外すデバイスを設定します。
	USB HDD	このデバイスからは起動しません。
	Network	このデバイスからは起動しません。
	Other USB	このデバイスからは起動しません。

Exitメニュー画面

「Exit」メニュー画面では、「BIOS Setup ユーティリティ」を終了したり、BIOS の設定を初期値に戻したりします。
設定項目は、次のとおりです。

Exit Saving Changes	変更した内容（設定値）を保存してから、BIOS Setup ユーティリティを終了します。
Exit Discarding Changes	変更した内容（設定値）を保存せずに、BIOS Setup ユーティリティを終了します。
Load Setup Defaults	BIOS Setup ユーティリティの設定値を、BIOS の初期設定値に戻します。
Discard Changes	BIOS Setup ユーティリティを終了せずに、変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。
Save Changes	BIOS Setup ユーティリティを終了せずに、変更した設定値を保存します。

BIOS Setupユーティリティの設定値

「BIOS Setup ユーティリティ」で設定を変更した場合は、変更内容を下表に記録しておくと便利です。
購入時の設定および変更した内容は必ず記録してください。

Advanced メニュー画面

項目	購入時の設定		変更内容	
Internal Pointing Device	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Exchange FN & L-CTRL Key	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Exchange R-Alt & Win App key	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Onboard LAN Boot ROM	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Wake-up On LAN	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

Security メニュー画面

項目		購入時の設定		変更内容	
Supervisor Password Is		Clear	Set	Clear	Set
User Password Is		Clear	Set	Clear	Set
Password Check		Setup	Always	Setup	Always
Boot Sector Virus Protection		Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
HDD Password Is		Clear	HDD Password Set	Clear	HDD Password Set
I/O Interface Security	Bluetooth	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	SD/MS/MMC/ IEEE1394	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	All USB Port	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Finger Print	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	LAN	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Audio/Modem	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Wireless LAN	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Optical Disk Drive	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	e-SATA	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Express Card	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

TPM State メニュー画面

項目	購入時の設定		変更内容	
Current TPM State	Disabled and Deactivated	Enabled and Activated	Disabled and Deactivated	Enabled and Activated

Boot メニュー画面

項目		購入時の設定	変更内容
Boot priority order	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
Excluded from boot order			

ソフトウェアの再インストール

ソフトウェアを再インストールする手順について説明します。

再インストールする前に必ずお読みください

ここでは、ソフトウェアの再インストールを行う前に知っておいていただきたい情報について記載しています。
HDD をフォーマットして、Windows や本体ドライバなどをインストールしなおす作業のことを、本書では「再インストール」と記載します。
再インストールは、「リカバリ」とも言います。

再インストールが必要な場合

再インストールは次のような場合に行います。通常は必要ありません。

- なんらかの原因で Windows が起動しなくなり、修復しても問題が解決できない場合
- HDD 領域の構成を変更したい場合

Windows を修復する

なんらかの原因で Windows が起動しなくなった場合は、再インストールを行う前に「Windows 回復環境」で Windows の修復を行ってみてください。再インストールしなくても問題が解決する場合があります。
p.228「Windows 回復環境（Windows RE）を使う」

重要事項

再インストールする前に、次の重要事項を必ずお読みください。

当社製以外の BIOS へのアップデート禁止

当社製以外の BIOS へのアップデートは絶対にしないでください。当社製以外の BIOS にアップデートすると、再インストールができなくなります。

セキュリティソフトウェアの更新サービス

本機に添付のセキュリティソフトウェア「Norton Internet Security 90 日版」で、90 日経過後に更新サービスの延長キーを購入して更新サービスを継続している場合、再インストールを行うと更新サービスの延長が無効になります。更新サービスの延長が無効になってしまった場合は、シマンテックストアまでお問い合わせください。
別冊 『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』

Web フィルタリングソフトウェアの継続利用

本機に添付の Web フィルタリングソフトウェア「i －フィルター 30 日版」で継続利用手続きを行っている場合、Windows を再インストールすると利用期限が 30 日に設定されてしまいます。この場合は、デジタルアーツ社のホームページから最新版を入手し、契約済みのシリアル ID を利用してインストールを行ってください。

詳細は、デジタルアーツ社にお問い合わせください。

http://www.daj.jp/cs/ifpe/sup_dl.htm

最新の情報

インストール方法に関する最新情報を記載した紙類が添付されている場合があります。梱包品を確認して、紙類が添付されている場合は、その手順に従って作業をすすめてください。

ソフトウェアの再インストールを行う

ここでは、ソフトウェアの再インストール方法について記載しています。

必要なメディア

再インストールには、次のメディアが必要です。

●Windows Vista リカバリ DVD

Windows Vista が収録されている DVD-ROM です。

●リカバリツール CD

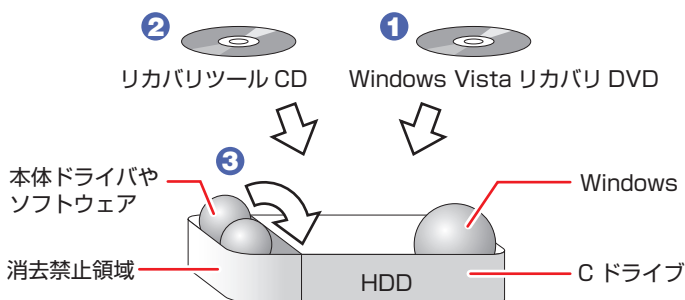
本体ドライバやソフトウェアを、HDD の「消去禁止領域」からインストールするためのプログラムが収録されている CD-ROM です。

●そのほか必要なメディア

お使いのシステム構成によって必要なメディアは異なります。

本体ドライバやソフトウェアは、HDD の消去禁止領域に収録されています。
専用のメディアは添付されていません。
p.28「添付されているソフトウェア」

再インストールの概要

ソフトウェアの再インストールの概要は、次のとおりです。

❶ Windows Vista リカバリ DVD から、Windows をインストールします。

❷ リカバリツール CD から、リカバリツールをインストールします。

HDD の消去禁止領域に収録されている本体ドライバやソフトウェアのインストールは、リカバリツールを使用して行います。

❸ リカバリツールを使用して、本体ドライバやソフトウェアをインストールします。

インストールの順番

再インストールは、次の順番で行います。☞ p.188 以降の手順に従ってインストールを行ってください。

のソフトウェアは、必ずインストールを行います。

購入時のインストール状態は、☞ p.28「添付されているソフトウェア」で確認してください。

1. Windows
2. リカバリツール
3. 本体ドライバ
4. Bluetooth ユーティリティ（Bluetooth 機能搭載時）
5. Adobe Reader
6. セキュリティソフトウェア
7. マニュアルびゅーわ
8. Nero 8 Essentials
9. WinDVD
10. Web フィルタリングソフトウェア
11. JWord Plugin
12. goo スティック
13. マカフィー Site Advisor Plus 30 日版
14. そのほかのインストール
15. 再インストール後の作業

インストール作業における確認事項

再インストールを始める前に、下記の点を確認してください。

●インストール全般

インストール作業は、AC アダプタを接続して行ってください。

●管理者（Administrator）のアカウントでログオン

インストール作業は、管理者（Administrator）のアカウントでログオンして行ってください。

●システム構成

本章のインストール手順は、購入時のシステム構成を前提にしています。インストールは、BIOS の設定とシステム構成を購入時の状態に戻して行うことをおすすめします。

● ドライブ名

本章の説明では、ドライブ構成が次のようになっているものとします。
光ディスクドライブのドライブ名は、HDD 領域の数によって異なります。

A ドライブ : USB FDD(オプション)

C ドライブ : HDD

D ドライブ : 光ディスクドライブ

● 各種設定やデータのバックアップ

再インストールを行うと、設定した事項が初期値に戻ってしまったり、データが消えてしまったりします。再インストールを行う前に必要に応じて設定を書き写したり、データのバックアップを行っておいてください。

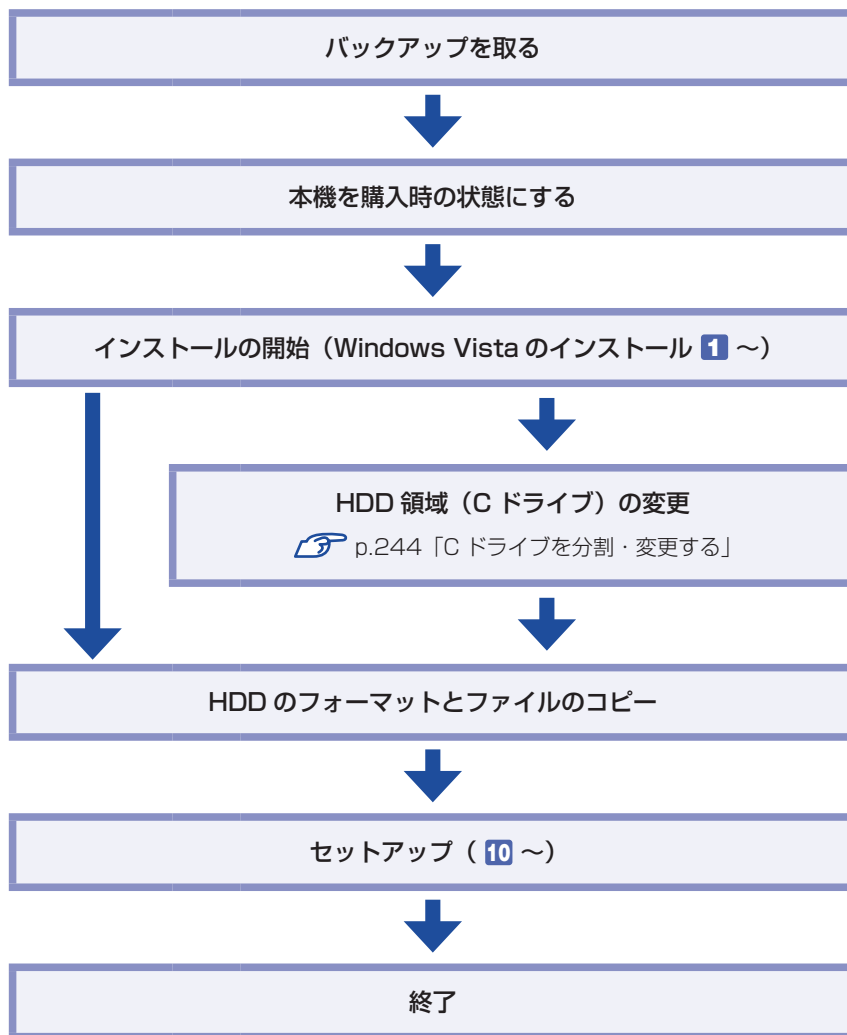
p.188「バックアップを取る」

● 初期設定ツール

初期設定ツールは、Windows を再インストールすると消去されます。
初期設定ツールでインストールした「セキュリティソフトウェア」などのソフトウェアは、以降で説明する手順に従ってインストールを行ってください。

Windowsのインストール

インストールの流れ

Windows のインストールの主な流れは、次のとおりです。
インストール作業は、p.188「Windows Vista のインストール」以降の手順に従って行ってください。

HDD 領域（C ドライブ）を変更するには

Windows のインストール中に C ドライブ（Windows がインストールされている領域）のサイズを変更したり、分割したりすることができます。
HDD 領域の変更や、分割の詳しい説明は、p.241「HDD 領域（ドライブ）の分割・変更・作成」 をご覧ください。

Windows Vistaをインストールする

バックアップを取る

C ドライブの設定やデータは、Windows の再インストールを行うと消えてしまいます。再インストールの前に、次の設定やデータのバックアップを行ってください。*

●ネットワークやモデムの設定

接続に関する設定を書き写しておいてください。

●Internet Explorer の「お気に入り」・Windows メールの「連絡先」「メールデータ」

p.235「データのバックアップ」

このほかの Web 閲覧ソフトやメールソフトをお使いの場合は、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

●セキュリティチップユーティリティの設定

セキュリティチップユーティリティを使用している場合は、設定のバックアップを行ってください。

『セキュリティ機能(TPM)設定ガイド』(別冊)－「Windows を再インストールする前に」

●そのほかの重要なデータ

p.235「データのバックアップ」

* 再インストール中に HDD 領域の変更を行うと、C ドライブ以外のドライブ(D や E など)のデータも消えてしまいますので、バックアップを行ってください。
HDD 領域の変更を行わない場合でも、念のためバックアップすることをおすすめします。

コンピュータを購入時の状態にする

マウスなどの周辺機器が接続されていたり、BIOS の設定値が変更されていたりすると、正常にインストールが行われない可能性があります。本機を購入時の状態に戻してから再インストールを行ってください。

Windows Vista のインストール

Windows Vista のインストール手順は、次のとおりです。

1 コンピュータの電源を入れ、Windows が起動したら、「Windows Vista リカバリDVD」を光ディスクドライブにセットします。

「自動再生」画面が表示されたら、[×] をクリックし、画面を閉じてください。

ここからはインストールを行いません。

2 「スタート」－[▶]－「再起動」をクリックして、コンピュータを再起動します。

3 「EPSON」と表示後、黒い画面に「Press any key to boot from CD or DVD.」と表示されたら、どれかキーを押します。

一定時間内にキーを押さないと、HDD 内の Windows Vista が起動してしまいます。
Windows Vista が起動してしまった場合は、2 へ戻ります。

4 「システム回復オプション」画面が表示されたら、キーボードレイアウトが「日本語」になっていることを確認し、[次へ] をクリックします。

ここで HDD 内の Windows のチェックが行われます。Windows の修復を促す画面が表示された場合は、画面の指示に従って修復を行ってください。

5 「修復するオペレーティングシステムを選択し…」と表示されたら、「Microsoft Windows Vista」が選択された状態で [次へ] をクリックします。

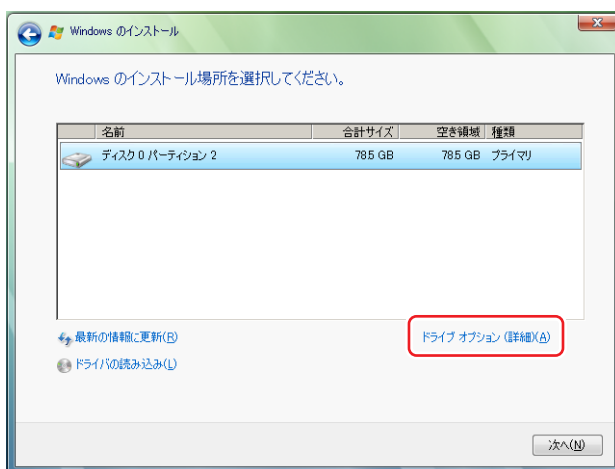
6 「回復ツールを選択してください」と表示されたら、「Windows の再インストール」をクリックします。

7 「Windows の再インストールを行います。」と表示されたら、[再インストール] をクリックします。

8 「ライセンス条項をお読みください。」と表示されたら、内容を確認し、「条項に同意します」にチェックを付けて、[次へ] をクリックします。

9 「Windows のインストール場所を選択してください。」と表示されたら、次のとおり作業を続けます。

領域変更を行わない場合（通常）

❶ 「ドライブオプション（詳細）」をクリックします。

❷ 「ディスク 0 パーティション 2」（C ドライブ）が選択された状態で「フォーマット」をクリックします。

❸「このパーティションをフォーマットすると…」と表示されたら、[OK] をクリックします。

フォーマットが開始されます。

❹ フォーマットが終了すると、[次へ] がクリックできる状態になります。
「ディスク 0 パーティション 2」(C ドライブ) が選択された状態で [次へ] をクリックします。

Windows Vista のインストールが開始されます。システム構成にもよりますが、インストールは 20 分～ 40 分かかります。10 の画面が表示されるまでキーボードやタッチパッドは操作しないでください。

領域変更を行う場合

p.244「C ドライブを分割・変更する」の手順に従ってください。

10 **「ユーザー名と画像の選択」と表示されたら、ユーザー名、パスワード(任意)を入力し、画像一覧からお好みの画像をクリックして選択し、[次へ] をクリックします。**

11 **「コンピュータ名を入力して、デスクトップの背景を選択してください。」と表示されたら、コンピュータ名を入力し、背景一覧からお好みの背景をクリックして選択し、[次へ] をクリックします。**

12 **「Windows を自動的に保護するよう設定してください」と表示されたら、保護の設定をクリックして選択します。**

「推奨設定を使用します」を選択することをおすすめします。

13 **「時刻と日付の設定の確認」と表示されたら、「タイムゾーン」が「大阪、札幌、東京」になっていることを確認し、「日付」、「時刻」を設定し、[次へ] をクリックします。**

14 **ネットワークに接続している場合、「お使いのコンピュータの現在の場所を選択してください」と表示されます。場所をクリックして選択します。**

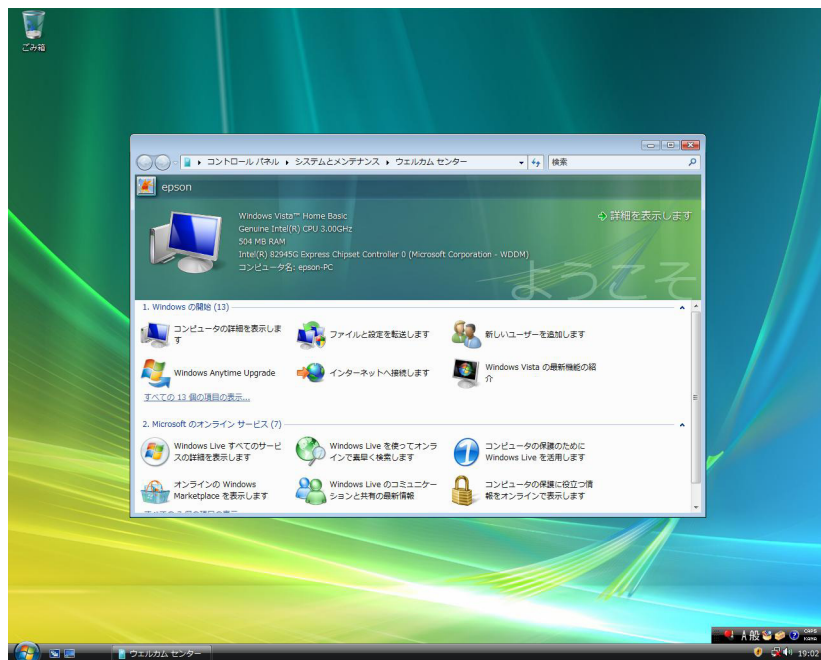
購入時の構成によっては、表示されない場合があります。表示されない場合は、次の手順に進みます。

15 **「ありがとうございます」と表示されたら、[開始] をクリックします。**

設定が行われます。設定には約 5 分かかります。

16 **10 でパスワードを設定した場合は、パスワード入力画面が表示されます。パスワードを入力して、↵ を押します。**

17 Windows Vista のデスクトップ（下記の画面）が表示されたら、「Windows Vista リカバリ DVD」を取り出します。

デスクトップの背景は、11 で選択した背景が表示されます。

これで Windows Vista のインストールは完了です。

18 9 で領域変更を行った場合は、「未割り当ての領域」に領域（パーティション）を作成します。

領域（パーティション）の作成は、ドライバやソフトウェアのインストールが終了してから行っても構いません。

p.245「C ドライブ以外のドライブを作成・変更する」

リカバリツールのインストール

リカバリツールは、HDD の消去禁止領域に収録されている本体ドライバやソフトウェアのインストールの際に使用します。
リカバリツールのインストールは、次の手順で行います。

1 「リカバリツール CD」を光ディスクドライブにセットします。

2 「自動再生」画面が表示されたら、「setup.exe の実行」をクリックします。

「自動再生」画面が表示されない場合は、［スタート］ －「コンピュータ」 －「EPSON_CD」をダブルクリックします。

3 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、［続行］をクリックします。

4 以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

インストールが完了すると、デスクトップ上に「リカバリツール」アイコンが表示されます。

5 「リカバリツール CD」を光ディスクドライブから取り出します。

これで「リカバリツール」のインストールは完了です。

本体ドライバのインストール

本機のマザーボード上に搭載されているデバイスのドライバ類を、一括してインストールします。インストールの手順は、次のとおりです。

1 デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。

2 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、［続行］をクリックします。

3 「リカバリツール」画面が表示されたら、［インストール］をクリックします。

4 本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「本体ドライバ」を選択して［インストール］をクリックします。

<イメージ>

5 「ドライバ・ソフトウェアのインストール」画面が表示されたら、一覧から［インストール］をクリックします。

6 「インストール確認」画面が表示されたら、内容をよくお読みになり［OK］をクリックします。

各ドライバが自動的にインストールされます。インストールには約 10 分かかります。

7 「これらの変更を…コンピュータを再起動する必要があります。」と表示されたら、[後で再起動する]をクリックします。

8 「リカバリツール」画面が表示されたら、 をクリックして画面を閉じます。

9 「インストールが完了しました。」と表示されたら、[OK]をクリックします。

10 「インストール処理」画面が表示されたら、ドライバのインストール状態を確認し、[PC 再起動]をクリックします。

11 再起動後に「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行]をクリックします。

これで、本体ドライバのインストールは完了です。

リカバリツールの[ファイル削除]の表示について

リカバリツールからインストールを行う際、ソフトウェアによっては一時的に HDD にインストール用データをコピーします。「リカバリツール」画面で[ファイル削除]が黒字で表示されるときは、コピーされた不要なインストール用データが HDD に残っています。[ファイル削除]をクリックしてデータを削除すると、HDD の容量を節約することができます。

Bluetoothユーティリティのインストール

Bluetooth 機能搭載時

「Bluetooth ユーティリティ」は Bluetooth 機能を使用するためのユーティリティです。
Bluetooth ユーティリティのインストール手順は、次のとおりです。

1 デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。

2 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行]をクリックします。

3 「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール]をクリックします。

4 本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「Bluetooth ユーティリティ」を選択して[インストール]をクリックします。

5 「セットアップ言語の選択」画面が表示されたら、「日本語(日本)」と表示されていることを確認して、[OK]をクリックします。

6 「Bluesoleil…へようこそ」と表示されたら、[次へ]をクリックします。

7 「使用許諾契約」と表示されたら、「使用許諾契約書」に同意するかしないかを選択します。

同意する場合は、「使用許諾の条項に同意します」を選択し、[次へ]をクリックします。「使用許諾の条項に同意しません」を選択すると、インストールはできません。

8 「インストール先のフォルダ」と表示されたら、［次へ］をクリックします。

9 「プログラムをインストールする準備ができました」と表示されたら、［インストール］をクリックします。

インストールが開始されます。

10 「InstallShield ウィザードを完了しました」と表示されたら、［完了］をクリックします。

11 「Bluesoleil…の Installer 情報」画面が表示されたら、内容をお読みになり、［はい］をクリックします。

Windows が再起動したら、Bluetooth ユーティリティのインストールは完了です。

Adobe Readerのインストール

「Adobe Reader」は、PDF形式のファイルを表示したり、印刷したりするためのソフトウェアです。

インストール

Adobe Reader のインストール手順は、次のとおりです。

1 デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。

2 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、［続行］をクリックします。

3 「リカバリツール」画面が表示されたら、［インストール］をクリックします。

4 本体ドライバーやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「Adobe Reader」を選択して［インストール］をクリックします。

5 「インストール先のフォルダ」と表示されたら、［次へ］をクリックします。

6 「プログラムをインストールする準備ができました」と表示されたら、［インストール］をクリックします。

インストールにはしばらく時間がかかります。

7 「セットアップ完了」と表示されたら、［完了］をクリックします。

続いて Adobe Reader のセットアップを行います。

セットアップ

インストールが完了したら、続いてセットアップを行います。Adobe Reader のセットアップ手順は次のとおりです。

1 **デスクトップ上の「Adobe Reader」アイコンをダブルクリックします。**

2 **「使用許諾契約書」が表示されたら、「使用許諾契約書」に同意するかしないかを選択します。**

同意する場合は、[同意する] をクリックします。[同意しない] を選択すると、Adobe Reader は使用できません。

これで、Adobe Reader のセットアップは完了です。

セキュリティソフトウェアのインストール

本機に添付のセキュリティソフトウェア「Norton Internet Security 90 日版」をインストールします。別冊『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』をご覧ください。
市販のセキュリティソフトウェアなどをインストールする場合は、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧になり、インストールを行ってください。

マニュアルびゅーわのインストール

「マニュアルびゅーわ」は、本機に添付されているマニュアルやお知らせを見るためのソフトウェアです。
マニュアルびゅーわのインストール手順は、次のとおりです。

1 **デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。**

2 **「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。**

3 **「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。**

4 **本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「マニュアルびゅーわ」を選択して [インストール] をクリックします。**

5 **「マニュアルびゅーわセットアップへようこそ」画面が表示されたら、[次へ] をクリックします。**

6 **「インストール準備の完了」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。**

7 **「InstallShield Wizard の完了」画面が表示されたら、[完了] をクリックします。**

これでマニュアルびゅーわのインストールは完了です。

Nero 8 Essentialsのインストール

「Nero 8 Essentials」は、光ディスクドライブで書き込みを行うためのソフトウェアです。
Nero 8 Essentials のインストール手順は、次のとおりです。
Nero 8 Essentials をインストールすると、InCD もインストールされます。

1. デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。
2. 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。
3. 「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。
4. 本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「Nero 8 Essentials」を選択して [インストール] をクリックします。
5. 「Nero マルチインストーラ」画面が表示されたら、[Nero 8 Essentials] をクリックします。
6. 「Nero 8 Essentials インストールウィザード」と表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

WinDVDのインストール

「WinDVD」は、DVD VIDEO を再生するためのソフトウェアです。
WinDVD のインストール手順は、次のとおりです。

1. デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。
2. 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。
3. 「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。
4. 本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「InterVideo WinDVD」を選択して [インストール] をクリックします。
5. 「InstallShield Wizard」画面が表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

Webフィルタリングソフトウェアのインストール

本機に添付の「i ーフィルター 30 日版」をインストールします。i ーフィルター 30 日版は、有害サイトをブロックするための Web フィルタリングソフトウェアです。
市販の Web フィルタリングソフトウェアなどをインストールする場合は、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧になり、インストールを行ってください。

i ーフィルター 30 日版のインストール

i ーフィルター 30 日版のインストール手順は、次のとおりです。

1. **デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。**
2. **「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。**
3. **「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。**
4. **本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「i ーフィルター 30 日版」を選択して [インストール] をクリックします。**
5. **「i ーフィルター・・・ インストール」と表示されたら、[次へ] をクリックします。**
6. **「使用許諾契約」と表示されたら、「使用許諾契約の全条項に同意します」を選択して、[次へ] をクリックします。**
7. **「セットアップタイプ」と表示されたら、[次へ] をクリックします。**
8. **「インストール準備の完了」と表示されたら、[インストール] をクリックします。**
9. **デスクトップ上に「i ーフィルター」アイコンが表示されたら、[スタート] ー [▶] ー「再起動」をクリックして、本機を再起動します。**

Windows が再起動したら、i ーフィルター 30 日版のインストールは完了です。続いて、ユーザー登録を行います。

i－フィルター 30 日版のユーザー登録

i－フィルター 30 日版を使用するには、ユーザー登録が必要です。
ユーザー登録はインターネット接続後に行います。
ユーザー登録の手順は、次のとおりです。

1 **Windows が再起動して「i－フィルター…」画面が表示されたら、使用許諾契約書の内容をよくお読みになり、[「i－フィルター」を使ってみる］をクリックします。**

「i－フィルター…」画面はほかの画面の後ろにある場合があります。

2 **「「i－フィルター」の開始」と表示されたら、次の作業を行います。**

初回ユーザー登録時

1. ［次へ］をクリックします。
2. 「無料お試し版ダウンロード お申し込み」と表示されたら、「お申し込みの入力」で「E-Mail アドレス」、「お名前」、「管理パスワード」、「管理パスワード［確認入力］」を入力します。
   「管理パスワード」は設定画面を開くときに必要になりますので、忘れないようにしてください。
3. 「情報メール配信設定」で情報メールの配信を希望するかしないかを選択します。
4. ［同意して確認画面へ］をクリックします。
5. 「お申し込み内容の確認」と表示されたら、内容を確認し、［登録する］をクリックします。
6. 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、［続行］をクリックします。
7. 「お客様情報登録完了」と表示されたら、「登録内容」に記載されている「シリアル ID」と「利用期限」を確認しておきます。
   同時に、登録した E-Mail アドレスにも「シリアル ID」と「利用期限」が記載された登録完了メールが配信されます。
   一度登録を行うと、同じ E-Mail アドレスでの再登録はできません。2 回目以降のユーザー登録は、登録完了メールに記載されている「シリアル ID」を使用して登録を行いますので、「シリアル ID」は必ず控えておいてください。
8. ［完了］をクリックします。

2 回目以降のユーザー登録時

1. ［シリアル ID を持っているお客さま］をクリックします。
2. 「シリアル ID のご確認」で、初回ユーザー登録時に配信された「シリアル ID」を入力します。
3. 「管理パスワードの設定」で「管理パスワード」と「管理パスワード［確認入力］」を入力します。
   「管理パスワード」は設定画面を開くときに必要になりますので、忘れないようにしてください。
4. ［次へ］をクリックします。

❺「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、［続行］をクリックします。

❻「シリアル ID を確認しました」と表示されたら、［完了］をクリックします。

これで、i－フィルター 30 日版のユーザー登録は完了です。

JWord Pluginのインストール

「JWord Plugin」は、Internet Explorer のアドレスバーから、日本語でインターネットを検索できるソフトウェアです。
JWord Plugin のインストール手順は、次のとおりです。

1 **デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。**

2 **「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、［続行］をクリックします。**

3 **「リカバリツール」画面が表示されたら、［インストール］をクリックします。**

4 **本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「JWord Plugin」を選択して［インストール］をクリックします。**

5 **「JWord プラグイン…へようこそ」画面が表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。**

gooスティックのインストール

「goo スティック」は、Internet Explorer のツールバーに、検索サービス「goo」の検索ボックスを追加するソフトウェアです。
goo スティックのインストール手順は、次のとおりです。

1 **デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。**

2 **「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、［続行］をクリックします。**

3 **「リカバリツール」画面が表示されたら、［インストール］をクリックします。**

4 **本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「goo スティック」を選択して［インストール］をクリックします。**

5 **「インストールが完了しました。」と表示されたら、［OK］をクリックします。**
これで、goo スティックのインストールは完了です。

マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版のインストール

「マカフィー SiteAdvisor Plus 30 日版」は、Web サイトの安全性を表示し、危険なサイトへのアクセスを防ぐ Web セーフティツールです。

インストール

マカフィー SiteAdvisor Plus 30 日版のインストール手順は、次のとおりです。

1 **デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。**

2 **「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。**

3 **「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。**

4 **本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「マカフィー SiteAdvisor Plus 30 日版」を選択して [インストール] をクリックします。**

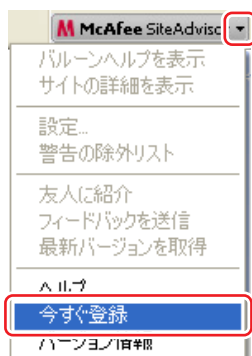
5 **「McAfee SecurityCenter」画面が表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。**

インストールが完了したら、続いてユーザー登録を行います。

ユーザー登録

マカフィー SiteAdvisor Plus 30 日版を使用するには、ユーザー登録が必要です。
ユーザー登録はインターネット接続後に行います。
ユーザー登録の手順は、次のとおりです。

1 **Internet Explorer を起動します。**

2 **Internet Explorer のツールバーに表示される [McAfee SiteAdvisor] の ▼ をクリックして、表示された一覧から「今すぐ登録」をクリックします。**

3 **表示された画面に従ってユーザー登録を行います。**

ユーザー登録が完了すると、マカフィー SiteAdvisor Plus 30 日版が使用可能になります。

そのほかのインストール

必要に応じて次のインストールを行ってください。

指紋認証ユーティリティのインストール

「指紋認証ユーティリティ」をインストールすると、指紋認証機能を使用することができます。
必要に応じてインストールを行ってください。
指紋認証ユーティリティのインストール手順は、次のとおりです。

1. **デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。**
2. **「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。**
3. **「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。**
4. **本体ドライバやソフトウェアの一覧が表示されたら、一覧から「指紋認証ユーティリティ」を選択して [インストール] をクリックします。**
5. **「Protector Suite …インストールウィザードへようこそ」と表示されたら、[次へ] をクリックします。**
6. **「保存先フォルダ」と表示されたら、[次へ] をクリックします。**
7. **「アプリケーションのインストール準備をする」と表示されたら、[次へ] をクリックします。**
   インストールが開始されます。インストールにはしばらく時間がかかります。
8. **「Protector Suite …は、正常にインストールされました。」と表示されたら、[完了] をクリックします。**
9. **「Protector Suite …セットアップ」画面が表示されたら、内容をお読みになり、[はい] をクリックします。**
   Windows が再起動したら、指紋認証ユーティリティのインストールは完了です。

続いて、指紋を登録します。p.106「指紋の登録」をご覧ください。

セキュリティチップユーティリティのインストール

「セキュリティチップユーティリティ」は、セキュリティチップの設定を行うためのユーティリティです。詳しくは、別冊『セキュリティ機能（TPM）設定ガイド』をご覧ください。

各種ドライバのインストール

お使いになるシステム構成によって、ドライバやユーティリティ、ソフトウェアなどのインストールが必要です。インストールは、オプション機器類に添付されているメディアを使用して行います。詳しくは、本機でお使いになるオプション機器類に添付のマニュアルをご覧ください。

インストールが必要なドライバの例

お使いになるシステム構成によって、次のようなドライバやユーティリティが必要になります。

- USB 対応機器を使用する場合 ：USB 機器に添付のドライバ
- プリンタを使用する場合 ：プリンタに添付のドライバ

そのほかのソフトウェアのインストール

「Office」など、そのほかに使用するソフトウェアがある場合は、インストールします。インストール方法は、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

再インストール後の作業

再インストールが完了したら、必要に応じて次の作業を行ってください。

領域の作成

Windows のインストール中に HDD 領域を変更した場合、未設定領域はそのままでは使用できません。Windows の「ディスクの管理」を使用して領域の作成を行います。

p.247「HDD 領域（パーティション）の作成手順」

ネットワークの設定

ネットワーク（有線 LAN）や無線 LAN を使用する場合は、ネットワークへの接続を行います。

p.110「ネットワーク（有線 LAN）を使う」
p.112「無線 LAN を使う（オプション）」

モデムの設定

モデムを使用してダイヤルアップ接続をする場合は、設定を行います。

p.139「ダイヤル情報の設定」

バックアップしたデータの復元

再インストールを行う前にバックアップしたデータを復元します。

p.188「バックアップを取る」

●Internet Explorer、Windows メールの設定の復元

●重要なデータ

バックアップ先のメディアなどから元に戻します。

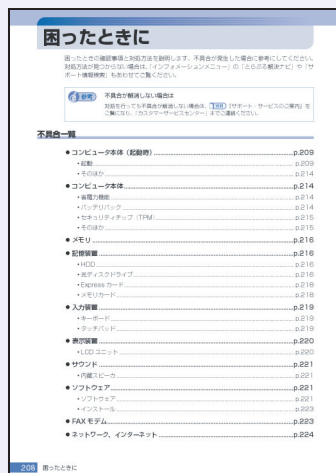
Windows Update

Windows の再インストールを行うと、今までに行った「Windows Update」のプログラムがインストールされていない状態に戻ります。

自動更新の設定がされていると、更新プログラムが自動的にダウンロード、インストールされ、Windows が最新の状態になります。

p.129「Windows Update」

こんなときは

困ったときの確認事項や対処方法などについて説明します。

トラブルが発生したら

操作中に困ったとき、またトラブルが発生したときは、次の手順で解決方法を探してください。

1 本書のトラブル解決ページをご覧ください

以下のページをご覧ください。トラブルが発生した場合のさまざまな確認事項と対処方法を記載しています。

p.208「困ったときに」
p.225「システム診断ツールを使う」
p.226「トラブル時に役立つ機能」

困ったときに

困ったときの確認事項と対処方法を説明します。不具合が発生した場合に参考にしてください。対処方法が見つからない場合は、「インフォメーションメニュー」の「とらぶる解決ナビ」や「サポート情報検索」もあわせてご覧ください。

参考 不具合が解消しない場合は
対処を行っても不具合が解消しない場合は、別冊『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、「カスタマーサービスセンター」までご連絡ください。

不具合一覧

208 困ったときに

解決しなかったら

2 とらぶる解決ナビをご利用ください

起動できる場合は、本機に搭載されている「インフォメーションメニュー」から、「とらぶる解決ナビ」をご覧ください。「とらぶる解決ナビ」には、技術的な情報やトラブルの解決方法などを収録しています。

解決しなかったら

3 ユーザーサポートページ（Web）をご利用ください

インターネットに接続できる場合は、当社のユーザーサポートページ（Web）をご覧ください。ユーザーサポートページには、最新のサポート情報を掲載しています。
ユーザーサポートページへは、「インフォメーションメニュー」からアクセスできます。

＜イメージ＞

解決しなかったら

4 当社にお問い合わせください

トラブルが解決しない場合は、別冊『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、サポート窓口までお問い合わせください。

困ったときに

困ったときの確認事項と対処方法を説明します。不具合が発生した場合に参考にしてください。対処方法が見つからない場合は、「インフォメーションメニュー」の「とらぶる解決ナビ」や「サポート情報検索」もあわせてご覧ください。

不具合が解消しない場合は

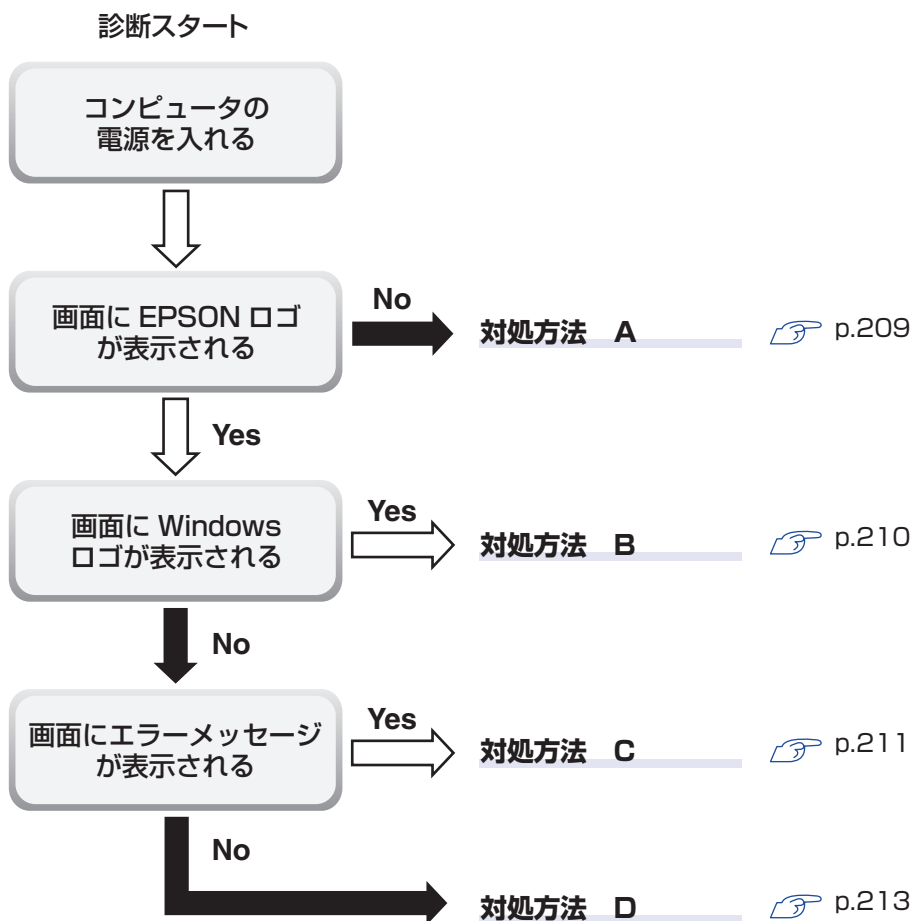
対処を行っても不具合が解消しない場合は、別冊『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、「カスタマーサービスセンター」までご連絡ください。

不具合一覧

コンピュータ本体の不具合(起動時)

コンピュータが起動できないときの対処方法を説明します。

起動時の不具合

シャットダウン状態からコンピュータが起動できない場合は、次の診断を行い、各診断結果に応じた対処を行ってみてください。

対処方法 A

次の対処を順番に行ってみてください。

1 外付けディスプレイの電源を入れる

外付けディスプレイを接続している場合は、外付けディスプレイの電源を入れ、画面が表示されるか確認してください。

2 コンピュータへの電源供給を確認する

コンピュータへの電源供給に問題がある可能性があります。本機の電源を切ってから、コンピュータと AC アダプタ、電源コードを接続しなおし、再度電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。
バッテリパックのみで使用している場合は、完全放電している可能性があります。AC アダプタを接続して使用してください。

3 周辺機器や増設した装置を取り外す

プリンタやスキャナ、メモリなど、ご購入後にお客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

4 電源保護回路を解除する

過電流によってコンピュータが不安定になっている可能性があります。周辺機器 / 増設機器類（マウス、ディスプレイを含む）を外して電源コードを抜いたあと、1 分程度放置し、問題が解決されるかどうか確認してください。

対処方法　B

次の対処を順番に行ってみてください。

1 周辺機器や増設した装置を取り外す

プリンタやスキャナ、メモリなど、ご購入後にお客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

2 セーフモードで起動し、常駐ソフトを停止したり、システムの復元を行う

必要最低限の状態であるセーフモードで起動してみてください。

p.226「セーフモードでの起動」

セーフモードで起動できた場合は、常駐ソフト（システム稼動中、常に稼動しているソフト）を一時的に停止させることで問題が解決するかを確認してください。
常駐ソフトを停止する手順は、次のとおりです。

1. ［スタート］－「検索ボックス」に「msconfig」と入力して、［↵］を押します。
2. 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、［続行］をクリックします。
3. 「スタートアップ」タブをクリックし、一覧から問題の原因となっている可能性のある項目のチェックを外し、［OK］をクリックします。
4. 「再起動が必要な場合があります」というメッセージが表示されたら、［再起動］をクリックします。
   常駐ソフトが原因ではなかった場合、外したチェックは元に戻してください。

常駐ソフトが原因でなかった場合は、「システムの復元」を行ってみてください。以前のコンピュータの状態に戻すことで、問題が解決できる可能性があります。

p.226「システムの復元」

3 前回正常起動時の構成で起動する

セーフモードで起動できない場合は、前回正常起動時の構成で起動できるかどうかを確認します。

1. シャットダウン状態からコンピュータの電源を入れます。
2. 「EPSON」と表示され、消えた直後に F8 を「トン、トン、トン…」と連続的に押します。
3. 「詳細ブートオプション」画面が表示されたら、↑ または ↓ を押して「前回正常起動時の構成」を選択し、↵ を押します。

4 Windows を再インストールする

HDD 内に記録されている、起動部分のプログラムが壊れている可能性があります。Windows の再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。

p.181「ソフトウェアの再インストール」

対処方法　C

まず、p.231「警告メッセージ」をご覧になり、メッセージに応じた対処を行ってください。あてはまるメッセージがない場合は、下記をご覧になり、対処を行ってください。

「S.M.A.R.T Failure Predicted on HDD / WARNING: Immediately back-up your data and replace your HDD」というメッセージが表示された場合

1 カスタマーサービスセンターへ連絡する

HDD に問題がある可能性が考えられます。別冊『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、カスタマーサービスセンターへご連絡ください。

「DISK BOOT FAILURE」、「Invalid system disk」、「Missing Operating System」、「Operating System Not Found」、「Reboot and Select proper Boot device･･･」などのメッセージが表示された場合

次の対処を順番に行ってみてください。

1 FD や USB フラッシュメモリを取り外す

接続している USB FDD に FD がセットされていたり、USB 接続のフラッシュメモリなどが接続されていたりすると、FD や USB 機器から OS を読み込もうとして、現象が発生する場合があります。FD や USB 機器を取り外してから、コンピュータを起動して、問題が解決されるかどうか確認してください。また、BIOS の「Boot」メニュー画面で HDD の優先順位を FDD や USB 機器よりも前に設定しておくことで、FDD や USB 機器を接続した状態でも、コンピュータを起動できるようになります。

p.172「起動（Boot）デバイスの順番を変更する」

2 しばらく放置する

急激な温度変化があった場合は、HDD の表面が結露してしまっている可能性があります。乾くまで、しばらく放置しておいてから、再度電源を入れてみてください。

3 HDDの認識と接続を確認する

BIOSでHDDを認識できていない可能性があります。次の手順でBIOSを確認してください。

1. BIOS Setupユーティリティを起動します。

   p.163「BIOS Setupユーティリティの起動」

2. 「Advanced」メニュー画面－「SATA Port 1」の表示を確認します。

   HDDの型番が表示される場合、HDDは正常な状態です。続いて、下記 4 5 の作業を行ってみてください。
   「Not Detected」、「None」などと表示される場合は、HDDが正常に認識されていません。
   別冊『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、「カスタマーサービスセンター」へご連絡ください。

4 BIOSの設定を初期値に戻す

BIOSの不整合が原因で問題が発生している可能性があります。BIOSの設定を初期値に戻し、問題が解決されるか確認してください。初期値に戻す前にBIOSの設定をメモしておいてください。

p.168「Load Setup Defaults（初期値に戻す）」

5 Windowsを再インストールする

HDD内に記録されている、起動部分のプログラムが破損している可能性があります。
Windowsの再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。

p.181「ソフトウェアの再インストール」

そのほかのメッセージが表示された場合

次の対処を順番に行ってみてください。

1 FDやUSBフラッシュメモリを取り外す

接続しているUSB FDDにFDがセットされていたり、USB接続のフラッシュメモリなどが接続されていたりすると、FDやUSB機器からOSを読み込もうとして、現象が発生する場合があります。FDやUSB機器を取り外してから、コンピュータを起動して、問題が解決されるかどうか確認してください。また、BIOSの「Boot」メニュー画面でHDDの優先順位をFDDやUSB機器よりも前に設定しておくことで、FDDやUSB機器を接続した状態でも、コンピュータを起動できるようになります。

p.172「起動（Boot）デバイスの順番を変更する」

2 周辺機器や増設した装置を取り外す

プリンタやスキャナ、メモリなど、ご購入後にお客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

3 BIOSの設定を初期値に戻す

BIOSの不整合が原因で問題が発生している可能性があります。BIOSの設定を初期値に戻し、問題が解決されるか確認してください。初期値に戻す前にBIOSの設定をメモしておいてください。

p.168「Load Setup Defaults（初期値に戻す）」

4 Windows を再インストールする

HDD 内に記録されている、起動部分のプログラムが破損している可能性があります。
Windows の再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。
p.181「ソフトウェアの再インストール」

対処方法 D

次の対処を順番に行ってみてください。

1 周辺機器や増設した装置を取り外す

プリンタやスキャナ、メモリなど、ご購入後にお客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

2 セーフモードで起動し、システムの復元を行う

必要最低限の状態であるセーフモードで起動してみてください。
p.226「セーフモードでの起動」

セーフモードで起動できた場合は、「システムの復元」機能を使用して以前のコンピュータの状態に戻すことで問題が解決できる可能性があります。システムの復元を行ってみてください。
p.226「システムの復元」

3 前回正常起動時の構成で起動する

セーフモードで起動できない場合は、前回正常起動時の構成で起動できるかどうかを確認してください。

1. シャットダウン状態からコンピュータの電源を入れます。
2. 「EPSON」と表示され、消えた直後に F8 を「トン、トン、トン…」と連続的に押します。
3. 「詳細ブートオプション」画面が表示されたら、↑ または ↓ を押して「前回正常起動時の構成」を選択し、↵ を押します。

4 BIOS の設定を初期値に戻す

BIOS の不整合が原因で問題が発生している可能性があります。BIOS の設定を初期値に戻し、問題が解決されるか確認してください。初期値に戻す前に BIOS の設定をメモしておいてください。
p.168「Load Setup Defaults（初期値に戻す）」

5 Windows を再インストールする

HDD 内に記録されている、起動部分のプログラムが破損している可能性があります。
Windows の再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。
p.181「ソフトウェアの再インストール」

起動時の不具合（そのほか）

現象	確認と対処
起動時に次のようにパスワードの入力が要求される。また、パスワードを入力しても起動しない。 Enter Password: Hard Drive locked, enter password:	「BIOS Setup ユーティリティ」の「Security」メニュー画面でパスワードを設定してあります。正しいパスワードを入力してください。 p.163「BIOS Setup ユーティリティの操作」 p.176「Security メニュー画面」
	パスワードを正しく入力しているか確認してください。NumLk の状態により一部のキーが数値キーとして働きます。 p.51「キーボードを使う」
	パスワードを忘れてしまった場合には、別冊『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。
Windows が起動せず、「システム回復オプション」画面が表示された。	Windows に不具合が起きると、HDD 内に設定されている「Windows 回復環境（Windows RE）」が自動的に起動します。「システム回復オプション」画面は Windows RE の画面です。Windows RE の機能を使用して、不具合を修復してください。Windows RE の概要は、p.228「Windows 回復環境（Windows RE）を使う」をご覧ください。

コンピュータ本体の不具合

コンピュータ本体の不具合に対する対処方法を説明します。

省電力機能に関する不具合

現象	確認と対処
正しく省電力状態に移行できない。または省電力状態から復帰できない。	使用しているソフトウェアや常駐ソフト、増設している周辺機器の影響により省電力機能が正常に働かない可能性があります。ソフトウェアの削除や常駐ソフトの解除、周辺機器の一時的な取り外しを行い、省電力機能が正常に働くか確認してください。
	バッテリ残量が少なくなり、本機が省電力状態に移行した場合は、AC アダプタを接続してから復帰させてみてください。
	省電力状態から復帰できない場合は、Ctrl ＋ Alt ＋ Delete を押して本機を再起動してください。ただし、省電力状態に移行する前に作成した未保存のデータは、すべて消失します。
	省電力状態で Express カードやメモリカード、USB 機器などを抜き差しすると、正しく復帰できません。Ctrl ＋ Alt ＋ Delete を押して、本機を再起動してください。ただし、省電力状態に移行する前に作成した未保存のデータは、すべて消失します。

バッテリパック使用時の不具合

現象	確認と対処
充電されない。	バッテリパックが正しく装着されているか確認してください。
	充電時にバッテリ充電ランプが点灯しているか確認してください。点灯していない場合は、ほかの電気製品を電源コンセントに接続し、電源コンセントに電源が供給されているか確認してください。

現象	確認と対処
すぐにバッテリが終わってしまう。バッテリでの使用可能時間が短い。	バッテリが寿命に達したと考えられます。新しいバッテリと交換してください。なお、使用済みのバッテリは、所定の方法でリサイクルしてください。 p.45「バッテリの交換」 p.47「使用済みバッテリの取り扱い」

セキュリティチップ（TPM）の不具合

現象	確認と対処
セキュリティチップの情報を初期化して、購入時の状態に戻したい。	初期化を行うと、それまでに暗号化されたデータを使用できなくなります。また、Windows Vista の HDD 暗号化機能「BitLocker」を使用している状態で初期化を行うと、Windows が起動できなくなり、暗号化していた HDD 内のデータも使用できなくなります（BitLocker は、Windows Vista Ultimate および Windows Vista Enterprise の機能です）。 セキュリティチップの初期化を行う場合は、お客様の責任において十分に注意して行ってください。 初期化の方法は、次のとおりです。 ❶「BIOS Setup ユーティリティ」を起動します。 p.163「BIOS Setup ユーティリティの起動」 ❷「TPM State」メニュー画面－「Change TPM State」で「Clear & Enabled」を選択します。 p.178「TPM State メニュー画面」－「Change TPM State」 ❸ 変更した設定値を保存して、BIOS Setup ユーティリティを終了します。 p.167「Exit Saving Changes（変更した内容を保存し終了する）」 ❹ 再度、BIOS Setup ユーティリティを起動します。 p.163「BIOS Setup ユーティリティの起動」 ❺「Physical Presence operations」画面が表示されたら、「TPM PP Operation」で「Execute」を選択します。 ❻「TPM PP Operation」に「Press F10」と表示されたら、キーボードの F10 を押します。 ❼ 次のメッセージが表示されたら、[Yes] を選択し、↵ を押します。 Setup Confirmation Save configuration changes and exit now ? [Yes] [No] これで初期化は完了です。BIOS Setup ユーティリティを終了します。

そのほかの不具合

現象	確認と対処
ハングアップしてしまい、何も反応しない。	応答のないソフトウェアをタスクマネージャで終了させます。 ソフトウェアを終了させることができない場合には、5 秒以上電源スイッチを押して電源を切ってください。 p.35「ハングアップしたときは」

現象	確認と対処
「BIOS Setup ユーティリティ」の情報、日付、時間などの設定が変わってしまう。	本機内部のリチウム電池の残量が少なくなり、BIOS のデータを保持できなくなっている可能性があります。別冊『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。
BitLocker でドライブを暗号化した状態で BIOS のアップデートや Boot の順番の変更を行ったとき、BitLocker のパスワード入力やパスワードを保存してある USB フラッシュの挿入を求められた。	パスワードを入力するか、パスワードを保存してある USB フラッシュを挿入してください。BIOS のアップデートや Boot の順番の変更を行うときは、BitLocker のドライブ暗号化を解除した状態で行ってください。 （BitLocker は、Windows Vista Ultimate および Windows Vista Enterprise の機能です。）
終了処理をしても電源が切れない。	Windows Vista では、［スタート］－［ ⏻ ］を押すと、本機は「スリープ状態」になります。電源を切りたい場合は、［スタート］－［ ▶ ］－「シャットダウン」で電源を切ってください。
	正しい処理を行っても電源が切れない場合は、電源スイッチを 5 秒以上押し続けてください。

メモリの不具合

メモリの不具合に対する対処方法を説明します。

現象	確認と対処
表示されるメモリ容量が実際の容量と違っている。	メモリを増設・交換した場合は、メモリのタイプが合っているか、スロットの奥までしっかりと差し込まれているか確認してください。 p.153「メモリの装着」

記憶装置の不具合

記憶装置の不具合に対する対処方法を説明します。

HDD の不具合

現象	確認と対処
HDD 容量が Windows 上で、少なく表示される。	本機に搭載されている HDD 容量を Windows 上で確認すると、少なく表示されます。 これは、Windows 上では容量を計算や表示する場合に「2 進法」（0 と 1 の 2 つの数字を用いる表記法）を使用しているのに対して、マニュアルでは HDD などの仕様を表記する際に用いられている「10 進法」（0 ～ 9 の数字を用いる表記法）を使用していることによる違いです。 2 進法で表記した 1KB（キロバイト）は「1024Byte」になるのに対し、10 進法で表記した場合には「1000Byte」となります。そのため、Windows などの OS 上で表示される HDD 容量は、マニュアルに記載されている容量よりも少なく表示されます。

現象	確認と対処
HDD から Windows が起動しない。	BIOS の「Boot」メニュー画面で起動時の HDD の順番が正しく設定されているか確認してください。 p.163「BIOS Setup ユーティリティの操作」 p.178「Boot メニュー画面」
Windows の再インストールをしたら、HDD の空き容量が大幅に減ってしまった。	p.188「Windows Vista のインストール」の 9 で、C ドライブのフォーマットを行わずに Windows のインストールをしてしまうと、以前の Windows のデータが Windows.old フォルダに保存されるため、HDD の空き容量が大幅に減ってしまいます。Windows.old フォルダが不要な場合は、削除してください。 Windows.old フォルダは [スタート] –「コンピュータ」–「C ドライブ」にあります。 通常は、手順どおりに C ドライブをフォーマットしてから Windows のインストールをしてください。

光ディスクドライブの不具合

現象	確認と対処
オーディオ CD や DVD VIDEO 再生時に、音声が出力されない。	スピーカの音量が小さくなっている可能性があります。音量を調節してください。 p.98「音量の調節」
セットしたメディアにアクセスできない。	メディアが正しくセットされているか確認してください。
	メディアを挿入した直後は読み込み準備のためアクセスできません。この場合はしばらく待って、もう一度アクセスしてください。
	メディアの表面にキズなどがないか確認してください。
	別のメディアにアクセスできるか確認してください。問題がない場合は、アクセスできないメディアに問題がある可能性があります。
	セットしたメディアが、書き込み済みの場合、光ディスクドライブとの相性によりアクセスできない可能性があります。
セットしたメディアが取り出せない。	コンピュータの電源が入っているか、確認してください。
	ソフトウェアによっては、独自の取り出し方法でないとメディアが取り出せないものもあります。詳しくは、お使いのソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。
メディアへの書き込みができない。	書き込みソフト「Nero 8 Essentials」がインストールされていない場合は、インストールをしてください。 p.196「Nero 8 Essentials のインストール」
	メディアのフォーマットに関する不具合や、書き込みに関する不具合については、『Nero ユーザーズガイド』を参照してください。 **「インフォメーションメニュー」–「マニュアルびゅーわ」–「Nero ユーザーズガイド」**
	お使いの光ディスクドライブ対応のメディアを使用しているかどうか確認してください。対応メディアは光ディスクドライブのマニュアル（PDF）をご覧ください。 **「インフォメーションメニュー」–「マニュアルびゅーわ」–「光ディスクドライブ PDF マニュアル」**

現象	確認と対処
メディアへの書き込みができない。	Windows が省電力状態に切り替わると、書き込み可能なメディアへのデータ転送エラーが起き、書き込みに失敗する場合があります。書き込みを始める前に省電力状態に移行しないように設定してください。 p.145「時間経過で移行させない」
	メディアが正しくセットされているかどうか、確認してください。
	メディアの表面に汚れやキズなどがないか、確認してください。
	メディアの残量があるか、確認してください。
	ヘッドレンズの汚れによって、書き込みができない場合があります。
	光ディスクドライブとの相性によって、セットしたメディアに書き込めない場合があります。
DVD VIDEO の再生ができない。	DVD VIDEO を再生する場合は、専用の再生ソフトウェアが必要です。購入時には WinDVD がインストールされています。 DVD VIDEO の再生に関する不具合は、WinDVD のヘルプを参照してください。
	解像度や色数を変更してみてください。 p.87「解像度や表示色の変更方法」
	外付けディスプレイを接続して、「クローンモード」で表示をしていると、「使用しているディスプレイ環境は保護されているコンテンツの再生をサポートしていません。」というメッセージが表示され、DVD VIDEO の再生が中断されます。このような場合は、「シングルモード」に切り替えてください。 p.94「画面表示を切り替えるには」

Express カードの不具合

現象	確認と対処
Express カードを装着しても使用できない。	Express カードスロットにカードが正しく装着され、認識されているか確認してください。 p.73「Express カードを使う」
	Express カードを使用するために必要なドライバやソフトウェアがインストールされているか確認してください。詳しくは、Express カードに添付のマニュアルをご覧ください。
	外部機器を追加するために Express カードを装着した場合、外部機器と Express カードの接続が正しいか、正しいケーブルを使用しているかを確認してください。 詳しくは、Express カードに添付のマニュアルをご覧ください。
	Express カードが Express カードスロットの仕様に対応しているか確認してください。 p.73「Express カードを使う」

メモリカードの不具合

現象	確認と対処
メモリカードを装着しても使用できない。	本機で使用可能なメモリカードかどうか、メモリカードがスロットの仕様に対応しているか確認してください。 ☞ p.69「本機で使用できるメモリカード」
	メモリカードスロットにカードが正しく装着され、認識されているか確認してください。 ☞ p.70「メモリカードのセットと取り外し」

入力装置の不具合

入力装置の不具合に対する対処方法を説明します。

キーボードの不具合

現象	確認と対処
どのキーを押しても応答がない。	タッチパッドを操作してください。タッチパッドで操作できる場合もあります。
	ソフトウェアが時間のかかる処理を実行している可能性もあります。しばらく待ってみてください。
	ソフトウェアがハングアップしている可能性もあります。しばらく待っても反応がない場合は、タスクマネージャでソフトウェアを終了してください。 ☞ p.35「ハングアップしたときは」
キートップにある文字や記号が入力できない。	直接入力モードで日本語を入力することはできません。日本語入力モードに切り替えてください。 ☞ p.52「文字を入力するには」
[Fn] と [Ctrl]、[Alt] と [▤]（アプリケーションキー）などの機能キーが動作しない。	[Fn] と [Ctrl]、または [Alt] と [▤]（アプリケーションキー）の機能が入れ替わっている可能性があります。 **[Fn] と [Ctrl] が機能しない場合** BIOS の設定で、「Advanced」メニュー画面の「Exchange FN & L-CTRL Key」が「Enabled」になっていないか確認してください。 ☞ p.175「Advanced メニュー画面」 **[Alt] と [▤]（アプリケーションキー）が機能しない場合** BIOS の設定で、「Advanced」メニュー画面の「Exchange R-Alt & Win App key」が「Enabled」になっていないか確認してください。 ☞ p.175「Advanced メニュー画面」

タッチパッドの不具合

現象	確認と対処
ポインタの動きが悪い。	手がぬれていたり、湿気を帯びていたりしていると、動きが悪くなります。
	LCD ユニットを長時間閉じたままにしていた場合や、使用環境により湿度や温度の急激な変化があった場合に正常に動作しなくなることがあります。一度電源を切って入れなおしてください。
	タッチパッドユーティリティを起動し、ポインタの動作の設定を変更してみてください。
ポインタが動かない。	タッチパッドが OFF になっていないか確認してください。タッチパッドキー（ /×）を押してみてください。 p.55「インスタントキー」
	ソフトウェアが時間のかかる処理を実行している可能性もあります。しばらく待ってみてください。
	ソフトウェアがハングアップしている可能性もあります。しばらく待っても反応がない場合は、タスクマネージャでソフトウェアを終了してください。 p.35「ハングアップしたときは」

表示装置の不具合

表示装置の不具合に対する対処方法を説明します。

LCD ユニットの不具合

現象	確認と対処
LCD 画面に何も表示されない。	外付けディスプレイを接続している場合は、外付けディスプレイの電源を入れ、画面が表示されるか確認してください。
	画面の明るさを調節してください。Fn＋F5/Fn＋F6で調節できます p.85「LCD ユニットの調整」
	バックライトが消灯していないか確認してください。Fn＋F7を押してみてください。 p.85「バックライトの消灯」
	省電力状態になっている可能性があります。キーボードまたはタッチパッドを操作してください。 p.146「省電力状態からの復帰方法」
	バッテリ使用時に、バッテリ残量が低下してそのまま放置すると、スリープ状態に移行します（購入時の設定）。AC アダプタを接続してから復帰してください。
	コンピュータの電源を切ってから 20 秒以内に電源を入れると、システム管理機能が電源を異常と判断する場合があります。一度電源を切って、20 秒以上待ってから電源を入れてみてください。
画面がちらつく。	LCD 画面が明るくなったり、暗くなったりしてちらつく場合には、BIOS Setup ユーティリティ画面でも同様の現象が発生するか確認して、別冊『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。 p.164「BIOS Setup ユーティリティの操作」

サウンドの不具合

サウンドの不具合に対する対処方法を説明します。

内蔵スピーカの不具合

現象	確認と対処
システムは正常に動作しているのに音が鳴らない。	内蔵スピーカの音声出力音量が小さくなっている、またはミュートになっている可能性があります。ボリュームを調節してください。 p.98「音量の調節」
	ヘッドフォン出力コネクタに外部スピーカや、ヘッドフォンを接続している場合、内蔵スピーカから音声は出力されません。
	音声出力先が外部オーディオ機器に設定されている場合、内蔵スピーカから音声は出力されません。 p.101「音声出力先の設定」

ソフトウェアの不具合

ソフトウェアの不具合に対する対処方法を説明します。

ソフトウェアの不具合

現象	確認と対処
ソフトウェアの使用中に突然停止(ハングアップ)した。	過度の電源ノイズ、瞬時電圧低下などが発生した可能性があります。電源ノイズによる現象には、ディスプレイのノイズ、システムの再起動、停止(ハングアップ)などが含まれます。ソフトウェアを再度実行してみてください。
	ケーブルの接続不良や、キーボード内のゴミやホコリ、電源の出力不安定、またはそのほかの部品の不良によって不具合が発生する場合があります。点検を行ってみてください。
	HDD に対するデータの読み書きの最中に振動が加わると、システムが停止(ハングアップ)する場合があります。
	応答のないプログラムを強制終了してから、コンピュータを再起動してください。 p.35「ハングアップしたときは」

現象	確認と対処
ソフトウェアが起動しない。	ソフトウェアの起動に必要とされるシステムリソース（メモリ容量や HDD の使用可能な容量など）が整っているか確認してください。エラーメッセージなどが表示される場合は、ソフトウェアのマニュアルを参照して必要な対処を行ってから、再度起動してみてください。
	ソフトウェアを正しい方法でインストールしたか、ソフトウェアの起動手順を正しく実行しているか確認してください。
	実行しようとしているディレクトリが正しいか確認してください。オプションの USB FDD から起動しようとしている場合は、ドライブやディレクトリの指定が正しく行われているか確認してください。
	ソフトウェアの使用許諾を受けていない場合（違法コピーなど）、ソフトウェアが動作しないことがあります。ソフトウェアの正式版を使用してください。
	ソフトウェアの使用方法をもう一度確認してください。それでもソフトウェアの不具合が解決できないときは、ソフトウェアの販売元にお問い合わせください。
「マニュアルびゅーわ」がグレーになって使用できない。	「マニュアルびゅーわ」のインストールを行ってください。 p.195「マニュアルびゅーわのインストール」
	「マニュアルびゅーわ」を使用できない場合、当社のユーザーサポートページから当社作成の電子マニュアルをダウンロードすることができます。 ユーザーサポートページからダウンロードした電子マニュアルは、マニュアルごとにファイルを開いてご覧ください。 p.238「電子マニュアルのダウンロード」
Internet Explorer の使用時、情報バーに警告が表示される。	購入時の Internet Explorer は、セキュリティ強化のために、意図しないプログラムや実行ファイルのダウンロードについて警告するよう設定されています。Internet Explorer 使用時情報バーに警告が表示されたら、情報バーをクリックして、表示された項目から適切な対処を選択してください。
Windows メールで HTML メールの画像が表示されない、または添付ファイルが開けない。	メール添付のファイルや送信元の不明なメールによるウイルスの侵入から、コンピュータを保護するための設定が購入時にされています。 HTML メールの画像を見る場合は、送信元を確認して、件名の下にある情報バーをクリックします。 添付ファイルについての設定は、次の場所で確認できます。 **Windows メールの［ツール］－「オプション」－「セキュリティ」タブ－「ウイルスの可能性がある添付ファイルを保存したり開いたりしない」**
インストールしたネットワークアプリケーションが動作しない。	ファイアウォールが有効に設定されていると、ネットワークアプリケーションが正常に動作しない場合があります。 p.132「ファイアウォール」 詳細については、ソフトウェアの販売元にお問い合わせください。
ソフトウェアやプログラムが停止し、「データ実行防止」画面が表示される。	ソフトウェアやプログラムがウイルスに感染している可能性があります。セキュリティソフトウェアでウイルスの検索・駆除を行ってください。
	安全なソフトウェアを実行して「データ実行防止」画面が表示される場合は、ソフトウェアの製造元へお問い合わせください。
	問題が解決しない場合は、別冊『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、テクニカルセンターまでお問い合わせください。

インストール時の不具合

現象	確認と対処
Windows の再インストールがマニュアルどおりにできない。	本書のインストール手順は、購入時のシステム構成を前提にしています。インストールは、 BIOS の設定とシステム構成を購入時の状態に戻して行うことをおすすめします。
	本書のインストール手順は、HDD のフォーマット後に行うことを前提に記載しています。それ以外の場合は、手順が異なることがあります。不明な点は 別冊『サポート･サービスのご案内』をご覧になり、テクニカルセンターまでお問い合わせください。
	インストール方法に関する最新情報を記載した紙類が添付されている場合があります。梱包品を確認してみてください。
Windows Vista リカバリ DVD を光ディスクドライブにセットして再起動しても、「Press any key to boot from CD or DVD.」と表示されない。	光ディスクドライブの起動の順番を HDD よりも後ろに設定している可能性があります。「BIOS Setup ユーティリティ」を実行して、起動順位を変更してください。 p.172「起動（Boot）デバイスの順番を変更する」

FAXモデムの不具合

FAX モデムの不具合に対する対処方法を説明します。

現象	確認と対処
「モデムが検出されませんでした。」とエラーメッセージが表示され、インターネットに接続できない。	「モデムのプロパティ」で［モデムの照会］を実行してみてください。モデムに問題がある場合は、エラーメッセージが表示されます。 **［スタート］ー「コントロールパネル」ー「ハードウェアとサウンド」ー「電話とモデムのオプション」ー「モデム」タブー［プロパティ］ー「診断」タブの［モデムの照会］をクリックします。**
インターネットへ接続できない。	モジュラコードが、モデムコネクタに接続されているかを確認してください
	次の場所で電話番号や、設定を再確認してください。また、国番号と市外局番や、トーンとパルスの設定も確認してください。 **［スタート］ー「接続先」ー「接続名（任意の名前）」を右クリックー［プロパティ］ー「全般」タブー［ダイヤル情報］**
	接続ユーザー名や、接続パスワードが間違っている可能性があります。次の点を確認して入力してください。 • 全角の文字を使用していないか（全角文字は使用できません）。 • 大文字と小文字を区別しているか。 • 数字とアルファベットを間違えていないか。数字の 0 とアルファベットの O など。 • 接続ユーザー名とメールアカウントを混同していないか。 • 接続パスワードとメールパスワードを混同していないか。

現象	確認と対処
インターネットへ接続できない。	DNS（ネーム）サーバの IP アドレスを入力した場合は、設定が正しいか確認してください。正しくない場合は修正してください。 次の手順で DNS（ネーム）サーバの IP アドレスを確認してください。 ❶ ［スタート］－「接続先」－「接続名（任意の名前）」を右クリック－［プロパティ］をクリックします。 ❷ 「ネットワーク」タブ－「インターネットプロトコル（TCP/IP）」－［プロパティ］で DNS（ネーム）サーバのアドレスを確認してください。
	原因不明で接続できない場合は、インターネット接続ウィザードを再実行してみます。これで接続できることもあります。
	接続してもすぐに切れたり、プロトコルが確立できないときは、アクセスポイントを変更することによってインターネットへ接続できる場合もあります。同じ市内に複数のアクセスポイントがある場合は、プロバイダの電話番号を変更してみてください。
	次の理由で接続できないことがあります。時間をおいて接続してみてください。 • 極端に混雑していると、アクセスを拒否されることがある。 • 極端に混雑していると、接続はするがタイムアウトしてしまう。 • プロバイダのサーバが停止している。
V.92、K56flex 通信方式で通信できない。	回線状況によって、V.92、K56flex 通信方式で接続できない場合があります。V.92、K56flex 通信方式のほかには x2 方式があります。x2 方式のモデムとは、V.34 通信方式（33600bps）以下で接続します。またお使いになっている最寄りの電話局の交換機から、プロバイダなどの相手側までの電話回線の通信経路が、すべてデジタル化されている必要があります。デジタルからアナログへの交換機切り替えが、この通信経路で 1 度だけ行われる場合にのみ、V.92、K56flex 通信方式で接続することができます。
	PBX 回線では、V.92、K56flex 通信方式では接続できません。V.34 通信方式（33600bps）以下で接続します。
V.92、K56flex、V.34 通信方式で通信中に、通信速度が下がる。	V.92、K56flex、V.34 通信方式では、安定して確実な通信を行うために、モデム機能が回線状況によって自動的に調整を行い、通信速度を下げて接続する場合があります。

システム診断ツールを使う

ここでは「システム診断ツール」について説明します。

システム診断ツールとは、本機の調子が悪いときに、不具合の原因がハードウェアにあるかどうかを診断するためのツールです。本機に添付の「リカバリツール CD」に収録されています。

システム診断を実行する

システム診断の実行方法は、次のとおりです。

1 **リカバリツール CD を光ディスクドライブにセットします。**

「自動再生」画面が表示された場合は、 [×] をクリックして画面を閉じてください。

2 **[スタート] ー [▶] ー [再起動] をクリックして、本機を再起動します。**

Windows が起動できないときは、 Ctrl ＋ Alt ＋ Delete を押して、コンピュータを再起動します。

3 **黒い画面の中央に「EPSON」と表示され、消えた後、「Kernel Loading・・・Press any key to run PC TEST」と表示されたら、どれかキーを押します。**

システム診断ツールが起動し、自動的に診断が開始します。

4 **診断が終了したら、診断結果を確認します。**

「F」が表示された場合は、表示された項目に不具合がある可能性があります。

別冊 『サポート･サービスのご案内』をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。

5 **光ディスクドライブからリカバリツール CD を取り出し、電源を切ります。**

これでシステム診断は完了です。

トラブル時に役立つ機能

ここでは、トラブルが発生した場合に役立つ Windows の機能について説明します。

セーフモードでの起動

コンピュータが起動できない場合や、ディスプレイで表示できない解像度を選択して表示ができなくなってしまった場合などには、セーフモードで起動してみてください。
セーフモードで起動する方法は、次のとおりです。

1 **コンピュータの電源を切り、20 秒程放置してから電源を入れます。**

2 **EPSON と表示され、消えた直後に F8 を「トン、トン、トン…」と連続的に押します。**

3 **「詳細ブートオプション」画面が表示されたら、↑ または ↓ を押して「セーフモード」を選択し、↵ を押します。**

セーフモードで起動できた場合は、不具合に対する対処を行ってください。

システムの復元

コンピュータの動作が不安定になった場合、「システムの復元」を行って Windows を以前の状態（復元ポイントを作成した時点の状態）に戻すことで、問題が解決できることがあります。
復元ポイントは通常、ソフトウェアのインストールなどを行った際に自動的に作成されますが、手動で作成しておくこともできます。

システムを復元する

システムを復元ポイントの状態に戻す方法は次のとおりです。システムの復元を行う前に、HDD のデータをほかのメディアにバックアップしておくことをおすすめします。

1 **[スタート] －「すべてのプログラム」－「アクセサリ」－「システムツール」－「システムの復元」を選択します。**

2 **「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。**

3 **「システムの復元」画面が表示されたら、「推奨される復元」を選択し、[次へ] をクリックします。**

復元ポイントを自分で指定したい場合は、「別の復元ポイントを選択する」を選択して [次へ] をクリックし、ポイントを選択して [次へ] をクリックします。

4 **「復元ポイントの確認」と表示されたら、内容を確認し、[完了] をクリックします。**

5 **「システムの復元を開始すると…」と表示されたら、[はい] をクリックします。**

コンピュータが再起動します。

6 再起動後、「システムの復元は正常に完了しました。…」と表示されたら、［閉じる］をクリックします。

これでシステムの復元は完了です。

復元ポイントを手動で作成する

復元ポイントを手動で作成する方法は、次のとおりです。

1 ［スタート］－「すべてのプログラム」－「アクセサリ」－「システムツール」－「システムの復元」を選択します。

2 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、［続行］をクリックします。

3 「システムの復元」画面が表示されたら、「システムの保護」をクリックします。

4 「システムのプロパティ」画面が表示されたら、復元ポイントを作るドライブ（ローカルディスク）にチェックを付けて［作成］をクリックします。

5 「復元ポイントの作成」と表示されたら、説明を入力し、［作成］をクリックします。

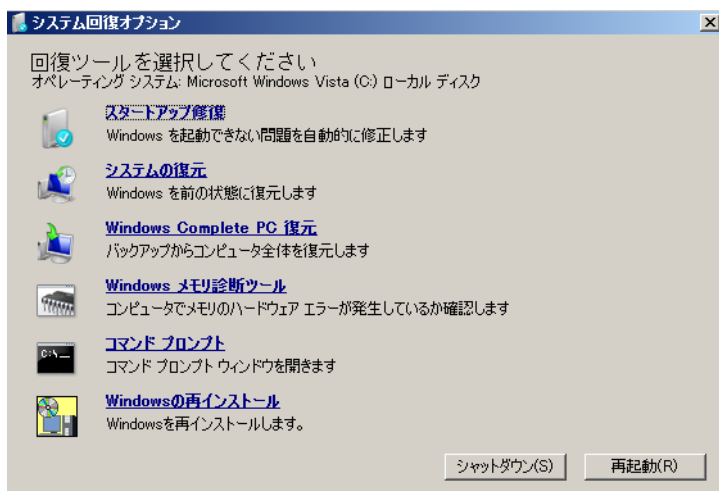
6 「復元ポイントは正常に作成されました。」と表示されたら、［OK］をクリックします。

以上で復元ポイントの作成は完了です。

Windows回復環境(Windows RE)を使う

本機の HDD 内の「消去禁止領域」には、「Windows 回復環境(Windows RE)」が設定されています。Windows に不具合が起きると、HDD 内の Windows RE が自動的に起動し、不具合に対する対処を行うことができます。

Windows RE の項目

Windows RE には次の項目があります。

＜イメージ＞

●スタートアップ修復

Windows を起動できない問題を自動的に修正します。Windows が起動できないときは、まずスタートアップ修復を行ってみてください。

●システムの復元

コンピュータの状態を以前の状態(復元ポイントを作成した時点の状態)に戻します。

●Windows Complete PC 復元

バックアップしてあったデータを使用してコンピュータ全体を復元します。
Windows Vista Home Premium、Windows Vista Home Basic には、Windows Complete PC 復元のためのバックアップ機能はありません。

●Windows メモリ診断ツール

メモリにハードウェアエラーが発生しているかどうかを確認します。

●コマンドプロンプト

コマンドプロンプトウィンドウを開きます。

「システム回復オプション」画面が表示されたら

Windows に不具合が起きると、HDD 内の Windows RE が自動的に起動し、「システム回復オプション」画面が表示されます。
「システム回復オプション」画面が表示されたら、次の手順で Windows RE の項目を表示させ、対処を行います。

1 **「システム回復オプション」画面が表示されたら、キーボードレイアウトが「日本語」になっていることを確認し、[次へ] をクリックします。**

2 **「回復オプションにアクセスするには･･･」と表示されたら、「ユーザー名」を選択し、パスワードを設定していた場合には「パスワード」にパスワードを入力して [OK] をクリックします。**

3 **「回復ツールを選択してください」と表示されたら、実行したい項目をクリックします。以降は、画面の指示に従って作業を行ってください。**

HDD 内の Windows RE を手動で起動する

HDD 内の Windows RE は、手動で起動することもできます。
手動で起動する方法は、次のとおりです。

1 **コンピュータの電源を切り、20 秒程放置してから電源を入れます。**

2 **「EPSON」と表示され、消えた直後に F8 を「トン、トン、トン…」と連続的に押します。**

F8 を押すタイミングがずれて Windows が起動してしまった場合は、再起動してからやりなおしてください。

3 **「詳細ブートオプション」画面が表示されたら、「コンピュータの修復」を選択し、↵ を押します。**

4 **「システム回復オプション」画面が表示されたら、キーボードレイアウトが「日本語」になっていることを確認し、[次へ] をクリックします。**

5 **「回復オプションにアクセスするには･･･」と表示されたら「ユーザー名」を選択し、パスワードを設定していた場合には、「パスワード」にパスワードを入力して [OK] をクリックします。**

6 **「回復ツールを選択してください」と表示されたら、実行したい項目をクリックします。以降は、画面の指示に従って作業を行ってください。**

DVD の Windows RE を使用する

Windows RE は、本機に添付の「Windows Vista リカバリ DVD」にも収録されています。
HDD 内に設定されている Windows RE を誤って消去してしまった場合などに使用してください。
DVD に収録されている Windows RE の起動方法は、次のとおりです。

1 **コンピュータの電源を入れ Windows が起動したら、「Windows Vista リカバリ DVD」を光ディスクドライブにセットします。**

「自動再生」画面が表示されたら [×] をクリックし、画面を閉じてください。

2 **[スタート] ー [▶] ー「再起動」をクリックして、コンピュータを再起動します。**

3 **「EPSON」と表示後、黒い画面に「Press any key to boot from CD or DVD.」と表示されたら、どれかキーを押します。**

一定時間内にキーを押さないと、HDD 内の Windows Vista が起動してしまいます。
Windows Vista が起動してしまった場合は、2 へ戻ります。

4 **「システム回復オプション」画面が表示されたら、キーボードレイアウトが「日本語」になっていることを確認し、[次へ] をクリックします。**

5 **「修復するオペレーティングシステムを選択し…」と表示されたら、「Microsoft Windows Vista」が選択された状態で [次へ] をクリックします。**

6 **「回復ツールを選択してください」と表示されたら、実行したい項目をクリックします。以降は、画面の指示に従って作業を行ってください。**

警告メッセージ

本機は、起動時に自己診断テストを行い、内部ハードウェアの状態を診断します。起動時に以下の警告メッセージが表示された場合は、以下の各対処を行ってください。処置を行ってもなおらない場合は、別冊『サポート・サービスのご案内』をご覧になりテクニカルセンターまでご連絡ください。

警告メッセージ	説明と対処法
System CMOS Checksum bad default configuration used	CMOS RAMのデータが壊れているか、不正な値が設定されています。「BIOS Setupユーティリティ」を起動して「Exit」メニュー画面から「Load Setup Defaults」を行ってください。
Keyboard error	キーボードにエラーが発生しました。電源を入れなおし、システムを再起動してください。
Operating system not found	オペレーティングシステムが見つかりません。「BIOS Setupユーティリティ」を起動して「Boot」メニュー画面で起動ドライブを正しく設定してください。
System RAM Failed at offset	システムRAMのオフセットアドレスでエラーが発生しました。電源を入れなおし、システムを再起動してください。
Shadow RAM Failed at offset	シャドウRAMのオフセットアドレスでエラーが発生しました。電源を入れなおし、システムを再起動してください。
Extended RAM Failed at offset	メモリに不具合があるか、正しく認識されていません。 メモリを増設した場合は、メモリの仕様や取り付け状態を確認した後、BIOS Setupユーティリティを起動してメモリを再検出してください。

付録

本機をご使用になる際に役立つ情報や、本機の仕様などについて説明します。

お手入れ

本機は精密な機械です。取り扱いに注意して、定期的にお手入れを行ってください。

お手入れは、本機の電源を切った状態で行ってください。

本機のお手入れ

本機のお手入れ方法について説明します。

外装

コンピュータ本体の外装の汚れは、柔らかい布に中性洗剤を適度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。

- 本機をたたいたり、硬いものでこすったりしないでください。変形やキズ、破損の原因となります。
- ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。

LCD 画面

LCD 画面は乾いた布やティッシュペーパーなどで拭いてください。水や洗剤などは使わないでください。

データのバックアップ

Windowsを再インストールすると、Windowsがインストールされるドライブ（通常Cドライブ）に保存しているデータはすべて消去されます。Windowsを再インストールする前に、必要なデータのバックアップを取っておいてください。

バックアップ方法

作成したファイルやInternet Explorerの「お気に入り」など、HDD内のデータをバックアップする方法やバックアップしたデータを復元する方法は、本機の「インフォメーションメニュー」にある「PCお役立ち情報」で詳しく紹介しています。

「PCお役立ち情報」から見る

バックアップ方法や復元方法は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「PCお役立ち情報」－「正しく、安全に使おう！」項目の「Windowsシステム」

＜画面の内容は予告なく変更される場合があります＞

バックアップ CD の作成

HDD の消去禁止領域に収録されている本体ドライバやソフトウェアのインストール用データは、CD メディアにバックアップすることができます。
HDD が故障したり、誤って消去禁止領域を削除したりすると、インストール用データは消えてしまいます。万一に備え、インストール用データを CD メディアにバックアップしておくことをおすすめします。

バックアップCDの作成方法

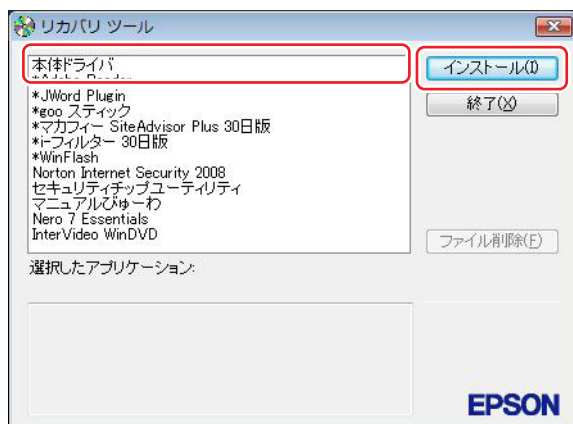
バックアップ CD は、リカバリツールを使用して作成します。
バックアップ CD の作成方法は、次のとおりです。

1 **デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。**

2 **「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。**

3 **「リカバリツール」画面が表示されたら、[CD 作成] をクリックします。**

4 **本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から CD にバックアップしたい項目を選択して [CD 作成] をクリックします。**

バックアップするデータが一時的に HDD にコピーされます。選択した項目によっては、5 の画面が表示されるまでに数分かかります。

<イメージ>

項目名の前に「＊」の付いたソフトウェアは、すべて本体ドライバの CD 内に収録されます。個々に CD を作成する必要はありません。それ以外の項目は、1 項目につき CD メディアが 1 枚必要です。

5 **画面が表示されたら、以降は、画面の指示に従って CD に書き込みを行ってください。**

バックアップCDからインストールを行うには

作成したバックアップ CD から本体ドライバやソフトウェアをインストールする方法は、次のとおりです。
ここでは、本体ドライバのバックアップ CD からインストールする手順を例に説明します。

1 **作成した本体ドライバのバックアップ CD を光ディスクドライブにセットします。**

2 **「自動再生」画面が表示されたら、「Install.exe の実行」をクリックします。**

クリックする記載内容は、「Setup.exe の実行」など、作成したバックアップ CD によって異なります。
「自動再生」画面が表示されない場合は、[スタート] －「コンピュータ」－「EPSON_CD」をダブルクリックします。

3 **「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[許可] をクリックします。**

ソフトウェアによっては、[続行] をクリックします。

4 **「ドライバ・ソフトウェアのインストール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。**

本体ドライバ以外のソフトウェアをインストールする場合は、ソフトウェア名をクリックします。

ここで表示される画面は、作成したバックアップ CD によって異なります。
以降の手順は、 「ソフトウェアの再インストールを行う」 のそれぞれの項目をご覧ください。

電子マニュアルのダウンロード

当社のユーザーサポートページからは、お使いのコンピュータや周辺機器の電子マニュアル（PDF・HTML など）をダウンロードすることができます。
紙マニュアルをなくしてしまった場合や、「マニュアルびゅーわ」のデータを削除してしまった場合などにご利用ください。

電子マニュアルのダウンロードは、次の場所から行います。

「ユーザーサポートページ」－「ダウンロード」－「マニュアル」

＜画面の内容は予告なく変更される場合があります＞

制限　ユーザーサポートページからダウンロードした電子マニュアルは、「マニュアルびゅーわ」で見ることはできません。マニュアルごとにファイルを開いてご覧ください。

ダウンロードできるそのほかのデータ

「ユーザーサポート」－「ダウンロード」からは、次のデータもダウンロードすることができます。必要に応じてご利用ください。ダウンロードできるデータはお使いの機種により異なります。

- 最新の BIOS
- ドライバ
- ユーティリティ
- お問い合わせ情報
- 壁紙

セキュリティチップ（TPM）によるデータの暗号化

本機に搭載されているセキュリティチップ（TPM）を使用すると、本機に保存されているデータを高度に暗号化することができます。TPMのセキュリティ機能の使用方法は、『セキュリティ機能（TPM）設定ガイド』をご覧ください。

> **制限** TPMのセキュリティ機能で設定したパスワードは絶対に忘れないでください。忘れた場合、それまでに暗号化したデータの復元ができなくなります。

使用上の注意

これは管理者向けの機能です。TPMのセキュリティ機能を使用する場合は、内容を十分に理解し、お客様の責任において暗号化を行ってください。

TPMのセキュリティ機能使用前の準備

TPMのセキュリティ機能を使用するには、BIOSの設定と「セキュリティチップユーティリティ」のインストールが必要です。

BIOSの設定

BIOSの設定値を変更します。変更手順は次のとおりです。

1 「BIOS Setup ユーティリティ」を起動します。

p.163「BIOS Setup ユーティリティの起動」

2 「TPM State」メニュー画面－「Change TPM State」を「Eabled」に設定します。

p.178「TPM State メニュー画面」－「Change TPM State」

3 変更した設定値を保存して、BIOS Setup ユーティリティを終了します。

p.167「Exit Saving Changes（変更した内容を保存し終了する）」

4 再度、BIOS Setup ユーティリティを起動します。

p.163「BIOS Setup ユーティリティの起動」

5 「Physical Presence operations」画面が表示されたら、「TPM PP Operation」で「Execute」を選択します。

6 「TPM PP Operation」に「Press F10」と表示されたら、キーボードの【F10】を押します。

7 次のメッセージが表示されたら、［Yes］を選択し、【↵】を押します。

Setup Confirmation	
Save configuration changes and exit now ?	
[Yes]	[No]

8 再度、BIOS Setup ユーティリティを起動します。

p.163「BIOS Setup ユーティリティの起動」

9 「TPM State」メニュー画面－「Current TPM State」が「Enabled and Activated」になっていることを確認します。

これで BIOS の設定は完了です。BIOS Setup ユーティリティを終了します。

セキュリティチップユーティリティのインストール

購入時、本機に「セキュリティチップユーティリティ」はインストールされていません。TPM のセキュリティ機能を使用するには、セキュリティチップユーティリティのインストールを行う必要があります。
インストール方法は、別冊『セキュリティ機能（TPM）設定ガイド』をご覧ください。

HDD 領域（ドライブ）の分割・変更・作成

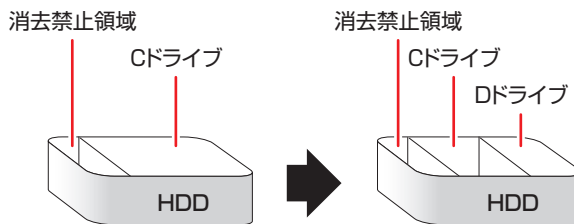
ここでは、HDD 領域（ドライブ）を分割・変更して使用する方法について説明します。

HDD領域を分割して使用する(概要)

HDD 領域（ドライブ）の分割

HDD 領域は、いくつかに分割して、それぞれ別々のドライブとして使用することができます。
HDD を分割したひとつひとつを「HDD 領域」または「パーティション」とも言います。
また、Windows で使える HDD 領域が「ドライブ」になります。

1 台の HDD を分割する

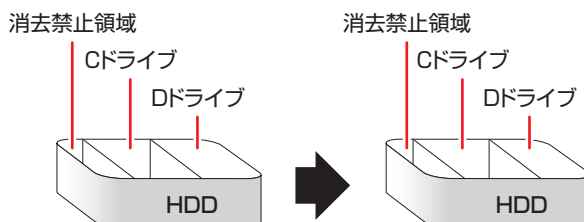
例： 1 つの HDD 領域（C ドライブ）を、2 つの HDD 領域（C ドライブと D ドライブ）に分割します。

消去禁止領域

「消去禁止領域」には、本体ドライバやソフトウェアなどを再インストールするためのデータや、「Windows 回復環境（Windows RE)」が設定されています。この領域を削除すると再インストールができなくなります。絶対に削除しないでください。

HDD 領域（ドライブ）のサイズの変更

すでに分割されている HDD 領域のサイズ（容量）を変更することもできます。

ドライブのサイズを変更する

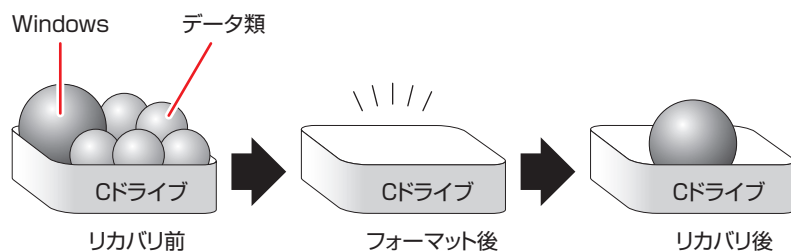
例：C ドライブのサイズを大きくします。

この場合は、C ドライブと D ドライブを削除して、分割しなおす必要があります。

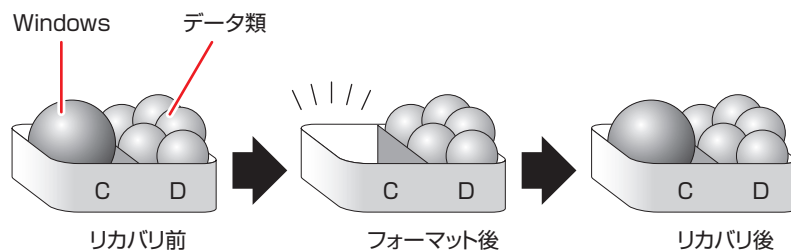
Cドライブを分割・変更する

C ドライブを分割すると、次のようなメリット・デメリットがあります。
C ドライブを分割する場合は、これらをよく理解した上で行ってください。

●メリット

HDD 領域を分割してデータの保存先を分けておくことで、リカバリ時に最小限の作業で元の環境に復帰することができます。

HDD 領域が 1 つの場合

リカバリ（Windows の再インストール）を行うと、C ドライブのデータはすべて消去されます。

HDD 領域を分割した場合

たとえば、Windows やソフトウェアは C ドライブに、作成したデータなどは D ドライブに保存しておきます。

この状態でリカバリ（Windows の再インストール）を行うと、消去されるのは C ドライブのみとなるため、D ドライブのデータは、リカバリ後、すぐにそのまま使用することができます。

HDD が分割されている状態でリカバリを行うときは、万一に備えて C ドライブ以外のドライブの重要なデータをバックアップしてください。

●デメリット

- C ドライブ（Windows の入っているドライブ）の分割を行うには、リカバリ（Windows の再インストール）が必要です。
- HDD 領域を変更すると、変更したドライブ内のデータはすべて消去されます。
- HDD 領域を分割して使用すると、それぞれ分けられた領域の最大容量までしか使用できないため、それぞれの領域により容量が制限されます。

C ドライブの分割・変更の流れ

C ドライブの分割･変更は、リカバリ（Windows の再インストール）中に行います。サイズ（容量）を変更するには、まず変更するドライブを削除してからサイズを指定して再作成します。
C ドライブ以外のドライブの変更方法は、p.245「C ドライブ以外のドライブを作成・変更する」をご覧ください。

ドライブを分割・変更すると、分割・変更したドライブ内のデータはすべて消去されます。必要に応じてバックアップを取っておいてください。
p.235「データのバックアップ」

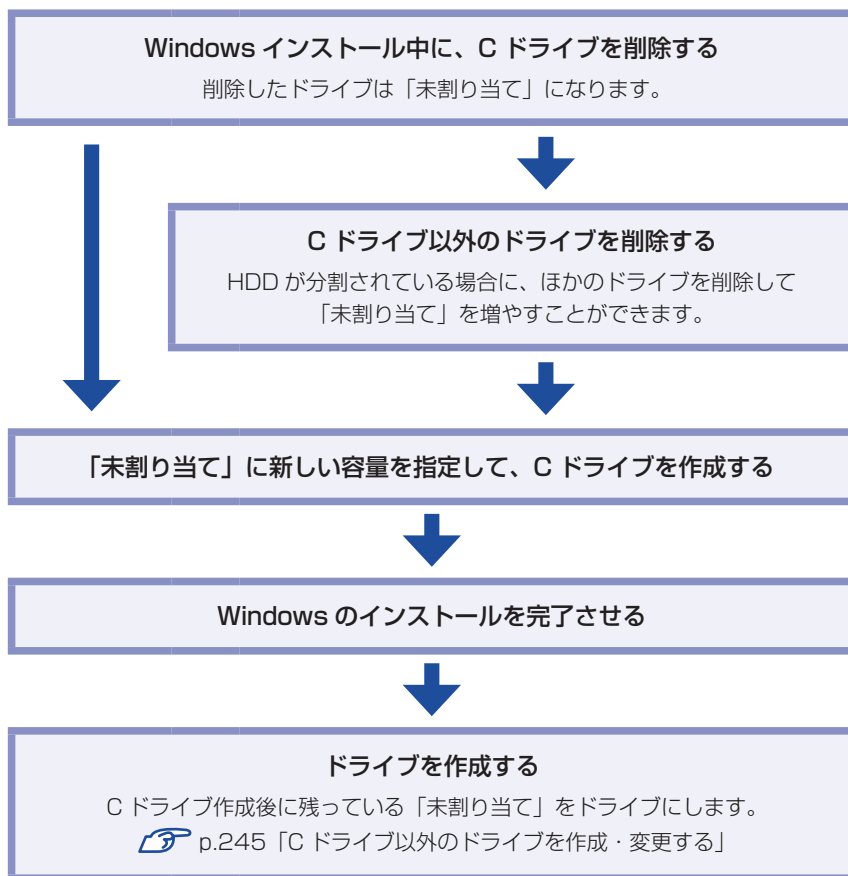
C ドライブの分割・変更の流れは、次のとおりです。
作業は、p.242「C ドライブを分割・変更する」に従ってください。

Windows インストール中に、C ドライブを削除する
削除したドライブは「未割り当て」になります。

C ドライブ以外のドライブを削除する
HDD が分割されている場合に、ほかのドライブを削除して「未割り当て」を増やすことができます。

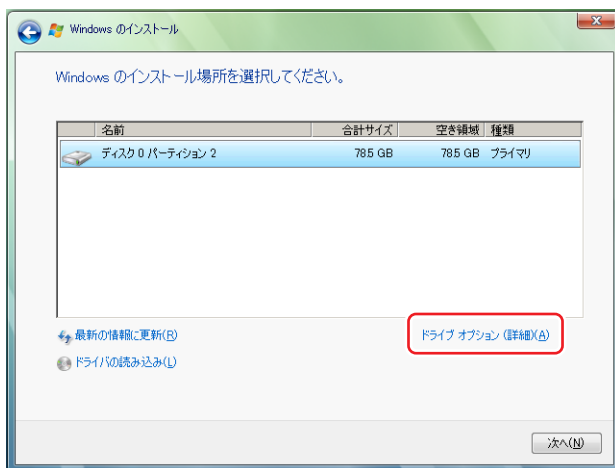
「未割り当て」に新しい容量を指定して、C ドライブを作成する

Windows のインストールを完了させる

ドライブを作成する
C ドライブ作成後に残っている「未割り当て」をドライブにします。
p.245「C ドライブ以外のドライブを作成・変更する」

C ドライブを分割・変更する

C ドライブの分割・変更をする場合は、Windows の再インストールが必要です。p.188「Windows Vista のインストール」の 9 を次の手順に読み替えて、Windows のインストールを行ってください。

p.188「Windows Vista のインストール」の 9 **の読み替え**

1 「ドライブオプション（詳細)」をクリックします。

2 「ディスク 0 パーティション 2」（C ドライブ）が選択された状態で「削除」をクリックします。

3 「このパーティションを削除すると…」と表示されたら、[OK] をクリックします。

削除したパーティション（C ドライブ）が「未割り当て領域」となります。

4 次のとおり作業を続けます。

C ドライブを分割する場合

❶「ディスク 0 未割り当て領域」を選択し、「新規」をクリックします。
5 に進みます。

C ドライブの容量を増やす場合

すでに HDD が分割されている場合は、C ドライブ以外のドライブを削除して未割り当ての領域を増やします。ただし、削除したドライブのデータは消えてしまいます。

❶ そのほかのパーティションも C ドライブと同様に削除し、「ディスク 0 未割り当て領域」を増やします。

❷「ディスク 0 未割り当て領域」を選択し、「新規」をクリックします。
5 に進みます。

5 **C ドライブのサイズを決めます。サイズを入力し、[適用] をクリックします。**
C ドライブには、40GB 程度（40000MB）を割り当てることをおすすめします。

6 **「ディスク 0 パーティション 2」（C ドライブ）が選択された状態で、[次へ] をクリックします。**
Windows Vista のインストールが開始されます。システム構成にもよりますが、インストールは 20 分～ 40 分かかります。
続いて p.188「Windows Vista のインストール」10 に進みます。
10 の画面が表示されるまでキーボードやタッチパッドは操作しないでください。

Cドライブ以外のドライブを作成・変更する

ここでは、C ドライブ以外のドライブを作成・変更する方法について説明します。
次のような場合にご覧ください。

- C ドライブ以外のドライブのサイズを変更する場合
- Windows の再インストール中に C ドライブを分割して作成・変更された「未割り当て」をドライブにして使用する場合

C ドライブ（Windows の入っているドライブ）の分割・変更を行う場合は、p.242「C ドライブを分割・変更する」をご覧ください。

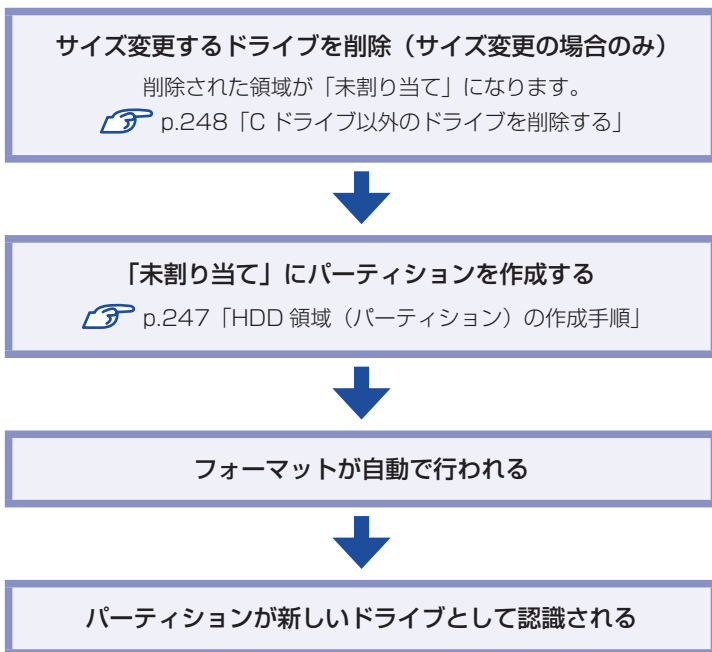
ドライブ作成・変更の流れ

ドライブの作成の流れは、次のとおりです。
作業は、 p.247「HDD 領域（パーティション）の作成手順」に従ってください。

サイズ変更するドライブを削除（サイズ変更の場合のみ）
削除された領域が「未割り当て」になります。
p.248「C ドライブ以外のドライブを削除する」

「未割り当て」にパーティションを作成する
 p.247「HDD 領域（パーティション）の作成手順」

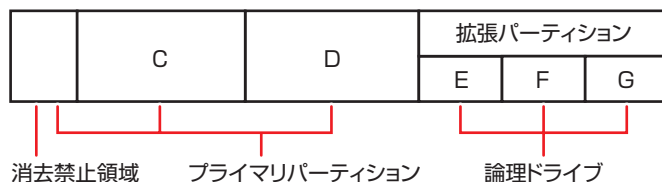
フォーマットが自動で行われる

パーティションが新しいドライブとして認識される

※ HDD 内の「未割り当て」にパーティションを作成すると、パーティションは、Windows 上でドライブ（D や E など）として利用できるようになります。

パーティションとは

ドライブの作成･変更を行う画面（ディスクの管理）では、HDD 領域のことを「パーティション」と言います。パーティションには、「プライマリパーティション」と「拡張パーティション」があります。

- 1 つの HDD に作成できるパーティションは最大で 4 つです。消去禁止領域もパーティションの 1 つです。
- パーティションを作成すると、自動的に 3 つ目まではプライマリパーティションとなり、4 つ目は拡張パーティションとなります。
- 拡張パーティションには、論理ドライブをいくつも作成できます。

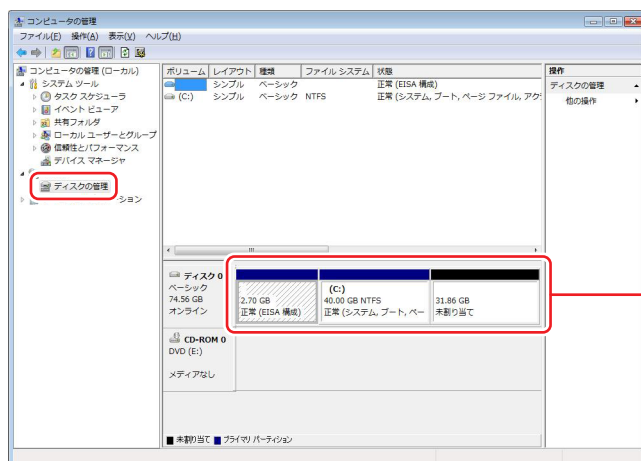
<パーティションの組み合わせの例>

HDD 領域（パーティション）の作成手順

HDD 領域（パーティション）を作成する手順は、次のとおりです。

1 ［スタート］－「コントロールパネル」－「システムとメンテナンス」－「管理ツール」－「コンピュータの管理」をダブルクリックします。

2 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、［続行］をクリックします。

3 「コンピュータの管理」画面が表示されたら、画面左の「ディスクの管理」をクリックします。

HDD 領域の状態が表示されます。

＜イメージ＞

4 パーティションを作成したい「未割り当て」を右クリックして、表示されたメニューから「新しいシンプルボリューム」をクリックします。

5 「新しいシンプルボリュームウィザード」画面が表示されたら、［次へ］をクリックします。

6 「ボリュームサイズの指定」と表示されたら、サイズを指定して、［次へ］をクリックします。

7 「ドライブ文字またはパスの割り当て」と表示されたら、ドライブ文字を選択して、［次へ］をクリックします。

8 「パーティションのフォーマット」と表示されたら、［次へ］をクリックします。

9 「新しいシンプルボリュームウィザードの完了」と表示されます。［完了］をクリックします。

フォーマットが開始します。フォーマットが完了したら、HDD 領域（パーティション）の作成は完了です。

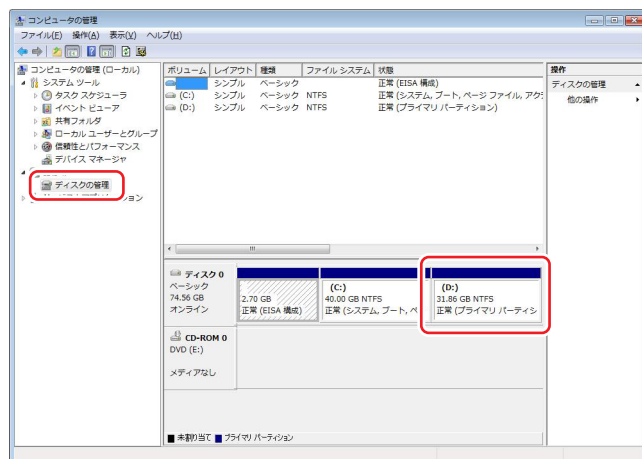
Cドライブ以外のドライブを削除する

C ドライブ以外のドライブ（D ドライブなど）のサイズを変更するには、変更するドライブを削除して、新しいサイズでドライブを作成しなおします。
ドライブを削除すると、ドライブ内のすべてのデータは削除されます。ドライブ内の重要なデータは、C ドライブや CD-R メディアなどにあらかじめバックアップを行ってください。
ドライブを削除する手順は、次のとおりです。

1 **［スタート］－「コントロールパネル」－「システムとメンテナンス」－「管理ツール」－「コンピュータの管理」をダブルクリックします。**

2 **「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、［続行］をクリックします。**

3 **「コンピュータの管理」画面が表示されたら、画面左の「ディスクの管理」をクリックします。**

HDD 領域の状態が表示されます。

＜イメージ＞

4 **削除したいドライブ（パーティション）を右クリックして、表示されたメニューから「ボリュームの削除」をクリックします。**

5 **「・・・続行しますか？」と表示されたら［はい］をクリックします。**

パーティションを削除すると、「未割り当て」になります。「未割り当て」をパーティションとして使用したい場合は、パーティションの作成を行います。

☞ p.247「HDD 領域（パーティション）の作成手順」

リチウム電池の交換

BIOS Setup ユーティリティで設定した情報は、本機内部のリチウム電池によって保持されています。
リチウム電池は消耗品です。コンピュータの使用状況によって異なりますが、AC アダプタやバッテリからの電源供給がまったくない場合、本機のリチウム電池の寿命は約 5 年です。

日付や時間が異常になったり設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。別冊『サポート･サービスのご案内』をご覧になり、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

AT コマンドの使用

AT コマンドについて

コンピュータから FAX モデム機能に対してさまざまなコマンドを送り、モデムの動作を制御することができます。本機のモデムではモデム制御コマンドに「AT コマンド」を採用しています。

AT コマンドの使用

通信ソフトウェア（Internet Explorer や Windows メールなど）でモデムを動作させる場合は、通常コマンドを使用する必要はありません。しかし、「モデムのプロパティ」画面の「追加設定」に AT コマンドを入力することで、不具合を解消したり、初期的な設定を行うことができます。次のような現象の場合は、「追加設定」の欄にコマンドを入力してみてください。

追加設定欄の表示方法

「追加設定」の欄を表示させる方法は、次のとおりです。

1. **［スタート］ー「コントロールパネル」ー「ハードウェアとサウンド」ー「電話とモデムのオプション」ー「モデム」タブー［プロパティ］をクリックします。**

2. **「詳細設定」タブをクリックすると、「追加設定」欄が表示されます。**

AT コマンド一覧

現象	AT コマンド
ダイヤル音やネゴシエーション音を消したい。	「ATM0」
ダイヤル音やネゴシエーション音を小さくしたい。	「ATL0」
「トーンが検出できません」などのエラーメッセージが表示されインターネットに接続できない。	「ATX3」
モデムの設定を工場出荷時の状態にする。	「AT&F」
ダイヤル回線（パルスダイヤル）でダイヤルする。	「ATP」
プッシュ回線（トーンダイヤル）でダイヤルする。	「ATT」
「互換性のあるネットワークプロトコルを処理できない」などのエラーメッセージが表示されインターネットに接続できない。	「AT+MS=34」（V34） 「AT+MS=92」（V92） 「AT+MS=K56FLEX」（K56flex） 使用したい通信方式に応じて設定。
接続が不安定（10 回に 3 回しかつながらない / 途中で切断されてしまう）。	
パスワード認証のあと、「接続が確立できませんでした。」などのエラーメッセージが表示されインターネットに接続できない。	

複数のコマンドを入力したいときは 2 番目以降のコマンドの AT は付けずに連続して入力します。例：ATM0X3　（ATM0+ATX3）

コンピュータを廃棄するときは

本機を廃棄するときには、【別冊】『サポート・サービスのご案内』の「コンピュータの廃棄・譲渡について」をご覧ください。

HDDのデータを消去する

本機を廃棄する前に HDD のデータを消去してください。
リカバリツール CD に収録されている「システム診断ツール」では、HDD 内のデータを**すべて**消去することができます。
消去を開始すると、HDD のデータは元には戻りません。必要に応じてデータをバックアップしてください。

データ消去の結果について、当社および開発元の Ultra-X 社は責任を負いません。
HDD のデータ消去・廃棄は、お客様の責任において行ってください。

データの消去

HDD 内のデータを消去する手順は、次のとおりです。

1 本機の電源を入れ、リカバリツール CD を光ディスクドライブにセットします。

「自動再生」画面が表示された場合は、 をクリックして画面を閉じてください。

2 ［スタート］ － ［▶］ － ［再起動］ をクリックして、本機を再起動します。

3 黒い画面の中央に「EPSON」と表示され、消えたあと、「Kernel Loading・・・・・Press any key to run PC TEST」と表示されたらどれかキーを押します。

システム診断ツールが起動し、自動的に診断が開始します。

4 [Ctrl] + [C] を押して診断を中止したあと、どれかキーを押します。

5 選択項目画面が表示されたら、[↓] で「HD Erase」を選択して [↵] を押します。

6 選択項目画面が表示されたら、[↓] で「Full Erase」を選択して [↵] を押します。

7 選択項目画面が表示されたら、「No Verify」を選択して [↵] を押します。

「!!WARNING!!」画面が表示されます。
消去が開始されると、途中で止めることはできません。
消去を中止する場合は、[Esc] を押すと、「システム診断ツール」画面に戻ります。

8 キーボードで「Yes」と入力します。

消去が始まります。
消去には、しばらく時間がかかります。かかる時間は HDD の容量によって異なります（40GB の HDD の場合で約 30 分）。

9 「Erase of HD0 : Passed Press any key to continue.」と表示されたら、リカバリツール CD を光ディスクドライブから取り出して、本機の電源を切ります。

これで、データの消去は完了です。

機能仕様一覧

項目		仕様
CPU		インテル Core 2 Duo プロセッサ
BIOS		Phoenix-Award BIOS
チップセット		モバイル インテル PM45 Express Chipset + ICH9M
セキュリティチップ	対応規格	TPM 1.2
	コントローラ	Infineon SLB9635TT1.2
メインメモリ		PC3-8500 SODIMM（DDR3-1066 SDRAM）を使用して最大約 3GB まで利用可能
ビデオ		NVIDIA GeForce 9600M GS　専用ビデオメモリ：256MB NVIDIA GeForce 9800M GT　専用ビデオメモリ：512MB NVIDIA Quadro FX 2700M　専用ビデオメモリ：512MB 搭載しているメインメモリの容量により、メインメモリの一部（最大 64MB ～ 1277MB）をビデオメモリとして使用
画面表示	液晶タイプ	15.4 型 WXGA+ カラー液晶 1440 × 900 ピクセル True Color（32 ビット）*1 15.4 型 WUXGA カラー液晶 1920 × 1200 ピクセル True Color（32 ビット）*1
	外部ディスプレイ接続	1600 × 1200 ピクセル、1920 × 1200 ピクセル（ワイドディスプレイ接続時のみ） True Color （32 ビット）
サウンドコントローラ		ハイ・デフィニション・オーディオ対応 Realtek 製 ALC662
キーボード		日本語対応 87 キー（Windows キー付き）、インスタントキー 3 個
ポインティングデバイス		タッチパッド
記憶装置	HDD	1 台内蔵（2.5 型シリアル ATA2 HDD）
	光ディスクドライブ	1 台内蔵
インタフェース	USB	4（USB2.0 対応）（背面上段のコネクタは eSATA と共用）
	eSATA	1（7 ピン）
	IEEE1394	1（4 ピン）
	LAN	1（RJ-45 1000Base-T/100Base-TX/10Base-T 自動認識）
	FAX モデム	1（RJ-11 K56flex V.92 対応）*2
	サウンド	ステレオスピーカ、モノラルマイク内蔵 マイク入力コネクタ× 1、ヘッドフォン出力コネクタ× 1、同軸デジタルオーディオ出力（S/P DIF）コネクタ× 1
	ディスプレイ	DVI-I コネクタ（デジタル DVI-I 29 ピン）× 1 （添付の DVI-VGA 変換アダプタを使用してアナログミニ D-SUB 15 ピンに変換）
		HDMI コネクタ（HDMI 19 ピン）× 1
Express カードスロット		1（ExpressCard/34/54 スロット）
メモリカードスロット		1　メモリースティック（Pro 対応）、マルチメディアカード、SD メモリーカード（SDHC 対応）
カレンダ時計		内蔵 （内蔵電池によりバックアップ）
電源	AC アダプタ（0227A20120）	入力 AC100V ～ 240V ± 10% *3、2.0A （50/60Hz）、 出力 20V、6.0A、120W　重量約 885g（含電源コード）
	バッテリ（BT4201-B）	容量 4400mAh　Li-ion 14.8V　駆動時間 約 3.4 時間 *4　JEITA 測定方法 Ver1.0
温湿度条件		温度：10 ～ 35℃　湿度：20 ～ 80%（ただし、結露しないこと）
外形寸法		本体：364（幅）× 269.5（奥行）× 37 ～ 52（高さ）mm
質量		本体：約 3.3kg
消費電力		145W（最大）/ 1.9W（スリープ状態）/ 1.6W（電源オフ時）

*1 グラフィックアクセラレータのディザリング機能により実現しています。
*2 認定番号ラベルは、コンピュータの底面に貼付されています。
*3 標準添付されている電源コードは、AC100V 用（日本仕様）です。本製品は、国内専用ですので海外でお使いの場合は保証対象外となります。
*4 システム構成や使用環境により異なります。

Bluetooth*[1]（オプション）

準拠規格	Bluetooth 標準規格 Ver2.0+EDR
通信距離（規格値）	10m *[2]
転送速度（規格値）	3Mbps

*[1] 本製品には、電波法の規定により、工事設計認証を取得した無線設備を内蔵しています。
認証製品名：GUBTCR42M-NS
認証番号　：201WW08215118
*[2] 実際の通信距離は、電波環境、障害物、設置環境などの周囲条件や、アプリケーション、Windows などの使用条件によって短くなります。推奨される通信距離は 3 m以内です。

無線 LAN*[1]（オプション）

● IEEE802.11a/b/g

準拠規格	IEEE802.11a（W52/W53/W56）：ARIB STD-T71（小電力データ通信システム規格）5GHz　無線 LAN 標準プロトコル IEEE802.11b/g：ARIB STD-T66（小電力データ通信システム規格）2.4GHz　無線 LAN 標準プロトコル
データ転送速度（規格値）*[2]	802.11a/g：54Mbps 802.11b　：11Mbps
伝送方式	OFDM 方式（IEEE802.11a/g） DS-SS 方式（IEEE802.11b）
伝送距離（理論値）	11Mbps　：40m（IEEE802.11b） 54Mbps　：25m（IEEE802.11g）/12m（IEEE802.11a） 屋内におけるアクセスポイントとの通信時 *[3]
セキュリティ	128/64bit WEP、WPA、WPA2 対応
認証	802.1x*[4]
使用無線チャンネル	IEEE802.11a：36/40/44/48ch（W52）、52/56/60/64ch（W53）100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140ch（W56） IEEE802.11b：1 ～ 13ch IEEE802.11g：1 ～ 13ch

● IEEE802.11n ドラフト 2.0

準拠規格	IEEE802.11n ドラフト 2.0
データ転送速度（規格値）*[2]	450Mbps
伝送方式	MIMO 方式
セキュリティ	WPA、WPA2 対応（AES のみ）
認証	802.1x*[4]

*[1] 本製品には、電波法の規定により、工事設計認証を取得した無線設備を内蔵しています。
認証製品名：533AN_MMW
認証番号　：003WWA080152、003XWA080153、003YWA080154
*[2] 無線 LAN 規格の理論上の最大値であり、実際のデータ転送速度を示すものではありません。
*[3] 実際の通信距離は、電波環境、障害物、設置環境などの周囲条件や、アプリケーション、Windows などの使用条件によって短くなります。
*[4] 当社では、Windows Server 2003 との IEEE802.1x Radius Server（EAP-TLS 対応認証サーバ）+ WPA（TKIP）の組み合わせによる認証において動作を確認しています。すべての環境下での動作を保証するものではありません。

索引

A

B

C

D

E

F

G

H

さ

し

す

せ

そ

た

ろ

わ

使用限定について

本製品は、OA 機器として使用されることを目的に開発・製造されたものです。
本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全性維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮頂いた上で本製品をご使用ください。
本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、生命維持に関わる医療機器、24 時間稼動システムなどの極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用を意図しておりませんので、これらの用途にはご使用にならないでください。

本製品を日本国外へ持ち出す場合のご注意

本製品は日本国内でご使用いただくことを前提に製造・販売しております。したがって、本製品の修理・保守サービスおよび不具合などの対応は、日本国外ではお受けできませんのでご了承ください。また、日本国外ではその国の法律または規制により、本製品を使用できないこともあります。このような国では、本製品を運用した結果罰せられることがありますが、当社といたしましては一切責任を負いかねますのでご了承ください。

電波障害について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

瞬時電圧低下について

本製品は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合を生じることがあります。
電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。（社団法人電子情報技術産業協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策規格に基づく表示）

有寿命部品について

当社のコンピュータには、有寿命部品（液晶ディスプレイ、ハードディスク、冷却用ファンなど）が含まれています。
有寿命部品の交換時期の目安は、使用頻度や条件により異なりますが、本製品を通常使用した場合、1 日約 8 時間、1 ヶ月で 25 日間のご使用で約 5 年です。
上記目安はあくまで目安であって、故障しないことや無料修理をお約束するものではありません。なお、長時間連続使用など、ご使用状態によっては早期にあるいは製品の保証期間内であっても、部品交換（有料）が必要となります。

＊LCD ユニットを最大輝度で常時使用した場合の寿命は、10000 時間です。

JIS C 61000-3-2 適合品

本装置は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 に適合しております。

パソコン回収について

当社では不要となったパソコンの回収・再資源化を行っています。PC リサイクルマーク付きの当社製パソコンおよびディスプレイは、ご家庭から廃棄する場合、無償で回収・再資源化いたします。パソコン回収の詳細は下記ホームページをご覧ください。

http://shop.epson.jp/pcrecycle/

著作権保護法

あなたがビデオなどで録画・録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用することはできません。
テレビ・ラジオ・インターネット放送や市販の CD・DVD・ビデオなどで取得できる映像や音声は、著作物として著作権法により保護されています。個人で楽しむ場合に限り、これらに含まれる映像や音声を録画または録音することができますが、他人の著作物を収録した複製物を譲渡したり、他人の著作物をインターネットのホームページなどに掲載（改編して掲載する場合も含む）するなど、私的範囲を超えて配布・配信する場合は、事前に著作権者（放送事業者や実演家などの隣接権者を含む）の許諾を得る必要があります。著作権者に無断でこれらの行為を行うと著作権法に違反します。
また、実演や興行、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

ご注意

1. 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
2. 本書の内容および製品の仕様について、将来予告なしに変更することがあります。
3. 本書の内容は万全を期して作成いたしましたが、万一誤り・お気付きの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。
4. 運用した結果の影響につきましては、3 項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

商標について

- Microsoft、Windows、Windows Vista、Internet Explorer、Windows Media、ActiveX、BitLocker は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Intel、インテル、Intel ロゴ、Intel Core は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。
- PS/2 は International Business Machines の登録商標です。
- Symantec、Symantec ロゴ、Norton Internet Security は Symantec Corporation の登録商標です。
- McAfee およびマカフィーは、米国法人 McAfee, Inc. またはその関連会社の米国またはその他の国における登録商標です。
- Adobe、Adobe ロゴ、Reader は、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。
- Memory Stick、マジックゲート、Memory Stick のロゴは、ソニー株式会社の商標です。
- MultiMedia Card™ は、ドイツ Infineon Technologies AG 社の商標です。
- SD ロゴは商標です。
- Bluetooth は Bluetooth SIG, Inc. の商標です。

そのほかの社名、製品名は一般にそれぞれの会社の商標または登録商標です。